

# 学生便覧・講義概要

Annual Bulletin  
2020

芸術科／専攻科

音楽専攻

演劇専攻

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

桐朋学園芸術短期大学

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

## 講義概要

芸術科／専攻科

音楽専攻  
演劇専攻

## 【教育課程・卒業の要件】

教育課程：1. 教養科目

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				キャップ制 対象外	概要 ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
キャリア教育	情報リテラシー論	竹内 聖	前期		2				129
	情報処理論	岡本 直久	前期		2				129
	音楽環境論	久保田慶一	前期		2				130
	社会福祉学	藤森 雄介	前期		2				130
	表現コミュニケーション論	中山 夏織	後期		2				131
	アーツマネジメント論	中山 夏織	前期		2				131
	応用演劇論	大谷賢治郎	前期		2				132
一般教養	メディア論	高橋 宏幸	後期		2				132
	現代思想論	高橋 宏幸	前期		2				133
	日本国憲法	西山 智之	後期		2				133
	文化政策論A	中山 夏織	前期		2				134
	文化政策論B	中山 夏織	後期		2				134
	青少年教育論	大谷賢治郎	前期		2				135
	文学(古典)	野間 哲	前期		2				135
	文学(近世)	野間 哲	後期		2				136
	日本語論	野間 哲	前期		2				136
	日本語表現論	野間 哲	前期		2				137
映画論	行定 勲	後集		2			<input type="checkbox"/>	137	
語学	英語AⅠ	J. ファーナー	前期	1					138
	英語AⅡ	J. ファーナー	後期		1				138
	英語BⅠ	田村奈穂子	前期			1			139
	英語BⅡ	田村奈穂子	後期				1		139
	演劇英語	①② J. サザーランド	前期	1					140
	ドイツ語Ⅰ	D. グロス	前期	1					140
	ドイツ語Ⅱ	D. グロス	後期		1				141
	ドイツ語Ⅲ	D. グロス	前期			1			141
	ドイツ語Ⅳ	D. グロス	後期				1		142
	イタリア語Ⅰ	M. スバラグリ	前期	1					142
	イタリア語Ⅱ	M. スバラグリ	後期		1				143
	イタリア語Ⅲ	M. スバラグリ	前期			1			143
	イタリア語Ⅳ	M. スバラグリ	後期				1		144
	フランス語Ⅰ	佐藤ローラ	前期	1					144
フランス語Ⅱ	佐藤ローラ	後期		1				145	

注：語学は、Ⅰの修得なしにⅡの履修はできない。

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：2. 芸術科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス対象外	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
教養科目	情報処理論	岡本 直久	前期	2				※教職受講者必修				129	
	日本国憲法	西山 智之	後期		2			※教職受講者必修				133	
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2				※教職受講者必修				130	
	英語AⅠ・Ⅱ	J. ファーナー	前・後	1	1			●外国語(英・仏・独・伊)1科目選択必修 ※音楽専修はイタリア語を含む2外国語必修 ※同じ語学の「Ⅰ・Ⅱ」「Ⅲ・Ⅳ」をもって、1科目とみなす				138	
	英語BⅠ・Ⅱ	田村奈穂子	前・後			1	1						139
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	D. グロス	前・後	1	1								140・141
	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ	D. グロス	前・後			1	1						141・142
	イタリア語Ⅰ・Ⅱ	M. スバラグリ	前・後	1	1								142・143
イタリア語Ⅲ・Ⅳ	M. スバラグリ	前・後			1	1						143・144	
フランス語Ⅰ・Ⅱ	佐藤ローラ	前・後	1	1								144・145	
専攻教養科目	音楽基礎演習ーバロック・ダンス a b	浜中 康子	前期	1					●全専修必修				147
	音楽理論基礎 a b	福田 恵子 長谷川郁子	前期 前期	1 1								147 147	
演劇専攻科目	演劇専攻『実技科目(共通)』より、他専攻履修可能な科目 ※ただし、「ドラマリーディングA・B」「アプレコ実技Ⅰ・Ⅱ」「ミュージカルトレーニングA」を除く							●全専修必修(いずれか1単位) ※日本音楽専修は狂言以外を選択すること ●日本音楽専修は「狂言Ⅰ」「狂言Ⅱ」必修					
専攻科目・1年次	音楽理論 [和声] Ⅰ a b	平井 正志 池田 哲美	前期	2				PVWSG必修				148 148	
	音楽理論 [和声] Ⅱ a b	平井 正志 池田 哲美	後期		2			PVWSG必修				148 148	
	音楽史概説Ⅰ・Ⅱ	池原 舞	前・後	2	2			PVWSG必修				149	
	日本音楽理論AⅠ・Ⅱ	森重 行敏	前・後	2	2			J必修				149	
	日本音楽史概説Ⅰ・Ⅱ	野川美穂子	前・後	2	2			J必修				150	
	日本音楽特講	杵屋 巳織	後期		2			※教職受講者(J除く)必修(教職受講者のみ履修可)				150	
	演奏会制作法	伊藤 直樹	後期		1							151	
	アウトリーチ概説	永井 由比	前期	2								151	
	アウトリーチ演習	永井 由比	後期		1							152	
	音響学	岩崎 真	前期	2								152	
	ディクション (イタリア語)	井上 由紀	前期	1				V必修				153	
	S. H. M. Ⅰ・Ⅱ ① ② ③ ④	塩崎 美幸 池田 哲美 加藤 千春 三瀬 俊吾	前・後	1	1			●全専修必修				153	
	合唱Ⅰ・Ⅱ	福永 一博	前・後	1	1			女子のみ(J除く)必修				154	
	オーケストラ・スタディア	志村 寿一	前期	1				S必修				154	
	合奏A	志村 寿一	後集		2			S必修				155	
	管楽器基礎 (呼吸法)	三塚 至	前期	1				W必修				155	
	声楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ	松井 康司	前・後	1	1			男子のみ(J除く)必修				156	
	管楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ a b	永井 由比 津川美佐子	前・後 前・後	1 1	1 1			W (Flのみ) 必修 W (Fl, Tr, Tb, Tub, Sx除く) 必修				156 157	
	金管アンサンブルAⅠ・Ⅱ	神谷 敏	前・後	1	1			W (Tr, Tb, Tubのみ) 必修				157	
	サクソフォン・アンサンブルAⅠ・Ⅱ	彦坂眞一郎	前・後	1	1			W (Sxのみ) 必修				158	
	ギター・アンサンブルAⅠ・Ⅱ	佐藤 紀雄	前・後	1	1			G必修				158	
	うたA	今藤美知央	前期	1				J必修				158	
	邦楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ	滝田美智子	前・後	1	1			J必修				159	
	伴奏法Ⅰ	揚原さとみ	後期		1			※教職受講者(J除く)必修				159	
	初見演奏 (基礎)	大家 百子	前期	1				P必修				160	
	身体と表現との調和	志村 寿一	集中		2							160	
	第一実技Ⅰ		通年		4			●全専修必修				161	
	第二実技Ⅰ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲)		通年		4							161	
	副科実技Ⅰ (ピアノ)		通年		2			●全専修必修	VWSGJ				161
	副科実技Ⅰ (声楽)	PGJ										161	
	副科実技Ⅰ (管・弦・ギター・日本音楽)	GJ										161	
	伴奏A (1) (2)	荻野 千里	前集 後集	1 1								162	
海外特別演習A	荻野 千里	前集	2								162		
特別演習A	志村 寿一 井上 由紀	通年		1			●全専修必修				163		
特別講座	植松 伸夫	後集		1			●全専修必修				163		
コラボレイト実習A (1) (2)	松井 康司	前集 後集	1 1								164		

(必修科目の修得単位は専攻科目単位として卒業要件に含まれる)

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通して48単位以上修得

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス対象外	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
専攻科目・2年次	音楽理論〔和声〕Ⅲ	a b	平井 正志 池田 哲美	前期			2		PVWSG必修			164 165
	音楽理論〔和声〕Ⅳ	a b	平井 正志 池田 哲美	後期				2	PVWSG必修			164 165
	対位法Ⅰ・Ⅱ		池田 哲美	前・後			2	2				165
	コード論Ⅰ		小林 真人	前期				2		◎		166
	楽器法		大澤 健一	前集				2		◎	□	166
	音楽マネジメント		児玉 真	前期				2				167
	日本音楽理論BⅠ・Ⅱ		森重 行敏	前・後			2	2	J必修	◎		149
	音楽史特講A		池原 舞	前期				2		◎		167
	音楽史特講B		大津 聡	前期				2		◎		168
	音楽史演習A		池原 舞	後期				1		◎		168
	音楽史演習B		大津 聡	後期				1		◎		169
	音楽療法概論		鈴木千恵子	前期				2		◎		169
	演奏解釈(1)ピアノ楽曲		荻野 千里	後期				2	P必修			170
	演奏解釈(2)声楽曲		相田 麻純	前期				2	V必修	◎		170
	演奏解釈(3)室内楽曲		寺岡有希子	前期				2	S必修			171
	音楽理論〔楽式〕Ⅰ・Ⅱ	① ②	穴戸 里佳 池原 舞	前・後			2	2	PVWSG必修	◎		171 172
	S. H. M. Ⅲ・Ⅳ	① ② ③ ④ ⑤	塩崎 美幸 大家 百子 加藤 千春 三瀬 俊吾 長谷川 郁子	前・後			1	1	●全専修必修			172
	オーケストラ・スタディB		志村 寿一	前期				1	S必修			154
	合奏B		志村 寿一	後集				2	S必修		□	155
	声楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ		松井 康司	前・後			1	1	男子(J除く)・女子(Vのみ)必修			156
	管楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ		津川美佐子	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tub, Sx除く) 必修			157
	金管アンサンブルBⅠ・Ⅱ		神谷 敏	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tubのみ) 必修			157
	指揮法Ⅰ・Ⅱ		福永 一博	前・後			1	1	※教職受講者必修			173
	室内楽A	a b	荻野 千里 野口千代光 北本 秀樹	前期				1				173 174
	室内楽B	a b c d	阪本奈津子 蓼沼恵美子 白尾 隆 菊池 奏絵	後期				1				174 175 175 176
	サクソフォン・アンサンブルBⅠ・Ⅱ		彦坂真一郎	前・後			1	1	W (Sxのみ) 必修			
	ギター・アンサンブルBⅠ・Ⅱ		佐藤 紀雄	前・後			1	1	G必修			158
	うたB		今藤美知央	前期				1	J必修	△		158
	邦楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ		滝田美智子	前・後			1	1	J必修			159
	伴奏法Ⅱ		揚原さとみ	前期				1	※教職受講者(J除く)必修			176
第一実技Ⅱ			通年				4	●全専修必修		□	161	
第二実技Ⅱ (ピアノ・チェンバロ・声楽・ミュージカル・管・弦・ギター・日本音楽・作曲)			通年				4		◎	□	161	
副科実技Ⅱ (ピアノ・声楽・ミュージカル・管・弦・ギター・日本音楽)			通年				2		◎	□	161	
第一実技卒業試験			通年				4	●全専修必修		□		
伴奏B	(1) (2)	荻野 千里	前集 後集				1 1			□	162	
海外特別演習B		荻野 千里	前集				2			□	162	
特別演習B		志村 寿一 井上 由紀	通年				1	●全専修必修		□	163	
コラボレイト実習B	(1) (2)	松井 康司	前集 後集				1 1			□ □	164	

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通して48単位以上必修

●下記の科目については隔年開講とする。

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	開講年度	他専攻	キャンパス対象外	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
専攻科目	日本音楽概論	森重 行敏	後期		2			J必修 ※教職受講者必修	2020	○		177
	合奏基礎(和楽器)	花岡 操聖	前期	1				J必修	2020			177
	楽器法(和楽器)	花岡 操聖	前期			2		J必修	2021			
	演奏解釈(4)日本音楽	たかの舞俐	後期		2			J必修	2020			178

【備考】①P：ピアノ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

②「他専攻の履修」欄は、○は他専攻の学生(1・2年次とも。専攻科生含む)が履修可能な科目。

ただし、◎は芸術科2年生以上、△は専攻科演劇専攻でないと履修できない。

<2020年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数	62単位
GPA	1.0以上

【内訳】

- ①専攻科目単位数 48単位  
(教養科目・専攻教養科目・他専攻科目より各専修の必修単位数を含む)
- ②自由選択単位数 14単位  
※専修別による必修単位数は、「注⑨専攻科目必修単位数」を参照のこと

注

- ① I の修得なしに II の履修はできない。
- ② 第一実技は、専修別による必修（1年次・2年次各50分）
- ③ 第二実技は、選択（40分）。第一実技に準じた専門レベル。履修料別途徴収。
- ④ 副科実技は、I 必修、II 選択（20分）  
I は、ピアノ専修者は声楽、声楽・管楽器・弦楽器専修者はピアノを必修とする。  
副科実技を第二実技として履修する場合は100,000円、第二実技と副科実技の両方を履修する場合は200,000円を別途徴収。
- ⑤ 「日本音楽特講」は教職に関する科目の受講手続きを経た学生のみ履修可。  
ただし、教職課程受講生の人数が少ない等の事情によっては、その他の学生の受講を認める場合がある。
- ⑥ 選択科目「伴奏」について  
前期、後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表（実技試験・学内演奏会・卒業演奏会）をもって各々単位認定を行う。  
「伴奏受講票」を使用のこと。
- ⑦ 選択科目「コラボレート実習」について  
専攻主任からの依頼により、他専攻の試演会、卒業公演等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。  
「コラボレート実習受講票」を使用のこと。
- ⑧ 学内外の演奏会及び試験について、提出曲目及び曲数と異なる場合は失格とすることがある。
- ⑨ 専攻科目必修単位（※教養科目・専攻教養科目・他専攻科目内の必修単位含む）

	1年次		2年次		合計	
	男	女	男	女	男	女
ピアノ専修	25	25	23	21	48	46
声楽専修	27	27	23	23	50	50
管楽器専修	27	27	23	21	50	48
弦楽器専修	27	27	26	24	53	51
ギター専修	26	26	23	21	49	47
日本音楽専修	31	31	21	21	52	52

ただし、日本音楽専修者の専攻科目必修単位数は、下記科目群の単位数を含む。

科目区分	授業科目	担当氏名	期間	単位数
演劇専攻科目	狂言 I	善竹富太郎	後期	1
	狂言 II	未定	前期	1

## 【教育課程・卒業の要件】

教育課程：3. 芸術科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス対象外	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
基礎実技科目	基礎演劇演習A	a	越光 照文	前期	2			a組必修	6			179	
		b	三浦 剛	前期	2			b組必修				179	
		c	P. ゲスナー	前期	2			c組必修				180	
		d	宮崎 真子	前期	2			d組必修				180	
	基礎演劇演習B	a	P. ゲスナー	前期	2			a組必修				181	
		b	宮崎 真子	前期	2			b組必修				181	
		c	越光 照文	前期	2			c組必修				182	
		d	三浦 剛	前期	2			d組必修				182	
	身体トレーニング	a	山本光二郎	前期	1			a組必修				183	
		b	山本光二郎	前期	1			b組必修					
		c	山本光二郎	前期	1			c組必修					
		d	山本光二郎	前期	1			d組必修					
	ボイス・トレーニング（歌唱）	a	信太 美奈	前期	1			a組必修				183	
		b	信太 美奈	前期	1			b組必修					
		c	信太 美奈	前期	1			c組必修					
		d	信太 美奈	前期	1			d組必修					
実技系科目	演劇演習A	a	三浦 剛	後期		2		a組必修	8			184	
		b	越光 照文	後期		2		b組必修				184	
		c	宮崎 真子	後期		2		c組必修				185	
		d	P. ゲスナー	後期		2		d組必修				185	
	演劇演習B	a	宮崎 真子	後期		2		a組必修				186	
		b	P. ゲスナー	後期		2		b組必修				186	
		c	三浦 剛	後期		2		c組必修				187	
		d	越光 照文	後期		2		d組必修				187	
	演劇演習C	a	P. ゲスナー	前期			2			a組必修			188
		b	宮崎 真子	前期			2			b組必修			188
		c	三浦 剛	前期			2			c組必修			189
		d	大塚 幸太	前期			2			d組必修			189
	演劇演習D	a	三浦 剛	後期				2		a組必修			190
		b	大塚 幸太	後期				2		b組必修			190
		c	P. ゲスナー	後期				2		c組必修			191
		d	宮崎 真子	後期				2		d組必修			191
ストレートプレイ	演技演習A（ダイアログ）	a	大谷賢治郎	前期			2	ストレートプレイコース必修	4			192	
		b	大谷賢治郎	後期			2						
ミュージカル	演技演習B（アンサンブル）	a	未定	後期			2	ミュージカルコース必修	4			192	
		b	未定	前期			2						
ミュージカル	ショーダンス I	①②	未定	前期			1	ミュージカルコース必修	4			193	
	ショーダンス II	①②	未定	後期			1					193	
	ミュージカルトレーニングB	①②	信太 美奈	前期			1					194	
	ミュージカル演習	①②	大塚 幸太	後期			1					194	

科目 区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業 要件	他 専攻	キャンパス 対象外	概要 ページ	
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期						
実技系科目 実技科目(共通)	演劇特別演習 I ①②③	鴻上 尚史	後期		1			必須条件	8		195		
	演劇特別演習 II ①②③	未定	前期			1						195	
	マイム ①②	江ノ上陽一	前期	1								○	196
	アクション ①②	藤田 けん	後期		1							○	196
	日本舞踊 I ①②	藤間 希穂	後期		1							○	197
	日本舞踊 II ①②	未定	前期			1						○	197
	狂言 I ①②	善竹富太郎	後期		1							○	198
	狂言 II ①②	未定	前期			1						○	198
	ドラマリーディングA	野間 哲	前期	1								○	199
	ドラマリーディングB	野間 哲	後期		1							○	199
	アフレコ実技 I	未定	前期			1						○	200
	アフレコ実技 II	未定	後期				1					○	200
	クラシック唱法 I ①②	松井 康司	後期		1								201
	クラシック唱法 II ①②	松井 康司	前期			1							201
	ミュージカルトレーニングA ①②	信太 美奈	後期		1			○	202				
	ジャズダンスA ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	前期	1				LAの補習にも参加する	○	202 203			
	ジャズダンスB ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	後期		1				○	203 204			
	ジャズダンスC ①②③④	未定	前期			1			○	204・205			
	バレエ・ムーヴメント ①②	中農 美保	前期	1				必須条件	8		○	205	
	クラシックバレエ I ①②	中農 美保	後期		1						○	206	
	クラシックバレエ II ①②	未定	前期			1					○	206	
	タップダンス I ①②	中谷 諭紀 近藤 淳子	後期		1						○	207	
	タップダンス II ①②	未定	前期			1					○	208	
	歌唱(個人レッスン)A	信太 美奈 他	前期	2							自由選択単位		
	歌唱(個人レッスン)B		後期		2			□					
	歌唱(個人レッスン)C		前期			2		□					
	歌唱(個人レッスン)D		後期				2	□					
	歌唱(個人レッスン)E		前期	1				□					
歌唱(個人レッスン)F	後期			1			□						
歌唱(個人レッスン)G	前期				1		□						
歌唱(個人レッスン)H	後期					1	□						

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア教育対象外	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
理論科目	舞台芸術概論	高橋 宏幸	前期	2				必修	12	<input type="radio"/>		209	
	日本演劇史A (古典)	安富 順	前期	2						<input type="radio"/>		210	
	日本演劇史B (近現代)	高橋 宏幸	後期		2					<input type="radio"/>		210	
	西洋演劇史A (古典)	安宅りさ子	前期	2						<input type="radio"/>		211	
	西洋演劇史B (近現代)	安宅りさ子	後期		2					<input type="radio"/>		211	
	ミュージカル概論	橋爪 貴明	前期	2						<input type="radio"/>		212	
	ミュージカル論	藤原麻優子	後期		2					<input type="radio"/>		212	
	ソルフェージュ基礎 ①②	永井 由比	後期		2							213	
	ソルフェージュ ①②	未定	前期			2				ミュージカルコース必修			213
	演劇批評論	高橋 宏幸	前期			2							214
	パフォーミングアーツ論	高橋 宏幸	後期				2						214
	演劇文化論A	中山 夏織	前期		2						<input type="radio"/>		215
	演劇文化論B	中山 夏織	後期		2						<input type="radio"/>		215
	演出論	川村 毅	後集		2						<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	216
	演劇論	高橋 宏幸	後期		2						<input type="radio"/>		216
	戯曲講読演習A (古典)	安宅りさ子	前期		1						<input type="radio"/>		217
	戯曲講読演習B (近現代)	安宅りさ子	後期		1						<input type="radio"/>		217
	劇作法	瀬戸山美咲	後期		1						<input type="radio"/>		218
実習科目	集中講義 (舞台照明実習) ①	石島奈津子	前集	1				※照明部以外対象	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	218		
	集中講義 (舞台照明実習) ②	兼子 慎平	前集	1				※照明部対象		<input type="checkbox"/>	219		
	集中講義 (舞台音響実習) ①	佐藤こうじ	前集	1				※音響部以外対象	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	219		
	集中講義 (舞台音響実習) ②	宮崎 淳子	前集	1				※音響部対象		<input type="checkbox"/>	220		
	集中講義 (ヘアメイク実習)	鈴木 健介	前集	1						<input type="checkbox"/>	220		
	ワークショップ(ストレートプレイ) 1年次	扇田 拓也	後集		1					<input type="checkbox"/>	221		
	ワークショップ(ミュージカル) 1年次	宮河愛一郎	後集		1					<input type="checkbox"/>	221		
	ワークショップ(ストレートプレイ) 2年次	未定	前集			1				<input type="checkbox"/>	222		
	ワークショップ(ミュージカル) 2年次	未定	前集			1				<input type="checkbox"/>	222		
	演劇研修 (八ヶ岳合宿)	三浦 剛	前集	1						<input type="checkbox"/>	222		
	海外研修	1年次	P. ゲスナー	後集		1					<input type="checkbox"/>	223	
		2年次	高橋 宏幸	後集			1				<input type="checkbox"/>		
	劇上演実習A (試演会)	ストレートプレイ	未定	後集			4		4単位必修			223	
		ミュージカル	未定	後集			4					224	
	劇上演実習B (卒業公演)	ストレートプレイ	未定	後集			4					224	
		ミュージカル	未定	後集			4					225	
	劇上演実習C (学外出演)	三浦 剛	集中		4					<input type="checkbox"/>	225		
	劇上演実習D (学外出演)	三浦 剛	集中		4					<input type="checkbox"/>	225		
劇上演実習E (学内出演)	三浦 剛	集中		1					<input type="checkbox"/>	226			
劇上演実習F (学内出演)	三浦 剛	集中		1					<input type="checkbox"/>	226			

<2020年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位  
GPA 1.0以上

【内訳】

①専攻科目単位数 48単位  
1.実技科目 26単位  
2.理論科目 12単位  
3.実習科目 10単位  
試演会または卒業公演 4単位必修  
②教養科目単位数 12単位  
外国語 2単位必修  
③自由選択単位数 2単位

注

- ① I の修得なしに II の履修はできない。  
② 基礎演劇演習 AB、身体トレーニング、ボイス・トレーニング (歌唱)、演劇演習 ABCD、舞台芸術概論、日本演劇史 AB、西洋演劇史 AB、ミュージカル概論、ミュージカル論は全コース必修  
③ 演技演習 AB はストレートプレイコース必修  
④ ショーダンス I II、ミュージカルトレーニング B、ミュージカル演習、ソルフェージュはミュージカルコース必修  
⑤ 試演会または卒業公演は、4 単位必修。  
⑥ 同じ科目の複数のクラスを同時に受講することはできない。  
⑦ 歌唱 (個人レッスン) の修得単位数は自由選択単位数に含む。  
レッスン時間は ABCD40分、EFGH20分。履修料別途徴収。  
⑧ 音楽専攻の科目は、自由選択単位数に含む。  
⑨ 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は教養科目単位数に含む。

○講義科目は半期2単位、実習・実技・演習科目は半期1単位、劇上演実習は4単位

## 【教育課程・卒業の要件】

## 卒業の要件

本学を卒業するには、教育課程をよく理解し、以下の条件を満たす最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない。卒業要件の詳細については、各専攻の別表及び注意事項を参照すること。

## 1. 芸術科 音楽専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
自由選択単位数	14単位
(専攻科目・専攻教養科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数には、各専攻の必修単位数を含む。
- ③ 専攻教養科目「音楽基礎演習—バロック・ダンス」必修。
- ④ 教養科目の「語学」より 2 単位 1 科目必修。同じ語学の「I・II」または「III・IV」をもって 1 科目とみなす。(ただし声楽専修はイタリア語を含む 2 語学を必修とし、合計 4 単位)
- ⑤ 演劇専攻科目の『実技科目 (共通)』の他専攻履修可能な科目のうち、いずれか 1 単位必修とする。(ただし、「ドラマリーディング A」「ドラマリーディング B」「アフレコ実技 I」「アフレコ実技 II」「ミュージカルトレーニング A」を除く)

## 2. 芸術科 演劇専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
教養科目単位数	12単位
自由選択単位数	2単位
(専攻科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数の内訳は  
 実技科目 26単位      理論科目 12単位      実習科目 10単位  
 試演会または卒業公演 4 単位必修
- ③ 教養科目単位数の内訳は  
 語学 2 単位必修

## 【本学における中学校教諭2種免許状取得の要件】

## 1. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

・下記の(1)～(5)に定める授業科目を履修し、計10単位以上修得すること

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位	要件	概要 ページ	
(1) 日本国憲法	日本国憲法	西山 智之	後期	2	必修	133	
(2) 体育	音楽基礎演習ーバロック・ダンス	浜中 康子	前期	1	1 単位選択必修	147	
	狂言Ⅰ	善竹富太郎	後期	1		198	
	狂言Ⅱ	未定	前期	1		198	
	日本舞踊Ⅰ	藤間 希穂	後期	1		197	
	日本舞踊Ⅱ	未定	前期	1		197	
	マイム	江ノ上陽一	前期	1		196	
	アクション	藤田 けん	後期	1		196	
	ジャズダンスA		三村みどり	前期		1	202
			畔柳小枝子	前期		1	203
	ジャズダンスB		三村みどり	後期		1	203
			畔柳小枝子	後期		1	204
	ジャズダンスC		未定	前期		1	204
			未定	前期		1	205
	バレエ・ムーヴメント	中農 美保	前期	1		205	
	クラシックバレエⅠ	中農 美保	後期	1		206	
クラシックバレエⅡ	未定	前期	1	206			
タップダンスⅠ		中谷 諭紀	後期	1	207		
		近藤 淳子	後期	1	207		
タップダンスⅡ		未定	前期	1	208		
		未定	前期	1	208		
(3) 外国語コミュニケーション	英語AⅠ	J. ファーナー	前期	1	2 単位選択必修	138	
	英語AⅡ	J. ファーナー	後期	1		138	
	英語BⅠ	田村奈穂子	前期	1		139	
	英語BⅡ	田村奈穂子	後期	1		139	
	ドイツ語Ⅰ	D. グロス	前期	1		140	
	ドイツ語Ⅱ	D. グロス	後期	1		141	
	ドイツ語Ⅲ	D. グロス	前期	1		141	
	ドイツ語Ⅳ	D. グロス	後期	1		142	
	イタリア語Ⅰ	M. スバラグリ	前期	1		142	
	イタリア語Ⅱ	M. スバラグリ	後期	1		143	
	イタリア語Ⅲ	M. スバラグリ	前期	1		143	
	イタリア語Ⅳ	M. スバラグリ	後期	1		144	
フランス語Ⅰ	佐藤ローラ	前期	1	144			
フランス語Ⅱ	佐藤ローラ	後期	1	145			
(4) 情報機器の操作	情報処理論	岡本 直久	前期	2	必修	129	
(5) 介護等体験関連	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2	必修	130	

## 2. 教職に関する科目

・下記に定める授業科目を指定された年次に履修し、すべての単位を修得すること(計27単位)

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位	学年	概要 ページ
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	音楽科教育法	宇佐美博子	後期	2	1年次	267
教育の基礎的理解に関する科目	教育史概説	宮城 哲	前期	2	2年次	267
	教師論	野間 哲	後期	2	1年次	268
	教育原理	木村 康彦	後期	2	1年次	268
	教育心理学	鈴木 敦子	前期	2	2年次	269
	特別支援教育入門	趙 成河	後期	1	1年次	269
道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育課程論及び教育方法論	宇佐美博子	前集	1	1年次	270
	道徳教育の理論と方法	岡本 直久	後集	2	1年次	270
	総合的な学習の時間の指導法	宇佐美博子	前集	1	1年次	271
	特別活動の指導法	真野 彰	後集	1	1年次	271
	生徒指導(進路指導含む)	安富由美子	後期	2	1年次	272
教育相談	安富由美子	前期	2	2年次	272	
教育実習	教育実習Ⅰ・Ⅱ	永井 由比	通年	5	1・2年次	273
教職実践演習	教職実践演習(中学校)	永井 由比	後期	2	2年次	274

### 3. 教科に関する科目

・必修の授業科目含めて24単位以上を修得すること

科目区分	授業科目	学年	単位	要件
ソルフェージュ	S. H. M. I・II	音1	2	必修
	S. H. M. III・IV	音2	2	
声乐 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)	合唱 I・II	音1	2	J2 単位必修
	声楽アンサンブル A I・II	音1	2	
	声楽アンサンブル B I・II	音2	2	
	うた A	音1	1	
	うた B	音2	1	
	狂言 I	音1	1	
	狂言 II	音2	1	
	第一実技 I (声楽)	音1	4	
	第二実技 I (声楽)	音1	4	
	副科実技 I (声楽)	音1	2	
	第一実技 II (声楽)	音2	4	
	第二実技 II (声楽)	音2	4	
	副科実技 II (声楽)	音2	2	
	オペラ実習 A [演奏]	専音1	2	
	オペラ実習 A [演技]	専音1	2	
	オペラ実習 A [上演]	専音1	2	
	オペラ実習 B [演奏]	専音2	2	
	オペラ実習 B [演技]	専音2	2	
オペラ実習 B [上演]	専音2	2		
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)	第一実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	4	GJ ピアノ必修
	第二実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	4	
	副科実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	2	
	第一実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	4	
	第二実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	4	
	副科実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	2	
	サクソフォン・アンサンブル A I・II	音1	2	
	サクソフォン・アンサンブル B I・II	音2	2	
	ギター・アンサンブル A I・II	音1	2	
	ギター・アンサンブル B I・II	音2	2	
	ギター・アンサンブル C	専音1	2	
	ギター・アンサンブル D	専音2	2	
	室内楽 A	音2	1	
	室内楽 B	音2	1	
	邦楽アンサンブル A I・II	音1	2	
	邦楽アンサンブル B I・II	音2	2	
	邦楽アンサンブル研究 A	専音1	4	
	邦楽アンサンブル研究 B	専音2	4	

科目区分	授業科目	学年	単位	要件		
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)	オーケストラ・スタディ A	音1	1			
	オーケストラ・スタディ B	音2	1			
	オーケストラ・スタディ C	専音1	1			
	オーケストラ・スタディ D	専音2	1			
	合奏 A	音1	2			
	合奏 B	音2	2			
	合奏 C	専音1	2			
	合奏 D	専音2	2			
	ピアノデュオ研究 A	専音1	4			
	ピアノデュオ研究 B	専音2	4			
	歌曲研究 A	専音1	4			
	歌曲研究 B	専音2	4			
	管楽アンサンブル A I・II	音1	2			
	管楽アンサンブル B I・II	音2	2			
	管楽アンサンブル研究 A	専音1	4			
	管楽アンサンブル研究 B	専音2	4			
	指揮法	指揮法 I・II	音2		2	必修
		音楽理論[和声] I	音1		2	J4 単位必修
音楽理論・作曲法 (編曲法を含む)及び音楽史 (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	音楽理論[和声] II	音1	2	J4 単位必修		
	音楽史概説 I・II	音1	4	J4 単位必修		
	音楽理論[和声] III	音2	2			
	音楽理論[和声] IV	音2	2			
	音楽理論[楽式] I・II	音1	4			
	対位法 I・II	音2	4			
	楽器法	音2	2			
	日本音楽理論 A I・II	音1	4			
	日本音楽理論 B I・II	音2	4			
	日本音楽理論 C	専音2	2			
	日本音楽史概説 I・II	音1	4			
	音楽史特講 A	音2	2			
	音楽史特講 B	音2	2			
	音楽史演習 A	音2	1			
	音楽史演習 B	音2	1			
	音響学	音1	2			
	演奏解釈 (1) ピアノ楽曲	音2	2			
	演奏解釈 (2) 声楽曲	音2	2			
	演奏解釈 (3) 室内楽曲	音2	2			
	演奏解釈 (4) 日本音楽	音1	2			
日本音楽概論	音1	2	必修			

2020 年度教育課程 別表… 6

【教育課程・修了の要件】

1. 専攻科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
作曲・理論 音楽史	音楽理論〔和声〕V	平井 正志	前期	2							227	
	音楽理論〔和声〕VI	平井 正志	後期		2						227	
	楽曲分析 (古典派)	池田 哲美	前期	2							227	
	楽曲分析 (ロマン派以降)	池田 哲美	後期		2						228	
	コード論Ⅱ	小林 真人	前期	2							228	
	S.H.M V・VI	① 塩崎 美幸	前・後	1	1							229
		② 大家 百子										
		③ 加藤 千春										
		④ 三瀬 俊吾										
		⑤ 長谷川 郁子										
	音楽史研究	大津 聡	通年		4						229	
	日本音楽史研究A	野川美穂子	通年		4			J必修			230	
	音楽療法概説A	鈴木千恵子	通年		4				○		230	
	音楽療法演習A	鈴木千恵子	通年		2						231	
演奏現場論A	合田 香	前期	2					○		231		
アウトリーチ研究A	永井 由比	通年		4				○		232		
実技 レッスン	第一実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		6			●全専修必修			232	
	第二実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲)		通年		4				○		232	
	副科実技Ⅲ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		2				○		232	
専攻科目・1年次 実技・アンサンブル 演奏・室内楽	学内演奏Ⅰ	松井 康司 荻野 千里	通年		2			●全専修必修				
	ピアノデュオ研究A	東井 美佳	通年		4			P必修			233	
	管楽アンサンブル研究A	津川美佐子	通年		4			W (Sx除く) 必修			233	
	室内楽研究A	a 荻野 千里 野口千代光	前期	2								234
		b 北本 秀樹										
	室内楽研究B	a 阪本奈津子	後期		2							235
		b 蓼沼恵美子										
		c 白尾 隆										
		d 菊池 奏絵										
	235											
	236											
	236											
	236											
	歌曲研究A	松井 康司 東井 美佳	通年		4						237	
	オペラ実習A〔演奏〕	西岡 慎介	前期	2					○		237	
	オペラ実習A〔演技〕	柴田千絵里	前期	2					○		238	
	オペラ実習A〔上演〕	西岡 慎介 柴田千絵里	後期		2			V選択	○		238	
	邦楽アンサンブル研究A	滝田美智子	通年		4			J必修			239	
オーケストラ・スタディC	志村 寿一	前期	1				S必修			239		
合奏C	志村 寿一	後集		2			S必修			240		
ギター・アンサンブルC	佐藤 紀雄	通年		2			G必修			240		
室内楽特設クラスA	荻野 千里	前集	1					○※		241		
室内楽特設クラスB	荻野 千里	後集		1				○※		241		
伴奏C	(1) 荻野 千里	前集	1								241	
	(2) 荻野 千里											
伴奏研究A	荻野 千里	前集	1							242		
伴奏研究B	荻野 千里	後集		1						242		
海外特別演習C	荻野 千里	前集	2							242		
特別講義 (音楽)	松井 康司	集中		1			●全専修必修	○		243		
特別演習C	荻野 千里	通年		1			●全専修必修			243		
コラボレイト実習C	(1) 松井 康司	前集	1								244	
	(2) 松井 康司											

1・2年次を通じて必修科目を含めて50単位以上

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
音楽史	楽曲分析〔編曲〕	たかの舞俐	前期			2					244	
	楽曲分析〔創作〕	たかの舞俐	後期				2				245	
音楽教育	日本音楽史研究B	野川美穂子	通年			4		J必修			230	
	日本音楽理論C	森重 行敏	後期				2	J必修				
	音楽療法概説B	鈴木千恵子	通年			4			○		230	
	音楽療法演習B	鈴木千恵子	通年			2					231	
	音楽療法実習	鈴木千恵子	後集				1				245	
	演奏現場論B	合田 香	前期			2			○		231	
	アウトリーチ研究B	永井 由比	通年			4			○		232	
	実技レッスン	第一実技IV (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年			6		●全専修必修			232
	第二実技IV (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲)		通年			4			○		232	
	副科実技IV (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年			2			○		232	
	第一実技修了試験		通年			4		●全専修必修				
演奏・室内楽	学内演奏II	松井 康司 荻野 千里	通年			2		●全専修必修				
	ピアノデュオ研究B	東井 美佳	通年			4					233	
	管楽アンサンブル研究B	津川美佐子	通年			4		W (Sx除く) 必修			233	
	室内楽研究C	a 荻野 千里 野口千代光	前期			2						234
		b 北本 秀樹										
	室内楽研究D	a 阪本奈津子	後期				2					235
		b 蓼沼恵美子										
		c 白尾 隆										
		d 菊池 奏絵										
	歌曲研究B	松井 康司 東井 美佳	通年			4					237	
	オペラ実習B〔演奏〕	西岡 慎介	前期			2		V選択	○		237	
	オペラ実習B〔演技〕	柴田千絵里	前期			2			○		238	
	オペラ実習B〔上演〕	西岡 慎介 柴田千絵里	後期				2		○		238	
	邦楽アンサンブル研究B	滝田美智子	通年			4		J必修			239	
	オーケストラ・スタディD	志村 寿一	前期			1		S必修			239	
	合奏D	志村 寿一	後集				2	S必修			240	
	ギター・アンサンブルD	佐藤 紀雄	通年			2		G必修			240	
室内楽特設クラスC	荻野 千里	前集			1			○※		241		
室内楽特設クラスD	荻野 千里	後集				1		○※		241		
伴奏D	(1) 荻野 千里	前集			1						241	
	(2)											
伴奏研究C	荻野 千里	前集			1						242	
伴奏研究D	荻野 千里	後集				1					242	
海外特別演習D	荻野 千里	前集			2						242	
特別演習D	荻野 千里	通年				1					243	
コラボレイト実習D	(1) 松井 康司	前集			1						244	
	(2)											

1・2年次を通して必修科目を含めて50単位以上

【備考】 P：ピアノ専修 C：チェンバロ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

<2020年度入学生の修了要件>

最低修得単位数 50単位（2学年合計）

【内訳】

- ①作曲・理論・音楽史から14単位以上
- ②音楽教育科目から8単位以上
- ③演奏・室内楽科目から10単位以上
- ④特別演習C、特別講義（音楽）2単位必修
- ⑤実技レッスンから16単位以上

○修了要件とは別に、芸術科音楽専攻および他専攻の履修可能な科目のうち、年間5科目まで履修可

【学士取得に向けて】

<2020年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位（2学年合計・前述の修了要件を満たしていること）

上記に加えて、下図①②③に表す要件を全て満たすこと

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	62単位以上			2年以上
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位	
芸術科での 修得単位				

「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位数は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

(A)

専攻科での 修得単位	62単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

(B)

専攻科での 修得単位	31単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	専門科目の 単位	24単位以上	
		関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと

2. 専攻科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				修了要件	他専攻	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期			
理論科目	特別講義A	高橋 宏幸	通年	2				4	○	247
	特別講義B	三浦 剛	通年			2			○	247
	演劇学研究A (日本演劇論) (1)	高橋 宏幸	前期	2				○	247	
	演劇学研究A (日本演劇論) (2)		後期	2				○	248	
	演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	安宅りさ子	前期	2				○	248	
	演劇学研究B (西洋演劇論) (2)		後期	2				○	249	
	演劇学研究C (現代演劇論)	井上 理恵	前期	2				○	249	
科目 演出	劇作研究A (劇作論)	瀬戸山美咲	前期	2				8		250
	劇作研究B (劇作演習)	瀬戸山美咲	後期	1						250
	演出研究	中野 敦之	後期	2						251
科目 演劇教育	演劇教育論	野間 哲	後期	2				○	251	
	アーツマネジメント研究	中山 夏織	前期	2				○	252	
	アウトリーチ研究	中山 夏織	後期	2				○	252	
演技科目	演技研究A (日本演劇) (1)	三浦 剛	通年	2				16		253
	演技研究A (日本演劇) (2)		通年			2				253
	演技研究B (外国演劇) (1)	P.ゲスナー	通年	2						254
	演技研究B (外国演劇) (2)		通年			2				254
	演技研究C (実験劇) (1)	未定	通年	2						255
	演技研究C (実験劇) (2)		通年			2				255
	演技研究D (フィジカルシアター) (1)	大谷賢治郎	後期		1					256
	演技研究D (フィジカルシアター) (2)		後期				1			256
	演技研究E (ミュージカル) (1)	大塚 幸太	前期	1						257
	演技研究E (ミュージカル) (2)		前期			1				257
	演劇特別研究 ①②	田中壮太郎	通年	2						258
	ワークショップA	1年次 永井 愛	前集	1						258
	ワークショップB	2年次 未定				1				258
	ワークショップC	1年次 和田 喜夫	後集		1					259
	ワークショップD	2年次 未定					1			259
海外研修	1年次 P.ゲスナー 2年次 高橋 宏幸	後集		1				259		
実技科目	舞踊A (クラシックバレエ)	中農 美保	通年	2				2	○*1	260
	舞踊B (コンテンポラリー)	勝倉 寧子	前期	1						260
	舞踊C (日舞)	藤間 希穂	後期	1				○*2	261	
	ミュージカル唱法	藍澤 幸頼	通年	2					261	
	英語劇	J・サザーランド	通年	2					262	
	歌唱 (個人レッスン) I	信太 美奈 他	前期	2				自由 選択 単位		262
	歌唱 (個人レッスン) J		後期		2					
	歌唱 (個人レッスン) K		前期			2				
	歌唱 (個人レッスン) L		後期				2			
	歌唱 (個人レッスン) M		前期	1						
歌唱 (個人レッスン) N	後期			1						
歌唱 (個人レッスン) O	前期				1					
歌唱 (個人レッスン) P	後期					1				
劇上演実習	劇上演実習A	1年次① 越光 照文	前集	4				16		263
		2年次① 未定	前集			4				263
		1年次② 三浦 剛 他	前集	4						263
		2年次② 未定	前集			4				263
	劇上演実習B	1年次① 井田 邦明	後集		4					264
		2年次① 未定	後集				4			264
		1年次② P.ゲスナー	後集		4					264
		2年次② 未定	後集				4			264
	劇上演実習C (専1最終公演)	三浦 剛	後集		4					264
	劇上演実習D (専2修了公演)	未定	後集				4			265
劇上演実習E (学外出演)	三浦 剛	集中	4					265		
劇上演実習F (学外出演)	三浦 剛	集中	4					265		
劇上演実習G (学内出演)	三浦 剛	集中	1					266		
修了論文	修了論文	高橋 宏幸 他	通年	4					266	

※1 芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエⅠ」「クラシックバレエⅡ」を修得していることを条件とする。

※2 芸術科演劇専攻科目「日本舞踊Ⅰ」「日本舞踊Ⅱ」を修得していることを条件とする。

<2020年度入学生の修了要件>

最低修得単位数 50単位 (2学年合計)

【内訳】

- ①特別講義は4単位必修 ※特別講義は通年15回授業
- ②理論科目、劇作・演出科目、演劇教育・マネジメント科目から8単位以上
- ③演技科目から16単位以上
- ④劇上演実習、修了論文から16単位以上
- ⑤実技科目から2単位以上
- ⑥自由選択科目として4単位 (自他専攻科目より)

○修了要件とは別に、芸術科演劇専攻および他専攻の履修可能な科目のうち、年間5科目まで履修可

【学士取得に向けて】

<2020年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位 (2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

上記に加えて、下図①②③に表す要件を全て満たすこと

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	62単位以上			2年以上
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位	
芸術科での 修得単位				

「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

(A)

専攻科での 修得単位	62単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

(B)

専攻科での 修得単位	31単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	24単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと

## 2020年度 カリキュラムマップ

## 【カリキュラムマップ】

カリキュラムマップは、学習成果で掲げている「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の5つの観点の到達目標が、どの授業科目の履修によって達成されるかの相関関係を示したものである。

各科目がカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのかを確認し、学修の一助とすること。

## 教養科目カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 芸術文化を歴史・社会・自然と関連づけて理解することができる。
- ② (思考・判断) 自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、問題を解決することができる。
- ③ (関心・意欲) 芸術文化に幅広く関心を持ち、新たな創造的表現を実現する意欲に高めることができる。
- ④ (態度) 多様な価値観を理解し、地域社会および国際社会のニーズに応え、活力ある社会の構築に努めることができる。
- ⑤ (技能・表現) 日本語と外国語を用いて、他者の発言や文章を理解し、自らの考えを的確に表明することができる。

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
キャリア教育	前期	情報リテラシー論		○	○		
	前期	情報処理論				○	○
	前期	音楽環境論		○	○		
	前期	社会福祉学	○			○	
	後期	表現コミュニケーション論		○		○	
	前期	アーツマネジメント論		○	○		
	前期	応用演劇論	○		○		
一般教養	後期	メディア論		○	○		
	前期	現代思想論	○				○
	後期	日本国憲法	○		○		
	前期	文化政策論A	○		○		
	後期	文化政策論B	○		○		
	前期	青少年教育論		○		○	
	前期	文学(古典)	○		○		
	後期	文学(近世)	○		○		
	前期	日本語論		○			○
	前期	日本語表現論				○	○
	後集	映画論	○			○	
語学	前期	英語A I				○	○
	後期	英語A II				○	○
	前期	英語B I				○	○
	後期	英語B II				○	○
	前期	演劇英語①②				○	○
	前期	ドイツ語 I				○	○
	後期	ドイツ語 II				○	○
	前期	ドイツ語 III				○	○
	後期	ドイツ語 IV				○	○
	前期	イタリア語 I				○	○
	後期	イタリア語 II				○	○
	前期	イタリア語 III				○	○
	後期	イタリア語 IV				○	○
	前期	フランス語 I				○	○
	後期	フランス語 II				○	○

## 芸術科音楽専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 専門実技、音楽理論、ソルフェージュなどの演奏表現に必要な基礎を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。
- ② (思考・判断) 自ら課題を設定し、演奏表現の向上に向けて多面的に考察し、判断していくことができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。
- ④ (態度) 自らの音楽的な知識、経験をもって社会におけるニーズに応えることができる。
- ⑤ (技能・表現) 演奏家、指導者としての基礎的な演奏技術と表現能力をもち、自分の想像した表現を実現することができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤	
専攻 教養 科目	前期	音楽理論基礎	○			○		
	前期	音楽基礎演習―バロック・ダンス				○	○	
音楽 理論	前・後	音楽理論 [和声] I・II	○	○				
	前・後	日本音楽理論A I・II	○		○			
音楽 史	前・後	音楽史概説 I・II			○	○		
	前・後	日本音楽史概説 I・II			○	○		
	後期	日本音楽概論			○	○		
ソルフェ ージュ	前・後	S. H. M. I・II	○			○		
専門 教育 科目	後期	演奏会制作法			○	○		
	前期	アウトリーチ概説		○	○			
	後期	アウトリーチ演習			○	○		
	前期	音響学	○				○	
	後集	特別講座	○	○				
	後期	日本音楽特講			○	○		
	前期	ディクショ (イタリア語)	○				○	
	前期	管楽器基礎(呼吸法)			○	○	○	
	前期	うたA			○	○	○	
	前期	初見演奏 (基礎)			○		○	
	集中	身体と表現との調和		○			○	
	後期	演奏解釈 (4) 日本音楽	○	○				
	後期	伴奏法 I	○				○	
	室内 楽・ アン サン ブル 科目	前・後	合唱 I・II			○		○
前期		オーケストラ・スタディ A			○	○	○	
後集		合奏A			○	○	○	
前・後		声楽アンサンブルA I・II			○	○	○	
前・後		管楽アンサンブルA I・II			○	○	○	
前・後		金管アンサンブルA I・II			○	○	○	
前・後		サクソフォン・アンサンブルA I・II			○	○	○	
前・後		ギター・アンサンブルA I・II			○	○	○	
前・後		邦楽アンサンブルA I・II			○	○	○	
前期		合奏基礎 (和楽器)			○	○	○	
前・後		伴奏A			○	○		
実技 科目		通年	第一実技 I			○	○	○
		通年	第二実技 I			○	○	○
		通年	副科実技 I			○	○	○
	特別 演習	海外特別演習A	○		○			
特別 演習	通年	特別演習A	○	○				
	実習科目	前・後	コラボレイト実習A		○	○		

### ■ 2年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤	
音楽 理論	前・後	音楽理論 [和声] III・IV	○	○				
	前・後	対位法 I・II		○	○			
	前期	コード論 I	○	○				
	前・後	音楽理論 [楽式] I・II	○		○			
	前・後	日本音楽理論B I・II	○		○			
	音楽 史	前期	音楽史特講A	○		○		
前期		音楽史特講B	○		○			
後期		音楽史演習A	○	○				
後期		音楽史演習B	○	○				
ソルフェ ージュ	前・後	S. H. M. III. IV	○			○		
専門 教育 科目	前期	うたB			○	○	○	
	前期	音楽マネジメント			○	○		
	前期	音楽療法概論	○			○		
	後期	演奏解釈 (1) ピアノ楽曲	○	○				
	前期	演奏解釈 (2) 声楽曲	○	○				
	前期	演奏解釈 (3) 室内楽曲	○	○				
	前期	楽器法 (和楽器)	○		○			
	前集	楽器法	○		○			
	前・後	指揮法 I・II			○	○		
	前期	伴奏法 II	○			○		
	後集	合奏B			○	○	○	
	前期	室内楽A		○			○	
	後期	室内楽B		○			○	
	前期	オーケストラ・スタディ B			○	○	○	
室内 楽・ アン サン ブル 科目	前・後	声楽アンサンブルB I・II			○	○	○	
	前・後	管楽アンサンブルB I・II			○	○	○	
	前・後	金楽アンサンブルB I・II			○	○	○	
	前・後	サクソフォン・アンサンブルB I・II			○	○	○	
	前・後	ギター・アンサンブルB I・II			○	○	○	
	前・後	邦楽アンサンブルB I・II			○	○	○	
	前・後	伴奏B			○	○		
	実技 科目	通年	第一実技 II			○	○	○
		通年	第二実技 II			○	○	○
		通年	副科実技 II			○	○	○
		通年	第一実技卒業試験	○	○			○
	特別 演習	前集	海外特別演習B	○		○		
		通年	特別演習B	○	○			
	実習科目	前・後	コラボレイト実習B		○	○		

## 専攻科音楽専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 音楽を中心とした芸術全般の知識、音楽理論、歴史などを体系的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための音楽的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。
- ② (思考・判断) 時代に即した演奏表現を獲得するとともに、同時代から求められている最先端の演奏表現などを取り入れることができる。
- ③ (関心・意欲) 同時代における最先端の演奏表現、創造行為の動向に関心を払い、自らもそれに参入することができる。
- ④ (態度) 他者との協働に積極的に関わり、自らの音楽経験、知識を持って教育、福祉、文化活動など、社会的なニーズに応えると同時に、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。
- ⑤ (技能・表現) 演奏家、指導者としての確かな演奏技術と表現力を持ち、音楽による表現、創造活動の意義を社会に伝えることができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤	
専門教育	通年	音楽療法概説A			○	○		
	通年	音楽療法演習A			○		○	
	前期	演奏現場論A			○	○		
	通年	アウトリーチ研究A			○	○		
	集中	特別講義(音楽)	○	○				
	通年	特別演習C		○		○		
音楽理論	前・後	音楽理論【和声】V・VI	○	○				
	前期	楽曲分析(古典派)	○	○				
	後期	楽曲分析(ロマン派以降)	○	○				
	前期	コード論II	○	○	○			
音楽史	通年	音楽史研究	○		○			
	通年	日本音楽史研究A	○		○			
ソルフェージュ	前・後	S. H. M. V・VI		○		○		
アンサンブル	通年	ピアノデュオ研究A				○	○	
	通年	管楽アンサンブル研究A				○	○	
	通年	歌曲研究A				○	○	
	前集	室内楽特設クラスA				○	○	
	後集	室内楽特設クラスB				○	○	
室内楽	前期	室内楽研究A					○	
	後期	室内楽研究B					○	
	前期	オペラ実習A【演奏】		○			○	
	前期	オペラ実習A【演技】		○			○	
	後期	オペラ実習A【上演】				○	○	
	通年	邦楽アンサンブル研究A				○	○	
	前期	オーケストラ・スタディC				○	○	
	後集	合奏C				○	○	
	通年	ギター・アンサンブルC				○	○	
	通年	学内演奏I				○	○	
	実技	前・後	伴奏C				○	○
		前集	伴奏研究A				○	○
後集		伴奏研究B				○	○	
前集		海外特別演習C			○		○	
前・後		コラボレイト実習C		○	○			
通年		第一実技Ⅲ				○	○	
通年		第二実技Ⅲ				○	○	
通年		副科実技Ⅲ				○	○	

### ■ 2年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤
専門教育	通年	音楽療法概説B			○	○	
	通年	音楽療法演習B			○		○
	後集	音楽療法実習			○		○
	前期	演奏現場論B			○	○	
	通年	アウトリーチ研究B			○	○	
	通年	特別演習D		○		○	
音楽理論	前期	楽曲分析【編曲】			○		○
	後期	楽曲分析【創作】			○		○
	後期	日本音楽理論C	○	○			
音楽史	通年	日本音楽史研究B	○		○		
アンサンブル	通年	ピアノデュオ研究B				○	○
	通年	管楽アンサンブル研究B				○	○
	通年	歌曲研究B				○	○
	前集	室内楽特設クラスC				○	○
	後集	室内楽特設クラスD				○	○
	前期	室内楽研究C				○	○
	後期	室内楽研究D				○	○
	前期	オペラ実習B【演奏】		○			○
	前期	オペラ実習B【演技】		○			○
	後期	オペラ実習B【上演】				○	○
室内楽	通年	邦楽アンサンブル研究B				○	○
	前期	オーケストラ・スタディD				○	○
	後集	合奏D				○	○
	通年	ギター・アンサンブルD				○	○
	通年	学内演奏II				○	○
	前・後	伴奏D				○	○
	前集	伴奏研究C				○	○
	後集	伴奏研究D				○	○
	前集	海外特別演習D			○		○
	前・後	コラボレイト実習D		○	○		
	通年	第一実技IV				○	○
	通年	第二実技IV				○	○
通年	副科実技IV				○	○	
通年	第一実技修了試験				○	○	

## 芸術科演劇専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 演劇を中心とした舞台芸術の理論と歴史を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。
- ② (思考・判断) 演劇、歌唱、舞踊等の表現手段を用いて、他者とともに課題を解決することができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。
- ④ (態度) 集団の中で協働の役割をはたすことができ、演劇的な技術、知識をもって地域社会および国際社会のニーズに応えることができる。
- ⑤ (技能・表現) 俳優、表現者としての基礎的な技能をもち、自分の想像した表現を実現することができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
基礎実技科目	前期	基礎演劇演習A		○		○	
		基礎演劇演習B		○		○	
		身体トレーニング		○		○	
実技科目	前期	ボイス・トレーニング(歌唱)		○		○	
		マイム		○		○	
		ジャズダンスA		○		○	
		バレエ・ムーヴメント		○		○	
		ドラマリーディングA			○		○
理論科目	前期	歌唱(個人レッスン) A,E		○			○
		舞台芸術概論	○		○		
		日本演劇史A(古典)	○		○		
		西洋演劇史A(古典)	○		○		
		ミュージカル概論	○		○		
実習科目	前期	演劇文化論A	○		○		
		戯曲講読演習A(古典)	○		○		
		集中講義(舞台照明実習)①		○		○	
		集中講義(舞台照明実習)②		○		○	
		集中講義(舞台音響実習)①		○		○	
		集中講義(舞台音響実習)②		○		○	
		集中講義(ヘアメイク実習)	○		○		
		集中講義(舞台監督実習)		○		○	
		演劇研修(八ヶ岳合宿)		○		○	
		劇上演実習C,D(学外出演)		○	○		○
演技科目	前期	劇上演実習E,F(学内出演)		○	○		○
		演劇演習A		○		○	
実技科目(共通)	前期	演劇演習B		○		○	
		演劇特別演習I					○
		アクション		○		○	
		日本舞踊I	○				○
		狂言I	○				○
		クラシック唱法I	○		○		
		ミュージカルトレーニングA		○			○
		ジャズダンスB		○		○	
		クラシックバレエI		○		○	
		タップダンスI		○		○	
		ドラマリーディングB			○		○
		歌唱(個人レッスン) B,F		○			○
		理論科目	後期	演劇演習A		○	
日本演劇史B(近現代)	○				○		
西洋演劇史B(近現代)	○				○		
ミュージカル論	○				○		
ソルフェージュ基礎	○				○		
演劇文化論B	○				○		
演出論	○				○		
演劇論	○				○		
戯曲講読演習B(近現代)	○				○		
劇作法	○				○		
実習科目	後期	ワークショップ(ストレートプレイ)				○	○
		ワークショップ(ミュージカル)				○	○
		海外研修	○		○		
		劇上演実習C,D(学外出演)		○	○		○
		劇上演実習E,F(学内出演)		○	○		○

### ■ 2年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
演技科目	前期	演劇演習C		○		○	
S実技科目		演技演習A(ダイアログ)		○		○	
		演技演習B(アンサンブル)		○		○	
M実技科目		ショーダンスI		○			○
		ミュージカルトレーニングB		○			○
実技科目(共通)		演劇特別演習II		○			○
		日本舞踊II			○		○
		狂言II	○				○
		アフレコ実技I	○		○		
		クラシック唱法II	○		○		
		ジャズダンスC		○			○
		クラシックバレエII		○			○
理論科目		タップダンスII		○			○
	歌唱(個人レッスン) C,G		○			○	
	ソルフェージュ	○		○			
	演劇批評論	○		○			
	演劇文化論A	○		○			
実習科目	戯曲講読演習A(古典)	○		○			
	ワークショップ(ストレートプレイ)				○	○	
	ワークショップ(ミュージカル)				○	○	
演技科目	前期	劇上演実習C,D(学外出演)		○	○		○
		劇上演実習E,F(学内出演)		○	○		○
S実技科目	後期	演劇演習D		○		○	
		演技演習B(アンサンブル)		○		○	
M実技科目	後期	演技演習A(ダイアログ)		○		○	
		ショーダンスII		○			○
実技科目	後期	ミュージカル演習		○			○
		アフレコ実技II	○		○		
実習科目	後期	歌唱(個人レッスン) D,H		○			○
		パフォーマンスアーツ論	○		○		
		演劇文化論B	○		○		
		演出論	○		○		
		演劇論	○		○		
		戯曲講読演習B(近現代)	○		○		
		劇作法	○		○		
		海外研修	○		○		
		劇上演実習A(試演会)		○	○		○
		劇上演実習B(卒業公演)		○		○	○
演技科目	後期	劇上演実習C,D(学外出演)		○		○	○
		劇上演実習E,F(学内出演)		○		○	○

## 専攻科演劇専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 演劇を中心とした舞台芸術の理論、歴史などを発展的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための演劇的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。
- ② (思考・判断) 自ら設定した課題を、理論や歴史を元に、演技、歌唱、舞踊、パフォーマンスなどの表現手段を用いて、他者との関わりを深めながら解決していくことができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における演劇、ひいては芸術の存在意義を考え、自らの表現活動を積極的に実践することができる。
- ④ (態度) 集団のなかで協働性をもち、進んでリーダーシップをとり、地域社会および国際社会のニーズに応じて、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。
- ⑤ (技能・表現) 専門俳優、表現者としての確かな技能と表現力をもち、演劇を中心とした舞台芸術の意義を社会に伝えることができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
理論科目		特別講義A	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究C (現代演劇論)	○		○		
劇作・演出科目		劇作研究A (劇作論)			○		○
		演劇教育・マネジメント科目	アーツマネジメント研究			○	
演技科目	前期	演技研究A (日本演劇) (1)		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (1)		○		○	
		演技研究C (実験劇) (1)		○		○	
		演技研究E (ミュージカル) (1)		○		○	
		演劇特別研究	○			○	
		ワークショップA				○	○
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ)		○		○	
		舞踊B (コンテンポラリー)		○		○	
		ミュージカル唱法		○		○	
		英語劇	○		○		
劇上演実習		歌唱 (個人レッスン) I.M		○		○	
		劇上演実習A 1年次		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
劇上演実習G (学内出演)		○		○	○		
理論科目		特別講義A	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (2)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (2)	○		○		
		演劇学研究C (現代演劇論)	○		○		
劇作・演出科目		劇作研究B (劇作演習)			○		○
		演出研究				○	○
演劇教育・マネジメント科目		演劇教育論			○		○
		アウトリーチ研究			○		○
演技科目	後期	演技研究A (日本演劇) (1)		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (1)		○		○	
		演技研究C (実験劇) (1)		○		○	
		演技研究D (フィジカルシアター) (1)		○		○	
		演劇特別研究	○			○	
		ワークショップC				○	○
実技科目		海外研修 1年次	○		○		
		舞踊A (クラシックバレエ)		○		○	
		舞踊C (日舞)		○		○	
		ミュージカル唱法		○		○	
英語劇		歌唱 (個人レッスン) J.N		○		○	
		劇上演実習B 1年次		○		○	○
		劇上演実習C (専1最終公演)		○		○	○
劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○		
劇上演実習G (学内出演)		○		○	○		

### ■ 2年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
理論科目		特別講義B	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究C (現代演劇論)	○		○		
劇作・演出科目		劇作研究A (劇作論)			○		○
		演劇教育・マネジメント科目	アーツマネジメント研究			○	
演技科目	前期	演技研究A (日本演劇) (2)		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (2)		○		○	
		演技研究C (実験劇) (2)		○		○	
		演技研究E (ミュージカル) (2)		○		○	
		演劇特別研究	○			○	
		ワークショップB				○	○
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ)		○		○	
		舞踊B (コンテンポラリー)		○		○	
		ミュージカル唱法		○		○	
		英語劇	○		○		
劇上演実習		歌唱 (個人レッスン) K.O		○		○	
		劇上演実習A 2年次		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
劇上演実習G (学内出演)		○		○	○		
修了論文		○	○			○	
理論科目		特別講義B	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (2)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (2)	○		○		
		演劇学研究C (現代演劇論)	○		○		
劇作・演出科目		劇作研究B (劇作演習)			○		○
		演出研究				○	○
演劇教育・マネジメント科目		演劇教育論			○		○
		アウトリーチ研究			○		○
演技科目	後期	演技研究A (日本演劇) (2)		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (2)		○		○	
		演技研究C (実験劇) (2)		○		○	
		演技研究D (フィジカルシアター) (2)		○		○	
		演劇特別研究	○			○	
		ワークショップD				○	○
実技科目		海外研修 2年次	○		○		
		舞踊A (クラシックバレエ)		○		○	
		舞踊C (日舞)		○		○	
		ミュージカル唱法		○		○	
英語劇		歌唱 (個人レッスン) L.P		○		○	
		劇上演実習B 2年次		○		○	○
		劇上演実習D (専2修了公演)		○		○	○
劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○		
劇上演実習G (学内出演)		○		○	○		
修了論文		○	○			○	

## 2020年度 科目ナンバリング

## 科目ナンバー

科目ナンバーは、学問分野の中で、その科目がどのような位置づけとなっているかを示す、住所のような役割を持っています。

科目ナンバーの示し方は大学により多様ですが、基本的に3文字か4文字からなる文字コード部と、3ケタから5ケタからなる数字コード部で表す方式が一般的です。

【例】 ジャズダンスA : DNC 1 3 2 0 T

↓

DNC…科目が属する学問分野を示す文字コード  
 1 …レベル  
 3 …授業の方法  
 2 …学問分野・領域の細分  
 0 …科目整理番号  
 T …所属コード

文字コードは、その科目が主としてどのような学問分野に属しているのかを示しています。

文字コードと学問分野との関係を【表1】に示します。

数字コードは、千の位にてその科目の難易度（レベル）を【表2】、百の位にて当該科目で主とする授業形態（講義主体なのか、実技主体なのかなど）を【表3】、十の位にて文字コードで示す学問分野・領域を細分した場合の位置づけを【表4】、一の位にて文字コードと数字コードの千の位・百の位・十の位とが同じ科目中での、住所での番地に相当する当該科目の固有番号（科目を整理するための番号）を示しています。

所属コードは、本学での開講を担っている教育組織などを示しています。所属コードと教育組織との関係は次の通りです。

B : 教養科目    M : 音楽専攻    T : 演劇専攻    MA : 専攻科音楽専攻    TA : 専攻科演劇専攻

[表1] 文字コード：科目が属する学問分野

文字コード	学問分野名称<日本語>	学問分野名称<英語>
CAE	キャリア教育	Career Education
LIA	一般教養	Liberal Arts
FLS	語学	Foreign Language Studies
MUS	音楽(音楽学)	Music
THE	演劇学	Theater
DNC	舞踊学	Dance
VOM	音楽(歌唱)	Vocal Music

[表2] 千の位：レベル

1000から4000へと段階的にレベルが高くなります。

千の位	レベル
1	1000
2	2000
3	3000
4	4000

[表3] 百の位：授業の方法

■音楽専攻 百の位：授業形態

百の位	授業形態
0	講義
1	演習(理論)
2	演習(技術)
3	実技(副科、第二実技)
4	実技(主科)
5	実習(卒業試験など)

■演劇専攻 百の位：授業形態

百の位	授業形態
0	講義
1	演習(理論)
2	演習(演技)
3	実技(グループレッスン) ※GL
4	実技(個人レッスン) ※PL
5	実習(スタッフ) ※Staff
6	実習(ワークショップ) ※WS
7	実習(上演)

[表4] 十の位：学問分野・領域の細分

文字コード	学問分野名称<日本語>	十の位	学問分野・領域の細分
CAE	キャリア教育	0	情報
		1	環境
		2	社会福祉
		3	コミュニケーション
		4	アーツマネジメント
		5	応用演劇
LIA	一般教養	0	メディア
		1	思想
		2	日本国憲法
		3	文化
		4	教育
		5	文学
		6	日本語表現
FLS	語学	0	英語
		1	ドイツ語
		2	イタリア語
		3	フランス語
MUS	音楽（音楽学）	0	専門教育
		1	音楽理論
		2	音楽史・音楽学
		3	ソルフェージュ
		4	合奏・室内楽・アンサンブル
		5	専門実技
THE	演劇学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	戯曲
		2	演出
		3	演技
		4	舞台技術
		5	制作
		6	批評
DNC	舞踊学	0	クラシックバレエ
		1	ジャズダンス
		2	タップダンス
		3	日本舞踊
		4	コンテンポラリー
VOM	音楽（歌唱）	0	ソルフェージュ
		1	声楽

## 2020年度 科目ナンバリング [教養科目]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
キャリア教育	情報リテラシー論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1000B
	情報処理論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1001B
	音楽環境論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1010B
	社会福祉学	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1020B
	表現コミュニケーション論	CAE	講義	2	1・2	後期	CAE2030B
	アーツマネジメント論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1040B
	応用演劇論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1050B
一般教養	メディア論	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2000B
	現代思想論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1010B
	日本国憲法	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2020B
	文化政策論A	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1030B
	文化政策論B	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2030B
	青少年教育論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1040B
	文学（古典）	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1050B
	文学（近世）	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2050B
	日本語論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1060B
	日本語表現論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1061B
	映画論	LIA	講義	2	1・2	後集	LIA2001B
語学	英語A I	FLS	演習（理論）	1	1	前期	FLS1100B
	英語A II	FLS	演習（理論）	1	1	後期	FLS2100B
	英語B I	FLS	演習（理論）	1	2	前期	FLS1101B
	英語B II	FLS	演習（理論）	1	2	後期	FLS2101B
	演劇英語	FLS	演習（理論）	1	1	前期	FLS1102B
	ドイツ語 I	FLS	演習（理論）	1	1	前期	FLS1110B
	ドイツ語 II	FLS	演習（理論）	1	1	後期	FLS2110B
	ドイツ語 III	FLS	演習（理論）	1	2	前期	FLS3110B
	ドイツ語 IV	FLS	演習（理論）	1	2	後期	FLS4110B
	イタリア語 I	FLS	演習（理論）	1	1	前期	FLS1120B
	イタリア語 II	FLS	演習（理論）	1	1	後期	FLS2120B
	イタリア語 III	FLS	演習（理論）	1	2	前期	FLS3120B
	イタリア語 IV	FLS	演習（理論）	1	2	後期	FLS4120B
	フランス語 I	FLS	演習（理論）	1	1	前期	FLS1130B
	フランス語 II	FLS	演習（理論）	1	1	後期	FLS2130B

## 2020年度 科目ナンバリング [芸術科/音楽専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
専攻教養科目	音楽基礎演習ーバロック・ダンス	MUS	演習 (技術)	1	1	前期	MUS1200M
	音楽理論基礎	MUS	演習 (理論)	1	1	前期	MUS1110M
音楽理論	音楽理論 [和声] I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1010M
	音楽理論 [和声] II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2010M
	音楽理論 [和声] III	MUS	講義	2	2	前期	MUS3010M
	音楽理論 [和声] IV	MUS	講義	2	2	後期	MUS4010M
	対位法 I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3011M
	対位法 II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4011M
	コード論 I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3012M
	音楽理論 [楽式] I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3013M
	音楽理論 [楽式] II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4012M
	日本音楽理論 A I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1011M
	日本音楽理論 A II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2011M
	日本音楽理論 B I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3014M
日本音楽理論 B II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4013M	
音楽史	音楽史概説 I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1020M
	音楽史概説 II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2020M
	音楽史特講A	MUS	講義	2	2	前期	MUS3020M
	音楽史特講B	MUS	講義	2	2	前期	MUS3021M
	音楽史演習A	MUS	演習 (理論)	1	2	後期	MUS4120M
	音楽史演習B	MUS	演習 (理論)	1	2	後期	MUS4121M
	日本音楽史概説 I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1021M
	日本音楽史概説 II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2021M
日本音楽概論	MUS	講義	2	1	後期	MUS2022M	
ソルフェージュ	S.H.M. I	MUS	演習 (理論)	1	1	前期	MUS1130M
	S.H.M. II	MUS	演習 (理論)	1	1	後期	MUS2130M
	S.H.M. III	MUS	演習 (理論)	1	2	前期	MUS3130M
	S.H.M. IV	MUS	演習 (理論)	1	2	後期	MUS4130M
専門教育科目	演奏会制作法	MUS	演習 (理論)	1	1	後期	MUS2100M
	アウトリーチ概説	MUS	講義	2	1	前期	MUS1000M
	アウトリーチ演習	MUS	演習 (技術)	1	1	後期	MUS2200M
	音響学	MUS	講義	2	1	前期	MUS1001M
	特別講座	MUS	講義	1	1	後集	MUS2000M
	日本音楽特講	MUS	講義	2	1	後期	MUS2001M
	ディクシオン (イタリア語)	MUS	演習 (技術)	1	1	前期	MUS1201M
	管楽器基礎 (呼吸法)	MUS	演習 (技術)	1	1	前期	MUS1202M
	うたA	MUS	演習 (技術)	1	1	前期	MUS1203M
	うたB	MUS	演習 (技術)	1	2	前期	MUS3200M
	初見演奏 (基礎)	MUS	演習 (技術)	1	1	前期	MUS1204M
	身体と表現との調和	MUS	演習 (技術)	2	1	集中	MUS2201M
	音楽マネジメント	MUS	講義	2	2	前期	MUS3000M
	音楽療法概論	MUS	講義	2	2	前期	MUS3001M
	演奏解釈 (1) ピアノ楽曲	MUS	講義	2	2	後期	MUS4000M
	演奏解釈 (2) 声楽曲	MUS	講義	2	2	前期	MUS3002M
	演奏解釈 (3) 室内楽曲	MUS	講義	2	2	前期	MUS3003M
	演奏解釈 (4) 日本音楽	MUS	講義	2	1	後期	MUS2002M
	楽器法 (和楽器)	MUS	講義	2	2	前期	MUS3004M
	楽器法	MUS	講義	2	2	前集	MUS3005M
	指揮法 I	MUS	演習 (理論)	1	2	前期	MUS3100M
	指揮法 II	MUS	演習 (理論)	1	2	後期	MUS4100M
	伴奏法 I	MUS	演習 (技術)	1	1	後期	MUS2202M
	伴奏法 II	MUS	演習 (技術)	1	2	前期	MUS3201M

科目区分	授業科目	文字コード*	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
室内楽・ アンサンブル科目	合唱Ⅰ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1240M
	合唱Ⅱ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2240M
	合奏A	MUS	演習(技術)	2	1	後集	MUS2241M
	合奏B	MUS	演習(技術)	2	2	後集	MUS4240M
	室内楽A	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3240M
	室内楽B	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4241M
	オーケストラ・スタディ A	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1241M
	オーケストラ・スタディ B	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3241M
	声楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1242M
	声楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2242M
	声楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3242M
	声楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4242M
	管楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1243M
	管楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2243M
	管楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3243M
	管楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4243M
	金管アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1244M
	金管アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2244M
	金管アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3244M
	金管アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4244M
	サクソフォン・アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1245M
	サクソフォン・アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2245M
	サクソフォン・アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3245M
	サクソフォン・アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4245M
	ギター・アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1246M
	ギター・アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2246M
	ギター・アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3246M
	ギター・アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4246M
	邦楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1247M
	邦楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2247M
	邦楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3247M
	邦楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4247M
	合奏基礎(和楽器)	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1248M
	伴奏A	MUS	演習(技術)	1	1	前集・後集	MUS2248M
伴奏B	MUS	演習(技術)	1	2	前集・後集	MUS4248M	
実技科目	第一実技Ⅰ	MUS	実技(主科)	4	1	通年	MUS2450M
	第一実技Ⅱ	MUS	実技(主科)	4	2	通年	MUS4450M
	第二実技Ⅰ	MUS	実技(副科、第二実技)	4	1	通年	MUS2350M
	第二実技Ⅱ	MUS	実技(副科、第二実技)	4	2	通年	MUS4350M
	副科実技Ⅰ	MUS	実技(副科、第二実技)	2	1	通年	MUS2351M
	副科実技Ⅱ	MUS	実技(副科、第二実技)	2	2	通年	MUS4351M
	第一実技卒業試験	MUS	実習(卒業試験など)	4	2	通年	MUS4550M
特別演習	海外特別演習A	MUS	演習(技術)	2	1	前集	MUS1249M
	海外特別演習B	MUS	演習(技術)	2	2	前集	MUS3248M
	特別演習A	MUS	演習(技術)	1	1	通年	MUS2203M
	特別演習B	MUS	演習(技術)	1	2	通年	MUS4200M
実習科目	コラボレイト実習A	MUS	実習(卒業試験など)	1	1	前集・後集	MUS2550M
	コラボレイト実習B	MUS	実習(卒業試験など)	1	2	前集・後集	MUS4551M

2020年度 科目ナンバリング [専攻科/音楽専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
専門教育科目	音楽療法概説A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2000MA
	音楽療法演習A	MUS	演習(技術)	2	1	通年	MUS2200MA
	音楽療法概説B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4000MA
	音楽療法演習B	MUS	演習(技術)	2	2	通年	MUS4200MA
	音楽療法実習	MUS	実習(卒業試験など)	1	2	後集	MUS4500MA
	演奏現場論A	MUS	講義	2	1	前期	MUS1000MA
	演奏現場論B	MUS	講義	2	2	前期	MUS3000MA
	アウトリーチ研究A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2001MA
	アウトリーチ研究B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4001MA
	特別講義(音楽)	MUS	講義	1	1	集中	MUS2002MA
	特別演習C	MUS	演習(技術)	1	1	通年	MUS2201MA
	特別演習D	MUS	演習(技術)	1	2	通年	MUS4201MA
音楽理論	音楽理論【和声】V	MUS	講義	2	1	前期	MUS1010MA
	音楽理論【和声】VI	MUS	講義	2	1	後期	MUS2010MA
	日本音楽理論C	MUS	講義	2	2	後期	MUS4010MA
	楽曲分析(古典派)	MUS	講義	2	1	前期	MUS1011MA
	楽曲分析(ロマン派以降)	MUS	講義	2	1	後期	MUS2011MA
	楽曲分析【編曲】	MUS	講義	2	2	前期	MUS3010MA
	楽曲分析【創作】	MUS	講義	2	2	後期	MUS4011MA
コード論II	MUS	講義	2	1	前期	MUS4012MA	
音楽史	音楽史研究	MUS	講義	4	1	通年	MUS2020MA
	日本音楽史研究A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2021MA
	日本音楽史研究B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4020MA
ソルフェージュ	S. H. M. V	MUS	演習(理論)	1	1	前期	MUS1130MA
	S. H. M. VI	MUS	演習(理論)	1	1	後期	MUS2130MA
室内楽・アンサンブル科目	ピアノデュオ研究A	MUS	演習(技術)	4	1	通年	MUS2240MA
	ピアノデュオ研究B	MUS	演習(技術)	4	2	通年	MUS4240MA
	管楽アンサンブル研究A	MUS	演習(技術)	4	1	通年	MUS2241MA
	管楽アンサンブル研究B	MUS	演習(技術)	4	2	通年	MUS4241MA
	室内楽研究A	MUS	演習(技術)	2	1	前期	MUS1240MA
	室内楽研究B	MUS	演習(技術)	2	1	後期	MUS2242MA
	室内楽研究C	MUS	演習(技術)	2	2	前期	MUS3240MA
	室内楽研究D	MUS	演習(技術)	2	2	後期	MUS4242MA
	歌曲研究A	MUS	演習(技術)	4	1	通年	MUS2243MA
	歌曲研究B	MUS	演習(技術)	4	2	通年	MUS4243MA
	室内楽特設クラスA	MUS	演習(技術)	1	1	前集	MUS1241MA
	室内楽特設クラスB	MUS	演習(技術)	1	1	後集	MUS2244MA

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
室内楽・ アンサンブル科目	室内楽特設クラスC	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3241MA
	室内楽特設クラスD	MUS	演習（技術）	1	2	後集	MUS4244MA
	オペラ実習A【演奏】	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	前期	MUS1540MA
	オペラ実習A【演技】	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	前期	MUS1541MA
	オペラ実習A【上演】	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	後期	MUS2540MA
	オペラ実習B【演奏】	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	前期	MUS3540MA
	オペラ実習B【演技】	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	前期	MUS3541MA
	オペラ実習B【上演】	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	後期	MUS4540MA
	邦楽アンサンブル研究A	MUS	演習（技術）	4	1	通年	MUS2245MA
	邦楽アンサンブル研究B	MUS	演習（技術）	4	2	通年	MUS4245MA
	オーケストラ・スタディC	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1242MA
	オーケストラ・スタディD	MUS	演習（技術）	1	2	前期	MUS3242MA
	合奏C	MUS	演習（技術）	2	1	後集	MUS2246MA
	合奏D	MUS	演習（技術）	2	2	後集	MUS4246MA
	ギター・アンサンブルC	MUS	演習（技術）	2	1	通年	MUS2247MA
	ギター・アンサンブルD	MUS	演習（技術）	2	2	通年	MUS4247MA
	伴奏C	MUS	演習（技術）	1	1	前集・後集	MUS2248MA
	伴奏D	MUS	演習（技術）	1	2	前集・後集	MUS4248MA
	伴奏研究A	MUS	演習（技術）	1	1	前集	MUS1243MA
	伴奏研究B	MUS	演習（技術）	1	1	後集	MUS2249MA
	伴奏研究C	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3243MA
	伴奏研究D	MUS	演習（技術）	1	2	後集	MUS4249MA
	海外特別演習C	MUS	演習（技術）	2	1	前集	MUS1244MA
海外特別演習D	MUS	演習（技術）	2	2	前集	MUS3244MA	
実技科目	学内演奏Ⅰ	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	通年	MUS2550MA
	学内演奏Ⅱ	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	通年	MUS4550MA
	コラボレイト実習C	MUS	実習（卒業試験など）	1	1	前集・後集	MUS2551MA
	コラボレイト実習D	MUS	実習（卒業試験など）	1	2	前集・後集	MUS4551MA
	第一実技Ⅲ	MUS	実技（主科）	6	1	通年	MUS2450MA
	第一実技Ⅳ	MUS	実技（主科）	6	2	通年	MUS4450MA
	第二実技Ⅲ	MUS	実技（副科、第二実技）	4	1	通年	MUS2350MA
	第二実技Ⅳ	MUS	実技（副科、第二実技）	4	2	通年	MUS4350MA
	副科実技Ⅲ	MUS	実技（副科、第二実技）	2	1	通年	MUS2351MA
	副科実技Ⅳ	MUS	実技（副科、第二実技）	2	2	通年	MUS4351MA
第一実技修了試験	MUS	実習（卒業試験など）	4	2	通年	MUS4552MA	

## 2020年度 科目ナンバリング [芸術科/演劇専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
基礎実技科目	基礎演劇演習A	THE	演習 (演技)	2	1	前期	THE1230T
	基礎演劇演習B	THE	演習 (演技)	2	1	前期	THE1231T
	身体トレーニング	THE	実技 (GL)	1	1	前期	THE1330T
	ボイス・トレーニング (歌唱)	VOM	実技 (GL)	1	1	前期	VOM1310T
演技科目	演劇演習A	THE	演習 (演技)	2	1	後期	THE2230T
	演劇演習B	THE	演習 (演技)	2	1	後期	THE2231T
	演劇演習C	THE	演習 (演技)	2	2	前期	THE3230T
	演劇演習D	THE	演習 (演技)	2	2	後期	THE4230T
ストレートプレイ 実技科目	演技演習A (ダイアログ)	THE	演習 (演技)	2	2	前期	THE3231T
	演技演習B (アンサンブル)	THE	演習 (演技)	2	2	後期	THE4231T
ミュージカル 実技科目	ショーダンス I	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3310T
	ショーダンス II	DNC	実技 (GL)	1	2	後期	DNC4310T
	ミュージカルトレーニングB	VOM	実技 (GL)	1	2	前期	VOM3310T
	ミュージカル演習	THE	演習 (演技)	1	2	後期	THE4232T
実技科目	演劇特別演習 I	THE	演習 (演技)	1	1	後期	THE2232T
	演劇特別演習 II	THE	演習 (演技)	1	2	前期	THE3232T
	マイム	THE	実技 (GL)	1	1	前期	THE1331T
	アクション	THE	実技 (GL)	1	1	後期	THE2330T
	狂言 I	THE	実技 (GL)	1	1	後期	THE2331T
	狂言 II	THE	実技 (GL)	1	2	前期	THE3330T
	日本舞踊 I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2330T
	日本舞踊 II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3330T
	バレエ・ムーヴメント	DNC	実技 (GL)	1	1	前期	DNC1300T
	クラシックバレエ I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2300T
	クラシックバレエ II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3300T
	クラシック唱法 I	VOM	実技 (GL)	1	1	後期	VOM2310T
	クラシック唱法 II	VOM	実技 (GL)	1	2	前期	VOM3311T
	ジャズダンス A	DNC	実技 (GL)	1	1	前期	DNC1310T
	ジャズダンス B	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2310T
	ジャズダンス C	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3311T
	タップダンス I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2320T
	タップダンス II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3320T
	ミュージカルトレーニングA	VOM	実技 (GL)	1	1	後期	VOM2311T
	アフレコ実技 I	THE	実技 (GL)	1	2	前期	THE3331T
	アフレコ実技 II	THE	実技 (GL)	1	2	後期	THE4330T
	ドラマリーディングA	THE	実技 (GL)	1	1	前期	THE1332T
	ドラマリーディングB	THE	実技 (GL)	1	1	後期	THE2332T
	歌唱 (個人レッスン) A	VOM	実技 (PL)	2	1	前期	VOM1410T
	歌唱 (個人レッスン) B	VOM	実技 (PL)	2	1	後期	VOM2410T
	歌唱 (個人レッスン) C	VOM	実技 (PL)	2	2	前期	VOM3410T
	歌唱 (個人レッスン) D	VOM	実技 (PL)	2	2	後期	VOM4410T
	歌唱 (個人レッスン) E	VOM	実技 (PL)	1	1	前期	VOM1411T
	歌唱 (個人レッスン) F	VOM	実技 (PL)	1	1	後期	VOM2411T
	歌唱 (個人レッスン) G	VOM	実技 (PL)	1	2	前期	VOM3411T
	歌唱 (個人レッスン) H	VOM	実技 (PL)	1	2	後期	VOM4411T

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
理論科目	舞台芸術概論	THE	講義	2	1	前期	THE1000T
	日本演劇史A（古典）	THE	講義	2	1	前期	THE1001T
	日本演劇史B（近現代）	THE	講義	2	1	後期	THE2000T
	西洋演劇史A（古典）	THE	講義	2	1	前期	THE1002T
	西洋演劇史B（近現代）	THE	講義	2	1	後期	THE2001T
	ミュージカル概論	THE	講義	2	1	前期	THE1003T
	ミュージカル論	THE	講義	2	1	後期	THE2002T
	戯曲講読演習A（古典）	THE	演習（理論）	1	1・2	前期	THE1110T
	戯曲講読演習B（近現代）	THE	演習（理論）	1	1・2	後期	THE2110T
	演劇批評論	THE	講義	2	2	前期	THE3060T
	演劇文化論A	THE	講義	2	1・2	前期	THE1004T
	演劇文化論B	THE	講義	2	1・2	後期	THE2003T
	ソルフェージュ基礎	VOM	演習（理論）	2	1	後期	VOM2100T
	ソルフェージュ	VOM	実技（GL）	2	2	前期	VOM3300T
	パフォーミングアーツ論	THE	講義	2	2	後期	THE4060T
	演劇論	THE	講義	2	1・2	後期	THE2004T
	演出論	THE	講義	2	1・2	後集	THE2020T
	劇作法	THE	講義	1	1・2	後期	THE2010T
実習科目	集中講義（舞台照明実習）①	THE	実習（Staff）	1	1	前集	THE1540T
	集中講義（舞台照明実習）②	THE	実習（Staff）	1	1	前集	THE1541T
	集中講義（舞台音響実習）①	THE	実習（Staff）	1	1	前集	THE1542T
	集中講義（舞台音響実習）②	THE	実習（Staff）	1	1	前集	THE1543T
	集中講義（ヘアメイク実習）	THE	実習（Staff）	1	1	前集	THE1544T
	集中講義（舞台監督実習）	THE	実習（Staff）	1	1	前集	THE1545T
	ワークショップ(ストレートプレイ)1年次	THE	実習（WS）	1	1	後集	THE2630T
	ワークショップ(ストレートプレイ)2年次	THE	実習（WS）	1	2	前集	THE3630T
	ワークショップ(ミュージカル)1年次	THE	実習（WS）	1	1	後集	THE2631T
	ワークショップ(ミュージカル)2年次	THE	実習（WS）	1	2	前集	THE3631T
	演劇研修（八ヶ岳合宿）	THE	実習（WS）	1	1	前集	THE1600T
	海外研修 1年次	THE	実習（WS）	1	1	後集	THE2600T
	海外研修 2年次	THE	実習（WS）	1	2	後集	THE4600T
	劇上演実習A（試演会）	THE	実習（上演）	4	2	後集	THE4700T
	劇上演実習B（卒業公演）	THE	実習（上演）	4	2	後集	THE4701T
	劇上演実習C（学外出演）	THE	実習（上演）	4	1・2	集中	THE2700T
	劇上演実習D（学外出演）	THE	実習（上演）	4	1・2	集中	THE2701T
	劇上演実習E（学内出演）	THE	実習（上演）	1	1・2	集中	THE2702T
劇上演実習F（学内出演）	THE	実習（上演）	1	1・2	集中	THE2703T	

2020年度 科目ナンバリング [専攻科/演劇専攻]

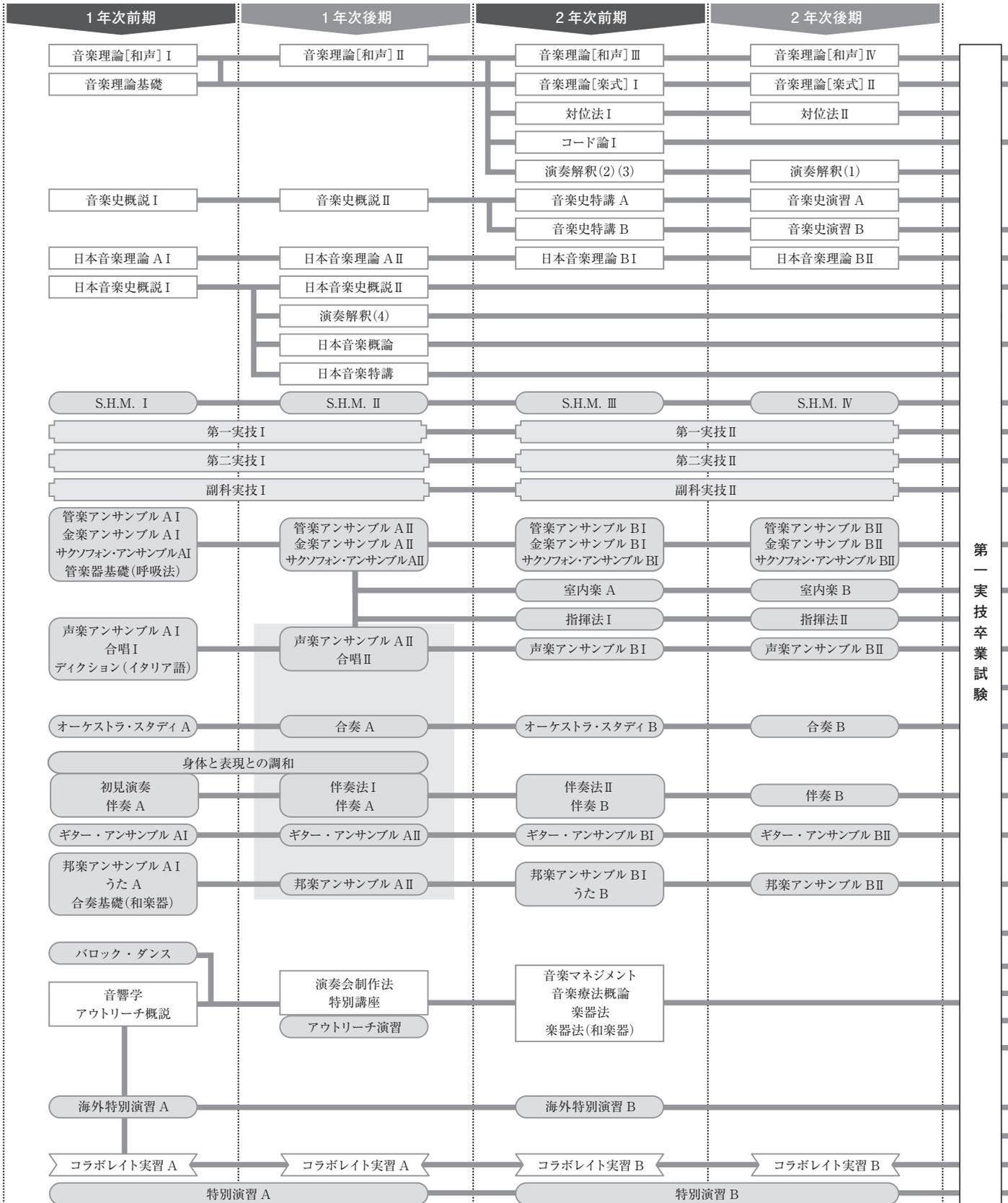
科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
理論科目	特別講義A	THE	講義	2	1	通年	THE2000TA
	特別講義B	THE	講義	2	2	通年	THE4000TA
	演劇学研究A (日本演劇論) (1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1000TA
	演劇学研究A (日本演劇論) (2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2001TA
	演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1001TA
	演劇学研究B (西洋演劇論) (2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2002TA
	演劇学研究C (現代演劇論)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1002TA
劇作・演出科目	劇作研究A (劇作論)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1010TA
	劇作研究B (劇作演習)	THE	演習 (理論)	1	1・2	後期	THE3110TA
	演出研究	THE	講義	2	1・2	後期	THE2020TA
演劇教育・ マネジメント 科目	演劇教育論	THE	演習 (理論)	2	1・2	後期	THE2100TA
	アーツマネジメント研究	THE	演習 (理論)	2	1・2	前期	THE1150TA
	アウトリーチ研究	THE	演習 (理論)	2	1・2	後期	THE2150TA
演技科目	演技研究A (日本演劇) (1)	THE	演習 (演技)	2	1	通年	THE2230TA
	演技研究A (日本演劇) (2)	THE	演習 (演技)	2	2	通年	THE4230TA
	演技研究B (外国演劇) (1)	THE	演習 (演技)	2	1	通年	THE2231TA
	演技研究B (外国演劇) (2)	THE	演習 (演技)	2	2	通年	THE4231TA
	演技研究C (実験劇) (1)	THE	演習 (演技)	2	1	通年	THE2232TA
	演技研究C (実験劇) (2)	THE	演習 (演技)	2	2	通年	THE4232TA
	演技研究D (フィジカルシアター) (1)	THE	演習 (演技)	1	1	後期	THE2233TA
	演技研究D (フィジカルシアター) (2)	THE	演習 (演技)	1	2	後期	THE4233TA
	演技研究E (ミュージカル) (1)	THE	演習 (演技)	1	1	前期	THE1230TA
	演技研究E (ミュージカル) (2)	THE	演習 (演技)	1	2	前期	THE3230TA
	演劇特別研究	THE	演習 (演技)	2	1・2	通年	THE2234TA
	ワークショップA 1年次	THE	実習 (WS)	1	1	前集	THE1630TA
	ワークショップB 2年次	THE	実習 (WS)	1	2	前集	THE3630TA
	ワークショップC 1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2630TA
	ワークショップD 2年次	THE	実習 (WS)	1	2	後集	THE4630TA
	海外研修 1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2600TA
海外研修 2年次	THE	実習 (WS)	1	2	後集	THE4600TA	
実技科目	舞踊A (クラシックバレエ)	DNC	実技 (GL)	2	1・2	通年	DNC2300TA
	舞踊B (コンテンポラリー)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	前期	DNC1340TA
	舞踊C (日舞)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	後期	DNC2330TA
	ミュージカル唱法	VOM	実技 (GL)	2	1・2	通年	VOM2310TA
	英語劇	FLS	演習 (理論)	2	1・2	通年	FLS2100TA
	歌唱 (個人レッスン) I	VOM	実技 (PL)	2	1	前期	VOM1410TA
	歌唱 (個人レッスン) J	VOM	実技 (PL)	2	1	後期	VOM2410TA
	歌唱 (個人レッスン) K	VOM	実技 (PL)	2	2	前期	VOM3410TA
	歌唱 (個人レッスン) L	VOM	実技 (PL)	2	2	後期	VOM4410TA
	歌唱 (個人レッスン) M	VOM	実技 (PL)	1	1	前期	VOM1411TA
	歌唱 (個人レッスン) N	VOM	実技 (PL)	1	1	後期	VOM2411TA
	歌唱 (個人レッスン) O	VOM	実技 (PL)	1	2	前期	VOM3411TA
	歌唱 (個人レッスン) P	VOM	実技 (PL)	1	2	後期	VOM4411TA

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
劇上演実習	劇上演実習A 1年次	THE	実習 (上演)	4	1	前集	THE1700TA
	劇上演実習A 2年次	THE	実習 (上演)	4	2	前集	THE3700TA
	劇上演実習B 1年次	THE	実習 (上演)	4	1	後集	THE2700TA
	劇上演実習B 2年次	THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4700TA
	劇上演実習C (専1最終公演)	THE	実習 (上演)	4	1	後集	THE2701TA
	劇上演実習D (専2修了公演)	THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4701TA
	劇上演実習E (学外出演)	THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2702TA
	劇上演実習F (学外出演)	THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2703TA
	劇上演実習G (学内出演)	THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2704TA
修了論文	修了論文	THE	講義	4	1・2	通年	THE4001TA

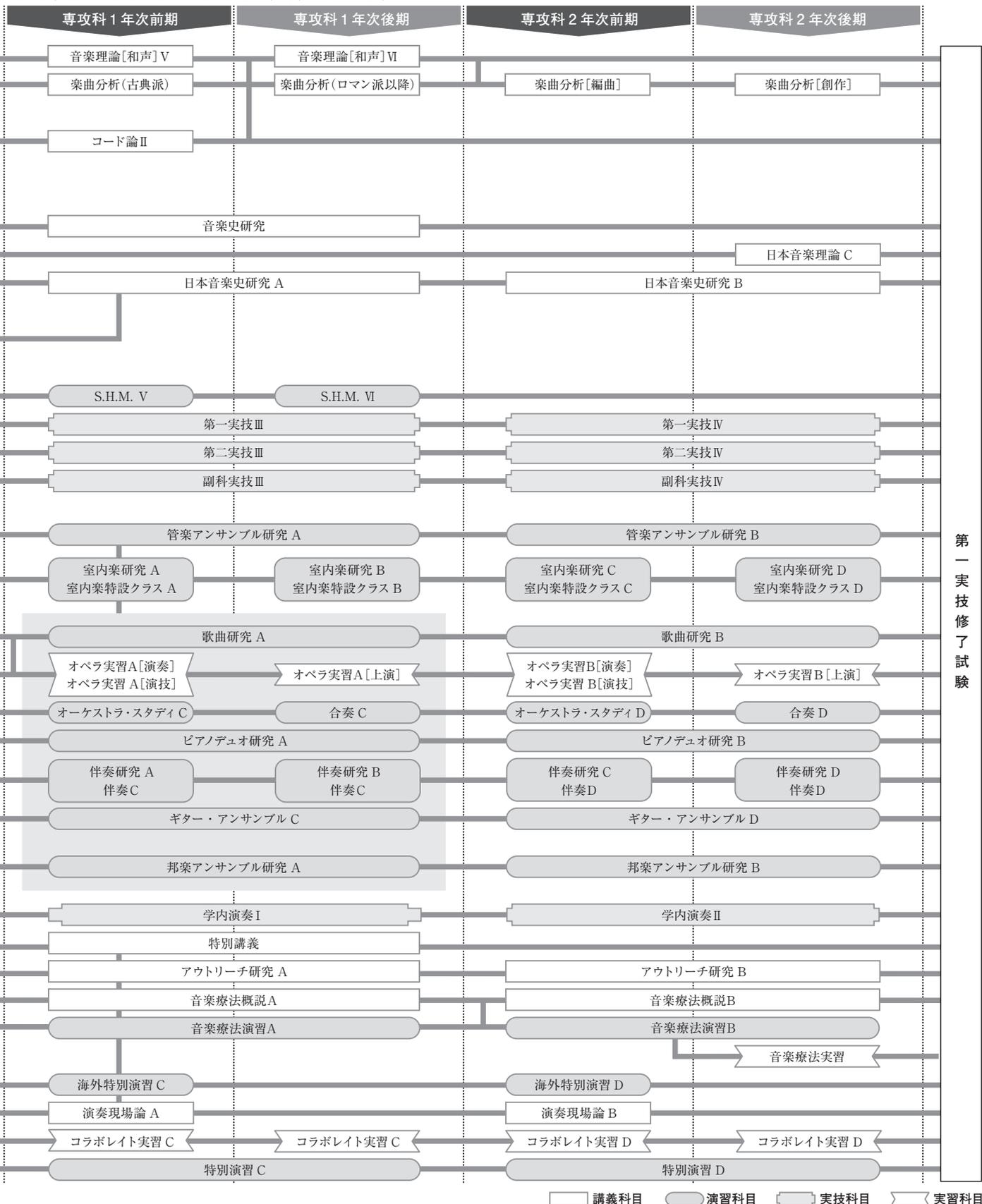
## 2020年度 カリキュラムツリー

カリキュラムツリーは、2年間の学習の系統性と順次性を図に示したものである。各科目がカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのかを確認し、学習の一助とすること。

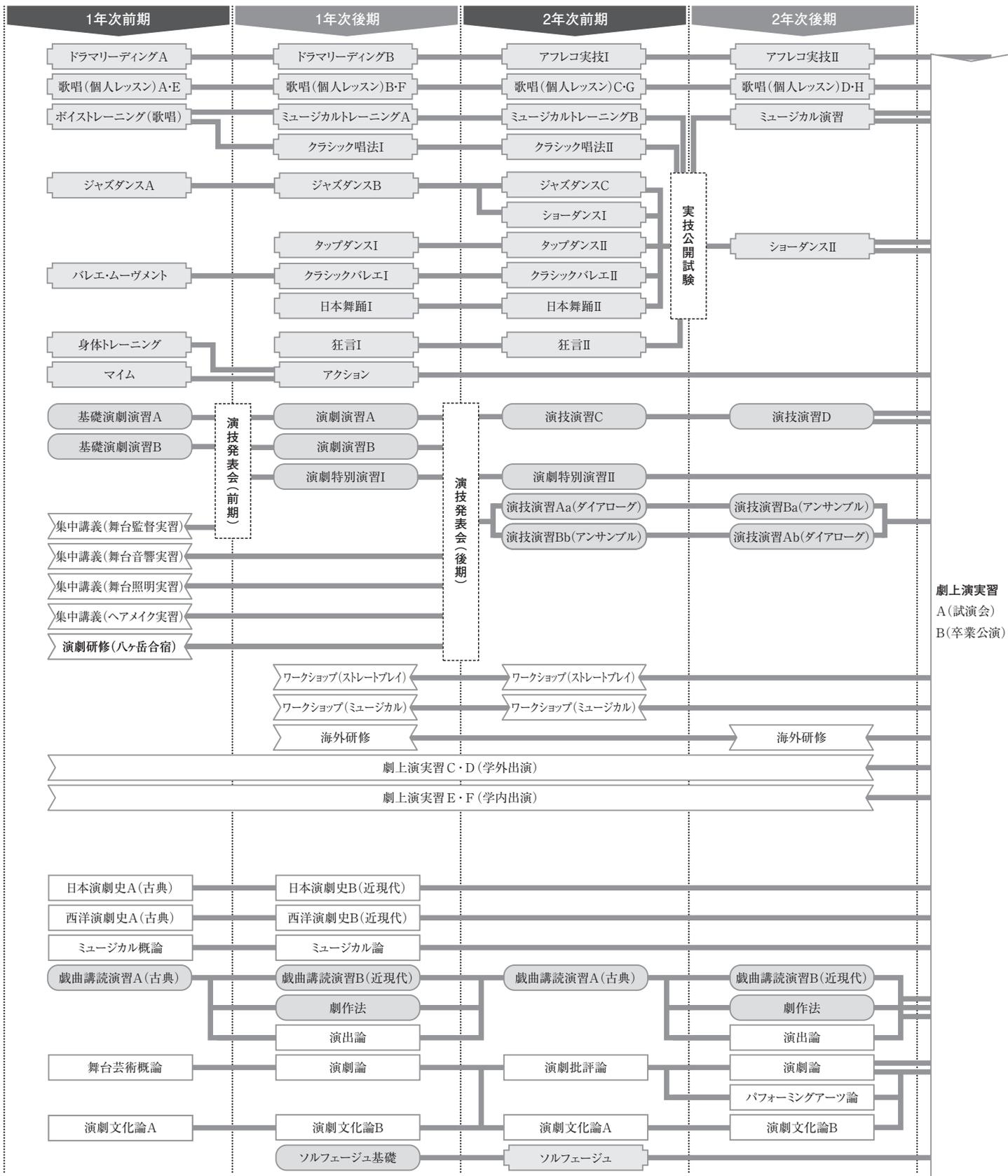
### 2020年度 カリキュラムツリー [芸術科/音楽専攻]



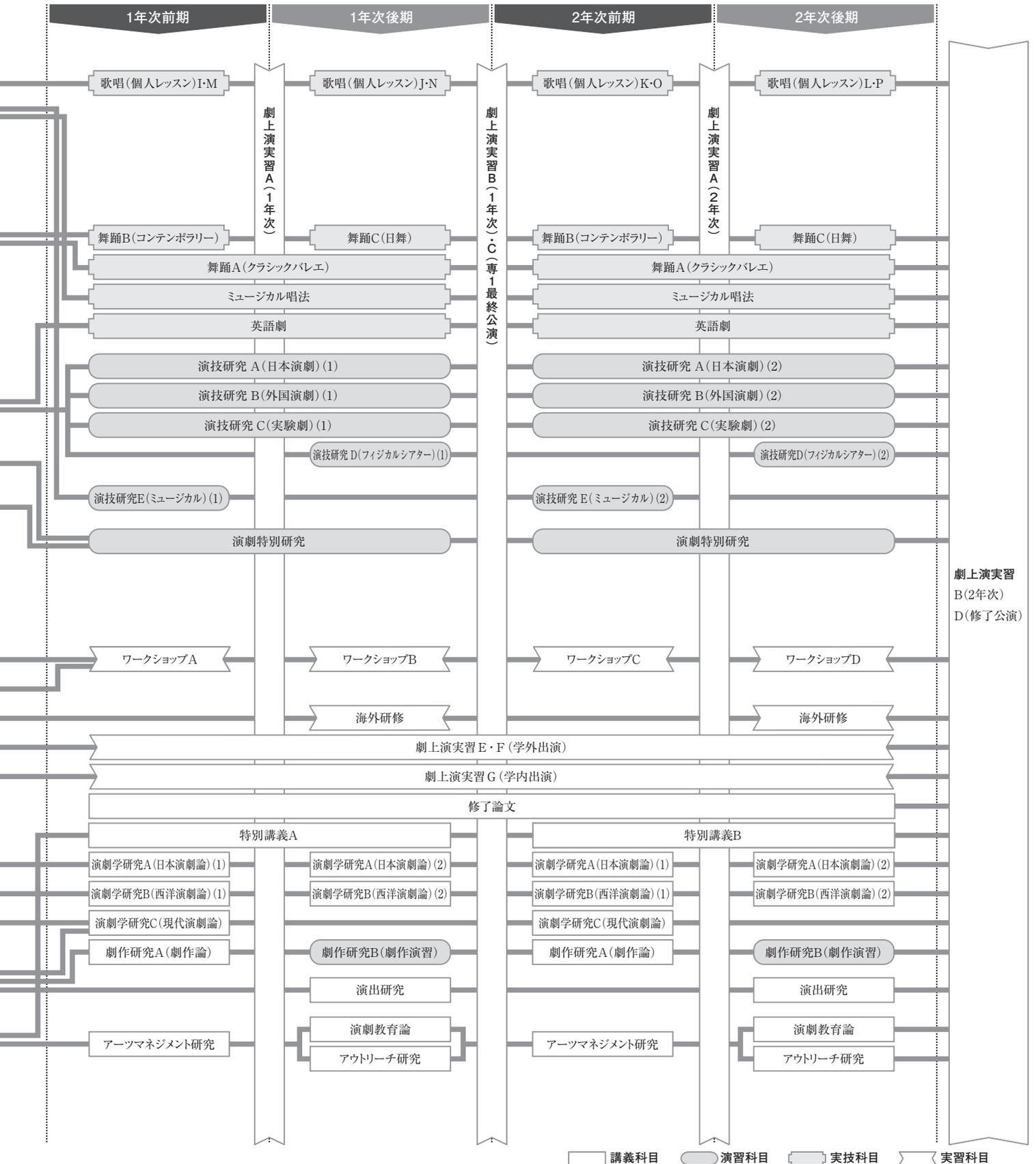
2020年度 カリキュラムツリー [専攻科/音楽専攻]



2020年度 カリキュラムツリー [芸術科/演劇専攻]



2020年度 カリキュラムツリー [専攻科/演劇専攻]



2019 年度入学生用 別表…1

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：1. 教養科目

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				キャップ制 対象外	概要 ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
キャリア教育	情報リテラシー論	竹内 聖	前期		2				129
	情報処理論	岡本 直久	前期		2				129
	音楽環境論	久保田 慶一	前集		2			□	130
	社会福祉学	藤森 雄介	前期		2				130
	表現コミュニケーション論	中山 夏織	後期		2				131
	アーツマネジメント論	中山 夏織	前期		2				131
一般教養	応用演劇論	大谷賢治郎	前期		2				132
	メディア論	高橋 宏幸	後期		2				132
	現代思想論	高橋 宏幸	前期		2				133
	日本国憲法	西山 智之	後期		2				133
	文化政策論A	中山 夏織	前期		2				134
	文化政策論B	中山 夏織	後期		2				134
	青少年教育論	大谷賢治郎	前期		2				135
	文学(古典)	野間 哲	前期		2				135
	文学(近世)	野間 哲	後期		2				136
	日本語論	野間 哲	前期		2				136
	日本語表現論	野間 哲	前期		2				137
	映画論	行定 勲	後集		2			□	137
語学	英語A I	J.ファーナー	前期	1					138
	英語A II	J.ファーナー	後期		1				138
	英語B I	田村奈穂子	前期			1			139
	英語B II	田村奈穂子	後期				1		139
	演劇英語 ①②	J.サザーランド	前期	1					140
	ドイツ語 I	D.グロス	前期	1					140
	ドイツ語 II	D.グロス	後期		1				141
	ドイツ語 III	D.グロス	前期			1			141
	ドイツ語 IV	D.グロス	後期				1		142
	イタリア語 I	M.ズバラグリ	前期	1					142
	イタリア語 II	M.ズバラグリ	後期		1				143
	イタリア語 III	M.ズバラグリ	前期			1			143
	イタリア語 IV	M.ズバラグリ	後期				1		144
	フランス語 I	佐藤ローラ	前期	1					144
	フランス語 II	佐藤ローラ	後期		1				145

注：語学は、Iの修得なしにIIの履修はできない。

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：2. 芸術科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス対象外	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
教養科目	情報処理論	岡本 直久	前期	2				※教職受講者必修	修得単位は自由選択単位として卒業要件に含まることができる (必修科目の修得単位は専攻科目単位として卒業要件に含まれない)			129
	日本国憲法	西山 智之	後期		2			※教職受講者必修				133
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2				※教職受講者必修				130
	英語AⅠ・Ⅱ	J. ファーナー	前・後	1	1			●外国語(英・仏・独・伊) 1科目選択必修 ※音楽専修はイタリア語を含む2外国語必修 ※同じ語学の「Ⅰ・Ⅱ」「Ⅲ・Ⅳ」をもって、1科目とみなす				138
	英語BⅠ・Ⅱ	田村奈穂子	前・後			1	1					139
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	D. グロス	前・後	1	1							140・141
	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ	D. グロス	前・後			1	1					141・142
	イタリア語Ⅰ・Ⅱ	M. スバラグリ	前・後	1	1						142・143	
イタリア語Ⅲ・Ⅳ	M. スバラグリ	前・後			1	1			143・144			
フランス語Ⅰ・Ⅱ	佐藤ローラ	前・後	1	1					144・145			
専攻教養科目	音楽基礎演習 ーバロック・ダンス	a b	浜中 康子	前期	1			●全専修必修				147
	音楽理論基礎	a b	福田 恵子 長谷川郁子	前期	1							147 147
演劇専攻科目	演劇専攻【実技科目(共通)】より、他専攻履修可能な科目 ※ただし、「ドラマリーディングA・B」「アフレコ実技Ⅰ・Ⅱ」「ミュージカルトレーニングA」を除く							●全専修必修(いずれか1単位) ※日本音楽専修は狂言以外を選択すること ●日本音楽専修は「狂言Ⅰ」「狂言Ⅱ」必修				
専攻科目：1年次	音楽理論[和声]Ⅰ	a b	平井 正志 池田 哲美	前期	2			PVWSG必修				148 148
	音楽理論[和声]Ⅱ	a b	平井 正志 池田 哲美	後期		2		PVWSG必修				148 148
	音楽史概説Ⅰ・Ⅱ		池原 舞	前・後	2	2		PVWSG必修	○			149
	日本音楽理論AⅠ・Ⅱ		森重 行敏	前・後	2	2		J必修	○			149
	日本音楽史概説Ⅰ・Ⅱ		野川美穂子	前・後	2	2		J必修	○			150
	日本音楽特講		柁屋 巴織	後期		2		※教職受講者(除く)必修(教職受講者のみ履修可)	△			150
	演奏会制作法		伊藤 直樹	後期		1						151
	アウトリーチ概説		永井 由比	前期	2							151
	アウトリーチ演習		永井 由比	後期		1						152
	音響学		岩崎 真	前期	2				○			152
	ディクシオン(イタリア語)		井上 由紀	前期	1			V必修				153
	S. H. M. Ⅰ・Ⅱ	① ② ③ ④ ⑤	塩崎 美幸 池田 哲美 加藤 千春 三瀬 俊吾 長谷川郁子	前・後	1	1		●全専修必修				153
	合唱Ⅰ・Ⅱ		樋本 英一	前・後	1	1		女子のみ(J除く)必修				154
	オーケストラ・スタディア		志村 寿一	前期	1			S必修				154
	合奏A		志村 寿一	後集		2		S必修		□		155
	管楽器基礎(呼吸法)		三塚 至	前期	1			W必修				155
	声楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ		松井 康司	前・後	1	1		男子のみ(J除く)必修				156
	管楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ	a b	永井 由比 津川美佐子	前・後 前・後	1 1	1 1		W(FIのみ)必修 W(FI, Tr, Tb, Tub, Sx除く)必修				156 157
	金管アンサンブルAⅠ・Ⅱ		神谷 敏	前・後	1	1		W(Tr, Tb, Tubのみ)必修				157
	サクソフォン・アンサンブルAⅠ・Ⅱ		彦坂真一郎	前・後	1	1		W(Sxのみ)必修				
	ギター・アンサンブルAⅠ・Ⅱ		佐藤 紀雄	前・後	1	1		G必修				158
	うたA		今藤美知央	前期	1			J必修		△		158
	邦楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ		滝田美智子	前・後	1	1		J必修				159
	伴奏法Ⅰ		揚原さとみ	後期		1		※教職受講者(J除く)必修				159
	初見演奏(基礎)		吉田 真穂	前期	1			P必修				160
	身体と表現との調和		志村 寿一	集中		2				□		160
	第一実技Ⅰ			通年		4		●全専修必修			□	161
	第二実技Ⅰ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲)			通年		4			○	□		161
	副科実技Ⅰ(ピアノ)			通年	2			●全専修必修	WWSGJ	○	□	161
	副科実技Ⅰ(声楽)		PGJ						○	□	161	
	副科実技Ⅰ(管・弦・ギター・日本音楽)		GJ						○	□	161	
	伴奏A	(1) (2)	荻野 千里	前集 後集	1 1					□		162 162
海外特別演習A		東井 美佳	前集	2					□		162	
特別演習A		志村 寿一 長谷川郁子	通年		1		●全専修必修			□	163	
特別講座		植松 伸夫	後集		1		●全専修必修	○	□		163	
コラボレート実習A	(1) (2)	松井 康司	前集 後集	1 1					□		164	

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス対象外	概要ページ
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期					
専攻科目・2年次	音楽理論〔和声〕Ⅲ	a 平井 正志 b 池田 哲美	前期			2		PVWSG必修			164 165	
	音楽理論〔和声〕Ⅳ	a 平井 正志 b 池田 哲美	後期				2	PVWSG必修			164 165	
	対位法Ⅰ・Ⅱ	池田 哲美	前・後			2	2				165	
	コード論Ⅰ	小林 真人	前期			2			◎		166	
	楽器法	大澤 健一	前集			2			◎	□	166	
	音楽マネジメント	児玉 真	前期			2					167	
	日本音楽理論BⅠ・Ⅱ	森重 行敏	前・後			2	2	J必修	◎		149	
	音楽史特講A	池原 舞	前期			2			◎		167	
	音楽史特講B	大津 聡	前期			2			◎		168	
	音楽史演習A	池原 舞	後期				1		◎		168	
	音楽史演習B	大津 聡	後期				1		◎		169	
	音楽療法概論	鈴木千恵子	前期			2			◎		169	
	演奏解釈(1)ピアノ楽曲	荻野 千里	後期				2	P必修			170	
	演奏解釈(2)声楽曲	相田 麻純	前期			2		V必修	◎		170	
	演奏解釈(3)室内楽曲	寺岡有希子	前期			2		S必修			171	
	音楽理論〔楽式〕Ⅰ・Ⅱ	① 穴戸 里佳 ② 池原 舞	前・後			2	2	PVWSG必修	◎		171 172	
	S. H. M. Ⅲ・Ⅳ	① 塩崎 美幸 ② 大家 百子 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾 ⑤ 長谷川 郁子	前・後			1	1	●全専修必修			172	
	オーケストラ・スタディB	志村 寿一	前期			1		S必修			154	
	合奏B	志村 寿一	後集				2	S必修		□	155	
	声楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	松井 康司	前・後			1	1	男子(J除く)・女子(Vのみ)必修			156	
	管楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	津川美佐子	前・後			1	1	W(Tr、Tb、Tub、Sx除く)必修			157	
	金管アンサンブルBⅠ・Ⅱ	神谷 敏	前・後			1	1	W(Tr、Tb、Tuのみ)必修			157	
	指揮法Ⅰ・Ⅱ	福永 一博	前・後			1	1	※教職受講者必修			173	
	室内楽A	a 荻野 千里 b 野口千代光 北本 秀樹	前期			1					173 174	
	室内楽B	a 阪本奈津子 b 藜沼恵美子 c 白尾 隆 d 菊池 奏絵	後期				1				174 175 175 176	
	サクソフォン・アンサンブルBⅠ・Ⅱ	彦坂真一郎	前・後			1	1	W(Sxのみ)必修				
	ギター・アンサンブルBⅠ・Ⅱ	佐藤 紀雄	前・後			1	1	G必修			158	
	うたB	今藤美知央	前期			1		J必修	△		158	
	邦楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	滝田美智子	前・後			1	1	J必修			159	
	伴奏法Ⅱ	揚原さとみ	前期			1		※教職受講者(J除く)必修			176	
	第一実技Ⅱ		通年				4	●全専修必修		□	161	
	第二実技Ⅱ (ピアノ・チェンバロ・声楽・管・弦・ギター・ 日本音楽・作曲)		通年				4		◎	□	161	
	副科実技Ⅱ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽)		通年				2		◎	□	161	
	第一実技卒業試験		通年				4	●全専修必修		□		
	伴奏B	(1) 荻野 千里 (2)	前集 後集			1	1			□	162	
	海外特別演習B	東井 美佳	前集			2				□	162	
特別演習B	志村 寿一	通年				1	●全専修必修		□	163		
コラボレイト実習B	(1) 松井 康司 (2)	前集 後集			1	1			□	164		

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得

●下記の科目については隔年開講とする。

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	開講年度	他専攻	キャリア教育対象	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
専攻科目	日本音楽概論	森重 行敏	後期				2	J必修 ※教職受講者必修	2020	○		177
	合奏基礎(和楽器)	花岡 操聖	前期			1		J必修	2020			177
	楽器法(和楽器)	滝田美智子	前期	2				J必修	2019			
	演奏解釈(4)日本音楽	たかの舞俐	後期				2	J必修	2020			178

【備考】

- ① P：ピアノ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修  
 ② 「他専攻の履修」欄は、○は他専攻の学生（1・2年次とも。専攻科生含む）が履修可能な科目。  
 ただし、◎は芸術科2年生以上、△は専攻科演劇専攻でない履修できない。

<2019年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位  
 GPA 1.0以上

【内訳】

- ① 専攻科目単位数 48単位  
 （教養科目・専攻教養科目・他専攻科目より各専攻の必修単位数を含む）  
 ② 自由選択単位数 14単位  
 ※専修別による必修単位数は、「注⑨専攻科目必修単位数」を参照のこと

注

- ① Iの修得なしにIIの履修はできない。  
 ② 第一実技は、専修別による必修（1年次・2年次各50分）  
 ③ 第二実技は、選択（40分）。第一実技に準じた専門レベル。履修料別途徴収。  
 ④ 副科実技は、I必修、II選択（20分）  
 Iは、ピアノ専修者は声楽、声楽・管楽器・弦楽器専修者はピアノを必修とする。  
 副科実技を第二実技として履修する場合は100,000円、第二実技と副科実技の両方を履修する場合は200,000円を別途徴収。  
 ⑤ 「日本音楽特講」は教職に関する科目の受講手続きを経た学生のみ履修可。  
 ただし、教職課程受講生の人数が少ない等の事情によっては、その他の学生の受講を認める場合がある。  
 ⑥ 選択科目「伴奏」について  
 前期、後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表（実技試験・学内演奏会・卒業演奏会）をもって各々単位認定を行う。  
 「伴奏受講票」を使用のこと。  
 ⑦ 選択科目「コラボレート実習」について  
 専攻主任からの依頼により、他専攻の試演会、卒業公演等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。  
 「コラボレート実習受講票」を使用のこと。  
 ⑧ 学内外の演奏会及び試験について、提出曲目及び曲数と異なる場合は失格とすることがある。  
 ⑨ 専攻科目必修単位（※教養科目・専攻教養科目・他専攻科目内の必修単位含む）

	1年次		2年次		合計	
	男	女	男	女	男	女
ピアノ専修	25	25	23	21	48	46
声楽専修	27	27	23	23	50	50
管楽器専修	27	27	23	21	50	48
弦楽器専修	27	27	26	24	53	51
ギター専修	26	26	23	21	49	47
日本音楽専修	28	28	24	24	52	52

ただし、日本音楽専修者の専攻科目必修単位数は、下記科目群の単位数を含む。

科目区分	授業科目	担当氏名	期間	単位数
演劇専攻科目	狂言Ⅰ	善竹富太郎	後期	1
	狂言Ⅱ	善竹富太郎	前期	1

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：3. 芸術科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス対象外	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
基礎実技科目	基礎演劇演習A	a	越光 照文	前期	2				a組必修	6		179
		b	三浦 剛	前期	2				b組必修			179
		c	P. ゲスナー	前期	2				c組必修			180
		d	大塚 幸太	前期	2				d組必修			180
	基礎演劇演習B	a	P. ゲスナー	前期	2				a組必修			181
		b	大塚 幸太	前期	2				b組必修			181
		c	越光 照文	前期	2				c組必修			182
		d	三浦 剛	前期	2				d組必修			182
	身体トレーニング	a	山本光二郎	前期	1				a組必修			183
		b	山本光二郎	前期	1				b組必修			
		c	山本光二郎	前期	1				c組必修			
		d	山本光二郎	前期	1				d組必修			
	ボイス・トレーニング(歌唱)	a	信太 美奈	前期	1				a組必修			183
		b	信太 美奈	前期	1				b組必修			
		c	信太 美奈	前期	1				c組必修			
		d	信太 美奈	前期	1				d組必修			
実技系科目	演劇演習A	a	三浦 剛	後期		2			a組必修	8		184
		b	越光 照文	後期		2			b組必修			184
		c	大塚 幸太	後期		2			c組必修			185
		d	P. ゲスナー	後期		2			d組必修			185
	演劇演習B	a	大塚 幸太	後期		2			a組必修			186
		b	P. ゲスナー	後期		2			b組必修			186
		c	三浦 剛	後期		2			c組必修			187
		d	越光 照文	後期		2			d組必修			187
	演劇演習C	a	P. ゲスナー	前期			2		a組必修			188
		b	宮崎 真子	前期			2		b組必修			188
		c	三浦 剛	前期			2		c組必修			189
		d	大塚 幸太	前期			2		d組必修			189
	演劇演習D	a	三浦 剛	後期				2	a組必修			190
		b	大塚 幸太	後期				2	b組必修			190
		c	P. ゲスナー	後期				2	c組必修			191
		d	宮崎 真子	後期				2	d組必修			191
ストレートプレイ	演技演習A(ダイアログ)	a	大谷賢治郎	前期			2	ストレートプレイコース必修	4		192	
		b	大谷賢治郎	後期			2					
演技演習B(アンサンブル)	a	シライケイタ	後期				2				192	
	b	シライケイタ	前期				2					
ミュージカル	ショーダンス I	①②	三村みどり	前期			1	ミュージカルコース必修	4		193	
	ショーダンス II	①②	三村みどり	後期			1				193	
	ミュージカルトレーニングB	①②	信太 美奈	前期			1				194	
	ミュージカル演習	①②	大塚 幸太	後期			1				194	

科目 区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業 要件	他 専攻	キャンパス 対象外	概要 ページ
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期					
実技系科目 実技科目(共通)	演劇特別演習Ⅰ ①②③	鴻上 尚史	後期		1							195
	演劇特別演習Ⅱ ①②③	鴻上 尚史	前期			1						195
	マイム ①②	江ノ上陽一	前期	1							○	196
	アクション ①②	藤田 けん	後期		1						○	196
	日本舞踊Ⅰ ①②	藤間 希穂	後期		1						○	197
	日本舞踊Ⅱ ①②	藤間 希穂	前期			1					○	197
	狂言Ⅰ ①②	善竹富太郎	後期		1						○	198
	狂言Ⅱ ①②	善竹富太郎	前期			1					○	198
	ドラマリーディングA	野間 哲	前期	1							○	199
	ドラマリーディングB	野間 哲	後期		1						○	199
	アフレコ実技Ⅰ	小金丸大和	前期			1					○	200
	アフレコ実技Ⅱ	小金丸大和	後期				1				○	200
	クラシック唱法Ⅰ ①②	松井 康司	後期		1							201
	クラシック唱法Ⅱ ①②	松井 康司	前期			1						201
	ミュージカルトレーニングA ①②	信太 美奈	後期		1			○	202			
	ジャズダンスA ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	前期	1				○	202 203			
	ジャズダンスB ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	後期		1		LAの補習にも参加する	○	203 204			
	ジャズダンスC ①②③④	渡辺美津子 畔柳小枝子	前期			1		○	204 205			
	バレエ・ムーヴメント ①②	中農 美保	前期	1				○	205			
	クラシックバレエⅠ ①②	中農 美保	後期		1			○	206			
	クラシックバレエⅡ ①②	中農 美保	前期			1		○	206			
	タップダンスⅠ ①②	中谷 諭紀 近藤 淳子	後期		1			○	207			
	タップダンスⅡ ①②	中谷 諭紀 近藤 淳子	前期			1		○	208			
	歌唱(個人レッスン) A	信太 美奈 他	前期	2				自由選択単位		□	209	
	歌唱(個人レッスン) B		後期		2							
	歌唱(個人レッスン) C		前期			2						
	歌唱(個人レッスン) D		後期				2					
	歌唱(個人レッスン) E		前期	1								
歌唱(個人レッスン) F	後期			1								
歌唱(個人レッスン) G	前期				1							
歌唱(個人レッスン) H	後期					1						

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア教育対象外	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
理論科目	舞台芸術概論	高橋 宏幸	前期	2				必修	○		209	
	日本演劇史A(古典)	安富 順	前期	2					○		210	
	日本演劇史B(近現代)	高橋 宏幸	後期		2				○		210	
	西洋演劇史A(古典)	安宅りさ子	前期	2					○		211	
	西洋演劇史B(近現代)	安宅りさ子	後期		2				○		211	
	ミュージカル概論	橋爪 貴明	前期	2					○		212	
	ミュージカル論	藤原麻優子	後期		2				○		212	
	ソルフェージュ基礎 ①②	永井 由比	後期		2						213	
	ソルフェージュ ①②	岩崎 廉	前期			2			ミュージカルコース必修			213
	演劇史特講	安宅りさ子	2020年度開講せず									
	演劇批評論	高橋 宏幸	前期			2						214
	パフォーマンスアート論	高橋 宏幸	後期				2					214
	演劇文化論A	中山 夏織	前期		2					○		215
	演劇文化論B	中山 夏織	後期		2					○		215
	演出論	川村 毅	後集		2					○	□	216
	演劇論	高橋 宏幸	後期		2					○		216
	戯曲講読演習A(古典)	安宅りさ子	前期		1					○		217
	戯曲講読演習B(近現代)	安宅りさ子	後期		1					○		217
	劇作法	瀬戸山美咲	後期		1					○		218
実習科目	集中講義(舞台照明実習)①	石島奈津子	前集	1				※照明部以外対象	○	□	218	
	集中講義(舞台照明実習)②	兼子 慎平	前集	1				※照明部対象		□	219	
	集中講義(舞台音響実習)①	佐藤こうじ	前集	1				※音響部以外対象	○	□	219	
	集中講義(舞台音響実習)②	宮崎 淳子	前集	1				※音響部対象		□	220	
	集中講義(舞台監督実習)	鈴木 健介	前集	1						□	220	
	集中講義(ヘアメイク実習)	鈴木 理絵	前集	1						□	221	
	ワークショップ(ストレートプレイ) 1年次	絹川 友梨	後集		1					□	221	
	ワークショップ(ミュージカル) 1年次	宮河愛一郎	後集		1					□	221	
	ワークショップ(ストレートプレイ) 2年次	井田 邦明	前集			1				□	222	
	ワークショップ(ミュージカル) 2年次	嶽本あゆ美	前集			1				□	222	
	演劇研修(八ヶ岳合宿)	三浦 剛	前集	1						□	222	
	海外研修	1年次	P.ゲスナー	後集		1					□	223
		2年次	高橋 宏幸	後集			1				□	223
	劇上演実習A(試演会) ストレートプレイ ミュージカル	未定	後集				4	4単位必修				223
		信太 美奈	後集				4					
	劇上演実習B(卒業公演) ストレートプレイ ミュージカル	大塚 幸太	後集				4					224
		大谷賢治郎	後集				4					225
	劇上演実習C(学外出演)	三浦 剛	集中		4					□	225	
劇上演実習D(学外出演)	三浦 剛	集中		4					□	225		
劇上演実習E(学内出演)	三浦 剛	集中		1					□	226		
劇上演実習F(学内出演)	三浦 剛	集中		1					□	226		

<2019年度入学生卒業要件>

最低修得単位数 62単位  
GPA 1.0以上

【内訳】

①専攻科目単位数 48単位  
1.実技系科目 26単位  
2.理論科目 12単位  
3.実習科目 10単位  
試演会または卒業公演 4単位必修  
②教養科目単位数 12単位  
外国語 2単位必修  
③自由選択単位数 2単位

注

- ① I の修得なしに II の履修はできない。  
② 基礎演劇演習 AB、身体トレーニング、ボイス・トレーニング(歌唱)、演劇演習 ABCD、舞台芸術概論、日本演劇史 AB、西洋演劇史 AB、ミュージカル概論、ミュージカル論は全コース必修  
③ 演技演習 AB はストレートプレイコース必修  
④ ショーダンス I II、ミュージカルトレーニング B、ミュージカル演習、ソルフェージュはミュージカルコース必修。  
⑤ 試演会または卒業公演は、4 単位必修。  
⑥ 同じ科目の複数のクラスを同時に受講することはできない。  
⑦ 歌唱(個人レッスン)の修得単位数は自由選択単位数に含む。  
レッスン時間は ABCD40分、EFGH20分。履修料別途徴収。  
⑧ 音楽専攻の科目は、自由選択単位数に含む。  
⑨ 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は教養科目単位数に含む。

○講義科目は半期2単位、実習・実技・演習科目は半期1単位、劇上演実習は4単位

## 【教育課程・卒業の要件】

## 卒業の要件

本学を卒業するには、教育課程をよく理解し、以下の条件を満たす最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない。卒業要件の詳細については、各専攻の別表及び注意事項を参照すること。

## 1. 芸術科 音楽専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
自由選択単位数	14単位
(専攻科目・専攻教養科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数には、各専攻の必修単位数を含む。
- ③ 専攻教養科目「音楽基礎演習—バロック・ダンス」必修。
- ④ 教養科目の「語学」より2単位1科目必修。同じ語学の「I・II」または「III・IV」をもって1科目とみなす。(ただし音楽専修はイタリア語を含む2語学を必修とし、合計4単位)
- ⑤ 演劇専攻科目の『実技科目(共通)』の他専攻履修可能な科目のうち、いずれか1単位必修とする。(ただし、「ドラマリーディング A」「ドラマリーディング B」「アフレコ実技 I」「アフレコ実技 II」「ミュージカルトレーニング A」を除く)

## 2. 芸術科 演劇専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
教養科目単位数	12単位
自由選択単位数	2単位
(専攻科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数の内訳は  
 実技科目 26単位      理論科目 12単位      実習科目 10単位  
 試演会または卒業公演 4単位必修
- ③ 教養科目単位数の内訳は  
 語学 2単位必修

2019年度教育課程 別表…5

【教育課程・修了の要件】

1. 専攻科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期				
作曲・理論・音楽史	音楽理論〔和声〕V	平井 正志	前期	2						227	
	音楽理論〔和声〕VI	平井 正志	後期		2					227	
	楽曲分析(古典派)	池田 哲美	前期	2						227	
	楽曲分析(ロマン派以降)	池田 哲美	後期		2					228	
	コード論II	小林 真人	前期	2						228	
	S.H.M V・VI	①塩崎 美幸 ②大家 百子 ③加藤 千春 ④三瀬 俊吾 ⑤長谷川郁子	前・後	1	1					229	
	音楽史研究	大津 聡	通年		4					229	
	日本音楽史研究A	野川美穂子	通年		4		J必修			230	
	日本音楽理論C	森重 行敏	後期			2	J必修				
	音楽療法概説A	鈴木千恵子	通年		4				○	230	
	音楽療法演習A	鈴木千恵子	通年		2					231	
	演奏現場論A	合田 香	前期	2					○	231	
	アウトリーチ研究A	永井 由比	通年		4				○	232	
	実技レッスン	第一実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		6			●全専修必修		232
		第二実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲)		通年		4				○	232
		副科実技Ⅲ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		2				○	232
	実技アンサンブル	学内演奏I	松井 康司 荻野 千里	通年		2			●全専修必修		
		ピアノデュオ研究A	東井 美佳	通年		4			P必修		233
		管楽アンサンブル研究A	津川美佐子	通年		4			W(Sx除く)必修		233
室内楽研究A		a 荻野 千里 野口千代光	前期	2						234	
		b 北本 秀樹								234	
室内楽研究B		a 阪本奈津子	後期			2				235	
		b 黎沼恵美子								235	
		c 白尾 隆								236	
		d 菊池 奏絵								236	
歌曲研究A		松井 康司 東井 美佳	通年		4					237	
オペラ実習A〔演奏〕〔演技〕		松井 康司	前期	4					V選択	○	237
		P.ゲスナー								238	
オペラ実習A〔上演〕		柴田千絵里 西岡 慎介	後期			2				○	238
邦楽アンサンブル研究A		滝田美智子	通年		4			J必修		239	
オーケストラ・スタディC		志村 寿一	前期	1				S必修		239	
合奏C		志村 寿一	後集			2		S必修		240	
ギター・アンサンブルC		佐藤 紀雄	通年		2			G必修		240	
室内楽特設クラスA		荻野 千里	前集	1					○※	241	
室内楽特設クラスB		荻野 千里	後集		1				○※	241	
伴奏C	(1) 荻野 千里	前集	1						241		
	(2) 荻野 千里	後集		1					241		
伴奏研究A	荻野 千里	前集	1						242		
伴奏研究B	荻野 千里	後集		1					242		
海外特別演習C	荻野 千里	前集	2						242		
特別講義(音楽)	松井 康司	集中		1			●全専修必修	○	243		
特別演習C	荻野 千里	通年		1			●全専修必修		243		
コラボレイト実習C	(1) 松井 康司	前集		1					244		
	(2) 松井 康司	後集			1				244		

1・2年次を通じて必修科目を含めて50単位以上

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	概要ページ		
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
音楽史	楽曲分析〔編曲〕	たかの舞俐	前期			2					244		
	楽曲分析〔創作〕	たかの舞俐	後期				2				245		
音楽教育	日本音楽史研究B	野川美穂子	通年			4		J必修			230		
	音楽療法概説B	鈴木千恵子	通年			4			○		230		
	音楽療法演習B	鈴木千恵子	通年			2					231		
	音楽療法実習	鈴木千恵子	後集				1				245		
	演奏現場論B	合田 香	前期			2			○		231		
	アウトリーチ研究B	永井 由比	通年			4			○		232		
	実技レッスン	第一実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年			6		●全専修必修			232	
		第二実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲)		通年			4			○		232	
副科実技Ⅳ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)			通年			2			○		232		
第一実技修了試験			通年			4		●全専修必修					
実技・アンサンブル	学内演奏Ⅱ	松井 康司 荻野 千里	通年			2		●全専修必修					
	ピアノデュオ研究B	東井 美佳	通年			4					233		
	管楽アンサンブル研究B	津川美佐子	通年			4		W(Sx除く)必修			233		
	室内楽研究C	a 荻野 千里 野口千代光	前期			2						234	
		b 北本 秀樹										234	
	室内楽研究D	a 阪本奈津子	後期			2						235	
		b 藜沼恵美子											235
		c 白尾 隆											236
		d 菊池 奏絵											236
	歌曲研究B	松井 康司 東井 美佳	通年			4					237		
	オペラ実習B〔演奏〕	西岡 慎介	前期			2		V選択	○		237		
	オペラ実習B〔演技〕	柴田千絵里	前期			2			○		238		
	オペラ実習B〔上演〕	西岡 慎介 柴田千絵里	後期			2			○		238		
	邦楽アンサンブル研究B	滝田美智子	通年			4		J必修			239		
	オーケストラ・スタディD	志村 寿一	前期			1		S必修			239		
	合奏D	志村 寿一	後集			2		S必修			240		
	ギター・アンサンブルD	佐藤 紀雄	通年			2		G必修			240		
	室内楽特設クラスC	荻野 千里	前集			1			○※		241		
	室内楽特設クラスD	荻野 千里	後集			1			○※		241		
	伴奏D	(1) 荻野 千里	前集 後集			1						241	
(2) 荻野 千里					1						242		
伴奏研究C	荻野 千里	前集			1					242			
伴奏研究D	荻野 千里	後集			1					242			
海外特別演習D	東井 美佳	前集			2					242			
特別演習D	荻野 千里	通年			1					243			
コラボレイト実習D	(1) 松井 康司	前集 後集			1						244		
	(2) 松井 康司				1						244		

1・2年次を通して必修科目を含めて50単位以上

【備考】

P：ピアノ専修 C：チェンバロ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

<2019年度入学生の修了要件>

最低習得単位数 50単位（2学年合計）  
 学位授与単位数 62単位以上（2学年合計）

【内訳】

- ①作曲・理論・音楽史から14単位以上
- ②音楽教育科目から8単位以上
- ③演奏・室内楽科目から10単位以上
- ④特別演習C、特別講座（音楽）2単位必修
- ⑤実技レッスンから16単位以上

○修了要件とは別に、芸術科音楽専攻および他専攻の履修可能な科目のうち、年間5科目まで履修可

【学士取得に向けて】

<2019年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位（2学年合計・前述の修了要件を満たしていること）  
 上記に加えて、下図①②③に表す要件を全て満たすこと

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	62単位以上			2年以上
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位	
芸術科での 修得単位				

「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位数は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

(A)

専攻科での 修得単位	62単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

(B)

専攻科での 修得単位	31単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	24単位以上		
	専門科目の 単位	関連科目の 単位	専攻に係る授業科目 以外の科目の 単位
芸術科での 修得単位			

※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと

2. 専攻科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				修了要件	他専攻	概要ページ					
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期								
理論科目	特別講義A	安宅りさ子	通年	2				4	○	247					
	特別講義B	高橋 宏幸 三浦 剛	通年			2			○	247					
	演劇学研究A (日本演劇論) (1)	高橋 宏幸	前期	2				8	○	247					
	演劇学研究A (日本演劇論) (2)		後期	2					○	248					
	演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	安宅りさ子	前期	2					○	248					
	演劇学研究B (西洋演劇論) (2)		後期	2					○	249					
	演劇学研究C (現代演劇論)	井上 理恵	前期	2					○	249					
劇作・演出	劇作研究A (劇作論)	瀬戸山美咲	前期	2					8		250				
	劇作研究B (劇作演習)	瀬戸山美咲	後期	1							250				
	演出研究	中野 敦之	後期	2						251					
演劇教育	演劇教育論	野間 哲	後期	2				8	○	251					
	アーツマネジメント研究	中山 夏織	前期	2					○	252					
	アウトリーチ研究	中山 夏織	後期	2					○	252					
演技科目	演技研究A (日本演劇) (1)	三浦 剛	通年	2				16		253					
	演技研究A (日本演劇) (2)				2						253				
	演技研究B (外国演劇) (1)	P.ゲスナー	通年	2						254					
	演技研究B (外国演劇) (2)				2						254				
	演技研究C (実験劇) (1)	高岸 未朝	通年	2						255					
	演技研究C (実験劇) (2)	未定			2						255				
	演技研究D (フィジカルシアター) (1)	大谷賢治郎	後期		1					256					
	演技研究D (フィジカルシアター) (2)						1				256				
	演技研究E (ミュージカル) (1)	大塚 幸太	前期	1						257					
	演技研究E (ミュージカル) (2)					1					257				
	演劇特別研究 ①②	田中壮太郎	通年	2						258					
	ワークショップA	1年次 永野 拓也	前集	1						258					
	ワークショップB	2年次 未定				1				258					
	ワークショップC	1年次 小山 ゆうな	後集		1					259					
	ワークショップD	2年次 眞鍋 卓嗣					1			259					
	海外研修	1年次 P.ゲスナー 2年次 高橋 宏幸	後集		1					259					
						1									
実技科目	舞踊A (クラシックバレエ)	中農 美保	通年	2				2	○*1	260					
	舞踊B (コンテンポラリー)	勝倉 寧子	前期	1						260					
	舞踊C (日舞)	藤間 希穂	後期	1				○*2	261						
	ミュージカル唱法	藍澤 幸頼	通年	2					261						
	英語劇	J・サザーランド	通年	2					262						
	歌唱 (個人レッスン) I	信太 美奈 他		前期	2			自由選択単位		262					
	歌唱 (個人レッスン) J			後期		2									
	歌唱 (個人レッスン) K			前期		2									
	歌唱 (個人レッスン) L			後期			2								
	歌唱 (個人レッスン) M			前期	1										
歌唱 (個人レッスン) N	後期				1										
歌唱 (個人レッスン) O	前期					1									
歌唱 (個人レッスン) P	後期					1									
劇上演実習	劇上演実習A			1年次①	越光 照文	前集	4						16		263
				2年次①								4			
		1年次②	信太 美奈 三浦 剛 他	前集	4					263					
		2年次②					4			263					
	劇上演実習B	1年次①	三浦 剛	後集		4				264					
		2年次①			井田 邦明			4			264				
		1年次②	和田 喜夫 P.ゲスナー	後集		4				264					
		2年次②						4			264				
	劇上演実習C (専1最終公演)	シライケイタ	後集		4				264						
	劇上演実習D (専2修了公演)	三浦 剛	後集				4		265						
劇上演実習E (学外出演)	三浦 剛	集中	4					265							
劇上演実習F (学外出演)	三浦 剛	集中	4					265							
劇上演実習G (学内出演)	三浦 剛	集中	1					266							
修了論文	修了論文	高橋 宏幸 他	通年	4					266						

\*1 芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエⅠ」「クラシックバレエⅡ」を修得していることを条件とする。  
 \*2 芸術科演劇専攻科目「日本舞踊Ⅰ」「日本舞踊Ⅱ」を修得していることを条件とする。

<2019年度入学生の修了要件>

最低修得単位数 50単位（2学年合計）

学位授与単位数 62単位（2学年合計）

【内訳】

- ①特別講義は4単位必修 ※特別講義は通年15回授業
- ②理論科目、劇作・演出科目、演劇教育・マネジメント科目から8単位以上
- ③演技科目から16単位以上
- ④劇上演実習、修了論文から16単位以上
- ⑤実技科目から2単位以上
- ⑥自由選択科目として4単位（自他専攻科科目より）

○修了要件とは別に、芸術科演劇専攻および他専攻の履修可能な科目のうち、年間5科目まで履修可。

【学士取得に向けて】

<2019年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位（2学年合計・前述の修了要件を満たしていること）

上記に加えて、下図①②③に表す要件を全て満たすこと

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	62単位以上			2年以上
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位	
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位	

「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- ・専攻科自専攻科目の修得単位
- ・専攻科他専攻科目の修得単位
- ・桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位数は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

(A)

専攻科での 修得単位	62単位以上		
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

(B)

専攻科での 修得単位	31単位以上		
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	専門科目の単位	24単位以上	
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

教養

科目名 情報リテラシー論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 竹内 聖

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

PC実習室利用の場合は授業に関して特に用意するものはないが、授業時間外の復習や課題制作があるため、Adobe製品が動作するノートPCを用意するか大学内で利用できる環境を用意すること。授業演習素材や制作物の持ち運びのためにUSBメモリーを準備すること。

個人のパソコンで授業外で制作する場合はAdobe Creative Cloud 学生版(月額1980円1年間契約)を購入すること。詳細は初回の授業時に説明する。

### 授業の概要

演劇公演における制作実務の中でも専門技術を要する宣伝美術について、実際の制作実習を通じて学ぶ。また、スマートフォンやインターネットの普及により演劇の広報や宣伝活動も、従来のポスターやフライヤーに加えFacebookやTwitterなどのソーシャルメディア抜きでは考えられなくなってきた。そのような時代にどのようなプロモーションが効果的か?紙の媒体と比べてどのようなことに注意を払わなくてはいけないか?インターネットによりメディアが身近になり便利になった反面、今までと違った危険も多くなっている。そんな時代の新しい演劇の宣伝活動を学んでいく。

### 授業の到達目標

- 公演のフライヤーの制作の技術や、宣伝企画力が習得できる。
- 社会人として、大学生として身につけておくべき「メディア情報リテラシー」を身に付けることができる。
- インターネット、情報機器の正しい知識、使い方やソーシャルメディア時代のコミュニケーションと宣伝企画制作の基本を学ぶことができる。
- メディアと宣伝美術を学び、これからの一般社会において幅広く役に立つ知識と技術を身につけることができる。

### 授業計画

1. 導入 演劇における宣伝美術とメディアリテラシーについて
2. フライヤーなどの制作に使うソフトウェアの説明とPhotoshopの基本操作
3. Photoshopを使った画像処理①画像の切り抜きと画像合成
4. Photoshopを使った画像処理②イメージ画像の制作と画像のレタッチ

5. Photoshopを使った画像処理③印刷用写真画像のレタッチと編集
6. Photoshopを使った画像処理④1.2.3の技法を使った作品作り
7. Illustratorの基本操作①基本操作と図形作成・ロゴマークの制作
8. Illustratorの基本操作②イラストの制作基本
9. Illustratorの基本操作③イラストの制作の応用
10. Illustratorを使ったレイアウト実習①地図の作成と写真の配置
11. Illustratorを使ったレイアウト実習②文字組の基本と文字装飾
12. 課題制作フライヤーの作成①ビジュアルイメージとレイアウトの構成
13. 課題制作フライヤーの作成②経過指導
14. 課題制作フライヤーの作成③仕上げ
15. Webサービスを使ったWebサイトの制作

### 授業時間外の学習

Photoshop、Illustrator習得のための復習と課題制作。SNSなどの利用。制作ツールやWEBサービスを使ったサイト制作の自習。  
公演チラシや特設サイトなどの情報収集を自分の時間を使って行う。

### 教科書・参考書等

特になが、授業内外でPC、スマートフォンを使用する。PCを持っていないでも受講は可能だが、必ず初回授業時に相談すること。これからの社会においてパソコンは必要なツールのため、持っていない人はこの機会に購入することを勧める。ソフトウェアはAdobeのCreative Cloudを購入してもらうが、詳細については初回授業時に説明する。すでに古いバージョンのソフトを購入済みの人は新規に購入する必要はない。

### 成績評価

1. 授業への取り組み(50点)
  2. 授業態度積極性(20点)
  3. プレゼンテーション(30点)
- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 情報処理論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 岡本 直久

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

教職課程受講者は必修。  
コンピュータ教室の定員の都合上、受講希望者多数の場合には、履修制限をおこなうこともある。

### 授業の概要

情報機器の普及によって、情報処理の焦点は、各種ハードウェアやソフトウェアを利用する「操作」以上に、様々な操作を経て得られる結果をどのように解釈し、次なる行動を円滑に履行する資とするか、つまり判断のあり方にシフトされて来た観が強い。

判断が厳格でなければならぬのは勿論であるが、判断を促す材料が妥当なものでなければ、その判断力を活かすことにはならない。判断材料を提供する方法として一般に利用される文書作成、表計算、そしてプレゼン資料作成等のソフトウェアは、決して万能とは言えないことを実感することで、判断材料の作成及び解釈の誤認を或る程度避けることが出来る。各種ソフトを利用した操作を通して、これらの「限界」を知ること、これを目的に学んでいく。

### 授業の到達目標

- 現代社会における情報とのつきあい方を意識することができる。
- 各自の課題の解決や主張の徹底を確実なものにするための情報の取得、加工、表現ができる。

### 授業計画

1. 情報技能のレディネスの確認
2. 文章作成技能の確認
3. 文章作成ソフトの限界に迫る
4. アナログ情報の歴史に触れる
5. 表計算技能の確認
6. 表計算ソフトの限界を意識する
7. アナログ情報通信の歴史に触れる
8. アナログ情報とデジタル情報の比較

9. デジタル技術の限界を覗く
10. AIを含む情報世界の課題を認識する
11. プレゼン機能の確認
12. プレゼンソフトの限界に突き当たる
13. 情報の今後に向けての意識の構築
14. 纏めの課題の取り組み①前半
15. 纏めの課題の取り組み②後半

### 授業時間外の学習

各種報道を通して情報収集に努める。特に情報関係の話題に注目し、記録すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に担当者作成のプリント等の教材をその都度配布する。  
参考書：授業時に関連書物、関係文献等はその都度紹介する。

### 成績評価

課題の成果と授業への取り組みを総合して評価する。課題に関しては、各自の設定した課題が妥当か、課題に相応しい表現方法か、表現の技能の程度、取り組みの密度、説得力の有様、等を観点として評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業への取り組みがたいへん良く、適切な情報とのつきあい方ができ、課題の成果が極めて優れている)
- A 総合点が80点以上の者(授業への取り組みが良く、適切な情報とのつきあい方ができ、課題の成果が優れている)
- B 総合点が60点以上の者(授業への取り組みが良く、情報とのつきあい方を理解し、課題に取り組むことができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業への取り組みが消極的で、情報とのつきあい方に理解を欠き、課題への取り組みが不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業への取り組みが消極的で、情報とのつきあい方を理解せず、課題に取り組まない)

科目名 音楽環境論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 久保田 慶一

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「音楽環境論」という授業科目だが、音楽専攻以外の学生も履修可。

### 授業の概要

卒業後にフリーランスで生きていくには、どのようなことを知っていればよいのかを、学ぶ。自分と社会という環境、そして音楽や演劇との関係について考察する。

### 授業の到達目標

- ・卒業後の人生設計を自分でできる。
- ・芸術文化を取り巻く環境を幅広く考察することができる。

### 授業計画

1. キャリアとは何か？
2. 働くとはどういうことか？
3. 職業とは何か？
4. フリーランスという働き方
5. プロフェッショナル・フリーランスになる
6. 自分がボスになる
7. 必要なのはキャリア・デザイン！
8. フリーランスの「資産」とリスクのマネジメント
9. キャリアのマネジメント

10. ファイナンスのマネジメント
11. ヒューマン・リソースのマネジメント
12. 音楽の起業のすすめ
13. 音楽のプロフェッショナル・フリーランスとして
14. 発表
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業で課題を出すので、次の授業で提出・発表できるようにしておくこと。

### 教科書・参考書等

久保田慶一：「音大・美大卒業生のためのフリーランスの教科書」ヤマハミュージックメディア 2018年

### 成績評価

授業時の発表状況・取り組み20%、レポート課題80%によって、総合的に判断する。

- S 授業時の発表、提出レポートがともにたいへん優れている。  
 A 授業時の発表、提出レポートがともに優れている。  
 B 授業時の発表または提出レポートが優れている。  
 C 授業時の発表、提出レポートへの取り組みが不十分である。  
 D 授業時の発表、提出レポートに取組みまない。

科目名 社会福祉学

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 藤森 雄介

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

21世紀の日本における社会福祉は、「社会福祉基礎構造改革」以降、その制度施策も含めて大きな変革の渦中にある。本講義においては、上記のような現状を踏まえつつ、現代に至る戦後日本社会における社会福祉の歴史的背景や思想等を学んでいきたい。

### 授業の到達目標

1. 社会福祉全般に対して基本的理解ができる。
2. 「対人援助」の現場における、援助者の基本的な心構えを理解できる。
3. 社会福祉の学びを通じた、新たな視点を獲得できる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 現代日本における社会福祉の定義
3. 「介護」または「介護福祉」の概念
4. ノーマライゼーションの思想
5. 「共生」の思想
6. 社会保障制度の基本的理解①社会保障制度における社会福祉の位置づけ
7. 社会保障制度の基本的理解②近代イギリス社会と救貧法
8. 社会保障制度の基本的理解③20世紀のイギリスと福祉国家について
9. 日本の社会福祉制度の成立過程①昭和20年代
10. 日本の社会福祉制度の成立過程②昭和30年代
11. 日本の社会福祉制度の成立過程③昭和40年代

12. 日本の社会福祉制度の成立過程④昭和50年代
13. 日本の社会福祉制度の成立過程⑤平成年代
14. 日本の社会福祉制度の成立過程⑥これからの方向性
15. まとめ、確認テストの実施と全体の振り返り

### 授業時間外の学習

本科目は、予習よりは復習を重視している。第2講以降の受講日前日には前回の講義内容の振り返り(90分程度)を行った上で、翌日の講義に臨んでほしい。また、いわゆる「社会福祉」は実学であり現代社会の動向とは不可分な学問である。日頃から、政治や経済の動向にも関心を持っておくことが必要である。

### 教科書・参考書等

教科書は特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。また、講義中に参考文献を適時紹介していく。

### 成績評価

原則として、期末に行う確認テストの得点をもとに評価を行う。ただし、授業内でレポート等を課した場合には、その評価も適時、加点する。

- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、関連づけて説明できる)  
 A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、説明できる)  
 B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明できる)  
 C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)  
 D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 表現コミュニケーション論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

前期のアーツマネジメント論履修者が望ましい。

### 授業の概要

舞台芸術にとって「観客」の存在が不可欠である。若い世代の劇場離れ、観客の高齢化、絶対数の減少が大きな課題となっ  
ていながらも、その観客とのコミュニケーションのあり方や、観  
客にとっての芸術鑑賞の価値が十分に検証されてきたとはいえない。  
さらに、劇場や音楽堂等は、最も社会的弱者を疎外してき  
た空間でもある。これらの問題を探りながら、新しい観客を開拓  
するための観客との新たなコミュニケーションのあり方を探る。  
特に、児童青少年や障がい児・者、高齢者（認知症を含む）と  
いう不可能な観客についても検証していく。

### 授業の到達目標

- ・表現者と観客との双方向コミュニケーションの意味を理解できる。
- ・多様な観客の参加の意味と方策を理解できる。
- ・コンベンションを問う批判的思考能力をもつことができる。

### 授業計画

1. 表現者として観客と向かいあうーお客様は神様ですか？
2. 観客という役割ー観客の創造への参加
3. 観客は何をみるのか
4. 演劇という記号と人形劇
5. 新しい観客？ー観客は変化する
6. 劇場の形と観客とのコミュニケーション
7. インタラクティブシアターー観客参加型演劇
8. イマーシブシアターー観客もリスクを負う
9. シアターインエデュケーションー少人数制と教育

10. 子どもという観客
11. 不可能な観客ー障がい児と医療ケア児
12. 不可能な観客ー高齢者・認知症
13. 鑑賞教育を考える①視覚芸術に学ぶ
14. 鑑賞教育を考える②音楽と演劇
15. 総括と学習到達度の確認ー芸術は誰のもの？

### 授業時間外の学習

劇場やコンサートホール、美術館等で観客がいかに芸術作品に  
関与しているかを観察すること。

### 教科書・参考書等

教科書：マシュー・リーズン著、中山夏織訳『子どもという観客』  
(2018年、晩成書房)

また、授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業内で紹介  
する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に  
評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果
- S：①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者
- A：①②③全てを獲得した者
- B：①～③のうち2つを獲得した者
- C：①～③のうち1つを獲得した者
- D：①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 アーツマネジメント論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

授業に貢献し、課題に積極的に取り組める者。

### 授業の概要

俳優であれ、演奏家であれ、ひとりで仕事をしていくことはで  
きない。また、社会システムに相反して活動を行うこともできない。  
集団として、カンパニーとして仕事をしていくために理解しておく  
べき芸術の組織の構造、そのマネジメントを学ぶとともに、芸  
術の公共性を担うプロフェッショナルとしていかに社会と関わって  
いくのかを考察していく。

### 授業の到達目標

- ・非営利の芸術組織の運営の特性を理解できる。
- ・チームで成果をあげる意味を理解できる。
- ・次世代のリーダーとしての自覚を促すことができる。

### 授業計画

1. アーツマネジメントって何？
2. アーツマネジメントの特殊性ー営利と非営利、芸術の公共  
性をめぐって
3. 組織とマネジメント
4. 芸術と組織ー劇団制／自主運営オケをめぐって
5. 新しい組織の形
6. グループダイナミクス
7. グレイトグループ
8. 目的を管理するーミッションと意思決定
9. モチベーション

10. リーダーシップ①様々な理論
11. リーダーシップ②オルフェウス・プロセス
12. アーツマーケティング①理論
13. アーツマーケティング②実践
14. エデュケーション・プログラム
15. 総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

新聞を読み、社会に対してつねにアンテナを張っておくこと。  
次回の授業のために指示されたテーマについて、下調べするこ  
と。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

参考書：ピーター・ブルック著『何もない空間』（1968年）。他、  
適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に  
評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果
- S：①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者
- A：①②③全てを獲得した者
- B：①～③のうち2つを獲得した者
- C：①～③のうち1つを獲得した者
- D：①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 応用演劇論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

社会に於いて演劇ができることの可能性に関心があること。芸術作品の創造だけでなく、ワークショップのファシリテーター(ワークショップを進める役割の人)など演劇の手法を用いて社会に貢献したり、一般の人に関わることに関心があること。

### 授業の概要

応用演劇とは何かを学ぶ。  
演劇の手法を用いて社会に貢献のできる、そして一般の人が体験できるワークショップの可能性を学習ならびに模索する。  
芸術としての演劇と経験としての演劇を比較、演劇ができることの可能性を探求する。  
実際にワークショップの内容を作成し、実践する。

### 授業の到達目標

- 多岐にわたる応用演劇について学習し、その現状について説明することができる。
- 演劇を応用した具体例を学び、また自らリサーチすることができる。
- これらの学習を経て、自らが考案したワークショップを実施することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 応用演劇とは何か
3. 世界の応用演劇①ドラマ教育
4. 世界の応用演劇②社会との関わり
5. 世界の応用演劇③コミュニティの形成
6. 応用演劇の実践①ティーチング・アーティストとは
7. 応用演劇の実践②ファシリテーターの役割
8. 応用演劇の実践③グループワークによる実践
9. 社会的弱者のため演劇ワークショップとは何か

10. タブーワークショップとは何か
  11. タブーワークショップの実践
  12. 日本に於ける演劇ワークショップの可能性①発表
  13. 日本に於ける演劇ワークショップの可能性②講評
  14. ワークショップ・ファシリテーターの実践
  15. 総評
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

授業内容の復習・予習を行う。出題された課題に取り組む。ワークショップのアイデアを作成する。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

1. 授業への取組み、創造過程への関わり方80%
  2. 発表の内容20%の総合評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容がたいへん高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が評価できる。
- C 授業への取組み、創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している。
- D 授業への取組み、創造過程への関わり方、各課題の発表が評価できない。

科目名 メディア論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

表現というものは、メディアという媒介物を通してなされることによって、どのような表象となるのか。詩、小説、戯曲、美術、映画、演劇などを比較検討しながら、メディアの特殊性について考える。特に今回は、映画や映像を中心に分析的に物事を探求する。

### 授業の到達目標

さまざまなメディアと表現とは、どのように成り立っているのか。普段何気なく見慣れているものであっても、それは何なのか、考える思考性を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 映画表現という媒体
3. 演劇表現という媒体
4. ドキュメントというコンセプトからみる映画①日本
5. ドキュメントというコンセプトからみる映画②アジア
6. ドキュメントというコンセプトからみる映画③西洋
7. ドキュメントというコンセプトからみる演劇①日本
8. ドキュメントというコンセプトからみる演劇②アジア
9. ドキュメントというコンセプトからみる演劇③西洋
10. 「もの」という物体性としての美術①日本
11. 「もの」という物体性としての美術②アジア
12. 「もの」という物体性としての美術③西洋

13. レポート講評①前半部分
  14. レポート講評②後半部分
  15. まとめ
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

- 発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 現代思想論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

**履修条件**

特になし。

**授業の概要**

現代思想を単に哲学や思想という枠に閉じ込めるのではなく、そこから社会や共同体、国家、個人などを含み、さまざまな文化や社会現象を考察するためのツールとして、この授業では扱う。かつて生きるとはなにか、死とはなにか、他者とはなにか、内面とはなにか、などいくつものテーマが重みを持って語られた時代があったが、それらとは局面の違う現代の文化をどのように考えることが可能か。そのために、その思想が生まれた歴史的な背景などを含みながら論じる。それはときに文学や演劇、映画などのさまざまな表象文化とも通じるものである。それらの映像やテキストも交える。また、日本の現代思想と欧米のものを取り上げる予定である。

**授業の到達目標**

私たちがとりまく文化現象を批判的に見る目を養うことが最終的な目標となる。たんに好きなものをなぜ好きなのか、なぜそれが受けているのか、どのような戦略をもって、どのようなターゲットを層にしているのか、様々なものを現代思想を通して分析できるようにする。

**授業計画**

1. イントロダクション
2. 「14歳からの哲学」を読む①前半部分
3. 「14歳からの哲学」を読む②中盤部分
4. 「14歳からの哲学」を読む③後半部分
5. 「構造と力」を読む①前半部分

6. 「構造と力」を読む②中盤部分
7. 「構造と力」を読む③後半部分
8. 「倫理21」を読む①前半部分
9. 「倫理21」を読む②中盤部分
10. 「倫理21」を読む③後半部分
11. 「ジェンダー・トラブル」を読む①前半部分
12. 「ジェンダー・トラブル」を読む②中盤部分
13. 「ジェンダー・トラブル」を読む③後半部分
14. 各論の補論
15. まとめ

**授業時間外の学習**

図書館やWEBで授業で話をしたことをチェックすること

**教科書・参考書等**

授業で使うテキストなどは指示する。

**成績評価**

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 日本国憲法

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 西山 智之

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

**履修条件**

教職課程受講者は必修。

**授業の概要**

本講座では、憲法の歴史をはじめ、国民に保障される自由や権利の他、統治機構(国会・内閣・裁判所)についての解説を、講義形式で行う。

憲法は私たちの日常生活では、馴染みの薄い存在なのかもしれない。しかし近年、憲法9条(戦争放棄)に関する議論や過激な表現活動に関する問題等、憲法上の諸問題が活発に議論されており、これらの問題は高等教育を受けた者として当然に知っておくべきものである。また憲法は、刑事法や民事法の基礎となる法であり、今後私たちが生活をする際に法律を学んでいく上で、理解しておくことが望ましいと考えられる。

そのため講義の中では、日本国憲法の基本的知識の他、上記にあげた現代の憲法上の諸問題や憲法改正議論について等、タイムリーな話題についても解説を行いたいと考えている。また、社会問題を考える力を育成するため、授業中にディベート等発言する機会を多く設ける予定である。積極的に議論に参加して欲しい。

**授業の到達目標**

日本国憲法を通じて、現代の法で定められた国家の仕組みに関する知識・理解を深め、社会に対する関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、履修者が日本国憲法の基本的知識を習得し人権の意義や国会・内閣・裁判所の役割を理解した上で説明することができる、ということ到達目標とする。

**授業計画**

1. 憲法とは何か、法とは何か
2. 天皇の地位と権能、平和主義
3. 基本的人権の原理、基本的人権の保障と限界
4. 包括的基本権、平等原則
5. 精神的自由①思想・良心の自由、信教の自由
6. 精神的自由②表現の自由、学問の自由
7. 経済的自由(職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権)
8. 人身の自由(適正手続きの保障、被疑者・被告人の権利)

9. 社会権(生存権、労働基本権、教育を受ける権利)
10. 国務請求権、参政権、統治の基本原則
11. 統治機構①国会の仕組みと役割
12. 統治機構②内閣の仕組みと役割
13. 統治機構③裁判所の仕組みと役割
14. 違憲審査制、地方自治、憲法改正
15. 授業の総括と学習到達度の確認

**授業時間外の学習**

事前学習：ニュース・新聞等を通じ社会問題に対して常に関心を持ち、現在日本でどういった問題が起きているのかについて調べ、ノートに列記しておく。

事後学習：各回の授業内容を自分なりに整理し、わかりやすくノートに記述しておく。

**教科書・参考書等**

教科書：齋藤康輝・高畑英一郎 編著『Next教科書シリーズ憲法(第2版)』(弘文堂、2017年)

参考書：高橋雅夫 編著『Next教科書シリーズ法学(第3版)』(弘文堂、2020年)

その他、授業で参考資料を配布する。

**成績評価**

筆記試験及び平常点によって評価する。平常点では、教員の問いに対する発言回数や議論の際の態度等、授業に積極的に参加しているかをみる。

- S 90点以上の者  
(授業態度が大変良く、憲法について優れた理解をしている)
- A 80点以上の者  
(授業に積極的に参加し、憲法について十分に理解している)
- B 60点以上の者  
(授業に参加し、憲法についてある程度理解している)
- C 50点以上の者  
(授業に参加し、憲法について最低限度理解している)
- D 50点未満の者  
(授業に参加せず、憲法についての理解度が著しく低い)

科目名 文化政策論A

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

授業に貢献し、課題に積極的に取り組める者。

### 授業の概要

「文化」「芸術」という人の心と関わる領域を政策とすることの意味を、歴史的展開から紹介していくとともに、その方向性や手段によって、芸術文化の創造とそのマネジメントがどのような影響を受けるのかを検証する。また、明治維新から現代に至るまでの日本の文化政策の展開と、日本に特有の課題を考えていく。

### 授業の到達目標

- 文化政策の功罪を理解できる。
- 文化政策のあり方と創造者・表現者の仕事のあり方の相関を理解できる。
- 次代のリーダーとして文化政策の策定に参画していくための土台を創ることができる。

### 授業計画

- 文化政策って何？
- 文化政策の誕生と理念
- 文化政策の理念とその展開
- 文化政策の類型とアーツマネジメント
- 公的助成の理論的根拠
- 日本の文化政策①明治期
- 日本の文化政策②戦前・戦中期
- 日本の文化政策③内容不関与の法則
- 日本の文化政策④バブル経済とメセナブームの功罪

- 日本の文化政策⑤創造都市と社会的投資？
- 日本の文化政策⑥文化芸術基本法
- 日本の文化政策⑦指定管理者制度
- 日本の文化政策⑧基本法と劇場法をめぐって
- 日本の文化政策⑨アーツカウンシル制度と公的助成の課題
- 総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

新聞を読み、社会に対してつねにアンテナを張っておくこと。「公」の施設の運営のあり方を観察すること。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果  
S：①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者  
A：①②③全てを獲得した者  
B：①～③のうち2つを獲得した者  
C：①～③のうち1つを獲得した者  
D：①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 文化政策論B

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

授業に貢献し、課題に積極的に取り組める者。

### 授業の概要

様々な国々の文化政策の理念と手段の展開を概観するとともに、そこに生きる芸術家をめぐる社会法制（労働法、税制、社会保障等）との相関を検証していく。また、日本において、創造者（著作者）・表現者（著作隣接権者）を規定する唯一の法律としての著作権と著作隣接権の理念と課題、そしてエンターテインメント産業における契約との相関を探る。

### 授業の到達目標

- 個々の国にとっての文化政策の意味と手段を理解できる。
- プロフェッショナルとして生きる創造者・表現者をめぐる社会法制を自らの問題として理解できる。
- 著作権と契約との関係性を理解し、問題解決能力を身につけることができる。

### 授業計画

- 文化政策の国際的展開—劇場をつくるのか、芸術をつくるのか
- 文化政策の国際的展開—芸術の価値をめぐる論争
- 芸術活動の目的とインパクト—評価システムを考える
- ワークショップ—支援する側と支援される側
- 文化をめぐる社会法制
- 芸術家の労働者性をめぐって①労働法と芸術家の労働の特殊性

- 芸術家の労働者性をめぐって②裁判
- 著作権と著作隣接権
- エンターテインメント産業の構造
- 芸術と契約①契約の基礎
- 芸術と契約②芸術をめぐる契約の特殊性
- 芸術と裁判
- デジタル時代の著作権
- ワークショップ—理想のパブリックシアターを作る／ミッションと実践
- 総括プレゼンテーション—理想のパブリックシアター

### 授業時間外の学習

新聞を読み、社会に対してつねにアンテナを張っておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果  
S：①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者  
A：①②③全てを獲得した者  
B：①～③のうち2つを獲得した者  
C：①～③のうち1つを獲得した者  
D：①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 青少年教育論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

子どもならびに若者のための舞台芸術に深い関心があること。  
児童青少年教育に於ける演劇の可能性への探求意欲があること。

### 授業の概要

世界の児童青少年の演劇事情を学ぶ。  
舞台芸術が児童青少年の発達にどのような影響を及ぼすのか学習・研究する。  
児童青少年のための舞台芸術作品の創作に挑戦する。

### 授業の到達目標

- 世界の児童青少年演劇を学習し、その現状について説明できる。
- 発達心理学の分野などで研究されている、舞台芸術が児童青少年に及ぼす影響を学習し、自らリサーチできる。
- これらの学習を経て、児童青少年のための演劇作品を創作することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. Theatre for Young Audiences (TYA) とは何か
3. 乳児のための演劇
4. 幼児のための演劇
5. 青少年のための演劇
6. 世界のTYA
7. 児童青少年のための演劇ワークショップの可能性
8. 児童青少年のための演劇ワークショップを考案・発表
9. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について①基礎
10. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について②世界の研究成果

11. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について：リサーチの発表①前半（2回に分けて行う）
  12. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について：リサーチの発表②後半
  13. 作品創造①前半（2回に分けて行う）
  14. 作品創造②後半
  15. 総評
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

課題発表のためのリサーチを行う。作品の執筆に取り組む。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

1. 授業への取組み、創造過程への関わり方80%
  2. 発表の内容20% の総合的評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容がたいへん高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が評価できる。
- C 授業への取組み、創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している。
- D 授業への取組み、創造過程への関わり方、各課題の発表が評価できない。

科目名 文学（古典）

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 野間 哲

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

高校時代、古典が今ひとつ好きになれなかった者、愛のかたち（恋愛・親子愛・師弟愛・同性愛等）に興味のある者、能・歌舞伎を理解したい者など、現代に受け継がれている日本人のルーツに関心ある者。

### 授業の概要

1000年間の人々の愛のかたちを古典作品を通して検証する。また、その背景となる歴史、文化を学ぶ。特に現代人に多くの影響を与えている江戸時代の風習、習慣、音楽、演劇のルーツと実際を学ぶ。授業計画に沿って、様々な作品に触れ、その作品を通して、学習する。

### 授業の到達目標

- 古典作品を通して、時代ごとの愛のかたちをよく理解し、その背景となる歴史、文化を認識することができる。
- 得た知識を元に今後の自己活動に応用することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 「紫式部vs清少納言」の構図からわかる平安貴族の美男・美女絵図。流星人（よばいど）について
3. 『伊勢物語』から見えてくる恋愛模様。『平中物語』の主人公、平中の変人ぶりについて。
4. 『源氏物語』を完全制覇。映像で見る源氏の憂鬱①
5. 『源氏物語』を完全制覇。映像で見る源氏の憂鬱②
6. 『源氏物語』に登場する女性の生き方について。献身派・積極派・執着派・密会派など。
7. 能講座。能の和製ミュージカルたるゆえん。劇・舞・詩・音楽のコラボレーション。
8. 歌舞伎講座。歌舞伎『義経千本桜』にみる人情劇と「けれん」（宙乗り、早替え）。
9. 井原西鶴『好色一代男』にみる遊郭、遊女の暮らし。吉野

太夫の悲喜劇。

10. 井原西鶴『世間胸残用』にみる大みそかの暮らし方。借金取りから逃げる方法。
11. 井原西鶴『日本永代蔵』にみるお金儲けのすすめ。「私はこうして金持ちになりました。」
12. 映像で見る『八百屋お七』（舞台）わずかに14歳の娘の決意。火あぶりの刑の及ぼした影響。
13. 近松門左衛門『曾根崎心中』、『八百屋お七』にみる究極の純愛悲劇。
14. 「浮世絵」から浮かび上がる江戸庶民の「浮世思想」、中世の「憂き世思想」との違い。
15. まとめ

### 授業時間外の学習

事前指示による下調べ、まとめなど適宜指示をするので、積極的に取り組むこと。

### 教科書・参考書等

毎回、資料提供はこちらで行う。

### 成績評価

- 授業への取組み（50%）とレポート課題などの提出物の成果（50%）で総合的に評価する。
- S 総合点 90点以上  
（授業への取組みと課題の成果がたいへん優れている。）
- A 総合点 80点以上  
（授業への取組みと課題の成果が優れている。）
- B 総合点 60点以上  
（授業への取組みもしくは課題の成果が優れている。）
- C 総合点 50点以上  
（授業への取組みもしくは課題の成果が不十分。）
- D 総合点 49点以下  
（授業への取組みも課題の成果も不十分。）

科目名 文学 (近世)

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 野間 哲

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

舞台化、映画化された近代文学作品に興味のある者。文学と演劇、文学と音楽の関係性について探求したい者。

### 授業の概要

近世文学との繋がりを踏まえながら、舞台、映画、音楽などになりやすい近代文学作品を取り上げ、作品論、作者論の視点で研究する。また、文学作品の具象化の実際を知り、文学作品を原作にした芸術作品の可能性を学ぶ(実際に舞台化、音楽化された作品を鑑賞し、原作との比較を試みる)。

### 授業の到達目標

作品を読みこみ、ある一定水準の作者研究と作品研究を行うことができる。同時にそれらを原作とした芸術作品がどういうかたちで具象化される可能性があるかを認識することができる。

### 授業計画

※状況を見て、順番が入り替わる場合もあります。

1. 導入
2. 夏目漱石を読む①悪妻だった鏡子夫人。無二の親友正岡子規。漱石はかんしゃく持ち。
3. 夏目漱石を読む②音楽座ミュージカル『アイ・ラブ・坊ちゃん』から探る原作『坊ちゃん』
4. 宮澤賢治を読む①岩手県花巻をイーハトーブ(理想郷)にしたかった理由。妹トシとの壮絶関係。
5. 宮澤賢治を読む②『銀河鉄道の夜』の真相に迫る。死に際第4稿の残したメッセージ。
6. 宮澤賢治を読む③アニメ『銀河鉄道の夜』から探る原作『銀河鉄道の夜』。賢治の死生観。
7. 宮澤賢治を読む④舞台『銀河鉄道幻想』にみる賢治の生い立ち、人間関係、悲劇。
8. 宮澤賢治を読む⑤舞台『セロ弾きのゴーシュ』から探る賢治の動物・仏教思想、恋愛観。
9. 芥川龍之介を読む①朗読『羅生門』。文章表現・読み聞かせ

実践。

10. 芥川龍之介を読む②『蜜柑(みかん)』と芥川の深層心理。その色彩感覚に迫る。
11. 太宰治を読む①負い目と誇り、苦悩と破壊、愛と信頼、あこがれと絶望のはざままで考えたこと。
12. 太宰治を読む②『富嶽百景』、『走れメロス』、『人間失格』…太宰の入水自殺の真相。
13. サン・テグジュペリを読む①『星の王子さま』読解。翻訳の違いを検証する。
14. サン・テグジュペリを読む②舞台『星の王子さま』から探る文学作品の具象化について。
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業内だけでは作品を読み切れないケースもあるため、事前に作品を読みこむ課題を与えることもあるので、積極的に取り組むこと。

### 教科書・参考書等

毎回、資料提供はこちらで行う。

### 成績評価

授業への取り組み(50%)とレポート課題などの提出物の成果(50%)で総合的に評価する。

- S 総合点 90点以上  
(授業への取り組みと課題の成果がたいへん優れている。)
- A 総合点 80点以上  
(授業への取り組みと課題の成果が優れている。)
- B 総合点 60点以上  
(授業への取り組みもしくは課題の成果が優れている。)
- C 総合点 50点以上  
(授業への取り組みもしくは課題の成果が不十分。)
- D 総合点 49点以下  
(授業への取り組みも課題の成果も不十分。)

科目名 日本語論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 野間 哲

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

表現者として、「日本語」に興味があり、日本語の特徴、表現の可能性について、実習を通して体感したい、また台詞・歌詞に明瞭さ、深み、説得力を持たせたいと考えている者。

### 授業の概要

日本語の歴史、文化にとどまらず、様々な課題実習を通して、日本語の特性を実体験する。ひいては演劇にあつては「台詞」、音楽にあつては「歌詞」を中心に、日本語の使い方を正しく理解する一助とし、実践に役立つ知識・方法を身につける。授業では興味、関心を喚起させながら、その方法を実習形式で、日本語の実際を学ぶ。

### 授業の到達目標

世の中に氾濫する日本語の現状をよく理解し、自己表現者としての日本語のあり方について自覚し、実践することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 「日本語のルーツ」。琉球語・アイヌ語・ウィルタ語などについて
3. ウェストサイドストーリーの「楽曲の翻訳」①オリジナル歌詞の実践。
4. ウェストサイドストーリーの「楽曲の翻訳」②オリジナル歌詞の実践。
5. ウェストサイドストーリーの「楽曲の翻訳」③発表
6. 楽曲に「オリジナル歌詞」をつける。テーマ・シチュエーション・決めたフレーズ導入等を条件にして。
7. 「言霊(ことだま)」について。口に出したことは現実に起きるといふ言霊信仰について。
8. 「中国語」講座①音痴と中国語。遣唐使の業績。
9. 「中国語」講座②漢詩の中国語読み実践。音読みについて。

10. J-POPの歌詞にみる「戦後の日本語の変遷」①アイドル曲・グループサウンズ曲・卒業ソング
11. J-POPの歌詞にみる「戦後の日本語の変遷」②フォークソング・演歌・ROCK・ラップ
12. 「新語・流行語」・「オヤジギャグ」・「ギャル言葉」検証
13. 「外郎売(ういろうり)」に見る日本語のルーツ。口上上手について。「通販番組」の口上検証
14. 「古典落語」から学ぶ日本語のルーツ。「江戸語」の検証。
15. まとめ

### 授業時間外の学習

次時間のための準備(予習)で、下調べを指示された場合には積極的に取り組むこと。課題提出は遅れず、確実にすること。

### 教科書・参考書等

毎回、資料提供はこちらで行う。録音用にスマホを持参させることがある(ない場合はその際に申し出る)。

### 成績評価

授業への取り組み(50%)とレポート課題などの提出物の成果(50%)で総合的に評価する。

- S 総合点 90点以上  
(授業への取り組みと課題の成果がたいへん優れている。)
- A 総合点 80点以上  
(授業への取り組みと課題の成果が優れている。)
- B 総合点 60点以上  
(授業への取り組みもしくは課題の成果が優れている。)
- C 総合点 50点以上  
(授業への取り組みもしくは課題の成果が不十分。)
- D 総合点 49点以下  
(授業への取り組みも課題の成果も不十分。)

科目名 日本語表現論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 野間 哲

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

● 表現者として正しい日本語を身につけたいと考える者、日本語検定3級以上を取得したいと考えている者(希望制)、教職を志している者など。6月の検定試験3級以上を受験することが望ましい(履歴書掲載可)。

### 授業の概要

● 6月中旬までは「日本語検定3級以上合格」のための授業を展開する(全6回)。ただし、資格取得は希望制で、受検の有無にかかわらず、日本語検定取得の学習に沿って授業を展開する。その後、日本語検定学習で身につけた日本語スキルをより多角的、現実的に実践できる力を養成する。表現者として日本人固有の文化、感性、話し方を理解し、身につけることで、言葉による様々な表現スタイルを修得する。

### 授業の到達目標

● 日本語検定の3級以上の資格取得レベルの日本語力の養成。正しい日本語の使い方を学び、表現者としての表現スキルを向上させ、実践することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 日本語検定指導①(全6回) 3級・2級レベルの学習。本人の希望でグレードを定める。
3. 日本語検定指導②
4. 日本語検定指導③
5. 日本語検定指導④
6. 日本語検定指導⑤
7. 日本語検定指導⑥  
※受検者希望者は6月12日(金) または13日(土) に本学にて受験。
8. 「敬語の基礎」実践。電話対応・就活・オーディションでの敬語を使った模擬授業。
9. 「散文・詩(歌詞)の書き方」①韻文のデフォルメ。倒置法で告白の意味。

10. 「散文・詩(歌詞)の書き方」②類型化された言葉に個性はない。大阪のおばちゃんトーク検証。
11. 「散文・詩(歌詞)の書き方」③キラリと光るフレーズ、一文がグレードアップのコツ。
12. 「オーディション・面接」で使う美しい日本語実践：話し方のクセの矯正。
13. 「履歴書」の書き方：性格を表す文字表現—美しい文字について。
14. 「志願理由書」の書き方：的をしぼって、整理して、デフォルメして情熱を伝える。
15. まとめ

### 授業時間外の学習

● 日本語検定取得のための練習問題、模擬問題を積極的に取り組むこと。課題提出は遅れず、確実に行うこと。

### 教科書・参考書等

● 「日本語」増補改訂版 上級1,100円、中級1,000円  
日本語検定公式練習問題集(特定非営利活動法人日本語検定委員会刊) 1級・2級 各1,000円、3級900円  
※後日どれを購入するか指示する。

### 成績評価

● 授業への取り組み(50%)とレポート課題などの提出物の成果(50%)で総合的に評価する。  
S 総合点 90点以上  
(授業への取り組みと課題の成果がたいへん優れている。)  
A 総合点 80点以上  
(授業への取り組みと課題の成果が優れている。)  
B 総合点 60点以上  
(授業への取り組みもしくは課題の成果が優れている。)  
C 総合点 50点以上  
(授業への取り組みもしくは課題の成果が不十分。)  
D 総合点 49点以下  
(授業への取り組みも課題の成果も不十分。)

科目名 映画論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 行定 勲

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

● 特になし。

### 授業の概要

● 本講義では、映画はどのようにして制作されていくのか題材をどこに求めるのか等について、演劇と映画の具体的な作品を参照しながら、テーマごとに掘り下げていく。具体的な作品の解説を通じて講義を進めていくため、学術的な内容よりも実践的な内容が中心となるが、映画制作にとどまらず創作活動において重要となる要素について、丁寧に取り扱っていければと考えている。

● 講義を通じて、学生の皆さんと質疑応答だけでなくテーマごとにディスカッションを活発にできればと、思っている。

### 授業の到達目標

● 映画制作に関するいくつかの論点を通じて、映画制作にとどまらず、創作活動において基礎となる大事なポイントを理解することができる。

### 授業計画

- 以下、テーマについて、具体的な作品を参照しながら、解説、ディスカッションの流れで授業を進めていく。
1. 映画はどのようにして制作されているのかという概論①
  2. 映画はどのようにして制作されているのかという概論②
  3. 演出における自作論と発想①

4. 演出における自作論と発想②
5. 演劇作品の映画化についての考察
6. 映画における演劇的演出の意義
7. 評価されることの意義
8. 映画化企画のプレゼンテーション

### 授業時間外の学習

● 授業時に適宜指示する。

### 教科書・参考書等

● なし。

### 成績評価

● 授業への取り組みとレポート課題(予定)で総合的に評価する。  
S 授業への取り組みと課題の成果がたいへん優れている。  
A 授業への取り組みと課題の成果が優れている。  
B 授業への取り組みもしくは課題の成果が優れている。  
C 授業への取り組みもしくは課題の成果が不十分。  
D 授業への取り組みも課題の成果も不十分。

科目名 英語A I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 James Barry Ferner

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

レベルを問わず、皆が楽しく参加して、実用的な英語のトレーニングを行う。

実践的なロールプレイ・スピーチ・対話などを重ね、英語を話す人々とコミュニケーションできるようになることを目指す。また、英語の音楽用語、表現についても学ぶ。

### 授業の到達目標

基礎的な英語表現を身につけ、英語で身のまわりの事柄や音楽の話ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 自己紹介(スピーチ)
3. 好きなこと、そうでないこと(対話・ディスカッション)
4. ご招待・天気予報(ロールプレイ)
5. 旅行の切符を買う(ロールプレイ)
6. ホテルチェックインの手続き・コンシェルジュにお願いする(ロールプレイ)
7. レストランで食事(ロールプレイ)
8. 買い物(ロールプレイ)

9. 健康・薬のおすすめ・TV・CM(ロールプレイ)
10. 映画・演劇・コンサートの切符を買う(ロールプレイ・ディスカッション)
11. 見に行ったイベントの感想(スピーチ・ディスカッション)
12. ルール・やってはいけないこと(ロールプレイ)
13. 落とし物(スピーチ・説明)
14. パーティの招待(ロールプレイ)
15. 道を聞く(ゲーム)

### 授業時間外の学習

毎週、各自復習すること。

### 教科書・参考書等

各回に必要なプリントを配付。

### 成績評価

授業への取り組みと習熟度で評価する。

- S 授業への取り組みがたいへんよく、英会話力がたいへん優れている。
- A 授業への取り組みがよく、英会話力が優れている。
- B 授業への取り組みもしくは英会話力が優れている。
- C 授業への取り組みもしくは英会話力が不十分。
- D 授業への取り組みも英会話力も不十分。

科目名 英語A II

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 James Barry Ferner

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「英語A I」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

レベルを問わず、皆が楽しく参加して、実用的な英語のトレーニングを行う。

実践的なロールプレイ・スピーチ・対話などを重ね、英語を話す人々とコミュニケーションできるようになることを目指す。また、英語の音楽用語、表現についても学ぶ。

### 授業の到達目標

基礎的な英語表現を身につけ、英語で身のまわりの事柄や音楽の話ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. お久しぶりです(ロールプレイ)
3. 食事の招待(ロールプレイ)
4. オーディション・バイトの面接(ロールプレイ・スピーチ)
5. OJT どうやって～(スピーチ・ロールプレイ)
6. 買い物・返品(ロールプレイ)

7. 商品のおすすめ TV CM(ロールプレイ)
8. 人の恰好(ロールプレイ・スピーチ)
9. 注意・緊急(ロールプレイ)
10. 病院に行く(ロールプレイ)
11. ニュース・アナウンス(アナウンス・ロールプレイ)
12. アルバイトでのミスの謝罪(ロールプレイ)
13. 道を聞く(ゲーム)
14. 舞台や映画、コンサートに招待(ロールプレイ・スピーチ)
15. ディスカッション(対話・ディスカッション)

### 授業時間外の学習

毎週、各自復習すること。

### 教科書・参考書等

各回に必要なプリントを配付。

### 成績評価

授業への取り組みと習熟度で評価する。

- S 授業への取り組みがたいへんよく、英会話力がたいへん優れている。
- A 授業への取り組みがよく、英会話力が優れている。
- B 授業への取り組みもしくは英会話力が優れている。
- C 授業への取り組みもしくは英会話力が不十分。
- D 授業への取り組みも英会話力も不十分。

科目名 英語B I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻 2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 田村 奈穂子

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

本授業では、イギリスの劇作家ピーター・シェファール (Peter Shaffer 1926 -2016) 作の戯曲『アマデウス』(Amadeus 1989) 第一幕を読む。本作は1979年にロンドンで初演をむかえた後、1981年にニューヨークでも上演され、1984年には映画化された。

『アマデウス』は、実在した作曲家モーツァルトとサリエリを中心人物とし、「モーツァルトの死にサリエリは関与したのか」、というテーマで構成されたフィクションである。

授業では担当を決め、輪番でテキスト訳を発表し理解度を確認する。また、学習内容を踏まえながら、テキストを使った発話練習を行う。担当者以外も自発的に意見を発表する等、積極的な授業への参加を期待する。

### 授業の到達目標

1. 英語の基礎文法を習得し、英語で書かれた戯曲を正確に読み取ることができる。
2. 日本語を介さず登場人物の行動およびセリフを理解し、感情が伴った発話を行うことができる。
3. 戯曲の精読を通し、歴史的・文化的知識を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、作品の概要、背景等の説明
2. 舞台装置等、冒頭のト書き
3. ウィーン市民の噂話①前半
4. ウィーン市民の噂話②後半
5. サリエリの罪の告白

6. サリエリの回想 (子供時代)
7. サリエリの全盛期
8. モーツァルトの噂①前半
9. モーツァルトの噂②後半
10. モーツァルトとコンスタンツェの会話①前半
11. モーツァルトとコンスタンツェの会話②後半
12. サリエリの衝撃
13. サリエリの祈り
14. モーツァルトを迎える宮廷
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

履修者には、単語・文法を踏まえた和訳準備のみならず、登場人物像・音楽的要素の把握、音読練習等、入念な予習が求められる。担当外の履修者も積極的な授業参加のためには十分な予習が必要である。授業後は、各自テキストを繰り返し音読し、単語、文法構造等の記憶定着に努めること。

### 教科書・参考書等

教材は授業時にプリントを配布する。

授業には辞書(紙/電子辞書いずれも可)を必ず持参すること。ただし、携帯電話・スマートフォンを辞書として使用するの認めない。

### 成績評価

期末試験60%、授業への参加態度40%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者 (作品を十分に理解できている)  
 A 総合点が80点以上の者 (作品を概ね理解できている)  
 B 総合点が60点以上の者 (作品をある程度で理解できている)  
 C 総合点が50点以上の者 (作品の理解度が半分程度である)  
 D 総合点が49点以下の者 (作品を理解できていない部分が多い)

科目名 英語B II

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻 2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 田村 奈穂子

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

「英語B I」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

基礎的英文法を確認しながらアメリカの劇作家バーナード・スレイド(Bernard Slade 1930-)の戯曲『セムタイム・ネクストイヤー』(Same Time Next Year 1975) 第一幕を読む。この戯曲は1975年にニューヨークで初演された後、1978年までに1453回のロングランを達成し、映画にもなった作品である。

本作はそれぞれ家庭のある男女が、年に一度、同じ場所で密会をするという二人芝居である。設定は単純ではあるが、その背景は1951年から1975年までの25年間に及び、各場面のセリフから、時代の影響を受けた登場人物の心理的变化と葛藤を読むことができる。

授業では担当を決め、輪番でテキスト訳を発表し理解度を確認する。また、学習内容を踏まえながら、テキストを使った発話練習を行う。担当者以外も自発的に意見を発表する等、積極的な授業への参加を期待する。

### 授業の到達目標

1. 英語の基礎文法を習得し、英語で書かれた戯曲を正確に読み取ることができる。
2. 日本語を介さず登場人物の行動およびセリフを理解し、感情が伴った発話を行うことができる。
3. 戯曲の精読を通し、歴史的・文化的知識を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、作品の概要、背景等の説明
2. 舞台装置等、冒頭のト書き
3. ドリスとジョージのぎこちない会話
4. 1951年のベストセラーとヒット曲
5. ドリスとジョージの罪悪感

6. 1951年の世界情勢
7. お互いの家族について
8. ドリスとジョージの出会い
9. 配偶者の良いところと悪いところを一つずつ①前半
10. 配偶者の良いところと悪いところを一つずつ②後半
11. 子供の写真
12. 5年後の近況報告①前半
13. 5年後の近況報告②後半
14. 子供からの電話
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

履修者は、単語・文法を踏まえた和訳準備のみならず、登場人物像の心理・時代背景等を説明できるよう十分に準備すること。また和訳準備、音読練習等、入念な予習が求められる。担当外の履修者も積極的な授業参加のためには十分な予習が必要である。授業後は、各自テキストを繰り返し音読し、単語、文法構造等の記憶定着に努めること。

### 教科書・参考書等

教材は授業時にプリントを配布する。

授業には辞書(紙/電子辞書いずれも可)を必ず持参すること。ただし、携帯電話・スマートフォンを辞書として使用するの認めない。

### 成績評価

期末試験60%、授業への参加態度40%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者 (作品を十分に理解できている)  
 A 総合点が80点以上の者 (作品を概ね理解できている)  
 B 総合点が60点以上の者 (作品をある程度で理解できている)  
 C 総合点が50点以上の者 (作品の理解度が半分程度である)  
 D 総合点が49点以下の者 (作品を理解できていない部分が多い)

科目名 演劇英語①②

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 James Sutherland

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

Welcome to the English Theatre course. Here we look at techniques and approaches to theatre making used in contemporary Europe and increase our knowledge English language ability. Punctuality is important, please arrive before class starts, black loose fitting clothing is recommended, we will also be working with no shoes and socks.

### 授業の概要

Students work in groups and creatively explore a variety of storytelling and narrative theatre techniques. Their challenge will be to collectively think of ways to apply all these to their final performance. Students are asked to apply all the skills they have learned to make a most original and compelling story presentation possible. Students build up confidence performing in English and learn about different ways to approach character. The course is designed to stimulate curiosity and pose questions. It aims to show how to achieve the progression from small improvisations, games and exercises to tackling larger topics, themes and improvisations. The emphasis is always towards devising - stimulating the reflex to create, compose and devise.

#### ①Circle Story Telling:

Students stand in a circle and have to tell a quick story while keeping everyone engaged. Here the students learn the art of stillness and audience awareness.

#### ②Pantomime Blanche:

Students learn to tell a story only using their bodies only involving the use of mime, posture & gesture to play all roles including the Narrator.

#### ③Figuration:

Students work in groups to create all props and scenery and verbally narrate the story as it unfolds. Themes are based around epic film themes like Star Wars, Superman, etc

#### ④Environmental Theatre:

The audience are space evenly around in the room as the students work among them and narrate a story using objects they bring into the room which act as sound effects.

#### ⑤Elemental:

Students learn the 4 basic elements of Fire, Water, Air, Earth and create epic stories like the Big Bang using their bodies and voice only.

#### ⑥Dark Theatre:

The audience sit in the dark and the students narrate and tell a story which only involves all senses expect sight.

#### ⑦Interactive Theatre:

Students set the room up to have different locations and sets where the audience will move to here the next chapter of the story like a guided tour.

#### ⑧Text Theatre:

Students are asked to you text like a Poem, Grimm Tales or a children's book to tell a story. This can be either done solo or in groups but it must become a physical experience.

### 授業の到達目標

1. Learning theatre vocabulary and improving communication in English
2. Learning how to use the voice and body to increase expressivity and understanding dialogue written in English.
3. Learning more about history and context of actor training in Europe in English and improve pronunciation and fluency in speaking in English.

### 授業計画

1. Games/Intro to course exercises part 1
2. Games/Circle storytelling/creation
3. Games/Pantomime Blanche/creation
4. Games/Figuration/creation
5. Games/Environmental Theatre/creation
6. Games/Elemental Theatre/creation
7. Games/Dark theatre/creation
8. Games/Interactive theatre/creation
9. Games/Text theatre/creation
10. Games/Final performance rehearsal ①
11. Games/Final performance rehearsal ②
12. Games/Final performance rehearsal ③
13. Games/Final performance rehearsal ④
14. Performance/presentation
15. Evaluate course games Conclusion/feedback

### 授業時間外の学習

Students practice in groups outside of class and memorize own work individually

### 教科書・参考書等

The teacher provides all the material.

### 成績評価

- S +90
- A +80
- B +60
- C +50
- D below 49

科目名 ドイツ語 I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし

### 授業の概要

このコースは、ドイツ語の基礎や知識のない学生を対象にドイツ語圏の人々と基礎的な日常会話ができるようになり、ドイツ文化や習慣、地域の見解を深めてもらうことを目標としている。授業で使用するテキストは、卒業・修了時(2年間)には、ドイツ語の公式テスト(Zertifikat Deutsch)を受ける能力を修得することができるものを使用する。また、授業では、テキストだけではなく、他のアイテムを使用し、受け身の授業ではなく、学生に自主的に参加して話をするスタイルで進め、学んだことを実用的に使えるよう、授業を進めていく。

### 授業の到達目標

- ドイツ語の文法の基本を学び理解することが出来る。
- 基本的なドイツ語のボキャブラリーを構築することが出来る。
- 発音を修得することが出来る。
- 異文化に触れ日本との違いを感じとることが出来る。

### 授業計画

1. あいさつ、自己紹介(アルファベット)
2. カウンティング(1~100まで)
3. Weekdays、Months(月)、day(日)
4. 動詞の現在人称変化
5. 定冠詞と名詞の格変化
6. 不定冠詞と名詞の格変化
7. 名詞と形容詞の使い方(一格)
8. 名詞(男性名詞、女性名詞、中性名詞) ex. 食べ物、飲み物
9. 4格

10. 名詞と形容詞の使い方(4格)
11. ein / kein (1格)
12. einen / keinen (4格)
13. 時計
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻文児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社

### 成績評価

受講態度と筆記試験の結果にて評価する。

- S 筆記試験の結果が100~90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%~80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%~60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%~50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「ドイツ語Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

ボキャブラリーが少なく、基本的な文法の習得でも充分にさまざまなことを表現し伝えることが出来ることを理解し、能動的にドイツ語を学んでいてもらいたい。授業では「ドイツ語Ⅰ」で使用したテキストを使用し、更にボキャブラリーや文法の幅を広げていく。

### 授業の到達目標

- ドイツ語の文法の基本を学び理解することが出来る。
- 基本的なドイツ語のボキャブラリーを構築することが出来る。
- 発音を修得することが出来る。
- 基本的なコミュニケーションスキルとリスニングスキルを修得出来る。
- 授業を通し、ドイツの文化の魅力を学び広い学識を身につけることが出来る。

### 授業計画

1. 復習
2. 単語(洋服)
3. 色
4. 2～3のプラクティス(4格の使い方)
5. ロールプレイ
6. 現在完了形
7. 現在完了形のプラクティス

8. コミュニケーションプラクティス
9. ロールプレイ
10. 3格と結びつく前置詞
11. 単語(3格の使い方)
12. 3格のプラクティス
13. 3格と4格
14. 復習
15. テスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社

### 成績評価

受講態度と筆記試験の結果にて評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅲ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

コース修了時にはドイツ語ボキャブラリーと文法の知識の幅を広げ、ドイツ語を自信を持って話せることを目標としている。授業では、発音や読解力の訓練をロールプレイ形式で進め、またテキストやCDを使用しながらリスニングトレーニングを行っている。その他ピクチャーワークシートなども使用していく。

### 授業の到達目標

- 一年目で身につけた基礎から、さらに流暢な発音が出る。
- 小文章を作成することが出来る。
- リスニング能力やコミュニケーションの能力を向上させることが出来る。
- 文法だけにとどまらずドイツの音楽の理解を深めることが出来る。

### 授業計画

1. 復習
2. 3格、4格(だれに/何を～)
3. どこで(3格)どこへ(4格)地図を使用①前半
4. どこで(3格)どこへ(4格)地図を使用②後半
5. 主文と副文(何故～warum/～なので weil)
6. ロールプレイ(内容5回目のレッスン)
7. 接続詞と副文(～にもかかわらず obwohl/～なので weil)
8. 接続詞と副文(～するとき wenn)
9. esの使い方
10. dassの使い方

11. ロールプレイ
12. コミュニケーションプラクティス
13. 従属の接続詞と副文
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社(1年目と同じ)

### 成績評価

受講態度と筆記試験の結果にて評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅳ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

前期同様のスタイルで進めて行く。またこれらの身に付けた能力をベースにドイツ語の文化やドイツ社会の習慣等を学生と共に話し合い、ディスカッションしながら授業を進め更に実用的なドイツ語に近づけて行く。この授業を通してドイツ語に関心を深め、その後も一過性で終るのではなく、ドイツ語を身近な物としてとらえ、学び続けて行って欲しい。

### 授業の到達目標

- 基本的な日常会話ができる。
- 自信を持って自己表現をし、実用的に使うことができる。
- ドイツの文化・習慣を理解し、広い視野を身につけることができる。

### 授業計画

1. 復習
2. 話法の助動詞①前半
3. 話法の助動詞②後半
4. 分離助詞
5. zu不定詞
6. 現在完了形
7. 現在完了形のプラクティス
8. 再帰代名詞と再帰動詞
9. 楽器、音楽関係

10. 比較級、最上級
11. 関係文の作り方
12. 過去形①前半
13. 過去形②後半
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社(1年目と同じ)

### 成績評価

受講態度と筆記試験の結果にて評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 イタリア語Ⅰ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

声楽専修は必修。

### 授業の概要

- 文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 導入、イタリア語へのアプローチ
2. イタリア語の発音、挨拶や簡単な自己紹介、数え方
3. 性と数、定冠詞等を中心としたイタリア語の特徴
4. 指示代名詞、形容詞の性と数の一致
5. 動詞essereを用いた文章の構造
6. 疑問詞che及びchiを用いた疑問文の作り方、その答え方
7. c'èとci sonoを用いた文章
8. 主語人称代名詞と動詞essereの直説法現在の活用
9. 動詞avereの活用変化とその使い方
10. avere、essereを用いた文章

11. 定冠詞と不定冠詞、前置詞等を中心とした文章の構造
12. 規則動詞の現在形とその使い方①
13. 規則動詞の現在形とその使い方②
14. 規則動詞を使った文章、疑問文&答えを中心に
15. まとめ

### 授業時間外の学習

予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 イタリア語Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

声楽専修は必修。「イタリア語Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 時間、曜日の表現
2. 動詞andareとvenire
3. 動詞andareとvenireの前置詞の使い方
4. 助動詞dovereを使った文章
5. 助動詞potereを使った文章
6. 助動詞volereを使った文章
7. その他の不規則動詞
8. 動詞piacereの使い方

9. 所有形容詞
10. 現在形のまとめ①
11. 現在形のまとめ②
12. 近過去の仕組み①
13. 近過去の仕組み②
14. 近過去を使った文章の作り方
15. 1年間の総復習

### 授業時間外の学習

予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 イタリア語Ⅲ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「イタリア語Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 導入、既習事項の確認
2. 現在形を用いての基本的な作文&会話練習①
3. 現在形を用いての基本的な作文&会話練習②
4. 近過去形を用いての基本的な作文&会話練習①
5. 近過去形を用いての基本的な作文&会話練習②
6. 再帰動詞の用法(現在形)
7. 再帰動詞の相互的用法(現在形)
8. 再帰動詞(近過去形)
9. avereを用いた文章

10. essereを用いた文章
11. 直接目的語代名詞の使い方
12. 近過去の文章における直接目的語代名詞の使い方
13. 半過去形の用法①
14. 半過去形の用法②
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 イタリア語Ⅳ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「イタリア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習①
2. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習②
3. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習③
4. 現在→近過去→半過去 総復習
5. 未来形の用法①
6. 未来形の用法②
7. 未来形と現在形を用いた基本的な作文&会話練習
8. 動詞piacere 他
9. 直接目的語代名詞

10. 間接目的語代名詞
11. 間接目的語代名詞の用法①
12. 間接目的語代名詞の用法②
13. 間接目的語代名詞と直接目的語代名詞の複合形
14. 総まとめ①
15. 総まとめ②

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 フランス語Ⅰ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 ローラ

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

ゼロから、ゆっくと楽しみながらフランス語の基本会話と日常会話での便利な表現を覚えていく。正しい発音の勉強もする。

### 授業の到達目標

「聞けて、読めて、書いて、話せて」の能力を身につけることを目的とする。各レッスンでは、発音の練習、聞き取り書き取りの練習、自己表現の練習も行う。

様々なテーマを通じて、前に勉強したことを復習しながらもっと深く勉強することで、楽に知識を身につけることができる。

### 授業計画

1. Leçon 1a - 挨拶をする。自己紹介をする。名前を聞く。
2. Leçon 1b - 名前、職業、国籍を言う。数字(1~10)
3. Leçon 2a - 人について描写する。住んでいる所を詳しく言う。
4. Leçon 2b - 年齢を言う。数字(11~20)
5. Leçon 3a - 自分のことを話す。他の人について話す。職業を聞く。
6. Leçon 3b - 否定する。質問する。数字(20~30)
7. Leçon 4a - 自分の好みについて話す。他の人の好みについて聞く。

8. Leçon 4b - 意見を言う。数字(30~69)
9. Leçon 5a - 家族について話す。理由を言う、尋ねる。
10. Leçon 5b - 何かについて肯定的、否定的に話す。
11. Leçon 5c - 数字(69~99)
12. Leçon 6a - 物の位置を言う。(dans/ sur)
13. Leçon 6b - 物の位置を聞く。
14. Leçon 6c - 質問に答える(単数形)
15. Évaluation - 試験

### 授業時間外の学習

宿題・課題がある場合は授業前にその準備を必ずすること。

### 教科書・参考書等

Vincent Durrenberger『フランス語の方法 - コミュニケーションと文法の基礎 - (改訂版)』(駿河台出版社)

### 成績評価

- 実習への取り組みと受講態度50%、実技試験50% 100点換算
- S：総合点が90点以上の者
- A：総合点が80点以上の者
- B：総合点が60点以上の者
- C：総合点が50点以上の者
- D：総合点が49点以下の者

科目名 フランス語Ⅱ

授業形態 演習  
(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 ローラ

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「フランス語Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

楽しみながらフランス語の基本会話と日常会話での便利な表現を覚えていく。正しい発音の勉強もする。

### 授業の到達目標

「聞いて、読めて、書いて、話せて」の能力を身につけることを目的とする。各レッスンでは、発音の練習、聞き取り書き取りの練習、自己表現の練習も行う。

様々なテーマを通じて、前に勉強したことを復習しながらもっと深く勉強することで、楽に知識を身につけることができる。

### 授業計画

1. Leçon 7a – 物を描写する。物の位置を聞く、質問に答える(複数形)
2. Leçon 7b – 物の色を聞く。
3. Leçon 7c – 着ている物について話す。
4. Leçon 8a – 物の位置関係を言う。①
5. Leçon 8b – 物の位置関係を言う。②
6. Leçon 9a – カフェで注文する。
7. Leçon 9b – 市場、パン屋などで買い物をする。数字(100～1000)

8. Leçon 10a – 食生活について話す。

9. Leçon 10b – 統計について話す。

10. Leçon 10c – 自分の意見を言う。

11. Leçon 11a – 国について話す。

12. Leçon 11b – 天気を言う。

13. Leçon 12a – 誰が、どこへ、いつ、何故、どうやって行くか言う。

14. Leçon 12b – 数字(10万まで)。道を尋ねる。

15. Évaluation – 試験

### 授業時間外の学習

宿題・課題がある場合は授業前にその準備を必ずすること。

### 教科書・参考書等

Vincent Durrenberger『フランス語の方法 – コミュニケーションと文法の基礎 – (改訂版)』(駿河台出版社)

### 成績評価

実習への取り組みと受講態度50%、実技試験50% 100点換算

S: 総合点が90点以上の者

A: 総合点が80点以上の者

B: 総合点が60点以上の者

C: 総合点が50点以上の者

D: 総合点が49点以下の者

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

芸術科音楽専攻

科目名 音楽基礎演習—バロック・ダンス

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 浜中 康子

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

音1必修。

### 授業の概要

17世紀初めの頃から18世紀半ばにかけてフランス宮廷を中心に栄え、ヨーロッパ中に広まっていったダンスをバロック・ダンスと称する。メヌエットやガヴォット等がその代表的なものであり、日頃演奏や鑑賞を通して関わっているこれらのバロック舞曲を、実際のダンス・ステップを通して体験する。バロック・ダンスのステップや踊り方は、現存する舞踏譜やダンス教本によって300年以上経たず、復元することができる。これらの読み方についても触れ、音楽とダンスの歴史的及び運動的関連性を明らかにする。

ダンスの実習と共に、器楽で舞曲を演奏し、実際にダンスの伴奏を試みたい。

### 授業の到達目標

様々な舞曲の中でブレ、メヌエット、カヴォットを演奏できるように仕上げる事ができる。

### 授業計画

1. バロックダンスについての概説/テクニックの基礎(ポジション他)
2. 歴史的背景/テクニックの基礎
3. ブレの基本的ステップ(音楽と動きのアクセントの関係)
4. ブレとメヌエットの基本ステップ①舞踏譜の読み方
5. ブレとメヌエットの基本ステップ②舞踏譜の読み方
6. ブレ①舞踏譜に記述された振付を踊る
7. ブレ②舞踏譜に記述された振付を踊る
8. 発表/ブレのダンスとともに舞踏上の音楽を演奏する
9. メヌエット①基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
10. メヌエット②基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
11. メヌエット③宮廷舞踏のマナーを踏まえて踊る(お辞儀/エスコートの方法)
12. メヌエットのまとめ①ガヴォットのステップと練習
13. メヌエットのまとめ②ガヴォットのステップを舞踏譜の振付で踊る
14. メヌエット、ガヴォットの仕上げ/サラバンドやジグについて

15. メヌエット、ガヴォットの発表/サラバンドやジグについて  
順序や内容は、履修者の能力や進度に合わせて変更する可能性があります。

### 授業時間外の学習

- 授業中は知的な理解に留まることも身体表現としてスムーズに行えるようにステップ名と動きを結びつけながらリピーター練習すること。
- 様々な作曲家・時代の舞曲を数多く演奏・鑑賞すること。

### 教科書・参考書等

- 書籍：浜中康子著「栄華のバロック・ダンス—舞踏譜に舞曲のルーツを求めて」音楽之友社
- DVD：浜中康子監修「フランス宮廷の華『バロック・ダンスへの招待』I・II」音楽之友社
- 服装：膝の曲げ伸ばしが行いやすいパンツまたはスカート(タイトスカート不可)、ダンスシューズ使用

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み・レポート、学期末実技発表の結果を総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽理論基礎 a・b

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 福田 恵子・長谷川 郁子

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

出された宿題、テスト準備を真面目に行うこと。

### 授業の概要

音楽を学ぶにあたって必ず理解しておかねばならない大前提としての「楽典」を初歩から講義する。専門実技はもちろん、「和声」「楽式」「対位法」「SHM」その他音楽理論に関する科目の習得に必要な欠くべからざる基礎となる科目である。

### 授業の到達目標

• 楽典の真の習得により、音程、音階、和音、調等が有機的に関連づけて理解できるようになること。

### 授業計画

1. 本講座の概要説明及び習得度確認テスト
2. 音の不思議、楽譜の常識
3. 音程の説明
4. 音程の聴き分け、名曲における効果的音程の使いかた
5. 小テスト、音階の説明
6. 音階の続き、調号
7. 調号の確認
8. 小テスト、和音の種類、和音の位置
9. 調における和音の役割
10. Dominantの和音①属七の和音について
11. Dominantの和音②減七の和音について
12. 終止形、借用和音について
13. 調の判定
14. 和声外音とは
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

テキストを熟読した上での宿題の実践。

### 教科書・参考書等

入学前に配布したテキスト。参考書としては「楽典 理論と実習」(音楽之友社)を所持することをお勧めする。初回授業時に説明する。

### 成績評価

- 小テスト成績20%、期末試験成績70%、授業態度10%、総合100点満点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽理論[和声] I・II a

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 平井 正志

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音1(日本音楽専修以外)必修

### 授業の概要

本科の2年間に、ロマン派までの西洋音楽における和声学の基礎理論を理解し、課題の実習を通して、和声機能の本質を把握し得る能力を育成する。

1年次には、三和音の基本形および転回形とドミナント諸和音(属七・属九の和音)の配置、連結に関する原則を中心に、終止形の形成、様々な終止(全終止、半終止、偽終止、変終止)に対する考察、基本的な声部進行法について学習する。

### 授業の到達目標

- 三和音(各種転回形を含む)による和声体を扱うための基礎力を確実に習得することができる。
- 属七の和音、属九の和音を扱うことを通じ、より厳密な声部進行の書法を身に付けることができる。

### 授業計画

(前期)

- 和声学概論: 初歩の音響学に対する知識
- 四声体作成における楽典知識の確認 配置の規則 良好な音響状態についての考察
- 基本形三和音の配置と連結①和声法の原則と終止形
- 基本形三和音の配置と連結②声部進行法に関する禁則 例題の実施と確認
- 基本形三和音の配置と連結③旋律的配慮 配置転換の可能性 例題の実施と確認
- 基本形三和音の配置と連結④フレーズ構成と終止について 本課題の出題
- 基本形三和音の配置と連結⑤実施課題確認
- 三和音の第1転回形①配置法 声部進行法 例題の実施と確認
- 三和音の第1転回形②例題の実施と確認 本課題出題
- 三和音の第1転回形③実施課題確認
- 三和音の第2転回形①概論 配置法 例題の実施と確認
- 三和音の第2転回形②声部進行法 出題第1回
- 三和音の第2転回形③実施課題確認第1回と出題第2回
- 三和音の第2転回形④実施課題確認第2回
- 前期教程内容の理解度確認

(後期)

- 属七の和音①限定進行、基本形の2種類の配置

- 属七の和音②声部進行の留意点 出題第1回
- 属七の和音③実施課題の確認第1回 出題第2回
- 属七の和音④実施課題確認第2回
- 属七の和音の根音省略形①第7音の例外進行 2種類の配置
- 属七の和音の根音省略形②声部進行法 出題第1回
- 属七の和音の根音省略形③実施課題確認第1回 出題第2回
- 属七の和音の根音省略形④実施課題確認第2回
- 属九の和音①基本形 転回形の配置法 配置制限 和音形態概論
- 属九の和音②声部進行法 出題第1回
- 属九の和音③実施課題確認第1回 出題第2回
- 属九の和音④実施課題確認第2回 出題第3回
- 属九の和音⑤実施課題確認第3回
- 後期内容の総括
- 全教程内容の理解度確認

### 授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認し、点検しておくこと。

止む終えない事情で欠席した場合は、講義内容と課題を他の受講者から入手するなどして自習しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書: 課題を配布

参考書: 執筆責任 島岡 譲 『和声「理論と実習」第一巻』音楽之友社

### 成績評価

前期末に筆記試験を行う。筆記試験の成績を元に下記の評価を行うが、単位認定の条件としては、課題の実施実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。

- S 90点～100点: 重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達を感じられる。
- A 80点～89点: 重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い。
- B 60点～79点: 概ね重要な公理が理解できているが、課題の実施に際しては練達不足。
- C 50点～59点: 重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない。
- D 50点未満: 重要な公理が理解出来ておらず、和声法を修めたと認めがたい。

科目名 音楽理論[和声] I・II b

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音1(日本音楽専修以外)必修。

和声法は、継続した学習の積み上げが大切とされるので、欠席・遅刻は厳禁とする。

### 授業の概要

音楽作品を理解する上で和声の知識は必須である。論理的に楽曲を把握することは、演奏表現をする際に、より鮮明なイメージを作る手助けともなりえる。その論理的な理解に必要な基礎知識の一つとして、和声法の学習があげられる。和声課題の実施とともに、具体的な作品の分析を行い、音楽における和声構造の仕組みを捉え、音楽のより深い理解を目指す。一年目は、和声法の学習に必要な予備知識の確認を導入とし、基本形・転回形・属七の和音のそれぞれの進行を理解する。

### 授業の到達目標

具体的な楽曲の音楽のより深い理解・把握と、課題実施による、基礎的な和声進行の定型の学習とその応用ができる。

### 授業計画

- 和声学習に必要な予備知識の確認と、三和音の組み立て(密集と開離)。
- 音域と配置
- 調性
- 基本形の実習①
- 基本形の実習②
- 基本形の実習③
- 基本形の実習④他の調での実習①
- 基本形の実習⑤他の調での実習②
- 第一転回形—音域と配置①
- 第一転回形—音域と配置②
- 前期のまとめと確認
- 第二転回形—音域と配置
- 第二転回形—実習①
- 第二転回形—実習②
- 第二転回形—実習③
- 第二転回形—他の調での実習①

- 第二転回形—他の調での実習②
- 属七の和音—機能①
- 属七の和音—機能②
- 属七の和音—機能③
- 属七の和音—機能④
- 属七の和音—音域と配置①
- 属七の和音—音域と配置②
- 属七の和音—実習①
- 属七の和音—実習②
- 楽曲の和声分析と実施①
- 楽曲の和声分析と実施②
- 楽曲の和声分析と実施③
- 楽曲の和声分析と実施④
- 年度末のまとめ

### 授業時間外の学習

授業で学習したことの、確認と課題の宿題。

### 教科書・参考書等

池内友次郎 他著『和声 理論と実習 I』音楽之友社

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み(40%)、学期末課題(60%)の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽史概説Ⅰ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

日本音楽専修以外は必修。

### 授業の概要

この授業では、西洋音楽の歴史を概観する。時代様式、文化制度の変遷とともに、古代から現代までクロノロジカルに音楽史を追う。単なる作曲家列伝ではなく、時代精神や芸術観を理解しながら、音とともに、立体的な音楽史を描く。

### 授業の到達目標

- 西洋音楽の歴史において重要な事柄について、自分の言葉で説明できる。
- 西洋音楽の歴史を、机上のものとしてではなく、音と関連させて理解できる。

### 授業計画

#### 【音楽史概説Ⅰ】

- 音楽史を学ぶ意義、古代の音楽
- グレゴリオ聖歌
- ポリフォニー音楽の発展プロセス
- ゴシック期の音楽
- 世俗音楽
- ルネサンス期
- オペラの誕生
- 調性の確立
- 合奏協奏曲と独奏協奏曲
- バロック期の鍵盤作品
- 前古典派から古典派へ
- ハイドンの芸術
- モーツァルトの芸術
- 古典派時代のピアノ協奏曲
- 学習到達度の確認(テスト)

#### 【音楽史概説Ⅱ】

- ベートーヴェンの芸術
- 交響曲の地位
- リート

- ロマン主義
- サロン音楽
- 標題音楽
- 絶対音楽
- ナショナリズムの台頭
- ワーグナーの楽劇
- 世紀末芸術
- 調性のゆらぎ
- リズムの革新
- 12音技法からトータル・セリエリズムへ
- 作品概念の変容
- 学習到達度の確認(テスト)

※履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更することを厭わない。

### 授業時間外の学習

- 授業時間には作品の一部しか視聴できないので、授業外に全曲聴くことを推奨する。
- 世界史や西洋美術史など、音楽史以外の関連文献を積極的に読むことを推奨する。
- テストに備えて、常に授業内容を復習しておくことを推奨する。

### 教科書・参考書等

授業で配布するレジュメの末尾に参考文献一覧を掲載する。  
なお、これまでに一冊も西洋音楽通史の著作を読んだことがない者は、初回の授業前に通読しておくことを推奨する。

### 成績評価

平常点50%、テスト50%として評価する。平常点とは、授業中の発言とパフォーマンスと、配布するリアクション・ペーパーの点数の合計である。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 日本音楽理論AⅠ・Ⅱ／BⅠ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 森重 行敏

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 〇/〇

ー

### 履修条件

日本音楽専修は必修。他専攻の学生も歓迎する。ただし日本音楽について関心を持つ者とする。授業への取り組みを重視する。

### 授業の概要

日本音楽では伝統的に、理論より実践が重視されてきたため、理論的用語や概念が統一されておらず、流派や研究者においてもまちまちであることが多い。

この授業は音楽にとって理論とは何かと言う根本的な観点に立ち返って、日本音楽のさまざまな側面を観察するとともに、洋楽やアジア諸民族の音楽とも比較しながら、その理論的基礎を見つけ出して行くこととしたい。

### 授業の到達目標

- 日本の楽器や音楽についての基礎知識を身につけるとともに、その音楽的特性、理論的構造などを指摘できる。

### 授業計画

#### 〔前期〕

- オリエンテーション
- 日本音楽の概観
- 日本の楽器と楽譜①高音譜と奏法譜
- 日本の楽器と楽譜②箏の縦書き譜
- 日本の楽器と楽譜③箏の横書き譜
- 日本の楽器と楽譜④三味線の数字譜
- 日本の楽器と楽譜⑤三味線の奏法譜
- 日本の楽器と楽譜⑥尺八
- 日本の楽器と楽譜⑦笛
- 日本の楽器と楽譜⑧箏
- 日本の楽器と楽譜⑨笙
- 日本の楽器と楽譜⑩琵琶
- 日本の楽器と楽譜⑪打楽器
- 日本の楽器と楽譜⑫その他
- 前期まとめ

#### 〔後期〕

- 日本の音律①三分損益
- 日本の音律②自然倍音と純正律
- 日本の音律③平均律とは何か
- 移動ドと固定ド①洋楽の場合
- 移動ドと固定ド②邦楽の場合
- 日本のリズム①拍と拍子
- 日本のリズム②間とずれ
- 日本のリズム③自由リズム
- 日本音楽の構造①序破急
- 日本音楽の構造②雅楽の構造
- 日本音楽の構造③語り物音楽の構造
- 日本音楽の構造④箏曲段物の構造
- 世界の中の日本音楽①東アジアとの関連
- 世界の中の日本音楽②東南アジアとの関連
- 後期まとめ

### 授業時間外の学習

積極的に伝統芸能の鑑賞をすることを奨める。詳細については随時紹介する。

### 教科書・参考書等

必要なプリントは随時配布する。  
参考書としては月溪恒子著「日本音楽との出会い」(東京堂出版)など。

### 成績評価

授業への取り組み・態度50%、課題50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 日本音楽史概説Ⅰ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 野川 美穂子

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

縄文・弥生時代から現在にいたるまで、日本人は様々な音楽に親しんできた。しかし、現在の生活では、日本の伝統的な音楽を聴く機会が少なくなっている。この授業では、日本音楽の変遷をたどりながら、楽器や音楽様式の特徴、文学・演劇・舞踊との関連などについて概説する。知識としてではなく音としての理解を深めるために、毎回、視聴覚教材を活用する。

### 授業の到達目標

時代や種目による違いをたどりながら、日本音楽の魅力を知ることができる。

### 授業計画

〔前期〕

1. 日本音楽の枠組みと特徴
2. 日本古来の音楽①縄文時代の出土楽器
3. 日本古来の音楽②弥生・古墳時代の出土楽器
4. 雅楽の歴史と音楽①雅楽の種類の種類、舞楽
5. 雅楽の歴史と音楽②管弦(越殿楽)とその影響
6. 雅楽の歴史と音楽③国風歌舞と平安時代の歌曲
7. 声明の歴史と音楽①声の技法、鳴物
8. 声明の歴史と音楽②法要のさまざま
9. 琵琶楽の歴史と音楽①琵琶の種類、平家
10. 琵琶楽の歴史と音楽②盲僧琵琶、近代琵琶
11. 能楽の歴史と音楽①能舞台と音楽
12. 能楽の歴史と音楽②能の作品の種類
13. 能楽の歴史と音楽③《葵上》
14. 能楽の歴史と音楽④式三番、狂言

15. 古代、中世の日本音楽のまとめ〔後期〕

1. 三味線の伝来、三曲の楽器
2. 地歌の歴史と音楽
3. 箏曲の歴史と音楽
4. 尺八楽、胡弓楽の歴史と音楽
5. 文楽と歌舞伎に使われる楽器
6. 文楽の歴史と音楽①三業一体について
7. 文楽の歴史と音楽②《艶容女舞衣》酒屋の段
8. 歌舞伎の歴史と音楽①歌舞伎の歴史と特徴
9. 歌舞伎の歴史と音楽②《勧進帳》
10. 豊後系浄瑠璃の歴史と音楽
11. 長唄の歴史と音楽①長唄の特徴
12. 長唄の歴史と音楽②長唄の多様化
13. 近代の日本音楽
14. 現代の日本音楽
15. 近世、近代、現代の日本音楽のまとめ

### 授業時間外の学習

授業でとりあげた種目や作品の特徴を整理し、より深く調べること。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布する。参考書については、その都度指示する。

### 成績評価

出席状況と前期・後期末の筆記試験により評価する。授業への取り組み50%、前期末・後期末の筆記試験の成績50%の配分で評価する。S(90～100)、A(80～89)、B(60～79)、C(50～59)、D(50未満)。

科目名 日本音楽特講

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 杵屋 已織

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 △

ー

### 履修条件

基本的には教職受講者対象。次に音楽専攻対象。専攻科演劇専攻の履修も認める。教職受講者、音楽専攻、専攻科演劇専攻の受講が少ない場合はそれ以外の学生の受講を認める。

### 授業の概要

日本音楽が学校教育に取り入れられるようになり、学校教育の現場に立つ教員にとっても、日本音楽に対する知識や経験が必要となってきた。

具体的に教育者としての立場になった時に使える知識と三味線を弾く技術を学び、三味線を弾く事により日本音楽の音としての個性を知り、日本人として音の美しさも感じていく。日本音楽の年月を重ねた深さについても考えていく。

### 授業の到達目標

- 三味線を中心に日本の楽器についての正しい知識を持つことができる。
- 西洋音楽とは違った音階を用いている日本の音を知ることができる。
- 三味線について正しい扱い方・正しい姿勢を習得することができる。

### 授業計画

1. 日本音楽の簡単な説明と話。三味線の部位の名称を学ぶ。楽器にさわる。
2. 三味線の扱い方。構え方。音の出し方。
3. 長唄の説明。譜面の説明。
4. 譜面を読みつつ三味線を弾く。
5. 楽器の特性を理解しつつ弾く。その折に合わせた日本音楽の説明。

6. 長唄①松の緑の前弾を弾いてみる。
7. 長唄②松の緑の前弾を指の使い方を考えながら弾いてみる。
8. 舞台における演奏の説明、楽器の演奏。
9. 唄の簡単な説明と発声。楽器の演奏。
10. 長唄③供奴を唄ってみる。
11. 合奏の準備。
12. 合奏のコツと実践。
13. 合奏の試演。
14. 合奏。
15. 課題発表。

### 授業時間外の学習

歌舞伎の鑑賞。邦楽器を使用した演奏会の鑑賞。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず授業時にプリント配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・レポート、学期末課題の結果を総合的に判断して行う。  
S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 演奏会制作法

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 伊藤 直樹

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

演奏会等の企画・制作に興味があり、自らの音楽活動に役立たい。

### 授業の概要

文化ホールなどで行う演奏会は、企画から実施まで細かな行程のもとに実施されている。本授業では、演奏会実施の目的や意図を明確にしたうえで、企画から予算作成、公演実施に至るまでの基礎知識を学び、各々が企画書を作成し、発表・考察を行う。

### 授業の到達目標

演奏会を企画・実施するまでの内容や行程を理解し、演奏会の企画制作ができる。

### 授業計画

1. 導入 (授業内容と目的、基礎アンケート)
2. 文化ホールの役割・アウトリーチについて (事例紹介)
3. 企画演習 企画書 (1) の作成
4. 企画演習 企画書 (1) の作成・発表・考察①
5. 企画演習 企画書 (1) の発表・考察②
6. 演奏会実施までのスケジュールと内容について
7. 演奏会実施に係る予算と内容について
8. 著作権法、楽曲使用料等について
9. 企画演習 企画書 (2) の作成
10. 企画演習 企画書 (2) の作成・発表・考察①
11. 企画演習 企画書 (2) の発表・考察②
12. 劇場の仕組み、劇場用語等について

13. 企画演習 企画書 (3) の作成
14. 企画演習 企画書 (3) の作成・発表・考察
15. 授業総括

### 授業時間外の学習

劇場公演の鑑賞、近隣文化ホールの見学。

### 教科書・参考書等

資料プリントを配布。

### 成績評価

授業の取り組み姿勢/企画書等の提出物で判断する。

- S 基本的な内容を十分把握できて、授業への取り組みが積極的である。
- A 基本的な内容を十分理解できて、授業への取り組みが積極的である。
- B 基本的な内容をほぼ理解できて、授業への取り組みが積極的である。
- C 基本的な内容をある程度理解できているが、授業への取り組みが積極的でない。
- D 基本的な内容を理解できておらず、授業への取り組みが積極的でない。

科目名 アウトリーチ概説

授業形態 講義

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

アウトリーチとは、英語で手を伸ばすことを意味する言葉である。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービスなどの意味で多用される。音楽でのアウトリーチというものは、演奏家が学校や施設などに向いて、普段の生活空間(教室や音楽室)で演奏会やワークショップを行うことである。ここでは、その音楽におけるアウトリーチ活動について、音楽というソフトをどう社会に還元していくか、また、聴衆と演奏を通して感動を共有できる舞台(プログラム)や手法を模索していく。

### 授業の到達目標

- 以下の2点をこの授業の到達目標とする
- ・学年や対象に適したプログラム作りができる。
  - ・一時間のコンサートで何を伝えたいか、また何を伝えるべきかを考え、それを生かした企画を作ることができる。

### 授業計画

1. 導入 アウトリーチとは
2. 公共ホールや自治体によるアウトリーチの評価と課題
3. 施設や場所によつそれぞれのアウトリーチの手法
4. 楽器紹介について①それぞれの楽器の分類
5. 楽器紹介について②楽器の仕組み、歴史を知る
6. 楽器紹介 発表
7. 学校訪問アウトリーチについて①小学校

8. 学校訪問アウトリーチについて②特別支援学校
9. 学校訪問アウトリーチについて③学童
10. 養護施設におけるアウトリーチについて
11. 福祉施設におけるアウトリーチについて
12. アウトリーチの社会的要請、意義について
13. アウトリーチにおけるワークショップの手法①
14. アウトリーチにおけるワークショップの手法②
15. 振り返りと総括

### 授業時間外の学習

- ・プログラミングするにあたり色々曲を調べておくこと
- ・専修楽器について構造など勉強しておくこと

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み50%・レポート20%、課題発表30%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 アウトリーチ演習

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

前期の「アウトリーチ概説」を履修した者。

### 授業の概要

現在、自治体や各文化会館での自主事業に置いて、学校や施設に演奏家を派遣するアウトリーチ事業が盛んに行われている。普段の生活(勉強)の場で、少人数で行われるこのコンサートは演奏者と聴衆の垣根のないバリアフリーなコンサートとして大変喜ばれる。この講座では、前期に学んだアウトリーチの手法を生かして実際にプログラミングをし、演奏発表する。

### 授業の到達目標

以下の3点をこの授業の到達目標とする

- 聴衆と感動が共有できるコンサート作りができる。
- 一時間のコンサートで何を伝えたいか、また何を伝えるべきか考えることができる
- 聴き手に伝わる演奏、表現技術の習得

### 授業計画

1. 導入
2. 企画作り①コンサート
3. 企画作り②ワークショップ
4. プログラム構成について
5. プログラム制作
6. 楽器演奏体験について
7. 楽器体験ワークショップ
8. 楽器体験ワークショップ(実践)
9. 演奏発表①

10. 演奏発表②
11. 演奏発表③
12. 演奏発表④
13. 演奏発表⑤
14. 演奏発表⑥
15. 総括 振り返り

### 授業時間外の学習

演奏発表に向けて個々、またはグループで練習をしっかりとしてくること。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・演習発表50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、課題への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音響学

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 岩崎 真

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

音響学の対象は非常に広い範囲にわたる。本講義は前期のみであり回数も限られているため、「音」に関する基礎的なことと、音響学的な側面が実際の音楽とどう関連しているかという、その二つの視点で講義をすすめていく。

### 授業の到達目標

「音とはなにか」ということに、常識とよりいっそうの興味を持ち、自分自身の音楽やその表現に活かせる取っ掛かりをつかむことができる。

### 授業計画

1. 音響学概観①導入
2. 音響学概観②オーディオの歴史を主として
3. 音の諸要素①高さ
4. 音の諸要素②大きさ
5. 音の諸要素③音色
6. 波形とスペクトル
7. サウンドスペクトログラム。フォルマント
8. 映画「カストラート」にみる音声合成の例
9. 録音技術
10. ショルティ「リング」における録音技術の例
11. バーンスタイン「ウエスト・サイド・ストーリー」における録音技術の例

12. コンサートホール①ホールの形状。日本の代表的なコンサートホール
13. コンサートホール②日比谷公会堂と東京文化会館
14. 初期の電子楽器
15. 音の発生と伝搬：再び「音」とは

### 授業時間外の学習

特に指示しないが、しっかり復習すること。疑問点をそのまま残さない。

### 教科書・参考書等

『サウンドシンセシス』(講談社サイエンティフィック)を教科書として使用する。また必要に応じてプリントを配布する。参考書は随時指示する。

### 成績評価

以下の順に重視し、最終的な評価を決定する。詳しくは初回に説明するので、初回からの出席が望ましい。

- ①出席。3/4以下の場合失格とする。今年度は全15回の講義を予定しているため、4回以上休むと単位は修得できない(休めるのは3回まで)。
- ②試験またはレポート(試験方法については前もって告知する。)
- ③平常の理解度。毎回の授業記録用紙の記述も評価の対象とする。

科目名 ディクシオン(イタリア語)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 井上 由紀

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

声楽専修は必修。

### 授業の概要

一言葉と音楽の密接な関係—歌を学ぶ者にとって、この研究は大変重要なことである。ただ、難しく考えるのはよそう。まずは、明るく美しいイタリア語に親しみ、詩を読み表現する。そして楽譜を眺めてみる。そうすると、色々なことが発見できる。その発見をもとに皆さんと歌唱表現がさらに豊かになることを願いつつ、イタリア歌曲を中心としたディクシオンの学習を行う。声楽専修の方々だけでなく、楽器や伴奏の勉強をしている方も一緒に学ばれることを期待する。

### 授業の到達目標

作品にふさわしいイタリア語の歌詞の朗読ができ、実際に音楽の中でそれを理解し表現できる。

### 授業計画

1. イタリア語の音に慣れ、親しむ
2. 正しく明確な発音をする
3. 単語の意味を考え表現する
4. 繰り返しの表現を学ぶ
5. 音節の数、押韻を考える
6. 強調すべき音節、単語を考え表現する
7. 表現の速さや間を考える
8. レチタティーヴォの学習①

9. レチタティーヴォの学習②

10. レチタティーヴォの発表

11. 歌詞と音のつながりを考える

12. 伴奏者とのコミュニケーションをはかる①

13. 伴奏者とのコミュニケーションをはかる②

14. 鑑賞

15. まとめ

☆講義内容に関しては、受講生の理解度をみて、前後することがある。

☆取り上げる曲については、受講生の声種を考慮し、その都度選ぶ(イタリア古典歌曲が中心)。

### 授業時間外の学習

事前に配布される楽譜・詩によく目を通し、どのような内容の曲なのかを考えること。また授業で学習したことへの復習に努めること。

### 教科書・参考書等

授業時にその都度指示、プリントを配布する。

### 成績評価

授業に取り組む姿勢(30%)、中間発表(20%)、学期末朗読試験(50%)にて総合的に評価する。

S 基本的な諸事項を十分に把握し、優れた発表ができる

A 基本的な諸事項を十分に把握し、発表ができる

B 基本的な諸事項をほぼ把握し、発表ができる

C 基本的な諸事項の理解に欠け、適切な表現ができない

D 基本的な諸事項を理解せず、適切な表現ができない

科目名 S. H. M. I・II

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻1年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 塩崎・池田・加藤・三瀬

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音1必修。

各自、能力を向上させる努力を、常に応用すること。

遅刻をせずに、きちんと出席すること。出欠は各クラス同一条件で厳しくとる。

### 授業の概要

SHMはSolfège、Harmony、Melodyの頭文字をとったもの。音楽に携わる者にとって重要な基礎力となる。学ぶ内容は多彩。弛まぬ訓練を必要とするが、大切なのは遊びの要素も内包するので楽しんで練習すること。身につけたソルフェージュ力は必ず音楽活動に大きく役立つこと必定。

レベル別4クラスに分けて授業を行う。

・正しい音程を身につける・初見視唱の練習

・音楽的なフレーズを身につける・長調と短調の理解

・メロディーの書き取り

・二声、三声等同時に鳴る音の認識

・和音の種類の見分け

・四声体の書き取り、その重唱

・多様な調への挑戦

・旋法や様々な音階による音楽にふれる

・移調奏

### 授業時間外の学習

各々苦手とする分野を積極的に自習する。

### 教科書・参考書等

クラスの担当教員から指示される場合もある。

### 成績評価

学期末に実施する一斉テストで単位評価する。S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者

### 授業計画

入学後最初の授業日に、クラス分けテストを一斉に実施する。

授業は、各クラスごとに、学生それぞれの能力・状況に対応した内容及び進度をとる。より適切なクラスへの移動が可能となるように、各学期の終わりに、再びクラス分けテストを実施する。

通年の授業計画については、漠然とした内容を記すが、前述のとおり各クラスで異なる。

・正しい楽譜の書きかた・リズム(音価)の正しい理解

・多様な拍子の理解

科目名 合唱Ⅰ・Ⅱ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 福永 一博

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

本授業は女子(日本音楽専修以外)必修科目である。音楽大学で、なぜ合唱が必修であるかを考え、熱意・意欲を持って受講すること。

### 授業の概要

この授業では、合唱の「基礎」を学ぶ。合唱とは、声楽の技術に立脚した芸術であるので、楽器となる身体の使い方を知ることからはじめ、呼吸、発声の基礎的な訓練を行う。他方、合唱とはアンサンブルの芸術であるので、「声を磨く」と同じくそれ以上に「耳を育てる」ことが大切である。ハーモニーやアンサンブルを磨くための基礎的な訓練も同時に行なっていく。課題は簡易な曲からはじめ、アカペラの作品、ピアノ付きの作品なども扱いながら、後期はグループに分かれての発表なども行いたい。

### 授業の到達目標

- ・声楽の基礎を身につけることができる。
- ・アンサンブルの基本を身につけることができる。
- ・合唱指導の方法を学ぶことができる。

### 授業計画

1. 導入/パート分け  
以下第2～15回はウォームアップエクササイズ・プレトレーニング・発声練習・アンサンブルトレーニングなどを通じて合唱の基本を身に付けながら、簡易な作品を用いて演習を行う。
2. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング①日本の童謡・唱歌・民謡素材の合唱曲①
3. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング②日本の童謡・唱歌・民謡素材の合唱曲②
4. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング③日本の童謡・唱歌・民謡素材の合唱曲③
5. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング④日本の童謡・唱歌・民謡素材の合唱曲④
6. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑤日本語の合唱曲①
7. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑥日本語の合唱曲②
8. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑦日本語の合唱曲③
9. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑧日本語の合唱曲④
10. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑨日本語の合唱曲⑤(ピアノ付)
11. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑩日本語の合唱曲⑥(ピアノ付)
12. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑪外国語の合唱曲①
13. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑫外国語の合唱曲②

14. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑬外国語の合唱曲③
15. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング⑭外国語の合唱曲④
16. グループ分け
17. グループによる練習①選曲(ピアノ付き日本語の合唱曲)
18. グループによる練習②音取り
19. グループによる練習③音楽作り
20. グループによる練習④仕上げ
21. グループによる発表①
22. グループによる発表②
23. グループ分け/グループによる練習①選曲(アカペラの外国語の合唱曲)
24. グループによる練習②音取り
25. グループによる練習③音楽作り
26. グループによる練習④仕上げ(1)
27. グループによる練習⑤仕上げ(2)
28. グループによる発表①
29. グループによる発表②
30. 総括

なお、第17～30回はグループによる練習と発表を繰り返しながら、課題の発見・克服を試みたり、他グループの合唱を聴いて、気が付いたことを自らの能力向上に活かすことができるようにする。

### 授業時間外の学習

授業で配られた曲を事前に譜読みしておくこと。

### 教科書・参考書等

その都度指示する。

### 成績評価

成績評価は、授業への取り組み(40%)、受講態度(30%)、発表(30%)を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱能力、授業への取り組みに問題があった者)。

科目名 オーケストラ・スタディA/B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 志村 寿一

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

弦楽器専修者は必修である。

### 授業の概要

後期「合奏」授業への準備段階とする。

- ① オーケストラプレイヤーとしての心がまえ、事前準備の重要性の認識。各自の練習、スコアの用意、CD等なども聴き、作品を理解して臨む。
- ② 演奏するためのテクニックやアンサンブル能力を習得する。パートごと、時に一人づつの演奏を課しながら、個人、セクションの責任を高める。それぞれのパートを把握し、ひとりひとりがオーケストラ全体を捉えられるようにする。

### 授業の到達目標

オーケストラを通して、個人の、そしてアンサンブルの技術の向上。全員で1つの作品を作り上げる喜びを知ることができる。

### 授業計画

曲目は4月に発表する。

11月定期演奏会(オーケストラ)の演奏曲目を課題とする。

毎回の練習スケジュールを作り、進める。しかし、進行状況により、適宜スケジュールを調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であれば、コンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

- S 授業内容をよく理解して自らのパートのみならず、他のパートをしっかりと把握してアンサンブル奏者としての力を発揮できる者。  
A 自らのパートは把握できているものの、他のパートを把握することにおいて一層の努力が求められ、その能力向上が見込まれる者。  
B ところどころに技術向上、改善努力が必要に思われるが、後期合奏においてアンサンブル能力と技術向上が見込まれる者。  
C 後期合奏授業においてなんとかついていけるレベル、もしくは相当の個人的努力を求められる者。  
D 後期合奏授業についていける能力が見込まれない者。  
試験の結果により後期合奏授業へのレベルが達していないと思われる者には追試験を行い、場合によっては個人的指導も行う、合奏授業に向けて能力を引き上げる機会を持つ。

科目名 合奏A/B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 志村 寿一

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

前期授業「オーケストラ・スタディ」で単位認定を受けた者。  
弦楽器専修者は必修である。弦楽器奏者以外についてはオーディション等で選出された者。

### 授業の概要

黒岩英臣氏を指揮者にお迎えして、11月の定期演奏会本番に向けて、約6日間の集中リハーサルが行われる。  
個々の力が合わさると、素晴らしい響き、音楽が生まれることを体感してほしい。演奏会当日まで、各自、練習・準備をすること。

### 授業の到達目標

オーケストラのリハーサルを通して、全員で演奏会に向けて、それぞれの曲の完成度を高めることができる。

### 授業計画

1. オーケストラガイダンス(オーケストラ授業に対する心がまえ、様々な準備などについての確認)
2. 黒岩氏とのリハーサル①
3. 黒岩氏とのリハーサル②
4. 黒岩氏とのリハーサル③
5. 黒岩氏とのリハーサル④
6. 黒岩氏とのリハーサル⑤
7. 黒岩氏とのリハーサル⑥定期演奏会当日 ゲネプロ 本番
8. 演奏会録画を鑑賞しながら、演奏について検証、反省を行い、

意見交換の場とする。

毎回のリハーサルスケジュールは、進行状況により、指揮者の判断で適宜調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。  
可能であればコンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 管楽器基礎(呼吸法)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三塚 至

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

管楽器専修必修。他専修学生の履修も可。声楽専修学生は履修が望ましい。

### 授業の概要

私達人間が生まれたばかりの時は、小鳥達のようにその小さな体からは想像もできないほど、よく響く、大きな声で泣いていたはずである。それは、私達が成長するに従いいつか忘れてしまった「自然な呼吸」を生まれて間もない頃[無意識]に営んでいたからではないだろうか。  
この授業では、こうした「自然な呼吸」、つまり、のどを開けて(オープンロード)、腹筋、背筋、胸筋及び腰筋を、バランス良く使った呼吸(主に腹式呼吸)をストレッチ体操等を取り入れ、体を動かすことによって正しく理解していきたい。  
またこれと併行して、実際に声を出して歌うことで、より響きのある、美しい音を目指したい。楽器を用いて演奏する人は特に、歌声が変わると、音色も変わることを実感してほしいところである。

### 授業の到達目標

演奏家として必要な体作りができる。体の使い方を体得できる。

### 授業計画

1. 導入  
※毎回、ストレッチ、呼吸筋トレーニング、発声、歌唱をおこなう。
2. 正しい姿勢と呼吸と呼吸筋の働きについて。喉を「あける」練習。
3. 呼吸筋強化①(上半身)。2段階呼吸。息を「吐ききる」事の徹底。
4. 呼吸筋強化②(下半身)。ベルカントモードをつかっ。
5. 呼吸筋強化③(深層筋)。15段階呼吸①(10段階まで)。
6. 15段階呼吸②(15段階まで)。
7. 共鳴について。
8. 横隔膜、呼吸筋を意識した発声トレーニング。
9. 頭声、胸声、地声、ファルセットについての考察。
10. 浅呼吸、深呼吸と歌唱への応用。
11. 表情筋、舌と呼吸筋の関係。

12. 呼吸を意識した子音、母音の発音。

13. これまでの復習、まとめ。

14. 歌唱テスト準備(全員が一人ずつ歌い、改善すべき点をチェックする)。

15. 歌唱テスト。

### 授業時間外の学習

正しい呼吸は音楽家としての体づくりの基本である。  
毎日必ずトレーニングする癖をつけること。

### 教科書・参考書等

必要な時は、こちらで用意する。

マットを使うので、動きやすい服装と内履きを用意すること。

### 成績評価

平常点：授業に能動的参加をしているか。努力はみられるか。成果はあったか。

実技テスト(個人歌唱)：姿勢、呼吸が正しくおこなわれているか。呼吸筋が正しく動いているか。正しい発声を目指しているか。

その他、音楽家としての表現力、集中力をみる。

以上を総合的にみて評価する。

- S 上記の条件を全てにおいて十分に満たし、かつ優秀と認められる者。  
A 上記の条件を全てにおいて十分に満たしていると認められる者。  
B 上記の条件を一定のレベルにおいて満たしていると認められる者。  
C 上記の条件にばらつきがあり、全体にやや不足していると認められる者。  
D 上記の条件で満たしている項目が半分以下と判断される者。

科目名 声楽アンサンブルA I・II / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

Aは男子のみ必修(日本音楽以外)。  
Bは男子(日本音楽以外)及び声楽専修の女子は必修である。  
他専修、他専攻の学生(特に男性)の積極的な履修を希望する。  
定期演奏会、オペラ実習試演会に参加する意欲を求める。

### 授業の概要

この授業では、日本人作曲家による混声合唱曲を取り上げ、関心を深めていく。曲は未定だが、日本語の美しさとハーモニーの関係を深く探り演奏していく。曲目は、履修人数を考慮し決める。

なお、定期演奏会での発表があるため、それに向け、演奏技術、表現力を高めていく。

### 授業の到達目標

声によるハーモニー感覚を身につけ、アンサンブル能力の技能を高めることができる。  
また、日本語による歌唱に関心をもち、表現能力を身につけることができる。

### 授業計画

11月の定期演奏会に向けて授業を進めていく。本番前には臨時練習を組むことがある。

1. 今年度の履修人数の確認とレベルチェック
2. 簡単な混声合唱曲に取り組む(定期演奏会演奏曲を決定)
- 3～15. 定期演奏会演奏曲の音取り練習

- 16～24. 定期演奏会演奏曲を音楽的に深めていく
- 25～30. 定期演奏会後、せんがわ劇場等での発表の場のための練習及び本番。

### 授業時間外の学習

授業で言われたことを確認・復習をすると共に、次回授業で取り上げる曲の音取りをしておくこと。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 管楽アンサンブルA I・II a

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

フルート専修必修。

### 授業の概要

この授業はフルートアンサンブルを主体に授業を展開していくが、他の専修の学生や、演奏員の協力を得て、フルートと様々な楽器とのアンサンブルも展開していく。  
学年末に受講生全員でフルートアンサンブルを中心とした演奏会を行う。

### 授業の到達目標

- 以下の3点をこの授業の到達目標とする
- ・アンサンブルの基礎を身につけることができる。
- ・バロック時代から近現代までの各時代の様式、形式を学ぶことができる。
- ・楽器やピアノとのアンサンブルも体験し、自分たちの力でアンサンブルを作り上げていく力を向上させることができる。

### 授業計画

〈前期〉

1. 学習曲目の検討と選択
2. テレマン①六つのソナタop.2よりG-dur
3. テレマン②六つのソナタop.2よりG-dur
4. テレマン③六つのソナタop.2よりE-moll
5. テレマン④六つのソナタop.2よりE-moll
6. テレマン⑤六つのソナタop.2よりD-moll
7. テレマン⑥六つのソナタop.2よりD-moll
8. ハイドン①ロンドントリオより第1番
9. ハイドン②ロンドントリオより第1番
10. ハイドン③ロンドントリオより第2番
11. ハイドン④ロンドントリオより第2番
12. ハイドン⑤ロンドントリオより第3番
13. ハイドン⑥ロンドントリオより第3番
14. ハイドン⑦ロンドントリオより第4番
15. 課題発表 総括

〈後期〉

1. 学習曲目の検討と選択

2. コンサートプログラム制作
3. ドップラー作品について
4. ドップラー作品について
5. クーラウ①フルートデュオ
6. クーラウ②フルートデュオ
7. クーラウ③フルートデュオ
8. クーラウ④フルートトリオ
9. クーラウ⑤フルートトリオ
10. クーラウ⑥フルートカルテット
11. クーラウ⑦フルートカルテット
12. 日本人作曲家について
13. バッハ①トリオソナタ
14. バッハ②トリオソナタ
15. コンサート形式にて演奏発表会

### 授業時間外の学習

自分の担当パートはもちろんのこと、他のパートのスコアリーディングを予習すること。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・レポート20%・発表演奏会30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 管楽アンサンブルA I・II b / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 津川 美佐子

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

管楽器専修 (Tr、Tb、Tub、Sx 専修以外) 必修。  
1年生はFI専修以外の学生を対象とする。

### 授業の概要

木管五重奏を中心としたアンサンブル、又、ピアノ・弦楽器も入ったアンサンブルも学習していく。色々な楽器の音色、特性を学んでもらう。

そして、基本的な楽譜の読み方、フレージング、アーティキュレーションなど約束事を学び、アンサンブルの基礎を身につける。

### 授業の到達目標

他の楽器の特性を理解することができる。自分のパートはもとより、他のパートの音楽を受けとめ、対話していけるようにしていく。それぞれのアンサンブルのメンバーが話し合い、皆で音楽を作ることができる。

### 授業計画

[前期]

1. 授業内容説明と曲目の選択。2回目以降、ハイドン、モーツァルトなどを中心に演奏実習。又、やさしい編曲のものを含む。
2. 演奏実習1-①
3. 演奏実習1-②
4. 演奏実習1-③
5. 演奏実習1-④
6. 演奏実習1-⑤
7. 7回目以降、A.ライヒャ、F.ダンツィを中心とした曲の実習、ただし学生の状況によりハイドン、モーツァルトも含む。
7. 演奏実習2-①
8. 演奏実習2-②
9. 演奏実習2-③
10. 演奏実習2-④
11. 演奏実習2-⑤
12. 演奏実習2-⑥
13. 演奏実習2-⑦
14. 演奏実習2-⑧
15. 前期の曲の通し演奏及び、宿題の説明

[後期]

16. 曲目選択。17回目以降、ドイツ、フランス近代、アメリカの作曲家の木管五重奏の実習
17. 演奏実習①
18. 演奏実習②
19. 演奏実習③
20. 演奏実習④
21. 演奏実習⑤
22. 演奏実習⑥
23. 演奏実習⑦
24. 演奏実習⑧
25. 演奏実習⑨
26. 演奏実習⑩
27. 演奏実習⑪
28. 演奏実習⑫
29. 演奏実習⑬
30. 実技試験(コンサート形式)  
※学年の幅が広いので、それぞれの経験(アンサンブル)によって曲目を考え、又、学生の希望もとり入れていく。

### 授業時間外の学習

演奏実習なので、自分のパートにもとより、アンサンブルの仲間と事前に分奏しておくことが望ましい。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

授業への取組む姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験・課題50%にて評価する。

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 金管アンサンブルA I・II / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 神谷 敏

実務経験 —

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

金管専修 (Tr、Tb、Tub) のみ必修。

### 授業の概要

管・打・ハープを含む中・大編成アンサンブル能力の育成をめざす。

### 授業の到達目標

様々な編成の合奏を体験し、基礎から徐々に難易度の高い曲へと進みながら、合奏能力を上げることができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける①
3. 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける②
4. 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける③
5. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく①
6. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく②
7. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく③
8. 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく④
9. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす①
10. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす②
11. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす③
12. より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす④
13. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始①
14. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始②
15. 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始③
16. 定期演奏会の曲の譜読み①
17. 定期演奏会の曲の譜読み②

18. 定期演奏会の曲の譜読み③
19. 定期演奏会の曲の譜読み④
20. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく①
21. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく②
22. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく③
23. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく④
24. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく⑤
25. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく⑥
26. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う①
27. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う②
28. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う③
29. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う④
30. 学外ホールにて演奏会を行なう

### 授業時間外の学習

自分の担当パートはもちろんのこと、演奏曲のアナリーゼ、作曲家や年代の背景を知っておくこと。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

出席状況・授業への取り組み方を総合判断し、演奏会に出演することで評価を決定する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)

科目名 ギター・アンサンブルAI・II / BI・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 紀雄

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ギター専修者必修。

### 授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

### 授業の到達目標

年二回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様式を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要技術を学ぶことができる。

### 授業計画

(前期)

1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況を見る
3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴きあい理解しておく
8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
11. バンドゥークイッカン①各パートの難所の練習課題を見つける
12. バンドゥークイッカン②各パート同士の役割を理解する
13. バンドゥークイッカン③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
14. バンドゥークイッカン④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
15. バンドゥークイッカン⑤①～④を踏まえて表現を実現する

(後期)

1. ヴィヴァルディー四季より「春」①この曲に必要な技術を準備する
2. ヴィヴァルディー四季より「春」②各パート毎に弾いて役割を理解する

3. ヴィヴァルディー四季より「春」③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
4. ヴィヴァルディー四季より「春」④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
5. ヴィヴァルディー四季より「春」⑤作品の中での自然の描写を豊かに再現する
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
12. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて他を聞く
13. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
14. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する
15. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す

### 授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。

### 教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 うたA / B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 今藤 美知央

実務経験 —

期間 前期

他専攻 △

—

### 履修条件

日本音楽専修は必修。邦楽（長唄・三味線）・歌舞伎・日本舞踊に興味がある者。

### 授業の概要

日本の伝統音楽「長唄」は、江戸時代に歌舞伎とともに、庶民の音楽として大流行、その後進化・発展し、現代に至る音楽である。

長唄をとおりて日本の文化・音楽を理解し、今後自分の芸術表現にも活かせるよう技術を学ぶ。

### 授業の到達目標

情景を大切にしながら音楽的表現ができること。きれいな発音で唄うこと、話すことができる。

心地良い「間」を表現することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 課題曲の稽古①楽器の説明、発音、間のとり方
3. 課題曲の稽古②西洋音楽との違い、長唄の特徴
4. 課題曲の稽古③三味線あれこれ
5. 課題曲の稽古④唄と語りとセリフ
6. 課題曲の稽古⑤三味線でいろいろな表現をする
7. 課題曲の稽古⑥歌舞伎について
8. 課題曲の稽古⑦唄の技術「ごろ」
9. 課題曲の稽古⑧「当てて唄う」「外して唄う」「間を遊ぶ」
10. 課題曲の稽古⑨日本人の豊かな感性

11. 課題曲の稽古⑩学校教育における長唄
12. 指揮者のいない合奏
13. 決まりのない音楽・本当にあったハブニング
14. まとめと学習到達度の確認
15. 発表

上記の講義内容は前後することがある。

課題曲の稽古とは、唄と語りの実習。

### 授業時間外の学習

与えられた課題の研究、予習、復習に努めること。「邦楽演奏会」「歌舞伎」等、劇場に運んでみる。

### 教科書・参考書等

教科書はなし。資料、譜面等は授業時に配布する。配布されたものは必ず毎回持参すること。授業内での見本演奏は録音して、予習復習に活用すること。

### 成績評価

授業への取り組み、授業中の様子、課題に対する成果等を総合して評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 邦楽アンサンブルA I・II / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 滝田 美智子

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

邦楽器はそれぞれの楽器の特性が強く、音色が大切である。又個性的なのでそれを尊重しつつ、さまざまな可能性を追求したい。合奏訓練を積み重ねる中で、他のパートを聴く事を重要として、自分の音を重ねていくアンサンブルの醍醐味を体得できる。

### 授業の到達目標

- 邦楽器によるアンサンブルの可能性について、各人が意見を持ち、真のアンサンブルの楽しさを十分に味わうことができる。
- 10月、3月の日本音楽演奏会を外部への発信と捉えて、成果を発表できる。

### 授業計画

前期

- 受講生の習熟度の確認と年間計画
- 箏三重奏①学生作品
- 箏三重奏②仕上げ
- 箏古典合奏曲①
- 箏古典合奏曲②
- 箏古典合奏曲③仕上げ
- 箏尺八 現代曲合奏①
- 箏尺八 現代曲合奏②
- 箏尺八 現代曲合奏③仕上げ
- 三木稔作品①
- 三木稔作品②
- 三木稔作品③仕上げ
- 間宮芳生作品①
- 間宮芳生作品②仕上げ
- まとめ

後期

- 箏曲 古典曲+離子・創作①
- 箏曲 古典曲+離子・創作②仕上げ

- 邦楽と洋楽のアンサンブル(例:ギター)①
- 邦楽と洋楽のアンサンブル(例:ギター)②仕上げ
- 池田哲美作品(25絃箏アンサンブル)①
- 池田哲美作品(25絃箏アンサンブル)②仕上げ
- 金光威和雄作品①
- 金光威和雄作品②仕上げ
- 大編成合奏曲(曲目未定)①
- 大編成合奏曲(曲目未定)②仕上げ
- 尺八と箏のアンサンブル 現代曲①
- 尺八と箏のアンサンブル 現代曲②
- 尺八と箏のアンサンブル 現代曲③仕上げ
- 箏 コンチェルト(ソロ+合奏部)①
- 箏 コンチェルト(ソロ+合奏部)②仕上げ

### 授業時間外の学習

決定した曲目を予習すること。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 伴奏法 I

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 揚原 さとみ

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

教職課程受講者は必修とするが、そうでない学生もアンサンブルに関心を持つ者は歓迎する。

### 授業の概要

主として音楽教育の場に最適なピアノ伴奏法を、実技レッスン・オーディオ資料鑑賞・講義を通じて学び、教育現場で活かせるように研究していく。

具体的には歌唱や合唱、また器楽合奏指導の教授に最適なピアノ伴奏の技法・練習方法・呼吸法などを理解し、実践形式で習得していく。初見ピアノ伴奏、ピアノ弾き語り、コードネームでの即興伴奏、についてもふれたい。

教職課程必修科目のため対象場面は学校教育現場としているが、様々な音楽活動においてのピアノ伴奏法を探りたい。

### 授業の到達目標

- 教育の場面において、音楽指導を伴うピアノ伴奏が出来る。
- 効果的なピアノ伴奏を可能とする音感を養う事が出来る。
- 基本のコードネームを把握し、即興でシンプルな伴奏付けが出来る。

### 授業計画

- 授業ガイダンス・中学校の音楽授業考察(鑑賞)
- 中学校の音楽授業考察(講義)・斉唱曲の初見練習
- 授業指導案の作成方法について・グループまたは個人による指導案作成
- ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究1(1人約25分ずつ)
- ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究2(1人約25分ずつ)

- ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究3(1人約25分ずつ)
  - ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究4(1人約25分ずつ)
  - ピアノ連弾・古典派(伴奏音量のバランス感を養う練習)
  - ピアノ連弾・ロマン派(楽曲の分析を兼ねた練習)
  - 初見ピアノ伴奏
  - 弾き語りの練習
  - コードネームについて(基本)
  - 基本コードによる即興伴奏付け
  - 課題曲レッスン
  - 課題曲発表
- ※受講生の人数等により内容変更の可能性があります。

### 授業時間外の学習

毎回課題が出されるので予習、復習に努めること。  
グループやペアを組んでのレッスンはお互いに協力を深めること。

### 教科書・参考書等

五線紙を毎時間持参する事。  
授業時にプリントを配布します。

### 成績評価

課題に対する成果30%、平常授業への意欲や態度30%、試験40%、これらを総合的に評価する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 初見演奏(基礎)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 大家 百子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音1ピアノ専修は必修。他専修生でも、ピアノに興味と意欲があれば受講可。

### 授業の概要

バロックから現代に至るピアノ(チェンバロ)ソロ、連弾、歌曲、他楽器とのデュオなどの作品を教材とする。楽譜は毎授業開始時に配布する。

楽譜を手にしたなら、取り敢えずピアノに向かって弾き始めるということを経験し、楽譜を読むことから始めよう。まずは、大掴みに作品の様式と形式をとらえる。次に、音の動き、和音の連なりを確認していく。その際、テンポ、曲想はもちろんのこと、強弱、アーティキュレーション、フレーズ、ペダリングなどにもできる限り目を通す。調性音楽であるなら転調のうつり変わりを把握しよう。ここまでの作業は、当面、受講生皆で意見を出し合いながら進めていく。

読譜の後、初見奏に臨む。予め読み取った情報をどこまで演奏に反映させることができるかは、奏者の集中力に関わってくるであろう。さらには、初見奏での反省を生かし、二度目の演奏を充実した内容に進化させる能力も身に付けられたらと考えている。受講生の自主的、積極的な参加が望まれる。

こうした初見奏の訓練を通して培われる読譜力と集中力が、各人のピアノ演奏能力の向上につながっていくことを願っている。

### 授業の到達目標

限られた時間の中で、楽譜から作品の概要、すなわち作曲家の意図を読み取り、初見奏といえども、音を追うだけにとどまらない音楽的な演奏ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. ピアノソロの小品①ごく易しい作品
3. ピアノソロの小品②易しい作品
4. ピアノソロの小品③少し難易度を上げて

5. 連弾の小品
6. 歌曲の伴奏、デュオのピアノパート
7. バロックの作品①ポリフォニー
8. バロックの作品②ホモフォニー
9. 古典派の作品①ソナタ形式を把握する
10. 古典派の作品②ロンド形式を把握する
11. ロマン派の作品
12. 近代の作品
13. 現代の作品①ごく易しい無調の作品
14. 現代の作品②少し難易度を上げて
15. まとめ

### 授業時間外の学習

配布テキストの復習、予習。

### 教科書・参考書等

授業時に配布。

### 成績評価

平常点50%、実技テスト50%とする。

平常点：授業に能動的参加をしているか。努力はみられるか。成果はあったか。

実技テスト(初見演奏)：与えられた予見時間内に読譜を充分に行えたか。集中力をもって初見演奏にのぞみ、音を追うのみにとどまることのない、音楽的な表現ができたか？

- S 総合点90点以上の者(上記項目の全てを満たし、優秀と認められる者。)
- A 総合点80点以上の者(上記項目をよく満たしていると認められる者。)
- B 総合点60点以上の者(上記の項目を一定レベルにおいて満たしていると認められる者。)
- C 総合点50点以上の者(上記の項目のいくつかにおいてやや不足があると認められる者。)
- D 総合点49点以下の者(上記の項目の多くに不足があると認められる者。)

科目名 身体と表現との調和 -inspired by Alexander Technique

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 志村 寿一

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

○

### 履修条件

良い身体の使い方・動きについて学びたい人。またそれらと自分の出す音や声との関連性を知り、良い音(特に倍音の豊かな音)とはどんなものなのか探求したい人。パフォーマンスによる身体の痛みを持っていたり、立ち方や楽器の構え方、奏法などについて悩みを持っている人。

### 授業の概要

毎回クラス内で数人の生徒に短いパフォーマンスをしてもらい、それに対して教師がアレキサンダー・テクニクなどの知識をベースとした独自のメソッドによりアドバイスする。聴講している生徒はパフォーマンスを見て聴いて、身体の使い方と出てくる音や声との関連性について一緒に観察し学ぶ。実際にパフォーマンスをする生徒は仕上がっている曲(作品)を持って来る必要はなく、簡単なスケールや曲の一部分、あるいは開放弦などのシンプルな音を弾く(あるいは声を出す)だけでも大丈夫である。

### 授業の到達目標

自分の心と身体を含む、自己全体のより良い使い方を学び、“部分”ではなく常に“全体性”を持って動き、演奏し、表現することの重要性を理解できる。

### 授業計画

1. 導入
2. 演奏と身体の関係とは
3. 身体と音の関連性について
4. 実践①
5. 実践②
6. 実践③
7. 実践④

8. まとめ

### 授業時間外の学習

日常生活の中において普段からどのように自分の身体を使っているかがパフォーマンスの質そのものに大きな影響を及ぼすことを理解し、自分の身体の動きについて常に考えることを習慣づける。

### 教科書・参考書等

その都度必要に応じて配付する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末(レポート)課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者。)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者。)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者。)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者。)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 第一実技Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実技(主科)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 4

キャップ制  
対象外

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

全学生の専門実技として必修科目である。

### 授業の概要

全ての授業の中で一番、関心・意欲を持って取り組むべき授業であり、演奏技術、表現力を身につけることを目的とする。全学生が、各自の専修実技を担当講師のもとで、本科は週1回、50分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンになるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていく。試験は前期、後期と2回行い、特に後期試験はレッスンを20回以上受講しないと試験を受ける権利を得ることができない(ただし、声楽については1年次のみ前期には試験を行わない)。1年次後期試験と2年次前期試験の成績優秀者は学内演奏会に出演することができ、2年次後期試験の成績優秀者は卒業演奏会に出演することができる。

### 授業の到達目標

担当講師との一対一の授業となるため、到達目標は各自異なる。専門実技のテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標になるが、担当講師が各学生のレベルを把握し、レベルに応じてエチュード、楽曲等を与え、与えた課題をレッスンを通して演奏できるようにしていくことを到達目標とする。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び課題の検討。
- 2～5. 与えられたエチュード、楽曲のレッスン。
6. 楽曲のまとめ。伴奏合わせ等。
7. 試験曲の検討。または、新しい課題の検討。
8. 試験曲の決定。

- 9～13. エチュード及び試験曲研究。あるいは、与えられた課題のレッスン。
- 14～15. 試験曲研究まとめ、伴奏合わせ等。
16. 新たな課題の検討。
- 17～20. エチュード、楽曲のレッスン。
21. 楽曲のまとめ。伴奏合わせ等。
22. 試験曲の検討。
23. 試験曲の決定。
- 24～28. エチュード及び試験曲研究。
- 29～30. 試験曲研究まとめ。伴奏合わせ等。  
個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

### 授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。

### 教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

### 成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者  
A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者  
B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が60点以上の者  
C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者  
D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 副科実技Ⅰ・Ⅱ／第二実技Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実技(副科第二実技)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2/4

キャップ制  
対象外

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 通年

他専攻

### 履修条件

1年次は、全学生の必修科目である。  
なお、他専攻の学生も履修することができる。

### 授業の概要

全学生が各自の実技担当講師のもとで、週1回、20分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンとなるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていくが、意欲を持ってレッスンに向かう姿勢が求められ、基礎的な演奏技術と表現力を身につけていく。

試験は後期に1回行い、20回以上のレッスンを受けることにより試験を受ける権利を得ることができる。なお、副科実技はレッスン時間が短い。別途徴収にはなるが、レッスン時間を40分にする「第二実技」という制度がある。

### 授業の到達目標

担当講師との一対一の授業となるため、到達目標は各自異なる。副科実技としてのテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標である。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び課題の検討。
- 2～21. 与えられた課題のレッスンを数回受け、まとめあげ、次の課題へと進んで行くという形を繰り返して行く。

22. 試験曲の検討。
23. 試験曲の決定。
- 24～28. 試験曲のレッスン。
- 29～30. 試験曲のまとめ。伴奏合わせ等。  
個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

### 授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。

### 教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

### 成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者  
A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者  
B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が60点以上の者  
C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者  
D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 伴奏 A (1)(2) / B (1)(2)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

前期・後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表(実技試験・学内演奏会・修了演奏会)をもって各々単位認定を行う。“伴奏受講票”を使用のこと。

### 授業の到達目標

様々な楽器に関心を持ち、「伴奏」という立場に責任を持ち、意欲的にアンサンブルを作り上げることができる。

そこで得た経験を試験、演奏会という場につなげることができる。

### 授業計画

各々の実技担当教員のレッスン計画による。

### 授業時間外の学習

「伴奏」はパートナーとしての重要な役割を持つので、初回のレッスンまでに十分な練習を積んでおくこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

授業への取り組み、態度で総合的に判断する。

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者

科目名 海外特別演習 A / B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

研修旅行に参加して学ぶ意欲の高い者。

### 授業の概要

チェコ、ブラハ音楽アカデミーにて1週間のレッスン研修を行う。後半は、オーストリア、オランダ、ベルギーを訪れる。ドヴォルザーク、スメタナ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトなどの音楽家のみならず、ゴッホ、レンブラント、ルーベンス、フェルメールなどの美術作品にも接しながら、偉大な芸術家の業績をたどる。

### 授業の到達目標

内容の濃い充実した旅行とする。本場で触れた芸術から得たものを、その後の表現活動に生かす。

### 授業計画

1. 導入
2. 旅行会社による説明会①
3. 訪問都市についての勉強会①
4. 訪問都市についての勉強会②
5. 旅行会社による説明会②
6. 訪問都市についての勉強会③
7. 受講曲による試演会
8. 研修旅行

### 授業時間外の学習

訪れる街の歴史や、関係する作曲家について深く学んでおく。また個人の実技練習を十分に積んでおくこと。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

授業への取り組み、態度、レポートで総合的に判断する

- S 事前授業の内容を深く理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確かつ秀でた者
- A 事前授業の内容を理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンの取り組みが的確だった者
- B 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが良好だった者
- C 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが不十分だった者
- D 事前授業の内容を理解しなかった者、レポート未提出者、レッスンへの取り組み、受講態度に問題がある者

科目名 特別演習 A / B

授業形態 演習  
(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 志村 寿一・井上 由紀

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

A・Bともに全専修必修。

### 授業の概要

公開講座、学内演奏会、定期演奏会、卒業演奏会の4つが特別演習の内容である。公開講座はプロの演奏家による演奏会を中心とする。定期演奏会は2夜で構成され、オーディションにより出演者を決める。学内演奏会は本科生は成績優秀者の出演、専攻科生は必須で全員出演する。卒業演奏会も成績優秀者による演奏会である。

音楽の勉強は自分自身の毎日の練習、訓練の積み重ねが大切なのもちろんのことだが、現役で活動している音楽家や、一緒に学んでいる学生の演奏を聴くことからの得るもの大きさも是非認識して欲しい。

### 授業の到達目標

様々な演奏、楽曲を聴くことにより、音楽の理解力をさらに深めることができる。

### 授業計画

公開講座、学外演奏会、学内演奏会は、それぞれのジャンルに出席義務回数が定められている。

日程、演目、出席義務回数の詳細はオリエンテーション時に発表する。

また日程は変更となる場合もあり、常に掲示を確認のこと。

### 授業時間外の学習

ゲストの音楽家や、演奏される楽曲について調べ、理解を深めること。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

S 公演の内容を深く理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者

A 公演の内容を理解し、課題への取り組みが的確だった者

B 公演の内容を理解し、課題への取り組みが良好だった者

C 公演の内容を理解し、課題への取り組みが不十分だった者

D 公演の内容を理解しなかったもの、課題への取り組み、受講態度などに問題のある者

科目名 特別講座

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 植松 伸夫

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻

### 履修条件

1年生必修

### 授業の概要

音楽には様々な分野があり、本学で学ぶクラシックの他にもジャズ、ロック、ポップス、または民族音楽などをいれると無数のジャンル、スタイルがある。この講座では上記にあげた様々な音楽のスタイル紹介をしながら、想像すること、創造することの大切を学んでいく。

### 授業の到達目標

様々なスタイルの音楽を学ぶことにより、音楽の想像力、創造力をさらに深めることができる。

### 授業計画

1. クラシックの世界
2. ジャズの世界
3. ロックの世界
4. ゲーム音楽の世界

5. 民族音楽の世界
6. 様々な楽器について
7. 電子音楽について
8. まとめ

### 授業時間外の学習

講座後の復習に努めること。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

授業への取り組み・態度、レポートで総合的に判断する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者

科目名 コラボレイト実習A (1) (2) / B (1) (2)

授業形態 実習 (卒業試験など)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

専攻主任からの指名により履修できる。

### 授業の概要

専攻主任からの依頼により、演劇専攻の試演会、卒業公演あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。コラボレイト実習受講票を使用のこと。なお、単位認定は、前期・後期、1回ずつを限度とする。自らが与えられた場に対して関心を持ち、存在意義を考察し演奏表現に結びつけて行くことが求められる。

### 授業の到達目標

演劇公演等に演奏者として参加する場合は、演劇における音楽の在り方を考え、学ぶ。音楽専攻の催しの場合には、与えられた場で、自分の専門をどう活かすかを考え、学ぶ。

### 授業計画

各々の公演担当教員の稽古計画による。

1. 打ち合わせ
2. 稽古への参加①
3. 稽古への参加②

### 4. 稽古への参加③

### 5. 本番

稽古への参加は1回につき、授業3回分に相当。本番は授業5回分に相当。

### 授業時間外の学習

演劇専攻の公演に参加する重要な役割であるため、自ずと演出家や音楽監督の要望に応えるよう練習をしていかなければならない。

### 教科書・参考書等

公演台本等、各公演により異なる。

### 成績評価

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題のある者

科目名 音楽理論[和声]Ⅲ・Ⅳa

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 平井 正志

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音2 (日本音楽専修以外) 必修。「音楽理論 [和声] Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

2年次においては、借用和音 (準固有、副属和音)、サブ・ドミナント諸和音 (副七の和音、四度の付加6) と各種の変化和音 (増六、ドリアの四度、ナボリの6の和音) を扱ったバス課題の実施を通じて、より多様で高度な声部進行法の練達を目指す。さらに、それ等の和音を含み、かつ近親転調を伴うソプラノ課題の実施によって、2年間に学んだ和声法の総合的な習熟をはかる。

### 授業の到達目標

1. 借用和音や変化和音などの多様な和音を扱ったバス課題を確実に実施できる力を養うことができる。
2. 転調を含むソプラノ課題の実施を通して、和声進行の本質が把握できる素養を身に付けることができる。

### 授業計画

(前期)

1. 準固有和音 (長調における、同主短調の和音の借用) ①借用和音の概説 半音階的半音関係
2. 準固有和音②固有和音と混交する際の注意 対斜についての注意 出題第1回
3. 準固有和音③実施課題確認第1回と出題第2回
4. 準固有和音④実施課題確認第2回
5. 借用のドミナント和音①概説 五度五度の和音の各種形態について
6. 借用のドミナント和音②限定進行と声部進行法について 出題第1回
7. 借用のドミナント和音③実施課題確認第1回と出題第2回
8. 借用のドミナント和音④実施課題確認第2回と出題第3回
9. 借用のドミナント和音⑤実施課題確認第3回
10. 五度五度の下方変位の和音①変化和音の概説 増六の和音の各種形態とその通称
11. 五度五度の下方変位の和音②連結の可能性 声部進行の注意点 出題第1回
12. 五度五度の下方変位の和音③実施課題確認第1回と出題第2回
13. 五度五度の下方変位の和音④実施課題確認第2回と出題第3回
14. 五度五度の下方変位の和音⑤実施課題確認第3回
15. 前期課程内容の理解度確認 (後期)
16. 二度の七、四度の七の和音: 七の和音について総論 副七の和音に於ける第7音の予備と限定進行 第二転回形に於ける低音4度の予備について 出題第1回
17. 実施課題確認第1回と出題第2回

18. 実施課題確認第2回
19. ドリアの四度の七、ナボリの六の和音: 和音進行の可能性 限定進行 出題第1回
20. 実施課題確認第1回と出題第2回
21. 実施課題確認第2回と出題第3回
22. 実施課題確認第3回 付加六、付加四六の和音: 第5音の予備 長調の付加四六について 例題の実施と確認
23. 近親転調を伴うソプラノ課題: 近親転調概論 和音設定概論 出題第1回と実施法解説
24. 実施課題確認第1回 出題第2回出題と実施法解説
25. 実施課題確認第2回 出題第3回出題と実施法解説
26. 実施課題確認第3回 出題第4回出題と実施法解説
27. 実施課題確認第4回 出題第5回出題と実施法解説
28. 実施課題確認第5回 後期レポート課題の出題
29. 後期レポート課題における評価判定基準の説明 実施法要諦解説
30. 後期レポートの提出に備え、教程内容の理解度確認

### 授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認、点検しておくこと。  
やむを得ない事情で欠席した場合は、講義内容と課題を他の受講者から入手するなどして自習しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書: 課題を配布  
参考書: 執筆責任 島岡 譲 『和声 [理論と実習] 第一巻』 『和声 [理論と実習] 第二巻』 音楽之友社

### 成績評価

- 前期末に筆記試験を行う。筆記試験の成績を元下記の評定を行うが、単位認定の条件としては、課題の実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。
- S 90点~100点: 重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達を感じられる。
- A 80点~89点: 重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い。
- B 60点~79点: 概ね重要な公理が理解できているが、課題の実施に際しては練達不足。
- C 50点~59点: 重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない。
- D 50点未満: 重要な公理が理解出来ておらず、和声法を修めたと認めたい。

科目名 音楽理論[和声]Ⅲ・Ⅳb

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音2(日本音楽専修以外)必修。「音楽理論[和声]Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。  
和声学は途中で抜けると理解できなくなるので、欠席、遅刻をしないこと。  
知識を確実に積み上げつつ、与えられた課題を必ず実践すること。

### 授業の概要

2年次のⅢ(前期)・Ⅳ(後期)は1年次で学んだことを土台にして、さらにドッペルドミナントやナポリ等の美しいサブドミナント系の和音、同一調内から他の調への転調、非和声音による不響和響きの加わる美しさ、などを学ぶ。後期の終わりには、2年間で学んだ和声過去の名曲の中でいかに効果的に使われているかを各自で分析する。

### 授業の到達目標

奥の深い和声学を、2年間の授業ですべて習得することは不可能に近い。しかし、これからの長い音楽活動を通じて名曲の中でいかに効果的に和声進行が図られているかを感じとる基礎力を養う。

### 授業計画

1. 前年度の復習 課題実施① dur
2. 前年度の復習 課題実施② moll
3. 前年度の復習 課題実施③ 総合
4. 属九の和音 形態
5. 属九の和音 配置
6. 属九の和音 最適の配置の実習①
7. 属九の和音 最適の配置の実習②
8. 属九の和音 課題実習① dur
9. 属九の和音 課題実習② moll
10. 属九の和音 総合課題①
11. 属九の和音 総合課題②
12. 属七の和音と属九の和音 実習①
13. 属七の和音と属九の和音 実習②
14. 属七の和音と属九の和音 実習③
15. 属七の和音と属九の和音の根音省略形①
16. 属七の和音と属九の和音の根音省略形②

17. V以外の七の和音①Ⅱ
18. V以外の七の和音②Ⅳ
19. V以外の七の和音③Ⅵ
20. 転調を含む課題 構造
21. 転調を含む課題 方法1
22. 転調を含む課題 方法2
23. 転調を含む課題 近親転調 dur①
24. 転調を含む課題 近親転調 dur②
25. 転調を含む課題 近親転調 moll①
26. 転調を含む課題 近親転調 moll②
27. ソプラノ課題 dur
28. ソプラノ課題 moll
29. 楽曲の和声分析と実施
30. 年度末のまとめ

### 授業時間外の学習

授業時に与えられた課題テキストを読んで理解した上で必ず実践すること。  
出来た課題をピアノで弾いて耳を鍛えること。

### 教科書・参考書等

池内友次郎 他著『和声 理論と実習Ⅰ』音楽之友社

### 成績評価

授業への取り組み40% 学期末試験60%を総合的に評価する。  
S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 対位法Ⅰ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

和声の基本的な知識が必要。対位法及び対位法による楽曲に興味を持ち、対位法による楽曲作成・分析に意欲を持つもの。

### 授業の概要

J.S.BACHの対位法による楽曲の分析とともに、具体的な対位法の手法を、簡単な課題の実施を行うことで、その用法を学習する。インベンション、シンフォニア、平均律クラヴィーアなどの楽曲を分析する。実施では、二声の対位法を第一類(全音符)～第五類(華麗対位法)まで学び、課題を実施する。またフーガの主題の作成にも取り組む。

### 授業の到達目標

対位法の知識と具体的な創作によって、フーガその他対位法による楽曲をより身近に感じ、実際の演奏に活用できる。

### 授業計画

1. 導入
2. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 音域
3. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 方法と禁止事項①
4. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 方法と禁止事項②
5. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 実習①
6. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 実習②
7. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 様々な調 dur①
8. BACH シンフォニアから及び二声対位法第一類 全音符 様々な調 dur②
9. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 方法と禁止事項①
10. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 方法と禁止事項②
11. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 実習①
12. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 実習②
13. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 様々な調 dur①
14. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 方法と禁止事項①
15. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 方法と禁止事項②
16. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 dur①
17. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 dur②
18. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 moll①
19. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 moll②
20. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 実習①
21. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 実習②
22. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 方法と禁止事項①
23. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 方法と禁止事項②
24. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 実習①
25. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 実習②
26. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 方法と禁止事項①
27. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 方法と禁止事項②
28. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 実習①
29. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 実習②
30. 年度末のまとめ

- 様々の調 dur②
17. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 dur③
18. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 moll①
19. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 moll②
20. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 実習①
21. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 実習②
22. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 方法と禁止事項①
23. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 方法と禁止事項②
24. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 実習①
25. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 実習②
26. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 方法と禁止事項①
27. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 方法と禁止事項②
28. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 実習①
29. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 実習②
30. 年度末のまとめ

### 授業時間外の学習

課題の実施の宿題を含めた復習と、対位法楽曲に日頃から親しむこと。

### 教科書・参考書等

J.S.BACHの対位法による楽曲と対位法の各教科書における重要部分を、進み具合に応じて、適宜配布。

### 成績評価

ほぼ毎回、小テストとして分析・課題の実施を行う。評価は授業への取り組み40% 学期末試験60%を総合的に評価する。  
S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 コード論Ⅰ

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 小林 真人

実務経験

期間 前期

他専攻

### 履修条件

特に無し。

### 授業の概要

コードとは何かを知り、それぞれのコードを覚える。メロディに対して、シンプルなコード付けを出来るようにする。

ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏する際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。

コードを元に柔軟に演奏する方法を体験する。

コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

### 授業の到達目標

3和音と4和音のコードを覚える。メロディに対してコード付けができる。

コードの機能と連結を理解して、それを元にしたシンプルなコードの発展のさせ方を知る。

それらをピアノなどで演奏、表現できる。

### 授業計画

1. 導入
2. コード論 入門編①コードとは？
3. コード論 入門編②3和音と4和音
4. コード論 入門編③転回形
5. コード論 基礎編①ダイアトニックコードと機能
6. コード論 基礎編②同じ機能内での代理

7. コード付けの実践①単純なコード付け
8. コード付けの実践②ボイスン
9. コード論 基礎編③ドミナントモーションとⅡm7-V7
10. コード論 基礎編④セカンダリドミナントセブン
11. コード論 基礎編⑤V7とⅡb7の関係
12. コード論 基礎編⑥代理コードとリハモナイズ
13. コード付けの実践③和声音と非和声音
14. コード付けの実践④単純なコード進行の応用、発展
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業でやった事を復習しておく。  
コードに慣れる。

### 教科書・参考書等

特になし。随時プリントを渡す。

### 成績評価

- (1) 授業態度50% (2) 課題発表への取り組み姿勢、レポート等での総合評価50%
- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 楽器法

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大澤 健一

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

人が音を奏でる手段としての楽器は太古から今日にいたるまで実に多くの楽器が作られてきた。伝達、信号として登場した楽器は次第に歌や踊りの伴奏として使われ、やがて音楽を伝える主役楽器となった。授業では、現在の管弦楽などで使われる楽器について講義するが、その楽器の原点である民族楽器についてもふれる。

木管、金管、打楽器、弦楽器に分類して、その誕生と現在の役割、使用楽曲、メンテナンスなどについて講義する。

これら楽器の正確な知識は、あらゆる音楽に携わるすべての行動に必要な不可欠であろう。

### 授業の到達目標

- 楽器というものが、どのように分類され、どのような歴史をたどって、現在使われているかを理解する。また作編曲、器楽指導に必要な楽器の基礎知識を学習することができる。
- 気鳴楽器、弦鳴楽器、膜鳴楽器、体鳴楽器、機械電気楽器の5つの楽器体系を理解し、全ての楽器がこれらに分類されることを理解できる。

### 授業計画

[進行予定]

木管楽器…フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン

金管楽器…トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ

弦楽器…ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス  
打楽器  
体鳴楽器…シンバル、トライアングル、ドラ、鍵盤楽器他  
膜鳴楽器…太鼓、ティンパニー、タンバリン、ボンゴ他  
[ポイント]

1. 構造…発音原理、楽器の材質
2. 音域…調性、最低音、最高音、適切音域
3. 特色…得意な奏法、不得意な奏法
4. 同属楽器…調性の異なる同属楽器
5. 歴史…楽器の誕生について
6. 楽曲…この楽器を説明するのに適した楽曲
7. メンテナンス…楽器の取り扱い上での注意点

### 授業時間外の学習

室内楽、管弦楽のコンサートを鑑賞し、使用される各楽器の特徴を調べておくこと。

### 教科書・参考書等

参考プリントを授業で配布する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・受講態度100%で評価する。

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽マネジメント

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 児玉 真

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音楽の社会的な役割について、コンサートやアウトリーチの作り方を考えていきたい。

### 授業の概要

音楽マネジメントは、芸術音楽の制作のノウハウや能力を学ぶだけでなく、音楽が自らの生きる力を高めるため、また、それによって生まれる社会の健全性にとって必要なものである、と言う認識がある。

この授業では、基本的にはマネジメントの様々なシーンで使える考え方やスキルを学んでいくが、その背景にある音楽の社会的役割が通奏低音の用で流れているように考えていきたい。

### 授業の到達目標

- 音楽の企画作りやプログラム作りの基礎的な能力を身につけることができる。
- 言葉ににくい音楽・芸術を扱う上で必要な言語化の力を身につけることができる。
- アウトリーチやワークショップなどの手法を理解することができる。

### 授業計画

- オリエンテーションと自己紹介、音楽マネジメントの守備範囲、文化の役割
- 音楽マネジメントとは何か
- コンサートビジネスの成り立ち
- 音を聴く、とはどのような体験か
- 音楽企画の社会性(単に商売としてだけではない存在としての側面)
- 社会性をつくるための方法(アウトリーチやワークショップなど)

- アウトリーチを見る
- アウトリーチで何ができるか、を考える
- 企画の作り方①(シーズからの考え方)
- 企画の作り方②(ニーズから考える)
- 企画の作り方③(企画を提案する)
- 才能のある音楽家を売り出すには?①(YCA等の事例)
- 才能のある音楽家を売り出すには?②後半
- 広報と宣伝について
- まとめ

### 授業時間外の学習

コンサートに行ったときには制作者、運営者の立場で観察するようにしてほしい。

マスコミやネットなどで話題になる音楽や音楽事業、文化会館の動向などに関するニュースに注意を払い、可能であれば短くても良いから自分の意見をメモしておくとうい。

### 教科書・参考書等

資料は授業時に必要に応じて紹介する。

### 成績評価

筆記試験は行わないが、小論文課題を提出してもらう。

評価は小論文(50点) 日常のレポートや発言など(50点)として採点する。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 音楽史特講A

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

- 授業内でしばしば発言を募る。その際に能動的な姿勢で臨むものを歓迎する。
- 「音楽史演習A」とセットで履修することが望ましい。

### 授業の概要

「音楽史特講A」では、一つの作品をより深く知っていく方法について学ぶ。事例として、1913年5月29日にパリで初演されて大スクリーンを引き起こしたバレエ・リュスの「春の祭典」を取り上げる。音楽学、舞踊学、民俗学、社会学といったさまざまな学問分野から、この一作品を多角的に考察する。

### 授業の到達目標

- 20世紀文化において社会現象ともなったバレエ・リュスによる「春の祭典」が、20世紀初頭のパリの文化空間においてどのような位置付けにあったのか、そして今日の私たちにとってどのような意義をもつものか、説明できる。
- 一つの物事を多角的に捉えた際に、広がりをもったテーマに発展することを学修する。

### 授業計画

「春の祭典」の多角的考察

- 音楽作品における多角的考察の意義と方法
- ディアギレフの戦略
- レーリッヒと古代異教の世界
- ニジンスキーの身体表現
- ロシア・フォークロア
- ストラヴィンスキーとリズムの革新
- ストラヴィンスキーと不協和音
- ストラヴィンスキーと民謡のデフォルメ

- 《春の祭典》の楽器法
  - 20世紀初頭のパリの文化空間
  - 初演の評価とその変遷
  - 新たな振付とその表象
  - 演奏解釈
  - 編曲による広がり
  - 「春の祭典」が現代に問いかけるもの
- ※履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更することを厭わない。

### 授業時間外の学習

- 授業時間には作品の一部しか視聴できないので、授業外に全曲聴くことを推奨する。
- 20世紀音楽のコンサートに積極的に足を運ぶことを推奨する。

### 教科書・参考書等

- 授業で配布するレジュメの末尾に参考文献一覧を掲載する。
  - 必須ではないが、以下のスコアを入手しておくとうい。
- Igor Stravinsky, The Rite of Spring (London: Boosey & Hawkes, 1967).

### 成績評価

平常点評価100%。平常点とは、授業中の発言とパフォーマンス、配布するリアクション・ペーパーの点数の合計である。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 音楽史特講B

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大津 聡

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

特に条件はないが、授業内容への関心と受講意欲は必須である。

### 授業の概要

テーマは「交響曲の歴史」。交響曲は、私たちがクラシック音楽として呼んでいる、ヨーロッパ芸術音楽の精華の一つであり、オペラと並んで、ヨーロッパの歴史や文化に根ざした重要な文化現象である。本授業は、交響曲というジャンルの起源から、その主な時代の終焉までを見渡す「交響曲史」である。単に交響曲作品の歴史や形態を概観するにとどまらず、それらの音楽史、社会史上の意味、あるいは、各々の作曲家における交響曲という問題も考えていきたい。

### 授業の到達目標

主に以下3点を到達目標に掲げる。

1. 交響曲とは何か、それはどのように誕生したかについて説明出来る。
2. 交響曲の歴史に固有なトピックスと展開について説明出来る。
3. 各々の時代を代表する作曲家とその作品について説明出来る。

### 授業計画

1. 導入
2. 前古典派：交響曲の誕生と型の形成
3. ヴィーン盛期古典派の交響曲1：エステルハージ公爵邸楽長時代のJ. ハイドン
4. ヴィーン盛期古典派の交響曲2：J. ハイドンのロンドン滞在と《ザロモン交響曲》
5. ヴィーン盛期古典派の交響曲3：W. A. モーツァルトの交響曲創作
6. ベートーヴェン1：転換期としてのベートーヴェン

7. ベートーヴェン2：《田園交響曲》と「標題」
8. ベートーヴェン3：《第九交響曲》におけるジャンルの拡大
9. ポスト・ベートーヴェンの交響曲
10. ベルリオズの管弦楽作品：「標題交響曲」の新たな展開
11. ブラームスとブルックナー：絶対音楽としての交響曲への帰帰？
12. ナショナル・シンフォニー：国民主義音楽と交響曲の国際化
13. マラー：最後のシンフォニストとそのジャンル意識
14. R. シュトラウスと管弦楽作品：「交響曲神話」の崩壊
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業では多くの作曲家やその作品について触れることになるが、授業時間内に例として鑑賞出来るのはほんの一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを使って積極的に作品に触れ、理解を深めてもらいたい。各回（ガイダンスと導入、まとめの回は除く）につき最低一作品は、必ず通して鑑賞すること（次回、それについての簡単なペーパーの提出を求める）。

### 教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、初回に参考文献表を配布するほか、適宜紹介、指示する。

### 成績評価

受講姿勢(20%)、学期中小ペーパー(30%)、期末レポート(50%)による。総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、それ未満はD評価とする。尚、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。

科目名 音楽史演習A

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

- 授業内でしばしば発言を募る。また、パフォーマンスを要求する。その際に能動的な姿勢で臨むものを歓迎する。
- 「音楽史特講A」とセットで履修することが望ましい。

### 授業の概要

「音楽史演習A」では、20世紀の西洋音楽史において重要な芸術潮流について、実践を通じて学ぶ。この授業の目的は、それらのなかで任意の一作品あるいは一潮流について、自分の視点で解釈し、文章で表現できるようにすることである。13回分の授業で、芸術運動や潮流をトピックごとに学ぶ。それらを素材とし、論文作法の授業を参考に、冬季休暇中にレポートを作成する。休暇明けにレポートの内容について各人がプレゼンテーションを行い、今後の音楽人生に、レポート作成を通じた一連の経験をどのように活かすことができるかを考える。

### 授業の到達目標

- 20世紀音楽には様々な種類があり、個々の作曲家や芸術グループの理念や主義主張のもとに作られているということを理解できる。
- 感性を開いて、音楽を聴取する感覚を身につけることができる。
- 20世紀音楽のなかで任意の一作品あるいは一芸術潮流を、自分の視点で解釈し、言葉で表現できる。

### 授業計画

- 西洋音楽史：20世紀
1. 調性機能崩壊
  2. 表現主義芸術
  3. 新ウィーン楽派の12音技法
  4. サティとパリの前衛
  5. イタリア未来派

6. ロシア・アヴァンギャルド
7. テクノロジーの発達と電子楽器
8. 引用音楽
9. 不確定性の音楽、偶然性の音楽
10. 図形楽譜
11. アメリカ実験音楽
12. レポート演習（論文作法）
13. ミニマル・ミュージック
14. ミュージック・シアター
15. レポートに関するプレゼンテーション

※履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更することを厭わない。

### 授業時間外の学習

- 授業時間には作品の一部しか視聴できないので、授業外に全曲聴くことを推奨する。
- 20世紀音楽のコンサートに積極的に足を運ぶことを推奨する。

### 教科書・参考書等

授業で配布するレジメの末尾に参考文献一覧を掲載する。

### 成績評価

平常点50%、テスト50%として評価する。平常点とは、授業中の発言とパフォーマンスと、配布するリアクション・ペーパーの点数の合計である。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 音楽史演習B

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 大津 聡

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

特に条件はないが、授業内容への関心と受講意欲は必須である。

### 授業の概要

テーマは「オペラの歴史」。オペラは400年以上の歴史を持ち、私たちが思い浮かべる西洋芸術音楽において、すぐれて代表的なジャンルである。本授業ではオペラの壮大かつ濃密な歴史にアプローチし、その起源から20世紀初頭までを視野に入れる。多様な作品に触れることを目標とするが、原則として、一回の授業につき、各国、各時代から代表的な作品の一つを取り上げ、オペラ史を再構成していく。後期は演習である。各受講者に作品についての簡単な事前調査と授業中のレポートを担当してもらう。受講者数に応じて、具体的な進め方を事前に説明するので、受講予定者は初回のガイダンスに必ず出席すること。

### 授業の到達目標

以下3点を到達目標として掲げる。

1. 個々の作品に、歴史意識を持って向き合うことが出来る。
2. 音楽様式の変化と同時に、各時代や各社会の違いを感じ取ることが出来る。
3. 評論的アプローチで終わらせないため、適切な文献を操ることが出来る。

### 授業計画

音楽史の流れに沿って、以下に各回で扱うトピック及び便宜上、代表する作曲家名を示すが、可能な限り受講者の興味や要望を取り入れていく。

1. 導入：プッチーニ《ジャンニ・スキッキ》鑑賞
2. バロック時代1：オペラの起源イタリア（モンテヴェルディ）
3. バロック時代2：イタリアから各国へ（パーセル、ヘンデル）
4. 古典派1：近代オペラの始まり（モーツァルト1）
5. 古典派2：宮廷社会から市民社会へ（モーツァルト2）
6. 古典派3：オペラと革命（ベートーヴェン）

7. ロマン派1：オペラ・ブッフアとイタリアの復権（ロッシニ）
8. ロマン派2：ジャンルの多様化とオペラ・ブッフアの終焉（ドニゼッティ）
9. ロマン派3：19世紀イタリアオペラの精華（ヴェルディ）
10. ロマン派4：「総合芸術作品」としてのオペラ（ヴァーグナー）
11. ロマン派5：フランス・オペラの諸相（ビゼー）
12. ロマン派6：「ヴェリズモ・オペラ」（マスカーニ、プッチーニ）
13. 20世紀初頭1：オペラにおける前衛（R. シュトラウス1）
14. 20世紀初頭2：古典への回帰と一つの時代の終焉（R. シュトラウス2）
15. まとめ：「長い19世紀」とオペラ史

### 授業時間外の学習

授業時間内に鑑賞出来るのは、大規模であるというオペラの属性から一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを積極的に活用し、理解を深めてもらいたい。また、担当回については、当然ながら、作品の把握のみならず、参考文献等を用いた下調べ、及びレジュメの作成が求められる。

### 教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、参考文献表を配布する他、授業中に適宜紹介、指示する。

### 成績評価

受講姿勢（50%）〔授業内容への関心、授業への貢献、学期内担当分の準備作業〕、及び担当回の発表内容（50%）による。総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、それ未満はD評価とする。尚、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。

科目名 音楽療法概論

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

音楽療法とは、心身に障害のある方、発達の遅れや問題を持った方々へ治療・援助の手段として音楽を役立てることであるが、最近では病気や障害に限らず人間の健康な生活に役立てる音楽療法としてのアプローチまで幅広い考え方も広まっている。

本講義では、療法（セラピー）を考える前に、人間の生活と音楽との関わりや人間の健康とは何かを学ぶ。次に音楽療法の様々な背景を考えながら、基本的な知識を学んでいく。

### 授業の到達目標

人間の生活と音楽の関わりを理解し、さらに療法として音楽を用いる意義とその方法を理解することができる。

### 授業計画

1. 導入（授業内容と目的等）
2. 人間の生活と健康・音楽
3. 音楽療法とは何か①歴史
4. 音楽療法とは何か②楽曲研究
5. 緩和ケアの音楽療法①カナダ
6. 緩和ケアの音楽療法②日本
7. 高齢者の音楽療法①活動紹介

8. 高齢者の音楽療法②プログラム作成
9. 高齢者の音楽療法③受講生同士で実践
10. 児童の音楽療法①発達障害児
11. 児童の音楽療法②重度重複障害児
12. 音楽療法の技術
13. 音楽の治療的機能
14. まとめ①
15. まとめ②

### 授業時間外の学習

授業の中で課題に対する感想を書いたり、音楽療法のプログラムを作成したりするので、履修者は予習と復習に努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著 「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
松井紀和、鈴木千恵子他著 「音楽療法の実際」(牧野出版)  
以上、参考書  
教科書は使用せず、授業時にプリントを配布。

### 成績評価

- (1) 授業の取組みと態度60% (2) 期末試験の総合評価40%
- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 演奏解釈(1) ピアノ楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

ピアノ専修必修。他専修も積極的に履修してほしい。

### 授業の概要

音楽表現における大切なことの一つに「わかりやすさ」があると思う。わかりやすい演奏をするために、ぜひ知っておいてほしい基本的ないくつかの事柄、楽譜の読み方や曲の構成、フレージングやアーティキュレーション、その他約束事等、身近な作品を使って講義する。いっしょに学んでいく。授業で学んだことがその場限りで終わらず、先々勉強していく上で幅広く応用でき、自身の演奏のヒントになるような内容にしていきたい。ピアノ曲を主に取り扱うが、声楽や管楽器、弦楽器等の作品にも自然に始めるよう工夫していく。

### 授業の到達目標

楽曲に向かう際に、その曲に関する知識を十分に持ち、時代背景を理解し、演奏表現に求められる多角的な手段を、自分なりに思考・判断できるようになる事をめざす。

### 授業計画

1. 一般的知識の確認
2. バロック時代の音楽
3. 純正律と平均律
4. バッハ平均律の成り立ち
5. モーツァルト①ピアノを含む作品
6. モーツァルト②フレーズとアーティキュレーション
7. ベートーヴェン①名曲の数々
8. ベートーヴェン②ピアノソナタ
9. ロマン派について
10. シューベルト

11. シューマン
12. リスト
13. ショパン①生涯
14. ショパン②作品ジャンルの特徴
15. まとめと学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

音楽史上重要な役割を果たした作曲家について、ある程度各自調べておくこと。  
各回の内容は次につながるため、しっかり復習をするように。

### 教科書・参考書等

その都度、配布。必要に応じて各自準備する。  
それぞれの作曲家にふさわしい出版社等も、授業内で指導していく。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 演奏解釈(2) 声楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 相田 麻純

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 ◎

ー

### 履修条件

声楽専修必修。他専修も積極的に履修してほしい。

### 授業の概要

声楽が他の演奏分野と決定的に違うのは、音楽に言葉が付属している点にある。この授業では歌詞の理解と、その歌詞に音楽をつけた作曲家の意図を探っていく。歌唱する上で声を鍛錬することは重要だが、音楽表現を追究することも同様にとても大切なことである。ただ歌うだけの演奏ではなく、きちんと曲を理解することで、演奏する上での表現力を引き出すプロセスと一緒に学んでいく。前半は全4期に分類されている日本歌曲の作曲家の作品を取り上げ、後半はオペラの代表的作品であるモーツァルト作曲の《フィガロの結婚》を登場人物に分けて解釈していく。

### 授業の到達目標

楽譜と歌詞の両面から理解を深めることで、曲に込められた想いを読み取り、演奏する上での土台を作れるようになることを目指す。

### 授業計画

1. 導入。日本歌曲の変遷について、担当曲決め
2. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品①瀧廉太郎
3. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品②第1期のその他の作曲家
4. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品①山田耕筰
5. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品②第2期のその他の作曲家
6. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品①中田喜直
7. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品②第3期のその他の作曲家
8. 日本歌曲：第4期の代表的な作曲家と作品

9. オペラ：モーツァルト作曲《フィガロの結婚》における原作と台本
10. オペラ：フィガロの人物像と音楽
11. オペラ：スザンナの人物像と音楽
12. オペラ：伯爵の人物像と音楽
13. オペラ：伯爵夫人の人物像と音楽
14. オペラ：ケルビーノの人物像と音楽
15. オペラ：その他の役柄の人物像と音楽、まとめ

### 授業時間外の学習

日本歌曲においては、一人一曲を担当し、作曲家と作詞家の関係性や歌詞の意味などを調べておくこと。オペラにおいては《フィガロの結婚》のあらすじや登場人物について予習しておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時に毎回楽譜とプリントを配布する。

### 成績評価

成績評価については、受講態度50%、課題に対する成果30%、レポート20%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 演奏解釈 (3) 室内楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻 2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 寺岡 有希子

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

弦楽器専修必修。他専修の積極的な履修を望む。

### 授業の概要

この授業は他の専修学生にも広く開放している。古典派の弦楽による室内楽作品を中心とするが、履修者の状況により、声楽、ピアノ、管楽器等も含まれる作品も取り上げ授業を進めていく。

授業形態としては学生の演奏を基本とし、作曲家とその作品に対してより知識を深め、「演奏」という実践にどのようにしたら結び付いていくか考えていく。学生全員参加の活発な意見交換の場になるよう、望んでいる。

### 授業の到達目標

スコアから作曲家の意図するものをはじめ、様々なことを読み取ることができる。またそれらを表現につなげていくことができる。

### 授業計画

ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンの弦楽による室内楽作品を基礎課題とするが、履修者の状況を考慮しつつ様々な形態(例えば、声楽曲、フルート四重奏曲やピアノ五重奏曲等)の室内楽作品を取り上げていく。

1. 導入及び曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. 各グループによる研究発表と演奏①バッハ
4. 各グループによる研究発表と演奏②ハイドン
5. 各グループによる研究発表と演奏③モーツァルト二重奏
6. 各グループによる研究発表と演奏④モーツァルト三重奏
7. 各グループによる研究発表と演奏⑤モーツァルト四重奏
8. 各グループによる研究発表と演奏⑥ベートーヴェン三重奏
9. 各グループによる研究発表と演奏⑦ベートーヴェン四重奏

10. 各グループによる研究発表と演奏⑧シューベルト
11. 各グループによる研究発表と演奏⑨メンデルスゾーン
12. 各グループによる研究発表と演奏⑩サン＝サーンス
13. 各グループによる研究発表と演奏⑪ドヴォルザーク
14. 各グループによる研究発表と演奏⑫バルトーク
15. 全体合奏

### 授業時間外の学習

授業で演奏するメンバーは事前リハーサルしておくこと。またその曲の作曲者についてや作曲された背景、各自の楽器の詳細についても調べておくこと。

### 教科書・参考書等

課題となる曲のスコアをプリントして配布するので、必ず授業に持参すること。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽理論[楽式] I ①・II ①

授業形態 講義

対象 音楽専攻 2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 穴戸 里佳

実務経験 —

期間 前期・後期

他専攻 ○

—

### 履修条件

日本音楽専修以外は必修。

### 授業の概要

音楽形式の基礎。バロック・古典派の主な形式についての説明を行い、楽曲の分析を試みる。

授業は講義形式で行うが、自分の頭で考え、授業に積極的に参加することが求められる。

### 授業の到達目標

音楽形式の基本を理解し、簡単な楽曲を自分で分析できる。

### 授業計画

(前期)

1. 音楽形式とは
2. 二部形式(バッハ)
3. 三部形式(シューマン)
4. 複合三部形式①モーツァルト
5. 複合三部形式②ベートーヴェン
6. ロンド形式①ベートーヴェン(1曲目)
7. ロンド形式②ベートーヴェン(2曲目)
8. ロンド形式③モーツァルト
9. ソナタ形式①ベートーヴェン(1曲目)
10. ソナタ形式②ベートーヴェン(2曲目)
11. ソナタ形式③ベートーヴェン(3曲目)
12. ソナタ形式①モーツァルト(1曲目)
13. ソナタ形式②モーツァルト(2曲目)
14. ソナタ形式③モーツァルト(3曲目)
15. 前期まとめ

(後期)

1. 前期の復習
2. 変奏曲形式①モーツァルト(1曲目)
3. 変奏曲形式②モーツァルト(2曲目)

4. 変奏曲形式③モーツァルト(3曲目)
5. 変奏曲形式④ベートーヴェン
6. フーガ形式(バッハ) ①2声
7. フーガ形式(バッハ) ②3声
8. フーガ形式(バッハ) ③2声・3声
9. フーガ形式(バッハ) ④4声
10. 歌曲の分析①イタリア歌曲
11. 歌曲の分析②ベートーヴェン
12. 歌曲の分析③シューマン
13. 自由形式(モーツァルトなど) ①1曲目
14. 自由形式(モーツァルトなど) ②2曲目
15. 後期まとめ

### 授業時間外の学習

- 知らない曲は事前にCDなどで聞いておくこと(=予習)
- 次の授業までに、一度は授業内容に目を通しておくこと(=復習)

### 教科書・参考書等

プリント配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み等30%、学期末試験70%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽理論[楽式] I ②・II ②

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

日本音楽専修以外は必修。

### 授業の概要

この授業では、西洋音楽作品の形式構造を分析する方法を学ぶ。具体的な作品を用いて伝統的な形式の「型」を学びながら、その一方で、主題の取り方や区分の仕方は分析者によって異なることを、実践を通して理解する。自分の力でその楽曲にふさわしい分析方法を見つけ、構造を把握する力を高める。

【音楽理論[楽式] I】では、楽曲分析の目的を確認したうえで、以下の型を学ぶ。二部形式、三部形式、ロンド形式、ソナタ形式。それらに先立ち、動機、小楽節、大楽節の捉え方の感覚を身につける。

【音楽理論[楽式] II】では、「音楽理論[楽式] I」に引き続き、以下の型を学ぶ。変奏曲形式、カノン、フーガ、舞曲、組曲。また、12音技法作品の分析方法、標題音楽の分析方法も学んだ上で、20世紀以降の音楽作品の分析方法を検討する。また、作曲家の「意図」をめぐる研究をふまえ、音楽分析の目的に合わせて、必要な観点を抽出する方法について議論する。

### 授業の到達目標

- ・楽曲分析の重要性を実感し、なぜそれが重要なのかを自分の言葉で説明できる。
- ・楽譜から自分で楽曲構造を分析することができる。

### 授業計画

【音楽理論[楽式] I】

1. 楽曲分析の目的
2. 動機、小楽節、大楽節
3. 二部形式①基礎
4. 二部形式②応用
5. 三部形式①基礎
6. 三部形式②応用
7. 学習到達度の確認(テスト)
8. テスト問題の解説
9. ロンド形式①基礎
10. ロンド形式②応用
11. ソナタ形式①基礎

12. ソナタ形式②応用
13. ソナタ形式③さらなる応用
14. ソナタ形式④発展
15. 学習到達度の確認(テスト2)

【音楽理論[楽式] II】

1. テスト問題の解説
2. 変奏曲形式
3. カノン
4. フーガ①基礎
5. フーガ②応用
6. フーガ③さらなる応用
7. 舞曲、組曲
8. 学習到達度の確認(テスト)
9. テスト問題の解説
10. 「自由なソナタ形式」再考
11. 12音技法作品の分析
12. 標題音楽の分析
13. 分析実践(以降、冬季休暇中に実践)
14. 作曲家の「意図」、分析の観点
15. 提出課題の返却、分析の意義

### 授業時間外の学習

授業で扱った(扱う)楽曲をピアノで弾いてみることを強く推奨する。

### 教科書・参考書等

授業で扱った(扱う)楽譜は入手するのが望ましい。

### 成績評価

【音楽理論[楽式] I】は、2回のテストの合計点で評価する。

【音楽理論[楽式] II】は、1回のテストと、第14回で提出を課する課題の合計点で評価する。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 S. H. M. III・IV

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 塩崎・大家・加藤・三瀬・長谷川

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音2必修。「S.H.M.I・II」の単位を修得していること。

各自、能力を向上させる努力を、常に実践すること。遅刻をせずに、きちんと出席すること。

### 授業の概要

授業内容は「S.H.M.I・II」の延長上にある。

能力に応じて、基礎力の充実から、より音楽的な応用まで、各自、力をつけていく。

### 授業の到達目標

音楽実践に必要な基礎的能力を高め、幅広く優れた音楽性を身につけることができる。

### 授業計画

前期は一年次の成績により能力別クラス編成で授業を行う。

前期終わりに後期のためのクラス分けテストを行う。

主な授業項目。クラスにより内容、進度は異なる。

- ・多様なリズムの習得・多様な拍子の理解
- ・ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号の理解
- ・正しい読譜による初見視唱の練習
- ・正確な音程を身につける
- ・より高度なメロディの書き取り
- ・2声、3声等同時に鳴る音への理解

- ・種類の違う和音をもたらす響きの色彩を感じ取る
- ・和音の機能の理解と聴き分け
- ・四声体の書き取り、その重唱
- ・多様な調への挑戦
- ・転調を伴う課題における調の判定
- ・移調奏
- ・多様な音階による課題

### 授業時間外の学習

各クラスの教官の指示に従い自習すること。

### 教科書・参考書等

クラスの担当教員から指示される場合もある。

### 成績評価

学年末に実施する一斉テストで、単位評価する。(出席は2/3以上満たすことが必須)

S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 指揮法Ⅰ・Ⅱ

演習(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1・1

キャップ制対象外

担当教員 福永 一博

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

指揮、指揮することに興味を持つ者。教職受講者は必修。

### 授業の概要

指揮者は、音楽の体現者である。自ら音を出すことのできない指揮者が、最も的確かつ雄弁に音楽を語りうる手段が、指揮法である。本授業では、桐朋学園大学で長らく指揮法を教え、数多くの名指揮者を輩出した斉藤秀雄先生の著した「指揮法教程」の考え方をベースに、前期はオーケストラ・吹奏楽・合唱などあらゆるジャンルに共通する基本的な指揮の技法を体得する。後期は、前期に培った指揮の技法を、実際の作品を用いて演習する。教職課程の授業であるため、題材は中学校の合唱曲を扱う。

### 授業の到達目標

自分の音楽的意図を、指揮を通じて表現できる。

### 授業計画

1. 導入/指揮者の役割/指揮法の大原則
2. 叩き/叩きの図形-短曲実習、曲の開始/予備運動/中間予備運動/ブレス-短曲実習
3. 平均運動/平均運動の図形-短曲実習、デュナーミクの表現
4. しゃくい/しゃくいの図形-短曲実習、アゴギクの表現
5. 引っ掛け/先入-短曲実習
6. 跳ね上げ/瞬間運動-短曲実習、分割-短曲実習
7. 円運動の色々-短曲実習、曲の終止
8. 6拍子-短曲実習/3種類のフェルマータ-短曲実習
9. 様々な変拍子(5拍子、7拍子、8拍子)-短曲実習
10. 実習-指揮法教程「No.1」①
11. 実習-指揮法教程「No.1」②
12. 実習-指揮法教程「No.2」①
13. 実習-指揮法教程「No.2」②
14. 実習-指揮法教程「No.3」①
15. 実習-指揮法教程「No.3」②
16. 実習-指揮法教程「No.4」①
17. 実習-指揮法教程「No.4」②
18. 実習-合唱曲1「あすという日」①

19. 実習-合唱曲1「あすという日」②
20. 実習-合唱曲2「ずいずいずこころばし」①
21. 実習-合唱曲2「ずいずいずこころばし」②
22. 実習-合唱曲3「浜辺の歌」①
23. 実習-合唱曲3「浜辺の歌」②
24. 実習-合唱曲4「手紙〜拝啓 十五の君へ〜」①
25. 実習-合唱曲4「手紙〜拝啓 十五の君へ〜」②
26. 実習-合唱曲4「手紙〜拝啓 十五の君へ〜」③
27. 実習-合唱曲5「信じる」①
28. 実習-合唱曲5「信じる」②
29. 実習-合唱曲5「信じる」③
30. 発表-指揮法教程4曲、合唱曲5曲の中から当日任意の1曲を演奏する

### 授業時間外の学習

指揮法の習得には技術的鍛錬が大切である。したがって復習を十分に行うことが求められる。予習にあたっては、合唱曲の場合は作品の楽曲分析を行い、自分のパートを歌えるようにしておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書：斉藤秀雄著「指揮法教程」(音楽之友社)  
指揮棒を用意すること(1回目)に指示。

### 成績評価

成績評価は、授業への取り組み(30%)、受講態度(30%)、発表(40%)を総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組みに問題があった者)。

科目名 室内楽A a

演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制対象外

担当教員 荻野 千里・野口 千代光

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

積極的にアンサンブルに参加する意欲のある学生、また他のグループの演奏に興味を持って聴ける学生。

### 授業の概要

ピアノ三重奏曲・ピアノ四重奏曲、ピアノ五重奏曲を中心に引き上げ、弦楽器とピアノ、各々の楽器の特徴や奏法等も学びながらアンサンブル能力の向上を目指す。

授業はマスタークラス形式で進める。事前に曲目を発表するので、演奏する学生は勿論、聴講する学生も各自楽譜を準備し、アンサンブルを作り上げるプロセスに立ち会って、楽曲への理解を深め、その作品の意図を実現するために必要な技術やアンサンブルの心構えを学んでいく。

### 授業の到達目標

様々な時代及び編成の室内楽作品を知り、それぞれの楽曲の様式観とアンサンブル技術の基礎を学ぶ。各々が課題を見出し、楽器通しでのコミュニケーションを取る喜びを知る。

### 授業計画

1. 導入、学習曲目の検討
2. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイデン・ベートーヴェン等①
3. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイデン・ベートーヴェン等②
4. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイデン・ベートーヴェン等③
5. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイデン・ベートーヴェン等④
6. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に)メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等①
7. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に)メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等②
8. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に)メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等③

9. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む)①
10. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む)②
11. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む)③
12. 声楽を含む室内楽①
13. 声楽を含む室内楽②
14. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて①
15. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて②

### 授業時間外の学習

授業に向けて各自十分に練習し、必ず複数回の合わせをしておくこと。

また、お互いの楽器の特徴なども調べておくこと。日頃から多くの室内楽作品のCD等を聴いて、知識を増やしておくように。

### 教科書・参考書等

シューマン、ドヴォルザーク、ショスタコーヴィチ、ブラームスのピアノ五重奏曲、ベートーヴェン、メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲。モーツァルトのピアノ四重奏曲等。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽A b

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 北本 秀樹

実務経験

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

弦楽器専修を中心とするが他の専修の履修も可。室内楽に興味と意欲のある学生。

### 授業の概要

あなた達が今演奏してみたい室内楽。  
将来演奏してみたい室内楽を授業で行っていく。

### 授業の到達目標

- 作曲家の意図を読み取ること、それを演奏能力の向上につなげることができる。
- アンサンブル能力の向上。

### 授業計画

1. 導入
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩

12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫
14. アンサンブル実習⑬
15. 発表演奏 2回目以降は室内楽を学生同士で演奏する。  
必要な楽器のメンバーがいない時は、演奏要員の方をお願いします。

### 授業時間外の学習

各自十分な練習を行う事。

### 教科書・参考書等

なし

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽B a

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 阪本 奈津子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

### 授業の到達目標

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

### 授業計画

1. 導入及び曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品 モーツァルト①ピアノと弦楽器 二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレー징の注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性—弦楽四重奏曲
6. 音程について 純正律と平均律 ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い

弦楽器の室内楽作品

12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品
13. ドヴォルザーク① 国民楽派 関連する作曲家について 弦楽器の室内楽作品
14. ドヴォルザーク②ピアノを含む室内楽作品
15. まとめと確認

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽B b

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 蓼沼 恵美子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の履修も可。

### 授業の概要

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性をふまえた上での音色作りや響きのバランス、呼吸感等、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な奏法を実践で学ぶ。異なる楽器の響きの融合を体験したり、楽曲に対するそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げ、作曲家の意図をふまえた、より幅広い表現を目指していきたい。演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

### 授業の到達目標

アンサンブルにおける奏法を修得し、相手の音をよく聴きながら、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. アンサンブル実習①
4. アンサンブル実習②
5. アンサンブル実習③
6. アンサンブル実習④
7. アンサンブル実習⑤
8. 楽曲のまとめ。発表演奏の曲を決定
9. パート練習(レッスン)①

10. パート練習(レッスン)②
11. パート練習(レッスン)③
12. パート練習(レッスン)④
13. パート練習(レッスン)⑤
14. パート練習(レッスン)⑥
15. 発表演奏

※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。

### 授業時間外の学習

自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。事前にCDを聴いたり、スコアを見るなど、他のパートにも目を向けておくこと。

### 教科書・参考書等

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)

科目名 室内楽B c

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 白尾 隆

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

フルート専修の学生を対象とする。

### 授業の概要

フルートによる二重奏～七重奏(他の楽器を含まない)の重要なレパートリーの習得。

### 授業の到達目標

仲間と協調しながら自己をよく主張し音楽を表現するという、アンサンブル力の基本的な強化を目指すことができる。

### 授業計画

1. アンサンブル実習①
2. アンサンブル実習②
3. アンサンブル実習③
4. アンサンブル実習④
5. アンサンブル実習⑤
6. アンサンブル実習⑥
7. アンサンブル実習⑦
8. アンサンブル実習⑧
9. アンサンブル実習⑨
10. アンサンブル実習⑩
11. アンサンブル実習⑪
12. アンサンブル実習⑫

13. アンサンブル実習⑬
14. アンサンブル実習⑭
15. 発表演奏

課題曲の編成により、数グループに分け、状況を見ながら、期間内に、できるだけ多くのレパートリーを勉強する。

クーラウ、クンマー等の古典から、ロレンツォ、デュボワ、ボザ等の近代作品を習得する。

### 授業時間外の学習

個人レッスン同様、可能な限り仲間と練習し、授業までによく準備し、また復習すること。

### 教科書・参考書等

楽譜をその都度貸し出すので、各自コピーすること。

### 成績評価

授業への取り組み方を重視し、学期末発表演奏の結果等も見ながら、総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 室内楽Bd

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 菊池 奏絵

実務経験 ○

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ただ楽譜を演奏するという作業や自分の専修の事のみを目的とせず、様々な角度から視野を広げたい者に履修して欲しい。

### 授業の概要

本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、ひとつの曲を仕上げる時に必要となる要素を明らかにして行く。それぞれの時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現代の実践の現場から見えて来る様々な方面からのアプローチを知り、実際のアンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えて行く可能性あり。各授業の初めに講義をし、後半はアンサンブル実践をして行く。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

### 授業の到達目標

ひとつの曲を仕上げる時に、どのように演奏するべきか自分で考え、様々な情報の中から選択する能力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. バロック時代の音楽について
2. 楽譜について
3. 通奏低音について①数字の読み方
4. 通奏低音について②和声付け
5. アンサンブル組み

6. フルートの変遷
7. バロック時代周辺の楽器について
8. バロック時代周辺の音楽について
9. 舞曲、組曲について
10. 演奏習慣について
11. 当時の文献を読む
12. 音楽修辞学について
13. 装飾について
14. アンサンブル仕上げ
15. 発表

### 授業時間外の学習

アンサンブル曲の情報収集を自分なりにやってくる事。  
個人練習、グループでの練習を充分にする事。

### 教科書・参考書等

プリントを配布。授業内で参考書を紹介

### 成績評価

成績評価については、受講態度50%、課題に対する成果50%にて評価する。

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 伴奏法Ⅱ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 揚原 さとみ

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

教職課程受講者は必修とするが、そうでない学生もアンサンブルに関心を持つ者は歓迎する。

### 授業の概要

主として音楽教育の場に最適なピアノ伴奏法を、実技レッスン・オーディオ資料鑑賞・講義を通じて学び、教育現場で活かせるように研究していく。

具体的には歌唱や合唱、また器楽合奏指導の教授に最適なピアノ伴奏の技法・練習方法・呼吸法などを理解し、実践形式で習得していく。初見ピアノ伴奏、ピアノ弾き語り、コードネームでの即興伴奏についてもふれたい。

教職課程必修科目のため対象場面は学校教育現場としているが、様々な音楽活動においてのピアノ伴奏法を探りたい。

### 授業の到達目標

- ・教育場面において、音楽指導を伴うピアノ伴奏が出来る。
- ・効果的なピアノ伴奏が出来る音感を養う事が出来る。
- ・コードネームを把握し、即興でシンプルな伴奏付けが出来る。

### 授業計画

1. 授業の導入・初見の基礎
2. 初見の発展
3. 初見のピアノ伴奏と即興伴奏付け
4. ピアノ連弾①呼吸を合わせる練習
5. ピアノ連弾②アーティキュレーションを合わせる練習
6. コードネームについて①3和音
7. コードネームについて②4和音
8. コードにおける伴奏付け①筆記編
9. コードにおける伴奏付け②演奏編

10. 弾き語り①斉唱曲(音量バランスに注目する練習)
  11. 弾き語り②合唱曲(楽曲分析を瞬時にこなす練習)
  12. スコアリーディング(弦楽曲を用いた要約演奏)
  13. 課題曲レッスン①前半
  14. 課題曲レッスン②後半
  15. 課題曲発表とフィードバック
- ※受講生の人数等により内容変更の可能性あります。

### 授業時間外の学習

毎回課題が出されるので予習、復習に努めること。  
グループやペアを組んでのレッスンはお互いに協力を深めること。

### 教科書・参考書等

五線紙を毎時間持参する事。  
授業時にプリントを配布します。

### 成績評価

課題に対する成果30%、平常授業への意欲や態度30%、試験40%、これらを総合的に評価する。

- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 日本音楽概論

授業形態 講義

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 森重 行敏

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

演劇専攻者も歓迎する。授業への取組みは重視する。教職課程受講者は必修。

### 授業の概要

日本で音楽や舞台芸術に関わる者にとって必要な、伝統芸能に関する基礎知識を身につけることを目標とする。教職をめざす者は必修としたい。将来教育の現場で活用できる知識はもとより、日本の音楽教育にとって重要な日本文化全般へのまなざしと伝統音楽との関係を気づいて行くことの重要性を認識したい。

### 授業の到達目標

日本の音楽や楽器についての基礎知識を身につけるとともに、伝統芸能に親しむ方法をさぐる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 古代の芸能
3. 雅楽①舞楽
4. 雅楽②管絃
5. 雅楽③国歌歌舞
6. 能
7. 狂言
8. 中世芸能

9. 歌舞伎
10. 日本舞踊
11. 文楽
12. 箏曲
13. 三曲
14. 明治以降の邦楽
15. 現代の邦楽

### 授業時間外の学習

歌舞伎などの舞台上演、邦楽演奏会などに積極的に足を運ぶようにして欲しい。

### 教科書・参考書等

月溪恒子著「日本音楽との出会い」(東京堂出版)

### 成績評価

授業への取組み・態度50%、課題50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
 A 総合点が80点以上の者  
 B 総合点が60点以上の者  
 C 総合点が50点以上の者  
 D 総合点が49点以下の者

科目名 合奏基礎(和楽器)

授業形態 演習  
(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 花岡 操聖

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

日本音楽専修生必修。その他、和楽器に興味のある他専修生。

### 授業の概要

少パート(二重奏から三重奏)のアンサンブルを中心に、基礎的な合奏への取り組み方を身につけていく。

楽譜の読み方はもちろん、曲の時代背景などを知ることで、合奏力を高める。

また、日本音楽特有の口唱歌にも触れ、各楽器の特徴を掴み、合奏に活かしていきたい。

### 授業の到達目標

『他パートの音を聴きながら、かつ柔軟な発想と姿勢での合奏』ができる。

具体的には、第一回目に発表した各自の課題を授業最終日までに乗り越える事を目標とする。

### 授業計画

まずは、この授業に参加するにあたり、自分の課題を1つ決めてくる事(弾きたい曲や克服したい事柄etc)。

第1回は各自の課題を発表・ディスカッションし、2回目以降の授業計画を具体的に立てる。下記に授業計画例を示すが、履修者数や学生の目標により大幅に変更する可能性あり。

演奏曲例として「千鳥の曲」「春の海」「二つの個性」「二つの田園詩」、その他希望曲があれば適宜取り上げる。

#### 【授業計画例】

1. 発表・ディスカッション、授業計画について
2. 千鳥の曲①箏二重奏

3. 千鳥の曲②箏二重奏(仕上げ)
4. 春の海①箏と尺八の合奏
5. 春の海②箏と尺八の合奏(仕上げ)
6. 二つの個性①I章 箏二重奏
7. 二つの個性②II章 箏二重奏
8. 二つの個性③I・II章(仕上げ)
9. 二つの田園詩①箏、17絃箏、尺八、合奏
10. 二つの田園詩②箏、17絃箏、尺八、合奏
11. 二つの田園詩③箏、17絃箏、尺八、合奏(仕上げ)
12. 学生の希望曲①合奏
13. 学生の希望曲②合奏
14. 学生の希望曲③合奏(仕上げ)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

演奏に臨む際は、必ず個人練習と合奏練習をして来る事。聴く側の場合は、楽譜を読んでおく事。

### 教科書・参考書等

特になし。適宜配布する。

### 成績評価

成績は、授業に臨む姿勢(80%)と、授業内の発表(20%)にて評価する。

- S 総合点90点以上  
 A 総合点80点以上  
 B 総合点60点以上  
 C 総合点50点以上  
 D 総合点49点以下

科目名 演奏解釈(4) 日本音楽

授業形態 講義

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 たかの 舞俐

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

日本音楽専修必修。その他の学生は、特に条件はないが、自分の専攻以外の楽器や音楽に興味や意欲があること。

### 授業の概要

演奏することにおいては、譜面通りに演奏することだけでなく、各自がその作品を通して、自分の音楽性や個性を表現することが重要であると考えます。

この授業では、様々な邦楽器のための音楽を中心として題材を選び、それについて分析し、演奏解釈や演奏方法について模索してみるなど、積極的な意見交換を交えて進めていきたいと思っている。

最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。また、中間と最後にそれまでの講義で学んだ事をもとにした発表の場を設けたいと思っている。

### 授業の到達目標

この授業では以下の事を到達目標とする。

1. それぞれの楽曲に対して、作曲者の意図を理解し、それを自分なりに表現することを考え、実践することを試みる。
2. 邦楽以外のジャンルの音楽でも自分の音楽表現ができる演奏を考えて、実践してみる。
3. 学期の最後に、自分が今まで演奏した曲や、現在演奏している曲、また講義内で提示された曲などを演奏するコンサートを行う事によって、講義で学んだ事を発表する。

### 授業計画

1. オリエンテーション、アンケート
2. 邦楽の原点、雅楽
3. 箏曲「六段の調」分析&派による演奏相違について
4. 地歌「ままの川」その他DVD鑑賞
5. 西洋音楽における様々な新しい楽器奏法について

6. 現代邦楽で取り上げられている様々な奏法について
7. 受講生による中間発表、意見交換
8. 箏のプリヘッド方法についてのレクチャー。即興指導など。
9. たかの編曲作品の演奏解釈指導
10. 邦楽器演奏の新たな可能性①ジャンルを超えて
11. 邦楽器演奏の新たな可能性②ジャンルを超えて
12. 実習①(最終日のコンサートのための準備を含める)
13. 実習②(最終日のコンサートのための準備を含める)
14. 実習③(最終日のコンサートのための準備を含める)
15. レクチャーコンサート

順序、及び内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

授業内容においては、自主練習が必要な場合がある。

### 教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布

### 成績評価

授業への取り組み40%、コンサート60%

- S 総合点が90点以上の者(積極的に授業に参加しており、試験ないしレポート課題において卓越した評価を得ている。)
- A 総合点が80点以上の者(積極的に授業に参加しており、試験ないしレポート課題において高い評価を得ている。)
- B 総合点が60点以上の者(まじめに授業に参加し、試験ないしレポート提出をこなしている。)
- C 総合点が50点以上の者(Bに次ぐ)
- D 総合点が49点以下の者(授業への取り組みが積極的でなく、試験不参加ないしレポート未提出である。)

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

芸術科演劇専攻

科目名 基礎演劇演習 A a

演習形態 (演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

a組必修。  
授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

### 授業の概要

この授業では、各自が有する資質の伸ばすべき長所と克服すべき短所とを見極め、俳優を目指すための確かな動機づけと学習習慣を確立させることを目的とする。

そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノログドラマ」として完成させるという方法をとる。

加えて、第二の課題として戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。

なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

### 授業の到達目標

- ①「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノログドラマ」を完成し、発表することができる。
- ②戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示

6. 「シーンワーク」の本読み①ことば
  7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンプル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

毎回の授業への取り組み、発表内容の質を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。

- S 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。
- A 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。
- C 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。
- D 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。

科目名 基礎演劇演習 A b

演習形態 (演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ①b組必修
- ②授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に基礎的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。  
上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ①与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ②課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
  - S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
  - A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
  - B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
  - C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
  - D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 基礎演劇演習 A c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

c組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテクストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、基本技術①全身、宿題：人間観察全身物まね、赤色エレジー紹介
3. シアターゲーム、基本技術②手、宿題：人間観察手物まね、赤色エレジー読む
4. シアターゲーム、基本技術③足、宿題：人間観察足物まね、赤色エレジー

5. エチュード、小道具、大道具、RudolfPenka紹介、赤色エレジー
6. エチュード、スペース、舞台組み合わせ、赤色エレジー
7. エチュード、コスチューム、篠崎System紹介、赤色エレジー
8. インプロゼーション、ボイストレーニング、赤色エレジー
9. インプロゼーション、ステータス、KeithJohnstone紹介、赤色エレジー
10. シーンワーク、StanislawskiSystem紹介、赤色エレジー
11. シーンワーク赤色エレジー
12. 稽古赤色エレジー①
13. 稽古赤色エレジー②
14. 発表会赤色エレジー
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
 A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
 B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
 C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
 D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 基礎演劇演習 A d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 真子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

d組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をし、毎回の授業で指摘された点を克服し演技の基礎を習得すること。稽古着、稽古履きを着用。

### 授業の概要

シェイクスピアの「オセロー」を題材に、戯曲の読解力をつけるために、場面ごとに状況や人間関係、ステイタスがどう変化していくかを読み解き、深い理解に基づいた演技の技術を身につける演習を行う。班ごとに上演台本をつくる課題を設定、他者とともに議論を行い、物語を紡ぎだす技術を習得し課題を解決する。基本的な呼吸法、腹式呼吸による発話を身につける。自らが登場人物の内面=心と、身体による表現、及び、言葉による表現という3つの要素の基礎を学ぶ。演技発表会という課題にクラス全員で取り組み、スタッフの仕事も含め、協働の役割を果たすことを学び、地域社会、国際社会のニーズに応えることのできる演劇的な技術の基礎を身につける。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、相手役との演技を通して、思考・判断を深め、集団創作の中で協働する態度を習得する。具体的には以下の3点を授業の到達目標とする。

- 戯曲を上演するテキストとして読解し、上演台本をチームで作りに上げることができる。
- 登場人物の心、身体表現、セリフ術という3つの観点から演技を組み立てることができる。
- 演劇が集団創作であることを理解し、一つの台本をもとに協働し、役割分担、チームワーク、コミュニケーションを行うことができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 複式呼吸の技術。関係性の理解
3. 呼吸法、発声、台本の読解の方法
4. 読解した台本から上演台本を作成
5. シーンワーク①スタッフワークのチーム作り

6. シーンワーク②
7. シーンワーク③
8. シーンワーク④
9. シーンワーク⑤
10. シーンワーク⑥
11. 1時間の発表の通し稽古①
12. 通し稽古②
13. 通し稽古③
14. 発表の録画の観察とそれによる学生の今後の課題のまとめ
15. 前回の課題を克服するシーンワーク

### 授業時間外の学習

前もって台本を読解し、チームごとに自主練習を入念に行うこと。授業で教員から学んだ演技技術を繰り返し練習すること。

### 教科書・参考書等

授業時に配布するプリント、及び、小田島雄志訳「オセロー」(白水社版)学校でまとめて注文する。すでに持っている学生は購入の必要はない。

### 成績評価

授業への取り組み(40%)、課題(30%)、発表(20%)、スタッフワーク(10%)

S 総合点が90点以上の者(卓越した授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)

A 総合点が80点以上の者(優れた授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)

B 総合点が60点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で一定の役割を果たすことができる)

C 総合点が50点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表が不十分で、授業で必要な役割への貢献度が不十分である)

D 総合点が49点以下の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表ができず、授業で積極的な役割を果たすことができない)

科目名 基礎演劇演習Ba

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

a組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテクストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、基本技術①全身、宿題：人間観察全身物まね、赤色エレジー紹介
3. シアターゲーム、基本技術②手、宿題：人間観察手物まね、赤色エレジー読む
4. シアターゲーム、基本技術③足、宿題：人間観察足物まね、赤色エレジー

5. エチュード、小道具、大道具、RudolfPenka紹介、赤色エレジー
6. エチュード、スペース、舞台組み合わせ、赤色エレジー
7. エチュード、コスチューム、篠崎System紹介、赤色エレジー
8. インプロゼーション、ボイストレーニング、赤色エレジー
9. インプロゼーション、ステータス、KeithJohnstone紹介、赤色エレジー
10. シーンワーク、StanislawskiSystem紹介、赤色エレジー
11. シーンワーク赤色エレジー
12. 稽古赤色エレジー①
13. 稽古赤色エレジー②
14. 発表会赤色エレジー
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
 A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
 B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
 C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
 D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 基礎演劇演習Bb

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 真子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

b組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をし、毎回の授業で指摘された点を克服し演技の基礎を習得すること。稽古着、稽古履きを着用。

### 授業の概要

シェイクスピアの「オセロー」を題材に、戯曲の読解力をつけるために、場面ごとに状況や人間関係、ステイタスがどう変化していくかを読み解き、深い思考と判断に基づいた演技の技術を身につける演習を行う。班ごとに上演台本をつくる課題を設定、他者とともに議論を行い、物語を紡ぎだす技術を習得し課題を解決する。基本的な呼吸法、腹式呼吸による発話を身につける。自らが登場人物の内面=心と、身体による表現、及び、言葉による表現という3つの要素の基礎を学ぶ。演技発表会という課題にクラス全員で取り組み、スタッフの仕事も含め、協働の役割を果たす態度を学び、地域社会、国際社会のニーズに応えることのできる演劇的な技術の基礎を身につける。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、相手役との演技を通して、思考・判断を深め、集団創作の中で協働する態度を習得する。具体的には、以下の3点を授業の到達目標とする。

- 戯曲を上演するテキストとして読解し、深い思考と判断、協働に基づいた上演台本を作成できる。
- 登場人物の心、身体表現、セリフ術という3つの観点から演技を組み立て、しっかりした基礎に基づく演技ができる。
- 演劇が集団創作であることを理解し、役割分担、チームワーク、コミュニケーションという協働ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 複式呼吸の技術。関係性の理解
3. 呼吸法、発声、台本の読解の方法
4. 読解した台本から上演台本を作成

5. シーンワーク①スタッフワークのチーム作り
6. シーンワーク②
7. シーンワーク③
8. シーンワーク④
9. シーンワーク⑤
10. シーンワーク⑥
11. 1時間の発表の通し稽古①
12. 通し稽古②
13. 通し稽古③
14. 発表の録画の観察とそれによる学生の今後の課題のまとめ
15. 前回の課題を克服するシーンワーク

### 授業時間外の学習

前もって台本を読解し、チームごとに自主練習を入念に行うこと。授業で教員から学んだ演技技術を繰り返し練習すること。

### 教科書・参考書等

授業時に配布するプリント、及び、小田島雄志訳「オセロー」(白水社版)学校でまとめて注文する。すでに持っている学生は購入の必要はない。

### 成績評価

授業への取り組み(40%)、課題(30%)、発表(20%)、スタッフワーク(10%)  
 S 総合点が90点以上の者(卓越した授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)  
 A 総合点が80点以上の者(優れた授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)  
 B 総合点が60点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で一定の役割を果たすことができる)  
 C 総合点が50点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表が不十分で、授業で必要な役割への貢献度が不十分である)  
 D 総合点が49点以下の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表ができず、授業で積極的な役割を果たすことができない)

科目名 基礎演劇演習B c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

c組必修。  
授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

### 授業の概要

この授業では、各自が有する資質の伸ばすべき長所と克服すべき短所とを見極め、俳優を目指すための確かな動機づけと学習習慣を確立させることを目的とする。

そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノログドラマ」として完成させるという方法をとる。

加えて、第二の課題として戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。

なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

### 授業の到達目標

- ①「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノログドラマ」を完成し、発表することができる。
- ② 戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば

7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

毎回の授業への取り組み、発表内容の質を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。

- S 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。
- A 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。
- C 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。
- D 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。

科目名 基礎演劇演習B d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ①d組必修
- ②授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に基礎的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。  
上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表

11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ①与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ②課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢
- ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 身体トレーニングabcd

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 山本 光二郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

必修。カラダを動かすことをいとわない者。

### 授業の概要

カラダで表現することに気づき、可能性を確かめる授業である。テクニックの習得もさることながら、受講者個人のカラダに対する許容範囲を広げることを目的とする。

- カラダの柔軟性、カラダの持っているリズムを確認する。
- ダンスカンパニーコンドルズの持つ不思議な世界を紹介する、そこから舞台人として自身の見せ方、見られ方を学ぶ。
- 楽器を使える人、声を使える人はコンテンポラリーダンスを自身のパフォーマンスと融合することを学ぶ。

### 授業の到達目標

カラダを動かすことによって気付く自身の可能性を発見、認識、利用、表現することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入。
2. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊る遊ぶ。①基本
3. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊る遊ぶ。②基本
4. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊る遊ぶ。③基本
5. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊る遊ぶ。④応用
6. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊る遊ぶ。⑤応用
7. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ①基本
8. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ②基本
9. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学

習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ③応用

10. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ④応用
11. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。①稽古
12. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。②稽古
13. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。③稽古
14. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。④仕上げ
15. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。⑤発表

### 授業時間外の学習

授業に参加するには健康であることが大前提であるので、日常的に怪我や病気に注意し、健やかな状態を維持すること。

### 教科書・参考書等

動きやすい、床に転がってもよい服装。裸足もしくは靴下。

### 成績評価

授業への取り組み重視 (90%)、レポート提出 (10%) を100点に換算

- S: 90点以上
- A: 80点以上
- B: 60点以上
- C: 50点以上
- D: 50点未満

科目名 ボイス・トレーニング(歌唱)abcd

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 信太 美奈

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

必修。  
素直に何でもトライしたい意欲のある者。  
顔面が見えるヘアスタイルで参加。

### 授業の概要

芝居の為、歌の為の呼吸・筋肉・声の出し方・歌い方などを学ぶ。

「ヴォイス」声とはどんな物なのかを知る。  
声と心と筋肉の関係を知る。  
声について色々な角度から試す。

### 授業の到達目標

芝居・歌において、身体を使った声で舞台上に立つことができる。  
完全にはできなくとも、意識は持つことができる。  
筋肉と感情がコントロールできる。

### 授業計画

1. 自己紹介① (ひとりひとり歌ってもらう)
2. 自己紹介② (ひとりひとり歌ってもらう)
3. 呼吸と声
4. 声と筋肉と心①
5. 声と筋肉と心②
6. 発声と感情
7. 身体の意識
8. 発声をしながら気持ちを出す①
9. 発声をしながら気持ちを出す②

10. 台詞を言いながらの気持ちと筋肉について意識する①
  11. 台詞を言いながらの気持ちと筋肉について意識する②
  12. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する①
  13. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する②
  14. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する③
  15. 課題出して試験、まとめ
- ⑬ 予定通りに進まない場合もある。

### 授業時間外の学習

授業でやったことを必ず復習。次の授業の時にはそれが無意識でもできるようにしてくる。  
たくさんの音楽を聞く。たくさんの舞台人の声を聞く。  
他の授業でも、この授業で習った事を利用して、コラボしあうように。

### 教科書・参考書等

授業中にプリントあるいは楽譜を配布。

### 成績評価

授業態度、課題への取り組み (予習、復習)、課題の成果などを元に総合的に評価する。

- S 意欲があり、課題の予習、復習をしっかり行い成果がある人。
- A 意欲はある。課題をやってまあまあ成果が見られた人。
- B 課題には向き合うが、向上していない人。
- C 課題に向き合う精神がみられない人。
- D 授業態度、取り組みが悪い人。

科目名 演劇演習 A a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

## 履修条件

- ① a組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

## 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に実践的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

## 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。  
上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

## 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

## 授業時間外の学習

- ①与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ②課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

## 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

## 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 A b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

## 履修条件

b組必修。  
授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

## 授業の概要

この授業では、前期に開講された「基礎演劇演習」で培った力量を礎に、俳優を目指すための更なる動機づけと学習習慣の確立、さらには良きアンサンブルの取り方を学ぶ。  
そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノローグドラマ」として完成させるという方法をとる。  
加えて、第二の課題として戯曲(台詞劇)の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。  
なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

## 授業の到達目標

- ①「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノローグドラマ」を完成し、発表することができる。
- ②戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

## 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示

6. 「シーンワーク」の本読み①ことば
  7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

## 授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

## 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。  
参考書・必要に応じて随時指定。

## 成績評価

- 毎回の授業への取り組み、発表内容の質を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。
- S 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。
- A 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。
- C 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。
- D 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。

科目名 演劇演習 A c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 真子

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

1年c組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をし、毎回の授業で指摘された点を克服し演技の基礎を習得すること。稽古着、稽古履きを着用。

### 授業の概要

シェイクスピアの「マクベス」を題材に、戯曲の読解力をつけるために、場面ごとに状況や人間関係、ステイタスがどう変化していくかを読み解き、深い思考と判断に基づいた演技の技術を身につける演習を行う。班ごとに上演台本をつくる課題を設定、他者とともに議論を行い、物語を紡ぎだす技術を習得し課題を解決する。基本的な呼吸法、腹式呼吸による発話を身につける。自らが登場人物の内面＝心と、身体による表現、及び、言葉による表現という3つの要素の基礎を学ぶ。演技発表会という課題にクラス全員で取り組み、スタッフの仕事も含め、協働の役割を果たす態度を学び、地域社会、国際社会のニーズに応えることのできる演劇的な技術の基礎を身につける。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、相手役との演技を通して、思考・判断を深め、集団創作の中で協働する態度を習得する。具体的には、以下の3点を授業の到達目標とする。

- 戯曲を上演するテキストとして読解し、深い思考と判断、協働に基づいた上演台本を作成できる。
- 登場人物の心、身体表現、セリフ術という3つの観点から演技を組み立て、しっかりした基礎に基づく演技ができる。
- 演劇が集団創作であることを理解し、役割分担、チームワーク、コミュニケーションという協働ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 複式呼吸の技術。関係性の理解
3. 呼吸法、発声、台本の読解の方法
4. 読解した台本から上演台本を作成

5. シーンワーク①スタッフワークのチーム作り
6. シーンワーク②
7. シーンワーク③
8. シーンワーク④
9. シーンワーク⑤
10. シーンワーク⑥
11. 1時間の発表の通し稽古①
12. 通し稽古②
13. 通し稽古③
14. 発表の録画の観察とそれによる学生の今後の課題のまとめ
15. 前回の課題を克服するシーンワーク

### 授業時間外の学習

前もって台本を読解し、チームごとに自主練習を入念に行うこと。授業で教員から学んだ演技技術を繰り返し練習すること。

### 教科書・参考書等

授業時に配布するプリント、及び、小田島雄志訳「マクベス」(白水社版)学校でまとめて注文する。すでに持っている学生は購入の必要はない。

### 成績評価

授業への取り組み(40%)、課題(30%)、発表(20%)、スタッフワーク(10%)

S 総合点が90点以上の者(卓越した授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)

A 総合点が80点以上の者(優れた授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)

B 総合点が60点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で一定の役割を果たすことができる)

C 総合点が50点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表が不十分で、授業に必要な役割への貢献度が不十分である)

D 総合点が49点以下の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表ができず、授業で積極的な役割を果たすことができない)

科目名 演劇演習 A d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

d組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、エチュード、シーンワークオーディション二人芝居
3. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
4. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居

5. 自習練習発表会二人芝居、反省
6. シーンワーク練習二人芝居、演劇技術論
7. シーンワーク、稽古、小道具、大道具有り、演劇技術論
8. シーンワークコスチューム有り、ボイストレーニング
9. 新ワーク通し
10. 発表会
11. 発表会反省、二番目シーンワークオーディション、演劇技術まとめ
12. シーンワーク、宿題：自主練習
13. シーンワーク通し
14. シーンワーク稽古
15. 発表会、反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。

S (1)~(4)まで90%以上獲得した者

A (1)~(4)まで80%以上獲得した者

B (1)~(4)まで60%以上獲得した者

C (1)~(4)まで50%以上獲得した者

D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習 B a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 真子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

1年c組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をし、毎回の授業で指摘された点を克服し演技の基礎を習得すること。稽古着、稽古履きを着用。

### 授業の概要

シェイクスピアの「マクベス」を題材に、戯曲の読解力をつけるために、場面ごとに状況や人間関係、ステイタスがどう変化していくかを読み解き、深い思考と判断に基づいた演技の技術を身につける演習を行う。班ごとに上演台本をつくる課題を設定、他者とともに議論を行い、物語を紡ぎだす技術を習得し課題を解決する。基本的な呼吸法、腹式呼吸による発話を身につける。自らが登場人物の内面＝心と、身体による表現、及び、言葉による表現という3つの要素の基礎を学ぶ。演技発表会という課題にクラス全員で取り組み、スタッフの仕事も含め、協働の役割を果たす態度を学び、地域社会、国際社会のニーズに応えることのできる演劇的な技術の基礎を身につける。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、相手役との演技を通して、思考・判断を深め、集団創作の中で協働する態度を習得する。具体的には、以下の3点を授業の到達目標とする。

- 戯曲を上演するテキストとして読解し、深い思考と判断、協働に基づいた上演台本を作成できる。
- 登場人物の心、身体表現、セリフ術という3つの観点から演技を組み立て、しっかりした基礎に基づく演技ができる。
- 演劇が集団創作であることを理解し、役割分担、チームワーク、コミュニケーションという協働ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 複式呼吸の技術。関係性の理解
3. 呼吸法、発声、台本の読解の方法
4. 読解した台本から上演台本を作成

5. シーンワーク①スタッフワークのチーム作り
6. シーンワーク②
7. シーンワーク③
8. シーンワーク④
9. シーンワーク⑤
10. シーンワーク⑥
11. 1時間の発表の通し稽古①
12. 通し稽古②
13. 通し稽古③
14. 発表の録画の観察とそれによる学生の今後の課題のまとめ
15. 前回の課題を克服するシーンワーク

### 授業時間外の学習

前もって台本を読解し、チームごとに自主練習を入念に行うこと。授業で教員から学んだ演技技術を繰り返し練習すること。

### 教科書・参考書等

授業時に配布するプリント、及び、小田島雄志訳「マクベス」白水社版) 学校でまとめて注文する。すでに持っている学生は購入の必要はない。

### 成績評価

- 授業への取り組み (40%)、課題 (30%)、発表 (20%)、スタッフワーク (10%)
- S 総合点が90点以上の者(卓越した授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)
- A 総合点が80点以上の者(優れた授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で一定の役割を果たすことができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表が不十分で、授業に必要な役割への貢献度が不十分である)
- D 総合点が49点以下の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表ができず、授業で積極的な役割を果たすことができない)

科目名 演劇演習 B b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

b組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテクストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、エチュード、シーンワークオーディション二人芝居
3. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
4. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居

5. 自習練習発表会二人芝居、反省
6. シーンワーク練習二人芝居、演劇技術論
7. シーンワーク、稽古、小道具、大道具有り、演劇技術論
8. シーンワークコスチューム有り、ボイストレーニング
9. 新ワーク通し
10. 発表会
11. 発表会反省、二番目シーンワークオーディション、演劇技術まとめ
12. シーンワーク、宿題：自主練習
13. シーンワーク通し
14. シーンワーク稽古
15. 発表会、反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

- (1)課題に対する成果、(2)授業に取組もうとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。
- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者
- A (1)~(4)まで80%以上獲得した者
- B (1)~(4)まで60%以上獲得した者
- C (1)~(4)まで50%以上獲得した者
- D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習 B c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① c組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に実践的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

- ・課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。
- ・上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表

11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ①与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ②課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

- 教科書：授業時に配布(戯曲)
- 参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 B d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- d組必修。
- 授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

### 授業の概要

- この授業では、前期に開講された「基礎演劇演習」で培った力量を礎に、俳優を目指すための更なる動機づけと学習習慣の確立、さらには良きアンサンブルの取り方を学ぶ。
- そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノログドラマ」として完成させるという方法をとる。
- 加えて、第二の課題として戯曲(台詞劇)の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。
- なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

### 授業の到達目標

- ①「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノログドラマ」を完成し、発表することができる。
- ②戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示

6. 「シーンワーク」の本読み①ことば
  7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- 「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

### 教科書・参考書等

- 教科書・教材は授業時に発表。
- 参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

- 毎回の授業への取り組み、発表内容の質を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。
- S 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。
- A 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。
- C 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。
- D 授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。

科目名 演劇演習C a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

a組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

ひとつの演劇作品のワンシーンを用いて、演技の基礎をさらに深める。以下のことを学ぶ。

- 「サブテキスト」をどのように創出するのか
- 「なりゆき」の重要性を理解する
- 「ターニングポイント」のきっかけを掴む
- 困難な状況において自分の演技を維持する

さらに、実に些細な個人的状況が、より大きな「世界の諸問題」とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を、独自の方法によって表現することを身につけて欲しい。以上を通じて、役に「なる」のではなく、役を「演じる」ことを学んでいく。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム、作品紹介
2. ワンシーンオーディション(二人—五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット

6. 照明、音響、映像等セット
7. ワンシーン通し、反省
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古、ボイストレーニング
10. ワンシーン稽古
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

戯曲、戯曲のコンテキスト本

### 成績評価

(1)課題に対する成果、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
 A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
 B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
 C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
 D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習C b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 真子

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

2年b組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をし、毎回の授業で指摘された点を克服し役作りの基礎を修得すること。稽古着、稽古履きを着用。

### 授業の概要

シェイクスピアの「ヴェニスの商人」を題材に、戯曲の読解力をつけるために、場面ごとに状況や人間関係、ステイタスがどう変化していくかを読み解き、深い思考と判断に基づいた演技の技術を身につける演習を行う。班ごとに上演台本をつくる課題を設定、他者とともに議論を行い、物語を紡ぎだす技術を習得し課題を解決する。1年時に習得した基礎を土台に、自らが登場人物の内面=心と、身体による表現、及び、言葉による表現という3つの要素の応用のしかたを学ぶ。シェイクスピアという古典をもとに、現代化、戯画化、ミュージカル化など、クラス全員で取り組み、スタッフの仕事も含め、協働の態度を学び、地域社会、国際社会のニーズに応えることのできる演劇的な技術の応用を身につける。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、相手役との演技を通して、思考・判断を深め、集団創作の中で協働する態度を習得する。具体的には、以下の3点を授業の到達目標とする。

- 戯曲を上演するテキストとして読解し、深い思考と判断、協働に基づいた上演台本を作成できる。
- 1年時に習得した基礎をもとに、古典に対する思考と判断を深め、地域社会や国際社会のニーズに応えるレベルの演技ができる。
- 演劇が集団創作であることを理解し、役割分担、チームワーク、コミュニケーションという協働ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 台本の読解と演技 シーンワーク①
3. シーンワーク①の発表と演技術の課題
4. 台本の読解と演技 シーンワーク②

5. シーンワーク②の発表と演技術の課題
6. 台本の読解と演技 シーンワーク③
7. シーンワーク③の発表と演技術の課題
8. 台本の読解と演技 シーンワーク④
9. シーンワーク④の発表と演技術の課題
10. 台本の読解と演技 シーンワーク⑤
11. シーンワーク⑤の発表と演技術の課題
12. 台本の読解と演技 シーンワーク⑥
13. シーンワーク⑥の発表と演技術の課題
14. 台本の読解と演技 シーンワーク⑦
15. シーンワーク⑦の発表と今期の個別指導

### 授業時間外の学習

前もって台本を読解し、チームごとに自主練習を入念に行うこと。授業で教員から学んだ演技術を繰り返し練習すること。

### 教科書・参考書等

授業時に配布するプリント、及び、小田島雄志訳「ヴェニスの商人」(白水社版)学校でまとめて注文する。すでに持っている学生は購入の必要はない。

### 成績評価

授業への取り組み(40%)、課題(30%)、発表(20%)、スタッフワーク(10%)  
 S 総合点が90点以上の者(卓越した授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)  
 A 総合点が80点以上の者(優れた授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)  
 B 総合点が60点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で一定の役割を果たすことができる)  
 C 総合点が50点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表が不十分で、授業に必要な役割への貢献度が不十分である)  
 D 総合点が49点以下の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表ができず、授業で積極的な役割を果たすことができない)

科目名 演劇演習Cc

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ①c組必修
- ②授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、60分程度の中編戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの有効な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を理解することができる。  
上演した成果から一人一人の新たな可能性、追求目標を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表

11. 上演(1班)・反省/課題
12. 上演(2班)・反省/課題
13. 上演(3班)・反省/課題
14. 上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ①与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ②課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)

参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習Cd

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

d組必修。  
授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

俳優という表現者として与えてもらうのではなく、表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。本授業のメソッドでは各自がこれまでの人生で感じた事が反映されるセンスメモリーなどのトレーニングを用いることで新たな表現の発見が期待できる。シーンワークでは役の「役割」と「心理描写」を追求、探求しながら嘘のないリアリティある演技を目指し「役として生きる」。他の演者から影響されて動く感情「受け芝居」を繊細に表現しオリジナリティある創造性で作り上げていく。舞台、映像問わず俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

各自が新たな発見をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク①(力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク②(力量チェック) 自己分析
3. 身体表現(創造) ①

4. 身体表現(創造) ②
5. センスメモリーワーク①
6. センスメモリーワーク②
7. インプロ①
8. インプロ②
9. シーンワーク(以降、分解して進行) ①
10. シーンワーク②
11. シーンワーク③
12. シーンワーク④
13. シーンワーク発表①(衣裳・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表②(衣裳・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

- ①授業態度 ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤身体的、精神的健康の維持
- S: ①～⑤のうち全てを獲得した者
- A: ①～⑤のうち4つを獲得した者
- B: ①～⑤のうち3つを獲得した者
- C: ①～⑤のうち2つを獲得した者
- D: ①～⑤のうち1つしか獲得できなかった者

科目名 演劇演習 D a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① a組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、60分程度の中編戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの有効な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を理解することができる。  
上演した成果から一人一人の新たな可能性、追求目標を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ② 課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ① 授業の取組み ② 課題の成果 ③ 表現者としての真摯な姿勢
  - ④ 自らを研鑽する意欲 ⑤ 心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 D b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

b組必修。  
授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

俳優という表現者として与えてもらうのではなく、表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。本授業のメソッドでは各自がこれまでの人生で感じた事が反映されるセンスメモリーなどのトレーニングを用いることで新たな表現の発見が期待できる。シーンワークでは役の「役割」と「心理描写」を追求、探求しながら嘘のないリアリティある演技を目指し「役として生きる」。他の演者から影響されて動く感情「受け芝居」を繊細に表現しオリジナリティある創造性で作り上げていく。舞台、映像問わず俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

各自が新たな発見をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク①(力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク②(力量チェック) 自己分析
3. 身体表現(創造) ①

4. 身体表現(創造) ②
5. センスメモリーワーク①
6. センスメモリーワーク②
7. インプロ①
8. インプロ②
9. シーンワーク(以降、分解して進行) ①
10. シーンワーク②
11. シーンワーク③
12. シーンワーク④
13. シーンワーク発表①(衣裳・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表②(衣裳・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

- ① 授業態度 ② 課題の成果 ③ 表現者としての真摯な姿勢 ④ 自らを研鑽する意欲 ⑤ 身体的、精神的健康の維持
- S: ①～⑤のうち全てを獲得した者
- A: ①～⑤のうち4つを獲得した者
- B: ①～⑤のうち3つを獲得した者
- C: ①～⑤のうち2つを獲得した者
- D: ①～⑤のうち1つしか獲得できなかった者

科目名 演劇演習D c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

c組必修。  
自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。

次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置づけを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム、作品紹介
2. ワンシーンオーディション(二人一五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット

6. 照明、音響、映像等セット
7. ワンシーン通し、反省
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古、ボイストレーニング
10. ワンシーン稽古
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

絹川友梨著「インプロ・ゲーム」晩成書房  
研究旅行(キース・ジョンストン ルーズムースシアター)で集めた書類  
キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果、(2)授業に取り組みようとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習D d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 真子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

2年d組必修。  
与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をし、毎回の授業で指摘された点を克服し役作りの基礎を修得すること。稽古着、稽古履きを着用。

### 授業の概要

シェイクスピアの「ヴェニスの商人」を題材に、戯曲の読解力をつけるために、場面ごとに状況や人間関係、ステイタスがどう変化していくかを読み解き、深い思考と判断に基づいた演技の技術を身につける演習を行う。班ごとに上演台本をつくる課題を設定、他者とともに議論を行い、物語を紡ぎ出す技術を習得し課題を解決する。1年時に習得した基礎を土台に、自らが登場人物の内面=心と、身体による表現、及び、言葉による表現という3つの要素の応用のしかたを学ぶ。シェイクスピアという古典をもとに、現代化、戯画化、ミュージカル化など、クラス全員で取り組み、スタッフの仕事も含め、協働の態度を学び、地域社会、国際社会のニーズに応えることのできる演劇的な技術の応用を身につける。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、相手役との演技を通して、思考・判断を深め、集団創作の中で協働する態度を習得する。具体的には、以下の3点を授業の到達目標とする。

- 戯曲を上演するテキストとして読解し、深い思考と判断、協働に基づいた上演台本を作成できる。
- 1年時に習得した基礎をもとに、古典に対する思考と判断を深め、地域社会や国際社会のニーズに応えるレベルの演技ができる。
- 演劇が集団創作であることを理解し、役割分担、チームワーク、コミュニケーションという協働ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 台本の読解と演技 シーンワーク①
3. シーンワーク①の発表と演技術の課題
4. 台本の読解と演技 シーンワーク②

5. シーンワーク②の発表と演技術の課題
6. 台本の読解と演技 シーンワーク③
7. シーンワーク③の発表と演技術の課題
8. 台本の読解と演技 シーンワーク④
9. シーンワーク④の発表と演技術の課題
10. 台本の読解と演技 シーンワーク⑤
11. シーンワーク⑤の発表と演技術の課題
12. 台本の読解と演技 シーンワーク⑥
13. シーンワーク⑥の発表と演技術の課題
14. 台本の読解と演技 シーンワーク⑦
15. シーンワーク⑦の発表と今期の個別指導

### 授業時間外の学習

前もって台本を読解し、チームごとに自主練習を入念に行うこと。授業で教員から学んだ演技術を繰り返し練習すること。

### 教科書・参考書等

授業時に配布するプリント、及び、小田島雄志訳「ヴェニスの商人」(白水社版)学校でまとめて注文する。すでに持っている学生は購入の必要はない。

### 成績評価

授業への取り組み(40%)、課題(30%)、発表(20%)、スタッフワーク(10%)  
S 総合点が90点以上の者(卓越した授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)  
A 総合点が80点以上の者(優れた授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で積極的な役割を果たすことができる)  
B 総合点が60点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表をし、授業で一定の役割を果たすことができる)  
C 総合点が50点以上の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表が不十分で、授業に必要な役割への貢献度が不十分である)  
D 総合点が49点以下の者(授業への取り組み、完成度の高い課題、発表ができず、授業で積極的な役割を果たすことができない)

科目名 演技演習 A (ダイアログ) a b

演習(演技)

対象 演劇専攻 2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ストレートプレイコース必修。授業時間外での自習、自主稽古を必要とする。アーティストとしての自立、ならびに共同作業の二つを両立させること。稽古着を着用すること。

### 授業の概要

ダイアログ=対話の演劇創造を可能とするための「相手と関わる」ことの出来る俳優の心身の確立。アーティスト自身の想像力を以て、即興からグループワークでシーンを作る、ディバイジングの用法を用いて自分自身と客観的に向き合うシーンを創る。

ダイアログをメインにしたシーンを既存の戯曲から抜粋、「シーンワーク」を行なう。創造過程を学習し、最終発表を行なう。シーンの中の対話に留まらず、演劇活動に於ける全ての対話、「アーティスト同士の対話」「観客との対話」「社会との対話」にも創造過程に於いて目を向ける。

### 授業の到達目標

1. ディバイジングによるシーンの発表(グループワーク)ができる。
2. 課題で与えられたシーンの発表(二人一組)ができる。
3. 自分で見つけたシーンの発表(二人一組)ができる。
4. 創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての発見の報告(個人)ができる。

### 授業計画

1. 導入/目標設定
2. 身体訓練について/演劇的自己紹介①
3. 演劇的自己紹介②
4. サブテキストによる対話シーンの創造①1回目の発表
5. サブテキストによる対話シーンの創造②2回目の発表
6. フィジカルシアター(身体表現) ①ジェスチャー

7. フィジカルシアター(身体表現) ②テンポと空間的関係性
  8. ディバイジング(グループワークの創造) ①1回目の発表
  9. ディバイジング(グループワークの創造) ②2回目の発表
  10. 翻訳戯曲によるシーンワーク①取り組む戯曲の提案と本読み
  11. 翻訳戯曲によるシーンワーク②1回目の発表
  12. 翻訳戯曲によるシーンワーク③2回目の発表
  13. 課題戯曲によるシーンワーク①1回目の発表
  14. 課題戯曲によるシーンワーク②2回目の発表
  15. 総評/自己と他者に関する発見の報告
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

各シーンワーク発表に向けての自習ならびに自主稽古。

### 教科書・参考書等

教科書：教材は授業時に発表。  
参考書：必要に応じて随時指定。

### 成績評価

- ①授業への取組み80%②発表の内容の総合的評価20%の総合評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表がたいへん高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技演習 B(アンサンブル) a b

演習(演技)

対象 演劇専攻 2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 シライ ケイタ

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ストレートプレイコース必修。自分に興味があること。他者に興味があること。表現に興味があること。演技に興味があること。つまり、人間に興味があること。

### 授業の概要

演劇におけるアンサンブルとは、没個性を意味しない。突出した個性の集合体としてのアンサンブルを探索する。言葉にできる「感情」を起点とする演技ではなく、言葉にできない「衝動」「本能」「生理現象」を起点とする演技を学ぶ。「衝動」が、具体的な「目的」を生み、「行動」に至るといふ人間の仕組み、つまり演技の仕組みを理解する。

演技における「目的」とは、自分の役柄の感情や状態の説明ではなく、常に他者を変化させるために設定するべきであることを理解する。

演技における「行動」とは、「台詞」と「動作」であることを理解し、具体的に「話す」「動く」ことを学ぶ。

グループで小作品を制作することで演劇作品の制作過程を体験し、「他者」との関わりの中での「自分」というものを自覚する。

### 授業の到達目標

演技は楽しいものだと思えることができる。  
戯曲を「感情」ではなく「目的」で読む癖をつけることができる。  
演技は抽象的なものではなく、具体的なものであることを理解できる。  
「他者」との共同作業を通じて、演劇作りの楽しさを体験できる。

### 授業計画

- 1~14回は座学と実技を並行して行っていく。
- 座学は、演劇の歴史、演技術の変遷、現代リアリズム演技の基本、日本の演劇界の現在、戯曲の読み方、などを話す。
- 実技は、既存のテキストを使う集団創作と、テキスト作りから体験する集団創作を行う。
- <授業計画>座学
1. 導入
2. 演劇とは。演技とは。
3. 課題発表に対する講評。
4. 日本における演技方法の変遷。
5. 「感情」ではなく「衝動」を大切に。
6. 課題発表に対する講評。
7. 言葉の「意味」ではなく、身体の「状態」で演技する。
8. 課題発表に対する講評。
9. 演技とは「行動」であり、「感情」を操作することでは無い。
10. テキストの読み解き方。
11. 課題発表に対する講評①

12. 課題発表に対する講評②
13. 課題発表に対する講評③
14. 課題発表に対する講評④
15. 授業の総括
- <授業計画>実技
1. 導入
2. テキストを使って二人の会話を体験する。
3. 二人の会話の課題発表
4. 「説明」する演技ではなく、「存在」する演技を体験する。
5. テキストを使って複数での会話を体験する。
6. 複数人の会話の課題発表①
7. 言葉の「意味」に頼らないコミュニケーションを体験する。
8. 複数人の会話の課題発表②
9. 「行動」の後に「感情」が生まれることを体験する。
10. テキストを読む訓練の為に、テキストを自ら作ってみる。
11. 集団創作の課題発表①
12. 集団創作の課題発表②
13. 集団創作の課題発表③
14. 集団創作の課題発表④
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

出された課題に対し、グループでよく話し合い稽古する時間を確保すること。とにかく、様々な体験をすること。日常を生き生きと、食欲に生きること。演劇を沢山見ること。同年代のプロフェッショナル達が、どんなレベルで仕事をしているかを知ること。

### 教科書・参考書等

テキストは適宜、授業時に配布する。  
「俳優のためのハンドブック」(フィルムアート社)を参考書として勧める。が、これを元に授業を行うわけではないので、無理に買うことはない。しかし読めばかなり役に立つ。

### 成績評価

- 毎回の授業への取組み、発表内容の質を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、授業への出席が良好であることを前提とする。
- S 授業への取組み、課題の発表が特別に評価できる。
- A 授業への取組み、課題の発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、課題の発表が評価できる。
- C 授業への取組み、課題の発表が最低限の域に達した。
- D 授業への取組み、課題の発表が評価できない。

科目名 ショーダンスⅠ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

ミュージカルコース必修。

### 授業の概要

- 肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である
- 身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う
- 部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う
- ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ
- 振りを覚えて、表現、感性を磨く

### 授業の到達目標

実技公開試験に向けて、作品を踊り込むことにより、肉体、感性、表現を磨くことができる。

### 授業計画

1. 1年次の復習と確認①前半
2. 1年次の復習と確認②後半
3. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う①基礎
4. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う②応用
5. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う③発展

6. 振り付けを覚える①基礎
7. 振り付けを覚える②応用
8. 振り付けを覚える③発展
9. 踊り込み①基礎
10. 踊り込み②応用
11. 踊り込み③発展
12. 踊りを創り上げ、作品化する①稽古
13. 踊りを創り上げ、作品化する②落とし込み
14. 踊りを創り上げ、作品化する③仕上げ
15. まとめ

### 授業時間外の学習

実技公開試験の振付・練習を行う為、時間外の練習にも参加すること。できない振り付けは自主トレーニングして参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業への取組み・授業態度及び実技試験で評価する

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 ショーダンスⅡ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「ショーダンスⅠ」を履修し、単位を修得していること。ミュージカルコース必修。

### 授業の概要

- 肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である
- 身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う
- 部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う
- ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ
- 振りを覚えて、表現、感性を磨く

### 授業の到達目標

前期で学んだこと、実技公開試験の反省点、自分に不足していることを考え、自分の目標を新たに持つことができる。踊りの技術を高め、感性、表現の幅を広げることができる。

### 授業計画

1. 今まで学んだ事を復習、確認①前半
2. 今まで学んだ事を復習、確認②後半
3. 技術を向上させ、肉体訓練を行う①入門
4. 技術を向上させ、肉体訓練を行う②基礎
5. 技術を向上させ、肉体訓練を行う③応用
6. 技術を向上させ、肉体訓練を行う④発展
7. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する①

入門

8. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する②基礎
9. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する③応用
10. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する④発展
11. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく①入門
12. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく②基礎
13. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく③応用
14. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく④発展
15. まとめ

### 授業時間外の学習

できない振り付けは自主トレーニングして次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業への取組み・授業態度及び実技試験で評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 ミュージカルトレーニング B ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 信太 美奈

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ・ミュージカルコース必修。
- ・日常のクラスはなるべく身体のラインが見える練習着を着用とする。
- ・LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。
- ・「ミュージカルトレーニングB①」履修者は「ミュージカルトレーニングB-LA①」、「ミュージカルトレーニングB②」履修者は「ミュージカルトレーニングB-LA②」に参加すること。
- ・シューズはジャズシューズと女子はヒールのあるダンスシューズが必要。
- ・ナンバーに合う練習着を着用。
- ・顔面が見えるヘアスタイルで参加。

### 授業の概要

ミュージカル作品の歌を、ストーリー、セリフの中からの流れで気持ちをもとに込めて歌うか。  
呼吸法・発声法・筋肉の使い方。  
最後に7月の高校生のためのワークショップを公開試験とする。

### 授業の到達目標

前年度より引き続き、呼吸、筋肉の意識を高めることができる。  
暗譜したミュージカルナンバーをダンスやステージングに取り入れながら表現することができる。

### 授業計画

1. 前年度の反省と今学期の目標など語りあう
2. 曲選び
3. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む①
4. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む②
5. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む③
6. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習①
7. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習②
8. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習③
9. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習④
10. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑤
11. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑥
12. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑦

13. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑧
14. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑨
15. 公開試験
- ⑩オーディションにより出演の曲目決定

### 授業時間外の学習

- 呼吸・筋肉の使い方をマスターするように日々努力する。
- 楽譜が読めるように努力する。
- 課題を必ず次の授業までに暗譜する。
- グループで歌う場合は集まって練習する。
- 毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

CD、ミュージカル作品を見たり聞いたりして欲しい。  
授業中に資料配布。

### 成績評価

授業態度、課題への取り組み(予習・復習)、課題の成果などを元に総合的に評価する。

- S 意欲があり、課題の予習、復習をしっかり行い成果がある人。
- A 意欲はある。課題をやってまあまあ成果が見られた人。
- B 課題には向き合うが、向上していない人。
- C 課題に向き合う精神がみられない人。
- D 授業態度、取り組みが悪い人。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。  
「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていなければならない」と正しく理解すること。

科目名 ミュージカル演習①②

授業形態 演習 (演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

ミュージカルコース必修。  
授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

「音」を「楽しみ」、心が動く「演技表現」と空間と空気を動かす「身体表現」を学ぶ。ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」とは何かを学ぶ。シーンワークでは(群像・ペア・ソロ)ミュージカル特有の「形だけの演技」ではない、演技をしっかり構築し「役として生きる」ことを体感する。俳優という職業として自分の「商品価値」を見出ししていくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

各自がそれぞれ得手不得手を素直に理解し、自らそれを更に伸ばし、克服しようとする努力をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク①(力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク②(力量チェック) 自己分析
3. 身体表現(創造)
4. 身体表現(楽曲を使用)
5. インプロ①
6. インプロ②

7. シーンワーク①(演技・歌唱・振付を区分しながら進行)
8. シーンワーク②
9. シーンワーク③
10. シーンワーク④
11. シーンワーク⑤
12. シーンワーク⑥
13. シーンワーク発表①(衣装・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表②(衣装・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

- ①授業態度 ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤身体的、精神的健康の維持
- S: ①～⑤のうち全てを獲得した者
- A: ①～⑤のうち4つを獲得した者
- B: ①～⑤のうち3つを獲得した者
- C: ①～⑤のうち2つを獲得した者
- D: ①～⑤のうち1つしか獲得できなかった者

科目名 演劇特別演習Ⅰ①②③

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鴻上 尚史

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとかは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

12. リアルな演技とは何か?③
13. リアルな演技とは何か?④
14. リアルな演技とは何か?⑤
15. リアルな演技とは何か?⑥

### 授業の概要

「正しい発声とは何か?」をはじめとして、「正しい身体とは何か?」「演技とは何か?」など、基本的なことをおさえる。

### 授業時間外の学習

とにかく、いろんな芝居(特に20代や同世代の)を見てほしい。20代の俳優が何をしているか、仙川から出て、見ることに。

### 授業の到達目標

舞台上立つにふさわしい声や身体、演技の考え方、アプローチのしかたを身につけることができる。

### 教科書・参考書等

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「俳優になりたいあなたへ」(ちくまプリマー新書)、「演技と演出のレッスン」(白水社)である。

が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

### 授業計画

1. 正しい発声とは何か?①呼吸について
2. 正しい発声とは何か?②共鳴について
3. 正しい発声とは何か?③丹田で支える
4. 正しい発声とは何か?④ベクトル
5. 正しい発声とは何か?⑤個人の声
6. 正しい身体とは何か?①身体の外側
7. 正しい身体とは何か?②身体の内側
8. 正しい身体とは何か?③リラックスとは
9. 正しい身体とは何か?④自由な身体
10. リアルな演技とは何か?①
11. リアルな演技とは何か?②

### 成績評価

授業への取り組み及び授業での参加態度・試験結果で評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 演劇特別演習Ⅱ①②③

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鴻上 尚史

実務経験

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

「演劇特別演習Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとかは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

10. さまざまな演技のトライアル①
11. さまざまな演技のトライアル②
12. さまざまな演技のトライアル③
13. さまざまな演技のトライアル④
14. さまざまな演技のトライアル⑤
15. さまざまな演技のトライアル⑥

### 授業の概要

- ・スタニスラフスキー・システムをざっと解説
- ・「声の5つの要素」
- ・三つの集中の輪
- ・リアルな感情と意識した(ひねった)動きの共通部分としての演技の追求。

### 授業時間外の学習

とにかく、いろんな芝居(特に20代や同世代の)を見てほしい。20代の俳優が何をしているか、仙川から出て、見ることに。

### 授業の到達目標

リアルにかつ楽しく演技ができる。  
「嘘」と「嘘くさい」と「リアル」の演技の違いが分かるようになる。

### 教科書・参考書等

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「俳優入門」(講談社文庫)、「演技と演出のレッスン」(白水社)である。

が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

### 授業計画

1. スタニスラフスキー・システムについて①マジック・イフ
2. スタニスラフスキー・システムについて②目的
3. スタニスラフスキー・システムについて③障害
4. スタニスラフスキー・システムについて④行動
5. スタニスラフスキー・システムについて⑤演技とは
6. 声の教養・身体の教養を上げるために①
7. 声の教養・身体の教養を上げるために②
8. 声の教養・身体の教養を上げるために③
9. 声の教養・身体の教養を上げるために④

### 成績評価

授業への取り組み及び授業での参加態度・試験結果で評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 マイム①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 江ノ上 陽一

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

表現する身体に関心を持ち、表現者となるための熱意を行動で示すことが出来る。  
意欲を持って取り組むこと。稽古着、稽古履き着用のこと。無断での遅刻、欠席は厳禁。

### 授業の概要

パントマイムとは言語という具象行為を意図的に廃し言葉さえも肉体化する芸術である。それは、日常全ての言語を肉体化すること。  
そのためには肉体の緊張と弛緩、分解、重心移動、動くスピードのコントロールなどを習得する事が必須である。また、肉体訓練を継続して行い、演技者として人前に立つ為に不可欠な、想いを表現できる身体の獲得を目指す。

同時に、観察を基に無意識な日常行動における身体的動作の認識作業を行い、「動き」に「想い」を込め、独自の魅力的な所作を手に入れる。  
基本的なテクニックを身につけた上で、「無声」、「何も無い空間」という状況の中で、想像力を駆使し身体だけの表現を体現出来るようにする。

### 授業の到達目標

正確なパントマイムテクニックの習得。自由で型破りな想像力を獲得できる。  
身体だけで言葉を使わずに、自分の「想い」を他者に伝える術を知ることが出来る。

### 授業計画

- ボディコントロールの訓練：身体のみで表現するために必要な筋力を強化する。思い描いた動きを体現するためには必要不可欠な要素なのである。
- 重心移動を学ぶ：その場で歩行（移動）を表現する方法の取得。
- 緊張と弛緩を身につける：テクニックのスキルアップは勿論、多様な感情表現を体現する。また、呼吸との関係も学ぶ。
- 観察力を養う：生徒同士の発表の場において、お互いの演技の感想を述べあうことで見る目を養う。眼で覚えるという感覚を磨く。
- 間の取り方を知る：文章に「、」や「。」があるように、身体言語にも必要不可欠な「、」や「。」を知り、活用する。
- デフォルメ：ある動きを誇張し、その事で強く印象付ける術を学ぶ。
- ここまで習得したテクニックの小テストを行う：決められた時間内でのパフォーマンスをアンサンブルにて表現する。他者と一緒にパフォーマンスすることで、協力して創作する術を体験する。
- 既存のイメージからの脱却：発想の転換をはかり、独自の表現を生み出す。

- 仕草：様々なちょっとした動作や表情（仕草）、所作にて魅力的なキャラクターを創る。
- アンサンブル：7での小テストを踏まえ、成熟させる時間とする。無声での会話、ルール（時間）がある上での表現の完成。
- パフォーマンス① 複数人でのグループ創作作業。各々アイデアを駆使し、与えられたテーマで創作。
- パフォーマンス② 各グループをシャッフルし、違う仲間との創作作業で新たな体験を生み出す。
- パフォーマンス③ 与えられたテーマ、音楽、時間にて短い物語をつくり表現としての構想を練る。
- パフォーマンス④ 練り上げた構成をもとに作品を成熟させていく。
- パフォーマンス⑤ 完成させた作品の発表。

### 授業時間外の学習

日常生活の中で反復、復習すること。「読む」「見る」「触れる」「食べる」…全ての経験を糧にするよう、感性を研ぎ澄ませて生活すること。  
基本的なストレッチや身体訓練を自主的に行うこと。  
中間テスト実施するので授業内容をよく復習しておくこと。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着を着用すること。また、ダンスシューズ等の上履きを使用すること。なければスニーカーでも可。  
参考資料等は必要時に配布

### 成績評価

必ず稽古着とダンスシューズ等の上履きを着用すること。(1) 受講態度 (2) 授業への取り組み方 (3) 課題に対する評価  
上記の3点を基準に下記の点を加味し総合的に判断する  
S: ①パントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方の理解度が非常に高い。②テクニックのスキルレベルが非常に高い。  
③作品創作にあたりストーリー構築にオリジナリティがある  
A: ①パントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方の理解度が高い。  
②テクニックのスキルレベルが高い。  
③独自の発想による表現ができる。  
B: ①パントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方をある程度理解している。②テクニックのスキルレベルが高い。  
③既存のイメージではない発想にて表現ができる。  
C: Bの①②③のうち1つは身につけているもの  
D: Bの①②③が全く身につけていない者

科目名 アクション①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 藤田 けん

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

現代アクション・時代アクション（殺陣）を隔週で行なう。立ち廻りによって身体を動かすことにより、わきあがる感情を自然に表現できるよう基本を指導する。

現代アクションは、表現者として身体をつかって感情を出せるように指導する。

時代アクションは、刀など武器に感情がのるように指導する。

### 授業の到達目標

- 俳優として最小限の基本を身につけることができる。
- 人を怪我させないように立ち廻りを行うことができる。

### 授業計画

現代アクション、時代アクションとも体をあたためることから始める。

- 導入
- 現代アクションの基本練習①
- 現代アクションの基本練習②
- 殴り、蹴り、受け、よけ方など
- 1対1での基本練習
- 現代アクションの基本的な立ち廻り①

- 現代アクションの基本的な立ち廻り②
- 時代アクションの基本練習①
- 時代アクションの基本練習②
- 正眼、真っ向、袈裟、突き、体裁きなど
- 1対1での基本練習①
- 1対1での基本練習②
- 時代アクションの基本的な立ち廻り①
- 時代アクションの基本的な立ち廻り②
- まとめ 回数によってレベルを上げていく。

### 授業時間外の学習

自己の体調管理、体力の増進を行なう。

### 教科書・参考書等

適宜配布する。動きやすい格好で受講すること。

### 成績評価

授業態度、課題への取り組み、課題の成果を元に総合的に評価する。

- S 90点以上 立ち廻りが指導でき表現もできるもの。  
A 80点以上 立ち廻りが十分に表現できるもの。  
B 60点以上 立ち廻りがほぼ表現できるもの。  
C 50点以上 立ち廻りがあまり表現できないもの。  
D 49点以下 立ち廻りが表現できないもの。

科目名 日本舞踊Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制 対象外

担当教員 藤間 希穂

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

- ①稽古着は浴衣を含む和服、足袋着用、舞踊扇子持参の上参加。
- ②授業時間外も課題の稽古に取り組みこと。(目安:週2～3時間程度(個人差あり))
- ③授業時間内は必ず時計・アクセサリーを外し、肩まで届く髪の長さがあれば必ず結うこと。
- ④授業内に座学と実技があるが必ず両方参加のこと。
- ⑤遅刻・欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

1. 表現者として唯一無二の存在になることを確認する
  2. プロフェッショナルとしての心得とマナーの体得
  3. グローバルに活躍するためにも、日本人としての価値観を見出し磨く
  4. 古典芸能を通して、現場で説得力を増すスキルを身に付ける
  5. 「人前へ出ること」に必要な美意識を向上させる
- 以上を目標に「座学」と「実技」の二部構成で行う。
- ・座学では活躍しつづける表現者として必要な「価値を生む素養～健康・品性・コミュニケーション～」について学ぶ。美意識を高めるとともに、表現者として必須の精神性を学ぶ。また「コミュニケーションシート」を毎時間記入し、講師の助言を通して課題や解決策を見出し、自立自走を目指す。
  - ・実技では「人前で表現する者として必要な所作」を古典芸能を通じて体得する。座学で深めた理解を実際に表現する手法を学ぶ。
- 曲 目 立方(たちかた) 長唄「松」  
女形(おんながた) 長唄「新曲娘道成寺」または「京の四季」  
(受講人数等によりどちらか1曲を講師が選定)

### 授業の到達目標

- ・座学を元にした筆記試験にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を人前で発表できるスキルを身に付けることを目標とする。
- ・授業態度では積極的に発言するとともに傾聴を重んじ、自ら考え行動することができる。
- ・コミュニケーションシートでは自己成長を促す「得意分野」と「改善点」を見出し表現できる。

### 授業計画

- ◆授業タイムスケジュール  
男女共通前半50分…出席10分、座学25分、知恵袋5分、所作10分  
後半40分 男子「松」・女子「松+新曲娘道成寺」  
※座学がない進行の場合、知恵袋が繰り上がり、実技時間が25分長くなります
- ◆授業進行
1. 導入一松、新曲娘道成寺の助手による実演着付け、量み方、立ち居振る舞い
  2. 価値観3choice 自己紹介一知恵袋①  
男子:松10C+手踊り 女子:松10C+新娘 基本動作  
着付け、量み方チェック、立ち居振る舞い、扇開閉、構え、すり足
  3. 自己分析シート一知恵袋②  
男子:松20C+手踊り 女子:松20C+新娘 基本動作  
立居振舞、帯結びテスト

4. 価値を生む一知恵袋③  
男子:松後ろ向き左手扇+手踊り 女子:松後ろ向き左手扇+新娘伊達者  
立居振舞、構え
  5. ディスプレイルール一知恵袋④  
男子:松前半最後+手踊り 女子:松前半最後+新娘 1番  
立居振舞、摺足
  6. 継続と行動①一知恵袋⑤  
男子:松前半復習+手踊り 女子:松前半復習+新娘 1番復習  
立居振舞、扇開閉
  7. 継続と行動②一知恵袋⑥  
男子:松ちらし荒磯松+手踊り 女子:松ちらし荒磯松+新娘 封じ文  
立居振舞、扇握り方確認
  8. 継続と行動③一知恵袋⑦  
男子:松さつさつ+手踊り 女子:松さつさつ+新娘 2番最後  
立居振舞、要返し
  9. 継続と行動④一知恵袋⑧  
男子:松ちらし最後+手踊り 女子:松さつさつ+新娘 3番  
立居振舞、要はどき
  10. コミュニケーションワーカー一知恵袋⑨  
フォーメーション練習①振りに役立つ立居振舞抜粋①
  11. プライオリティシーリング一知恵袋⑩  
フォーメーション練習②振りに役立つ立居振舞抜粋②
  12. 自己計画表作成提出一知恵袋⑪  
フォーメーション練習③振りに役立つ立居振舞抜粋③
  13. コミュニケーションワーカー一知恵袋⑫実技テスト用練習①
  14. プレテスト実技テスト用練習②
  15. 本テスト実技テスト(スタジオ発表)
- ※予定は進行状況により変更される場合がある。

### 授業時間外の学習

- ・着付け、所作が正しくできるように稽古する。
- ・習った曲と振りが一致するように稽古する。
- ・振り入れが終了したら、全員で1作品を作る意識を持ち稽古する。

### 教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

### 成績評価

出席・筆記試験・実技試験・授業態度(取組み)・コミュニケーションシートを総合して満点100点にて評価。(点数配分各20点)

S 100点～90点 A 89点～80点  
B 79点～60点 C 59点～50点  
D 49点以下

科目名 日本舞踊Ⅱ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制 対象外

担当教員 藤間 希穂

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

- ①「日舞Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。
- ②稽古着は浴衣を含む和服、足袋着用、舞踊扇子持参の上参加。
- ③授業時間外も課題の稽古に取り組みこと。(目安:週2～3時間程度(個人差あり))
- ④授業時間内は必ず時計・アクセサリーを外し、肩まで届く髪の長さがあれば必ず結うこと。
- ⑤授業内に座学と実技があるが必ず両方参加のこと。
- ⑥遅刻・欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- 日舞Ⅰで目標にした1～5の目標をさらに深耕し、「座学」と「実技」の二部構成で行う。
- ・座学では「日本舞踊Ⅰ」にて学んだ表現者の心得(品性・健康・コミュニケーション能力・美意識)を基にさらにパーソナルブランディングの構築を意識したプロフェッショナルとしての素養を身に付ける。また「コミュニケーションシート」を毎時間記入し、講師の助言を通して課題や解決策を見出し、自立自走を目指す。
  - ・実技では座学で学ぶロジックに加え、実技公開テストで発表する古典(全員参加)と創作(自由参加)の演目の構築を通して表現者に必要な所作を学ぶ。
- 曲 目 立方(たちかた) 長唄「青海波」  
女形(おんながた) 長唄「あやめ浴衣」または常磐津「紅売り」  
(受講人数等によりどちらか1曲を講師が選定)
- 創作 講師が企画・振付・演出する創作舞踊  
(例:「櫻姫」「かぐやの君」等)

### 授業の到達目標

- ・座学を元にした筆記試験にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を舞台上で発表できるスキルを身に付けることを目標とする。
- ・授業態度では積極的に発言するとともに行動変容も伴い、傾聴の結果共同作品に良い効果を生むこと。
- ・コミュニケーションシートでは自己課題の抽出、課題解決提案ができ、実行及び言語表現できる。

### 授業計画

- ◆授業タイムスケジュール  
男女共通前半50分…出席10分、座学25分、知恵袋5分、所作10分  
後半40分 男子「青海波」・女子「あやめ浴衣or 紅売りor 菊の栄」  
※座学がない進行の場合、知恵袋が繰り上がり、実技時間が25分長くなります
- ◆授業進行
1. 自己価値観復習 青:松島～なつかしき  
あ:飾り兜の～白重ね 紅:紅染め～たしなみはの前
  2. 礼儀①・1分間スピーチ 青:梅の花貝～あかぬなる  
あ:暑さ～染浴衣 紅:たしなみは～恋の色
  3. 礼儀②・1分間スピーチ 青:花の跡～船の中

- あ:古代模様の～晴浴衣 紅:恋の色の後～京育ち
  4. 礼儀③・1分間スピーチ 青:あらめで鯛は～初めしより  
あ:餐のほつれを～好いた同士 紅:蛤の貝～浅じめり
  5. 礼儀④・1分間スピーチ 青:蛭子の神の～漁火の  
あ:命と腕に～糸柳 紅:情けを～贅こそな
  6. 礼儀⑤・1分間スピーチ 青:ちらりちらら～様にな  
あ:めぐる杯～芳村と 紅:足にも～伊達のの前
  7. 礼儀⑥・1分間スピーチ 青:波も静かに～栄ゆく家の寿を  
あ:栄うる～最後 紅:伊達の～最後
  8. 礼儀⑦・1分間スピーチ 青:なほ幾千代も～最後  
あ・紅:全体通し
  9. 礼儀⑧・1分間スピーチ 青:フォーメーション組み  
あ・紅 共通:フォーメーション組み
  10. 礼儀⑨・1分間スピーチ 青:フォーメーション練習①  
あ・紅:フォーメーション練習①
  11. 礼儀⑩・1分間スピーチ 青:フォーメーション練習②  
あ・紅:フォーメーション練習②
  12. テスト直前対策 青:フォーメーション練習③  
あ・紅:フォーメーション練習③
  13. プレテスト 青・あ・紅:実技公開テスト用練習①
  14. 本テスト 青・あ・紅:実技公開テスト用練習②(場当たり・通し稽古)
  15. オーディション対策 青:1分間の見栄えがする振付  
あ・紅:現場で望まれる所作の勉強
- ※菊の栄の進行は状況を見て考慮。その他の予定も進行状況により変更される場合がある
- ※7月に行われる実技公開テストに参加の者のみ単位取得となる。不参加の場合単位取得とならないので注意すること

### 授業時間外の学習

- ・課題に沿って1分間スピーチをオーディション対策を意識して構築・行動できるように稽古する。
- ・実技公開試験に向けて、振りや構成はもとより、お客様を楽しませるための美意識を持てるように稽古する。
- ・個人のスキルアップも勿論だが、発表する演目全体のボトムアップを考慮し稽古する。

### 教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

### 成績評価

出席・筆記試験・実技試験・授業態度(取組み)・コミュニケーションシートを総合して満点100点にて評価。(点数配分各20点)

S 100点～90点 A 89点～80点 B 79点～60点 C 59点～50点  
D 49点以下

科目名 狂言Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 善竹 富太郎

実務経験

期間 後期

他専攻

—

### 履修条件

特になし。音楽専攻日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

- 腹式呼吸でしっかり声を出す訓練から始める。
- 狂言の謡を謡い、身体を動かす訓練の舞を舞う。
- 狂言「附子」または「呼声」を実習する。
- 三次元の空間に自分の体がどのようにあるべきか演劇の基本が感得できるだろう。

### 授業の到達目標

大きな声を出すことができる。  
まっすぐ前を向いて(下、横を見ずに) 摺り足で前に進み元の位置に正しく戻ることができる。  
「左右」の完成。

### 授業計画

1. オリエンテーション(声の出し方)「盃」の謡①
2. 「盃」の謡② お話「声楽と謡」のちがいを
3. 「盃」の謡③ お話「すりについて」「盃」の舞①
4. 「泰山府君」謡① 「盃」謡④ 「盃」の舞②
5. 「泰山府君」謡② 「盃」謡⑤ 「盃」の舞③
6. 「土車」の謡① 「泰山府君」謡③ 「盃」の舞④

7. 「土車」の謡② 「泰山府君」謡④ 舞の試験⑤
8. 「土車」の謡③ 「泰山府君」謡⑤ 泰山府君の舞①
9. 「土車」の謡④ 泰山府君の舞②
10. 「土車」の謡⑤ 泰山府君の舞③
11. 土車の舞① 泰山府君の舞④
12. 土車の舞② 泰山府君の舞⑤
13. 土車の舞③
14. 土車の舞④
15. 「土車」試験

### 授業時間外の学習

授業内容をふまえ、自主練習を行うこと。

### 教科書・参考書等

「狂言」ハンドブック(三省堂)

### 成績評価

平常点(授業への取組み・受講態度)と実技点を総合的に判断する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 狂言Ⅱ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 善竹 富太郎

実務経験

期間 前期

他専攻

—

### 履修条件

「狂言Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。音楽専攻日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

- 腹式呼吸でしっかり声を出す訓練から始める。
- 狂言の謡を謡い、身体を動かす訓練の舞を舞う。
- 狂言「附子」または「呼声」を実習する。
- 三次元の空間に自分の体がどのようにあるべきか演劇の基本が感得できるだろう。

### 授業の到達目標

大きな声を出すことができる。  
まっすぐ前を向いて(下、横を見ずに) 摺り足で前に進み元の位置に正しく戻ることができる。  
「左右」の完成。

### 授業計画

1. オリエンテーション  
1年後期からの復習「盃」「泰山府君」「土車」の謡
2. 「雪山」の謡 「土車」の舞の復習
3. 「雪山」の謡 「土車」の舞の復習 「雪山」の舞①
4. 「十七八」の謡 「雪山」の謡の復習 「雪山」の舞②
5. 「十七八」の謡の復習 「雪山」の舞③  
「雪山」の謡の復習
6. 「宇治の晒」の謡① 「雪山」の舞試験

7. 「宇治の晒」の謡② 「十七八」の舞①
8. 狂言「呼声」の詞① 本読み① 「十七八」の舞②
9. 狂言「呼声」の詞② 「宇治の晒」の謡③  
「十七八」の舞③
10. 狂言「呼声」の詞③ 「暁の明星」の謡①  
「十七八」の試験
11. 狂言「呼声」の立ち稽古① 「暁の明星」の謡②
12. 狂言「呼声」の立ち稽古② 「暁の明星」の舞①
13. 狂言「呼声」の立ち稽古③ 「暁の明星」の舞②
14. 狂言「呼声」の立ち稽古④ 「暁の明星」の舞③
15. 「暁の明星」試験

### 授業時間外の学習

授業内容をふまえ、自主練習を行うこと。

### 教科書・参考書等

「狂言」ハンドブック(三省堂)

### 成績評価

平常点(授業への取組み・受講態度)と実技点を総合的に判断する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 ドラマリーディング A

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 野間 哲

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

朗読、朗読劇、アフレコ（アテレコ）、ラジオドラマ、リーディング劇など幅広く興味があり、「声による表現の基礎」を学びたい者。声優のスキルを身につけたい者。

### 授業の概要

俳優として、リーディング劇に対応できるスキルを身につける。そのための「声による表現の基礎」を学ぶための授業を展開する。様々なジャンルを体験しながら、表現力を身につける。

### 授業の到達目標

台詞の①明瞭さ②感情表現③間の取り方④デフォルメの仕方⑤強弱のつけ方⑥遅速のつけ方などのスキルを身につけることができる。授業への真摯な取り組みができる。協力する姿勢を身につけることができる。

### 授業計画

※状況を見て、順番が入れ替わる場合もあります。

1. 導入
2. 朗読①「童話」の読み聞かせ
3. 朗読②「小説」の読み聞かせ
4. 朗読③「詩」の読み聞かせ
5. 朗読劇①「漫画」を用いた実習
6. 朗読劇②「台本」を用いた実習
7. 朗読劇③「台本」を用いた実習
8. アフレコ①「洋画」を用いた実習

9. アフレコ②「洋画」を用いた実習
10. ラジオドラマ①課題発表・読み
11. ラジオドラマ②キャストイング
12. ラジオドラマ③稽古1
13. ラジオドラマ④稽古2
14. ラジオドラマ⑤上演・収録
15. まとめ

### 授業時間外の学習

与えられた課題を真摯にこなし、予習・復習し、自らのスキルアップを図ること。

### 教科書・参考書等

毎回、資料提供はこちらで行う。

### 成績評価

主として時間内実習状況・提出物の成果によって判断をする。レポート課題など。評価テストは行わない。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 ドラマリーディング B

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 野間 哲

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

ドラマリーディングA（基礎クラス）を受講していることが望ましい。俳優としてのリーディングスキルを身につけ、「声による表現の応用力」を学びたい者。声優のスキルを身につけたい者。

### 授業の概要

俳優として、リーディング劇に対応できるスキルを身につける。そのための「声による表現の応用力」を学ぶための授業を展開する。リーディング劇の上演を行う。

### 授業の到達目標

台詞の①明瞭さ②感情表現③間の取り方④デフォルメの仕方⑤強弱のつけ方⑥遅速のつけ方などのスキルをより高度に身につけることができる。授業への真摯な取り組みができる。協力する姿勢を身につけることができる。

### 授業計画

※状況を見て、順番が入れ替わる場合もあります。

1. 導入
2. リーディング劇のスタイル・方法について
3. リーディング劇①課題発表・稽古（個人練習）
4. リーディング劇②稽古（個人練習）
5. リーディング劇③キャストイング
6. リーディング劇④稽古1
7. リーディング劇⑤稽古2
8. リーディング劇⑥稽古3

9. リーディング劇⑦中間発表会（グループごとの鑑賞会）
10. リーディング劇⑧稽古4
11. リーディング劇⑨稽古5
12. リーディング劇⑩稽古6
13. リーディング劇⑪稽古7
14. 上演・収録
15. まとめ

### 授業時間外の学習

与えられた課題を真摯にこなし、予習・復習し、自らのスキルアップを図ること。

### 教科書・参考書等

毎回、資料提供はこちらで行う。

### 成績評価

主として時間内実習状況・提出物の成果によって判断をする。レポート課題など。評価テストは行わない。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 アフレコ実技Ⅰ

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 小金丸 大和

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

健康管理に十分留意し、遅刻・欠席のないようにすること。受け身の姿勢ではなく、積極的な研究心を持って講義を受講すること。受講人数によっては実技指導を受けられない回も有り得るが、その際は他者に対する指導・ダメ出しを良く聞き、「見取り稽古」を行う事。収録でより良い演技が出来るよう、講師の指導に基づく自主学習を行う事が望ましい。声優演技を題材にした講師の著書「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊)「VOICE CUSSION 2nd stage」(小学館クリエイティブ刊)を読んでおく事。

### 授業の概要

声優として必要な演技術を学ぶ。  
具体的には発声・発音・アーテュレーションの見直しから始まり、基礎訓練の方法を知り、アフレコ(アフターレコーディング)における台詞術、役作り、脚本の読解、演技プランの方法について研究を進めて行く。

また、現場での礼儀作法、マイクワーク、専門用語の理解など、実践的な技術の習得を目指す。

「空間感覚・距離感の確立」

「呼吸領域を意識し、身体を鳴らす事を覚える」

「声にパーソナリティを持たせる」

上記三点を柱とし、実際にアニメーション映像にアフレコを行ない、それを視聴してみる事で、アフレコにはどのような技術・能力が必要かを考える。

### 授業の到達目標

将来、プロの声優として活動する為の演技術を身につけることができる。

### 授業計画

1. 声優演技について
2. 発声・発音・アーテュレーションの見直し
3. 声優の基礎訓練の方法
4. 呼吸領域の理解
5. 基礎能力テスト
6. マイクワークの練習
7. アフレコ脚本の読み方 特殊表記の解説

8. キャラクター表現について
9. 声優に必要な専門知識のまとめ
10. アフレコ実習①短編アニメーションモノローグ
11. アフレコ実習②短編アニメーションダイアログ
12. アフレコ実習③長編アニメーションモノローグ
13. アフレコ実習④長編アニメーションダイアログ
14. アフレコ実習⑤長編アニメーション通し
15. 前期のまとめ

### 授業時間外の学習

目標とするプロの声優・俳優の出演しているアニメーション作品を複数視聴する

各プロダクション・養成所・研究所の情報を集め、どの事務所がどの方面の仕事に強いかを研究しておく、卒業後の進路を決定する時の指針とする

### 教科書・参考書等

教科書 教材プリント、台本は授業時に配布。

参考資料 「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊)、「VOICE CUSSION 2nd stage」(小学館クリエイティブ刊)を読んでおく事。「さんいんのかい」DVD「新選組」「孫悟空」を視聴しておく事。(VAPより発売)

### 成績評価

受講態度、及び実技試験における技術の習得状況において評価する。

追加試験、補習授業は原則的に行わないものとする。

成績は、実技試験の得点を元に、ボーダーライン上の場合は出席状況、受講態度等を加味して評価する。

S: 90～100点 (講義内容をほぼ完璧に理解し、声優演技技術の基礎を応用出来ている)

A: 80～89点 (講義内容を理解し、かつ実践出来るレベルに達している)

B: 60～79点 (講義内容を理解する事が出来ている)

C: 50～59点 (講義内容を理解するに至ってはいないが、努力と研究が見られる)

D: 50点未満 (講義内容を理解していない、出席状況にも問題がある)

科目名 アフレコ実技Ⅱ

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 小金丸 大和

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

健康管理に十分留意し、遅刻・欠席のないようにすること。前期にアフレコ実技Ⅰを履修し、単位を取得していること。

受講人数によっては実技指導を受けられない回も有り得るが、その際は他者に対する指導・ダメ出しを良く聞き、「見取り稽古」を行う事。収録でより良い演技が出来るよう、自主学習を行う事が望ましい。声優演技を題材にした講師の著書「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊)「VOICE CUSSION 2nd stage」(小学館クリエイティブ刊)を読んでおく事。

### 授業の概要

声優として必要な演技術を学ぶ。  
アフレコ実技Ⅰで習得した技術論を分析し、応用し、より具体的にしていく。

「空間感覚・距離感の確立」

「呼吸領域を意識し、身体を鳴らす事を覚える」

「声にパーソナリティを持たせる」

上記三点を柱とし、実際にアニメーション映像にアフレコを行ない、それを視聴してみる事で、アフレコにはどのような技術・能力が必要かを考える。

ボイスサンプルを実際に作成し、収録、配布する。

自分の声の持っている特質、長所、弱点を知る。

### 授業の到達目標

将来、プロの声優として活動する為の演技術を身につけることができる。

プロの現場オーディション、所属オーディションで合格出来る実力を養成することができる。

### 授業計画

1. 声優演技について(復習)
2. 神経の多数化について(座学)
3. アフレコ実習①基本理論
4. アフレコ実習②状況の表現
5. アフレコ実習③感情の表現
6. オーディオドラマ演技①マイクワークの実践
7. オーディオドラマ演技②状況の表現
8. オーディオドラマ演技③感情の表現

9. アフレコ実習④キャラクター表現理論
10. アフレコ実習⑤洋画吹き替え
11. アフレコ実習⑥洋画コメディ吹き替え
12. プロダクションマネージャーによる質疑応答
13. ボイスサンプル原稿作成
14. ボイスサンプルリハーサル、収録
15. ボイスサンプル視聴と講評

### 授業時間外の学習

目標とするプロの声優・俳優の出演しているアニメーション作品を複数視聴する

各プロダクション・養成所・研究所の情報を集め、どの事務所がどの方面の仕事に強いかを研究しておく、卒業後の進路を決定する時の指針とする

### 教科書・参考書等

教科書 教材プリント、台本は授業時に配布。

参考資料 「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊)、「VOICE CUSSION 2nd stage」(小学館クリエイティブ刊)を読んでおく事。「さんいんのかい」DVD「新選組」「孫悟空」を視聴しておく事。(VAPより発売)

### 成績評価

受講態度及び実技試験における技術の習得状況において評価する

追加試験、補習授業は原則的に行わないものとする。

成績は、実技試験の得点を元に、ボーダーライン上の場合は出席状況、受講態度等を加味して評価する。

S: 90～100点 (講義内容をほぼ完璧に理解し、覚えた声優演技技術を応用出来ている)

A: 80～89点 (プロの声優として作品に出演出来るレベル)

B: 60～79点 (プロダクション所属オーディション等に合格出来るレベル)

C: 50～59点 (講義内容を理解し、理論としての声優演技基本を理解出来る者)

D: 50点未満 (講義内容を理解出来ていない、実践する事が出来ない者)

科目名 クラシック唱法Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

クラシックの発声の基本は「響き」にある。大オーケストラの伴奏であっても、マイクも使わずに声を通るのは全身が響いているからである。いかに声を響かせ遠くに飛ばすか、それは芝居のセリフにおいても同じである。

この授業では、発声について知識の理解を深めた上で、響きを意識することに重点を置いて発声を学んでいく。なお、独唱曲ばかりでなく、ハーモニー感覚を身につけるため、合唱曲も取り上げ、歌うことへの関心を高めていく。

### 授業の到達目標

- 日本語による歌唱のハーモニー感覚を身につけることができる。
- 響きと意識した発声法を身につけることができる。

### 授業計画

1. 導入
2. ヴォイス・トレーニング①歌うための呼吸について
3. ヴォイス・トレーニング②声と響きについて
4. ヴォイス・トレーニング③発音(母音)について
5. ヴォイス・トレーニング④発音(子音)について
6. ヴォイス・トレーニング⑤言葉について
7. ヴォイス・トレーニング⑥声&言葉&表現
8. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング①
9. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング②
10. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング③
11. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング④

12. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑤
13. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑥
14. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑦
15. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑧  
各回、合唱曲を教材とし、ハーモニー感覚を身につける。

### 授業時間外の学習

各授業のテーマについて、次の授業までに、各自実践的に復習しておくこと。

また、個人ヴォイストレーニングで与えられた課題は日々の訓練として活用していくこと。

### 教科書・参考書等

授業時に楽譜を配付。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・レポート、学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱表現力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 クラシック唱法Ⅱ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「クラシック唱法Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

「クラシック唱法Ⅰ」で学んだことを基礎に、発声することから表現することへレベルアップしていく。日本語の歌を取り上げ、いかに良い発声で日本語を美しく歌えるようにしていくかを理解しながら演奏できるようにする。実技公開試験に向けては、2~3人で1曲を割り振るので、与えられた曲を協力して演出し、歌と演技によるパフォーマンスを創造し自己表現する。

### 授業の到達目標

- ひとりひとりが歌うことに自信を持つことができる。
- 言葉と旋律との関連性を理解し、歌唱表現の幅を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、試聴会
2. 試聴会
3. 合唱曲の練習
4. 実技公開試験の選曲決定、公開レッスン形式の個別指導
5. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習①
6. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習②
7. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習③
8. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習④
9. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習①

10. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習②
11. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習③
12. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習④
13. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習⑤
14. 通し稽古
15. G.P

### 授業時間外の学習

与えられた曲に対し、各グループごとに予習復習を必ず行うこと。また、その曲に対するイメージをしっかりと持ち、演出を考えていくこと。

### 教科書・参考書等

授業時に楽譜を配付。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・レポート、学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱表現力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 ミュージカルトレーニングA①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 信太 美奈

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

- ・譜面が読めなくても、課題に対して譜面を読む努力ができる人
- ・LA(レッスンアシスタント)による補習に毎週参加すること
- ・「ミュージカルトレーニングA①」履修者は「ミュージカルトレーニングA-LA①」、「ミュージカルトレーニングA②」履修者は「ミュージカルトレーニングA-LA②」に参加すること
- ・課題のナンバーは次週には暗譜で歌えるようにする
- ・身体のラインがわかる練習着を着用
- ・ナンバーに合う練習着を着用(練習用スカートなど)
- ・シューズはジャズシューズと女子はヒールのあるダンスシューズ
- ・顔面が見えるヘアスタイルで参加

### 授業の概要

ミュージカルというジャンルにおいて重要な「歌」と「動き」を中心に学んでいく。  
筋肉と心(身体)十分に使った発声でミュージカルナンバーを歌えるように。2年次で選ぶコースとは関係なく、声・歌・身体を使った表現方法を学ぶ。ナンバーによってはセリフ、ダンスも共に学習する。

### 授業の到達目標

- ・筋肉と心が組み合わさった、表現力のある歌、ダンスができる。
- ・ナンバーによってはダンス、ステージングなどの動きを伴った表現ができる。
- ・試験は公開になる場合もある。

### 授業計画

1. 自己紹介
2. 舞台に立つための姿勢・リズムを学ぶ
3. 舞台に立つための姿勢・リズム・声を出すことを学ぶ
4. 舞台に立つための姿勢・リズム・声を出しながら動くことを学ぶ
5. 舞台に立つための姿勢・リズム・声を出しながら動きダンスに繋がっていくように学ぶ
6. 課題とするナンバーを、身体を使った歌い方で歌えるようにする
7. ナンバーの歌詞の理解を深めて歌う
8. ナンバーに必要とするステージング、ダンスなども含めた表現①
9. ナンバーに必要とするステージング、ダンスなども含めた表現②
10. ナンバーに必要とするステージング、ダンスなども含めた表現③

11. ナンバーに必要とするステージング、ダンスなども含めた表現④
  12. ナンバーに必要とするステージング、ダンスなども含めた表現⑤
  13. ナンバーに必要とするステージング、ダンスなども含めた表現⑥
  14. ナンバーに必要とするステージング、ダンスなども含めた表現⑦
  15. 試験(公開試験になる場合もある) まとめ
- 注:毎回の計画の他に、感覚をとぎすますトレーニングもおこなう

### 授業時間外の学習

復習は必須。毎日歌う。毎日踊る。日々の個人でもやるレッスンが、あたり前になるまで。舞台を見る。CDを聞く。あらゆるジャンルの音楽を聞きセンスを取り入れる努力をする。また、試験の前には授業の他に補講が行われる。

### 教科書・参考書等

授業中に資料配布。CD、ミュージカル作品を見たり聞いたりして欲しい。

### 成績評価

授業態度、課題への取り組み(予習・復習)、課題の成果などを元に総合的に評価する。

- S 意欲があり、課題の予習、復習をしっかりと行い成果がある人。
- A 意欲はある。課題をやってまあまあ成果が見られた人。
- B 課題には向き合うが、向上していない人。
- C 課題に向き合う精神がみられない人。
- D 授業態度、取り組みが悪い人。LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。

注:LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。  
[授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい]のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないと正しく理解すること。」

科目名 ジャズダンスA①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

LA(レッスンアシスタント)による補習に毎週参加すること。  
(「ジャズダンスA①」履修者は「ジャズダンスA-LA①」、「ジャズダンスA③」履修者は「ジャズダンスA-LA③」に参加すること)

### 授業の概要

肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていく為の授業である。

- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う。
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ。
- ・振り覚えて、表現、感性を磨く。

### 授業の到達目標

それぞれが目標を作り、その目標に向かって肉体訓練、踊りの感性表現を習得できる。

### 授業計画

1. 自分の肉体の長所、短所を知る①基礎
2. 自分の肉体の長所、短所を知る②応用
3. 全身または部分でリズムをとる①基礎
4. 全身または部分でリズムをとる②応用
5. 全身または部分でリズムをとる③発展
6. 床を踏む、身体を引き上げるという事を学ぶ①基礎
7. 床を踏む、身体を引き上げるという事を学ぶ②応用
8. 身体の軸を覚え、身体をコントロールして動くことを知る①基礎
9. 身体の軸を覚え、身体をコントロールして動くことを知る②応用
10. 筋肉を張ったり、緩めたり、表現の幅を広げる①基礎
11. 筋肉を張ったり、緩めたり、表現の幅を広げる②応用

12. 基本的なステップを覚え、全身を使って動けるようになる①基礎
13. 基本的なステップを覚え、全身を使って動けるようになる②応用
14. 振り付けを覚えて、音、振り付けで感じた感性をプラスし、踊りで自分や作品を表現していく
15. まとめ

### 授業時間外の学習

できない振りは自主トレーニングして、次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業への取り組み・授業態度及び実技試験で評価する。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないと正しく理解すること。」

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 ジャズダンスA②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスA②」履修者は「ジャズダンスA-LA②」、「ジャズダンスA④」履修者は「ジャズダンスA-LA④」に参加すること)

### 授業の概要

最近、ダンスは身近なものになり、殆んどの人々が経験をしたことがある得意であるという状況になっている。その為、要求されるレベルも上がり、ダンスの技術や基本がとて大切になる。この授業では、ダンスの基礎を理解し、動きに対応できる柔軟性・筋力のトレーニング・身体の使い方の実技を行う。授業で使用する曲等で、ジャズダンスの特長であるリズム感を養い、コンビネーションで振付を覚えて、音楽に合った表現を踊り、どう見せるか? 見せたいか? 見えたか? を考えながら、身体表現の演習を行う。

### 授業の到達目標

到達目標は各自のスキルアップが目標であるが、基礎知識・基礎訓練が中心でもあるため、自分自身の身体を知り、自信をつける反面欠点を認識し、トレーニング方法を見つける事も重視したい。数回、小テストを行う事により、本人の得意・不得意を知り、自分自身の成長に気付くことができる。

### 授業計画

1. ストレッチ・エクササイズ中心 (正しいストレッチの仕方)。音のとおり方・のり方。コンビネーション1: 導入
2. ストレッチ・エクササイズ中心。音のとおり方・のり方。コンビネーション1: 基礎
3. アイソレーション・クロスフロアー重視。ストレッチ・エクササイズ。軸のとおり方。コンビネーション1: 応用
4. アイソレーション・クロスフロアー重視。ストレッチ・エクササイズ。軸のとおり方。コンビネーション1: 発展
5. コンビネーション1: 重視
6. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 導入
7. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 基礎
8. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 応用
9. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 発展
10. コンビネーション2: 重視
11. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。

12. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3: 基礎
13. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3: 応用
14. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3: 発展
15. まとめ

※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがあります。

### 授業時間外の学習

各自、柔軟、筋力トレーニングは行うこと。小テストを行うので各自練習しておくこと。  
毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。  
ダンスシューズ (ジャズシューズ等) を使用する。

### 成績評価

「授業への取組み・授業態度」30%、「小テスト・期末テスト」70%の状況で評価する。

S 90点以上、身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で踊ることができた者。

A 80点以上、音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者。

B 60点以上、音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者。

C 50点以上、振付を覚えて踊れる。又は成果がでた者。

D 49点以下、振付を覚えて練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。

LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。  
「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないと正しく理解すること。」

科目名 ジャズダンスB①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスB①」履修者は「ジャズダンスB-LA①」、「ジャズダンスB③」履修者は「ジャズダンスB-LA③」に参加すること)

### 授業の概要

- ・肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である。
- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ
- ・振りを覚えて、表現、感性を磨く

### 授業の到達目標

前期で取得した技術をより高め、踊りの質を高めることができる。

### 授業計画

1. 前期の授業の確認①基礎
2. 前期の授業の確認②応用
3. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる①入門
4. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる②基礎
5. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる③応用
6. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる④発展
7. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく①入門
8. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく②基礎
9. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく③応用

10. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく④発展
11. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる①入門
12. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる②基礎
13. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる③応用
14. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる④発展
15. まとめ

### 授業時間外の学習

できない振りは自主トレーニングして、次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業への取組み・授業態度及び実技試験で評価する。

S 総合評価90点以上

A 総合評価80点以上

B 総合評価60点以上

C 総合評価50点以上

D 総合評価50点未満

科目名 ジャズダンスB②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。  
 (「ジャズダンスB②」履修者は「ジャズダンスB-LA②」、「ジャズダンスB④」履修者は「ジャズダンスB-LA④」に参加すること)

### 授業の概要

最近、ダンスは身近なものになり、殆んどの人々が経験したことがある・得意であるという状況になっている。その為、要求されるレベルも上がり、ダンスの技術や基本がとて大切になる。この授業では、ダンスの基礎を理解し、動きに対応できる柔軟性・筋力のトレーニング・身体の使い方の実技を通して、表現方法を見つけていく。ストレッチエクササイズ・アイソレーション・クロスフロアー・コンビネーションで実技を行う。

### 授業の到達目標

各自のスキルアップができる。柔軟・筋力トレーニングを通して、各自のトレーニング方法を見つけ、動きの範囲を広げることで、表現方法に生かし、更にテクニックをつける事ができる。  
 小テストを行うことにより、自分自身の成長に気付くことができる。

### 授業計画

1. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 導入
2. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 基礎
3. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 応用
4. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 発展
5. コンビネーション1中心。
6. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 導入
7. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 基礎
8. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 応用
9. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 発展
10. コンビネーション2中心。
11. 動きの見せ方について考えて踊る①基礎

12. 動きの見え方について考えて踊る②応用
  13. 音楽の音色・アクセントも合わせて表現方法を考える。
  14. 音楽の音色・アクセントも合わせて表現方法を表わす。
  15. まとめ
- ※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがあります。

### 授業時間外の学習

各自、柔軟、筋力トレーニングは行うこと。小テストを行うので各自練習をしておくこと。  
 毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。  
 (LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。  
 ダンスシューズ (ジャズシューズ等) を使用。

### 成績評価

「授業への取組み・授業態度」30%、「小テスト・期末テスト」70%の状況で評価する。  
 S 90点以上、身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で踊ることができた者。  
 C 50点以上、振付を覚えて踊れる。又は成果がでた者。  
 A 80点以上、音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者。  
 B 60点以上、音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者。  
 D 49点以下、振付を覚えず練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者。  
 ※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。  
 LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。  
 「授業出席とLA補習参加の合計回数、二つの総合回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

科目名 ジャズダンスC①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 渡辺 美津子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。  
 (「ジャズダンスC①」履修者は「ジャズダンスC-LA①」、「ジャズダンスC③」履修者は「ジャズダンスC-LA③」に参加すること)

### 授業の概要

ストレッチ、筋肉トレーニング、アイソレーションで基本的な動きをマスターしたら、重心の移し方、体の引き上げ方、ハイレベルなバランス感覚を身につけ、質のよいターン (回転)、より確実なビルエイトを目指していく。クラシックバレエ、ジャズダンス、タップダンス、HIPHOP等の基本的なステップを使って、個人のレベルに合わせた振付を覚えてもらうが、最終的にはテクニックのみならず、表現力も身につけていきたい。表現力の幅を広げる意味でも、HIPHOPジャズ、シアタージャズ、モダンジャズなどいろいろなジャンルに挑戦していきたい。

### 授業の到達目標

振付を正確に踊ることができる。ニュアンスを感じとることができる。自己表現ができる。

### 授業計画

1. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー①
2. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー②
3. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー③
4. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー④
5. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー⑤
6. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ーまとめ
7. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー①

8. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー②
9. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー③
10. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー④
11. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー⑤
12. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ーまとめ
13. 復習、レベルアップ、コンビネーション1、2
14. 復習、レベルアップ、コンビネーション1、2
15. 実技試験、コンビネーション1、2

### 授業時間外の学習

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。バレエ基礎、コンビネーションは裸足で行うこともあるのでフータータイツ不可。ジャズダンスシューズ、ジャズスニーカー着用。バレエシューズは不可。

### 成績評価

①授業への取組み・授業態度20% ②課題に対する成果30%  
 ③期末試験50% を総合的に評価する。  
 S 総合点90点以上 (優れた表現力のある者)  
 A 総合点80点以上 (表現力のある者)  
 B 総合点60点以上  
 C 総合点50点以上  
 D 総合点49点以上  
 ※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。  
 授業及び、LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。

科目名 ジャズダンスC②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスC②」履修者は「ジャズダンスC-LA②」、「ジャズダンスC④」履修者は「ジャズダンスC-LA④」に参加すること)

### 授業の概要

- ・欧米で一般的に実施しているレッスン方法を採用し、実技を行う。
- ・ダンスに必要な柔軟性・筋力トレーニング・基本的な身体の使い方・リズムのとり方・乗り方を学び、色々な種類の音楽を用いて、その音色・リズム・アクセントを身体を使って表現することを演習する。ダンスを通して、身のこなしと感受性豊かな表現力を身につける。

### 授業の到達目標

- ・肉体・精神共にコントロールすることを身につけることができる。
- ・踊ることを通して表現豊かなパフォーマンスを実践することができる。

### 授業計画

1. ストレッチ・エクササイズ(正しいストレッチの仕方)・コンビネーション1:導入
2. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー(リズムのとり方・乗り方)・コンビネーション1:基礎
3. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー(正しい姿勢・軸のとり方)・コンビネーション1:応用
4. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー(軸、バランスのとり方)・コンビネーション1:発展
5. コンビネーション1重視
6. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:導入
7. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:基礎
8. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:応用
9. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:発展
10. コンビネーション2重視
11. 音の音色・アクセントのつけ方、見せ方。コンビネーション3:導入
12. 音の音色・アクセントのつけ方、見せ方。コンビネーション3:基礎
13. 更に踊りの表現方法を考える。コンビネーション3:応用
14. 更に踊りの表現方法を考える。コンビネーション3:発展

### 15. コンビネーション3重視

※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがあります。

### 授業時間外の学習

各自、柔軟、筋力トレーニングは行なうこと。  
小テストを行うので振付の練習をし、その音やイメージの表現を研究しておくこと。  
毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。  
ダンスシューズ(ジャズシューズ等)を使用。

### 成績評価

「授業への取組み・授業態度」30%、「小テスト・期末テスト」70%の状況で評価する。

- S 90点以上、身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で踊ることができた者。
- A 80点以上、音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者。
- B 60点以上、音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者。
- C 50点以上、振付を覚えて踊れる。又は成果がでた者。
- D 49点以下、振付を覚えず練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。

LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。

「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

科目名 バレエ・ムーヴメント①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して

1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイスメント
  2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
  3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
  4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通ず感覚
- 等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

初歩のバーレッスン、センターでの簡単なアンシェヌマンができる。

### 授業計画

毎回、床上のフロアストレッチから始める。

1. 姿勢とプレイスメント、5つの足のポジション、ポール・ド・ブラ第2回以降「バーの基本レッスン」  
ブリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン
2. 導入・入門
3. 基礎①体の使い方
4. 基礎②綺麗に魅せる
5. 基本レッスンの復習  
上記に加えて、バットマン・フラッペ、バットマンフォンジュ、デヴロツペ
6. 応用①体の使い方
7. 応用②綺麗に魅せる

### 8. 2～7回のまとめ

第9回以降「バーレッスンとセンターレッスン。センターでは9回以降、以下の基本ステップを加えていく」

アダージュ、バットマン・タンジュ、シャンジュマン・エシャッペ、グリッサード、アッサンブレ、シンソヌ、ビルエット等

9. ステップの導入・入門
10. ステップの基礎
11. 発展①バーとセンターの組み合わせ
12. 発展②音楽に合わせてみる
13. 2～12回のまとめ
14. 試験のアンシェヌマン
15. まとめ

順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着(レオタード・タイツ)を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

①授業への取組み・授業の状況40%②課題に対する成果30%  
③期末試験30%の3つを総合的に100点満点で評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 クラシックバレエⅠ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して

1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイズメント
  2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
  3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
  4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通ず感覚
- 等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

初歩のバーレッスン、センターでの簡単なアンシェヌマンができるようになる。

### 授業計画

1限 初心者クラス、2限 経験者クラスとしてレベルに応じたレッスンをを行う。

1. 姿勢とプレイズメント、足の5つのポジション、ポール・ド・ブラ  
第2回以降「バーの基本レッスン」  
ブリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン、ルルベ
2. 導入・入門
3. 基礎 体の使い方
4. 基本レッスンの復習  
上記に加えて、バットマン・フラッペ、バットマンフォンジュ、デヴロップ、ロン・ド・ジャンプ・アン・レール
5. 応用①体の使い方
6. 応用②綺麗に魅せる
7. 2～6回のまとめ  
第8回以降「バーレッスンとセンターレッスン」

センターでは第8回以降、以下の基本ステップを加えていく  
アダージュ、バットマン・タンジュ、バランス（ワルツステップ）、ビルエット、小さいジャンプ、グリッサード等

8. ステップの導入・入門
  9. ステップの基礎 体の使い方
  10. 8・9回のまとめ  
センターでは第11回以降、以下の基本ステップを加えていく  
アッサンブレ、ジュッテ、シソソヌ、ジュッテアントラセ、移動する回転等
  11. ステップの応用①体の使い方
  12. ステップの応用②綺麗に魅せる
  13. 8～12回のまとめ
  14. 試験のアンシェヌマン
  15. 総括
- 順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

- ①授業への取り組み・授業の状況40%
  - ②課題に対する成果30%
  - ③期末試験30%の3つを総合的に100点満点で評価する。
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 クラシックバレエⅡ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

「クラシックバレエⅠ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して

1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイズメント
  2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
  3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
  4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通ず感覚
- 等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

それぞれが自分の体と向き合い、豊かな表現ができる体を作ることができる。

バレエのアカデミックなムーブメント、テクニックを学び、音楽的に踊れるように感性を磨くことができる。

### 授業計画

1限初心者クラス、2限経験者クラスとしてレベルに応じたレッスンをを行う。

1. クラス分け  
初心者クラス 中・上級クラス
2. Iの復習①基本 2. Iの復習、クラスレッスン①導入
3. Iの復習②応用 3. クラスレッスン②基本
4. 発展的な体の使い方 4. クラスレッスン③応用
5. 綺麗に魅せる 5. クラスレッスン③発展
6. 姿勢とプレイズメント、足の5つのポジション、ポール・ド・ブラ  
第6回以降「バーレッスン、センターレッスン、実技公開試験のアンシェヌマン」

6～9回ではアダージュ、バットマン・タンジュ、ビルエット、グラン・バットマン等

6. 体の使い方①応用
  7. 体の使い方②発展
  8. 綺麗に魅せる
  9. 6～8回のまとめ
  - 10～13回ではアレグロ、ワルツ、グラン・アレグロ、コーダ等
  10. 体の使い方①応用
  11. 体の使い方②発展
  12. 綺麗に魅せる
  13. 10～13回のまとめ
  14. クラスレッスンと実技公開試験のアンシェヌマンのまとめ
  15. 実技公開試験
- 順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

- ①授業への取り組み・授業の状況40%
  - ②課題に対する成果30%
  - ③期末試験30%の3つを総合的に100点満点で評価する。
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 タップダンスⅠ①

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中谷 諭紀

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

リズム感はダンスの基本としてはもとより、芝居や歌を唄う事に於いても大変重要な事である。基礎～テクニックのステップを学びより表現力を豊かにするため、様々なジャンルの曲に合わせて振り付けをしていく。

### 授業の到達目標

基礎～テクニックのステップを学び、数曲の振り付けを覚え幅広い表現力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. タップシューズと床の感触をつかんではっきりと大きな音を出す
2. 正確に基礎ステップを覚える①導入
3. 正確に基礎ステップを覚える②基礎
4. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む①導入
5. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む②基礎
6. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む③体の使い方
7. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む④リズムに合わせて正確なステップを踏む
8. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む⑤まとめ

9. テクニカルステップの練習をしながら、完結した曲の練習。
10. テクニカルステップの練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む①導入
11. テクニカルステップの練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む②基礎
12. テクニカルステップの練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む③体の使い方
13. テクニカルステップの練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む④リズムに合わせて正確なステップを踏む
14. テクニカルステップの練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む⑤強弱やアクセントの工夫
15. まとめ・試験

### 授業時間外の学習

復習・自主練習に努める事。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取組み・授業態度30%②課題の成果30%③試験40%の3つを総合評価する。

- S 総合評価90点以上  
A 総合評価80点以上  
B 総合評価60点以上  
C 総合評価50点以上  
D 総合評価50点未満

科目名 タップダンスⅠ②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 近藤 淳子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

基本が大切なので欠席をしないこと。体調不良の場合でもなるべく見学すること。

### 授業の概要

タップダンスの楽しさからプロになるための本格的なテクニックまでを基礎からしっかりと学ぶ。リズム感(音の強弱・音色・アクセント)ダンスの基本としてはもとより芝居や歌を唄うことにも大変重要なことである。タップダンスのレッスンを通じて身体全体で感じることや表現することを体得してもらったらと思う。

### 授業の到達目標

基本のスキルアップを覚え、数曲の振付を仕上げていく過程で各自のスキルアップと幅広い表現力を身につけることができる。

### 授業計画

1. 音の出し方、タップシューズとチップの床の感触のつかみ、重心移動について
2. ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション①導入
3. ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション②基本
4. ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション③まとめ、復習
5. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカベラ①序盤
6. 前回の復習
7. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカベラ②中盤
8. 前回の復習

9. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカベラ③終盤
10. 前回の復習
11. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲+アカベラ①グループでの演習
12. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲+アカベラ②創意工夫を試みる
13. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲+アカベラ③グループ内で息を合わせる
14. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲+アカベラ④11～14回のまとめ演習
15. 学習到達度の確認  
※順序及び内容は、履修者数や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

前回の授業内容を復習し練習すること。欠席した場合のステップ課題を授業前に学んでおくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取組み・授業態度30%②課題の成果20%③試験50%の3つを総合して評価する。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 タップダンスⅡ①

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中谷 諭紀

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

「タップダンスⅠ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

基礎～テクニックのステップを用い、より表現力を豊かにする為、様々なジャンルの曲に合わせて振り付けをしていく。また、発表の場を体験し、舞台創りの楽しさと厳しさを学ぶ。

### 授業の到達目標

リズム感・テクニックとより幅広い表現力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. 基礎ステップ・テクニカルステップの練習①基礎
2. 基礎ステップ・テクニカルステップの練習②応用
3. 基礎ステップ・テクニカルステップの練習③まとめ
4. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える①導入
5. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える②基礎
6. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える③細かな体の使い方
7. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える④応用
8. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える⑤発展
9. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える

### ⑥まとめ

10. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける①曲序盤
11. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける②曲中盤
12. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける③曲終盤
13. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける④強弱やアクセントの工夫
14. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける⑤落とし込み
15. 試験・まとめ

### 授業時間外の学習

復習・自主練習に努める事。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取り組み・授業態度30%②課題の成果30%③試験40%の3つを総合評価する。

- S 総合評価90点以上  
A 総合評価80点以上  
B 総合評価60点以上  
C 総合評価50点以上  
D 総合評価50点未満

科目名 タップダンスⅡ②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 近藤 淳子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

「タップダンスⅠ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

より表現力を豊かにするための様々な曲に合わせてジャズ、ヒップホップ等のステップを使って振付していく。音の強弱、アクセント、リズムを身体を使って踊りこみタップダンスの奥深さを学んでほしい。また、発表会を体験し、舞台創りの楽しさと厳しさを学びの技術のみならず表現者としての骨格を骨太にしていきたい。

### 授業の到達目標

幅広い表現方法を身に付け、作品ごとに求められる表現方法を自ら思考・工夫できる。真摯に探求心を持って体全体を使って表現できる。

### 授業計画

1. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション①体の使い方
2. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション②リズムに合わせる
3. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション③リズムに合わせて正確なタップを試みる
4. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション④1～4回の復習、まとめ
5. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2①体の使い方
6. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2②リズムに合わせて正確なタップを試みる
7. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2③強弱やアクセ

### ントの工夫

8. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2④5～7回の復習、まとめ
  9. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲3
  10. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲1・2・3、アカペラ①グループで息を合わせる
  11. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲1・2・3、アカペラ②強弱やアクセントの工夫
  12. 復習、通し稽古①各々の課題発見
  13. 復習、通し稽古②「魅せる」を意識する
  14. 復習、通し稽古③実技公開試験に向けて
  15. 実技公開試験、学習到達度の確認
- ※順序及び内容は、履修者数や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

前回の授業内容を復習し練習すること。欠席した場合のステップ課題を授業前に学んでおくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取り組み・授業態度30%②課題の成果20%③試験50%の3つを総合して評価する。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 歌唱（個人レッスン）A～H

授業形態 実技 (PL)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2/1

キャップ制  
対象外

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

○

### 履修条件

講師と1対1の個人レッスン。声や歌に対して興味のある者、成長したいという意欲のある者。

### 授業の概要

個人レッスンのためその担当の講師により細かい内容は異なるが、声や歌の向上に繋がるレッスンを重ねる。

### 授業の到達目標

- 音程や発音を正しく、身体を使って発声できる。
- 表現者として感動を与える表現を伴った歌を歌うことができる。

### 授業計画

各講師に委ねられるが声や歌に関することを学ぶ。身体の使い方から声の出し方、声のケアの仕方、歌の表現法などを学びながら最後の個人歌唱の試験を迎える。

### 授業時間外の学習

毎日の練習。曲への理解。他の音源を聴いて学ぶ。沢山の情報を得てその曲を深めていく。

### 教科書・参考書等

担当学生に合うと思われる各講師の用意した曲、あるいは学生が用意した曲を講師と相談して使用。

### 成績評価

学期末に個人レッスン担当の講師が揃った中、一人で披露し、講師全員で得点をつけた後、その平均で評価する。

- S 講師の平均が90点以上
- A 講師の平均が80点以上
- B 講師の平均が60点以上
- C 講師の平均が50点以上
- D 講師の平均が49点以下

科目名 舞台芸術概論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

必修。遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

日本の近代の演劇史をベースにしなが、演劇というものを考える。我々が現在考えている、「演劇」の概念は、いかに日本において作られたのか、また何のために近代演劇は西洋社会から導入されたのか。それら社会と演劇の位置を始点として考える。そして、演劇というものが娯楽的な要素をこえて、社会とどのように関わり、人々は翻弄されながらも、その社会に介入しようとしたのか。戦前、戦間期という激動の日本の歴史を通して考える。そのため、19世紀末から20世紀にかけての、世界史と日本史の高校教科書程度の知識は再度準備しておくこと。

### 授業の到達目標

単に演劇史をなぞるのではなく、当時の人々が社会とどのように接点を持ち、何を考えて行動していたのか、その可能性と限界を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 演劇の概念とは何か
3. 「明治」と演劇
4. 「明治」と近代演劇
5. 労働演劇
6. 築地小劇場の時代
7. 戯曲の時代① 岸田国士など
8. 戯曲の時代② そのほか
9. プロレタリア演劇① 村山知義など

10. プロレタリア演劇② そのほか
11. 戦中の演劇
12. 戦後の演劇
13. 1950年代の演劇
14. 自立演劇
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話したことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話したことをインターネットでチェックすること。

### 教科書・参考書等

教科書：日本史の教科書と世界史の教科書。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

- 発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
  - A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
  - B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
  - C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
  - D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 日本演劇史A (古典)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安富 順

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 

ー

### 履修条件

必修

### 授業の概要

この授業では俳優として最低限備えておきたいと考えられる、日本演劇史に関する知見より、いわゆる《古典分野》を学ぶものである。具体的には日本三大古典演劇と称される能楽(能・狂言)・歌舞伎・人形浄瑠璃(文学)の史的発生とその展開、さらに演劇的性格・本質等について解説を行う。演劇史である以上、歴史研究分野の一部であることは、言うを俟たない。通常、歴史の記述は遠い過去より現在に近い地平へと降りるものである。が、当該授業ではそれとは正反対に、より現代に近い過去から出発し歴史の流れを遡ることで、三大古典演劇それぞれの発生と展開を探ってみたいと考える。したがって、授業進行に違和感を覚える学生も出ると考えられるので、担当教員は各受講生の負担にならぬよう丁寧な説明を心がける。上の古典演劇に触れた経験を持たない受講生もいるであろうから、ビデオを適宜利用し理解の一助としたい。授業において受講生には今まで耳にしたことがない人物名、作品名、学術用語が頻出するが、基本的事項の把握は全体像の理解するための階梯であると、理解いただきたい。

### 授業の到達目標

講義を通じ、日本古典芸能史および演劇史に関する基本的必須知識、教養を習得し、それらを説明することができる。

### 授業計画

1. 現代演劇は歌舞伎をどう見たか①小林一三と宝塚
2. 現代演劇は歌舞伎をどう見たか②唐十郎と寺山修司
3. 寡黙の人—河竹黙阿弥①三深(親) 切
4. 寡黙の人—河竹黙阿弥②明治への眼差し

5. 七代目市川團十郎—『安宅』から『勧進帳』
6. 強かな人生—鶴屋南北①現代演劇『東海道四谷怪談』
7. 強かな人生—鶴屋南北②現代演劇と南北
8. 人生の真実—近松門左衛門①元禄時代の恋愛
9. 人生の真実—近松門左衛門②近松心中劇
10. 異端、前衛、そして正当—出雲のお国登場
11. 舞と踊り
12. 世阿弥『花鳥風月』を読む
13. 世阿弥の人生
14. 鎮魂としての芸能
15. 総括

### 授業時間外の学習

指定文献を事前に読むこと。

### 教科書・参考書等

プリントを配布する。参考となる書籍等については適宜紹介する。

### 成績評価

授業への取り組み15%。持ち込み不可の筆記試験85%。

- S 総合点90点以上  
(講義内容の理解度が極めて優れていると認められる者)
- A 総合点80点以上  
(講義内容の理解度が優れていると認められる者)
- B 総合点60点以上  
(講義内容の理解度が一定以上には達したと認められる者)
- C 総合点50点以上  
(講義内容の理解度にやや不安を覚えるが最低限の段階には一応達したと認められる者)
- D 総合点49点以下  
(講義内容の理解度が極めて不十分と判断せざるを得ない者)

科目名 日本演劇史B (近現代)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 

ー

### 履修条件

必修。遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

日本の現代演劇史を概括して講義する。半期のため、学生は授業時間外で、戯曲や演劇論、そして時代背景についての読書をするのが求められる。我々が現在考えている、「演劇」の概念は、いかに日本において作られたのか。それら社会の制度と演劇の位置を見る。そして、演劇というものが娯楽的な要素をこえて、社会とどのように関わり、どのように人々が翻弄されながらも、社会に介入しようとしたのか、戦後日本の歴史を通して考える。そのため、世界史と日本史の高校教科書程度の知識は再度準備しておくこと。

### 授業の到達目標

たんに演劇史の授業ではなく、作品と人々が社会とどのように接点を持ち、何について考えて行動していたのか、その可能性と限界を問う。自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 戦後の動向
3. 1950年代の演劇
4. 1960年、安保と演劇
5. アンダーグラウンド演劇①唐十郎など
6. アンダーグラウンド演劇②鈴木忠志など
7. アンダーグラウンド演劇③寺山修司など
8. 1970年代の演劇
9. 1980年代の演劇

10. 1990年代の演劇①ダムタイプなど
11. 1990年代の演劇②永井愛など
12. 2000年代演劇の動向
13. 最近の演劇の動向
14. ポストドラマ演劇
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。

参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 西洋演劇史A (古典)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

演劇専攻1年必修。  
予習・復習に努め、演劇の基礎知識を習得する意志のある者。

### 授業の概要

紀元前5世紀の古代ギリシャ劇から17世紀のフランス古典劇にいたるまでの西洋演劇史を概観し、時代背景、文化状況をふまえながら、劇場構造、上演形態、作品等について講義する。各時代の演劇が後世の演劇にどのような影響を与え、どのような要素が継承されたのかを、それぞれの事象を関連づけながら探っていく。また、古代ギリシャ劇、シェイクスピア劇、フランス古典劇等の現代における上演を、視聴覚資料を用いて考察する。この授業では、演劇人に求められる基礎的な知識を確実に身に着けるために、毎回授業の冒頭で、前回の授業内容と事前学習(課題)に関する小テストを行う。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、演劇史に関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、以下の3点をこの授業の到達目標にする。  
○代表的な劇作家とその作品について、説明することができる。  
○劇場構造や上演形態について、その特色を説明することができる。  
○紀元前5世紀から17世紀までの西洋演劇史の流れを説明することができる。

### 授業計画

1. ギリシャ神話と演劇
2. 古代ギリシャの劇場
3. ギリシャ悲劇①アイスキュロス
4. ギリシャ悲劇②ソポクレス
5. ギリシャ悲劇③エウリピデス
6. ギリシャ喜劇/ローマ演劇
7. 中世の宗教劇
8. コメディア・デラルテ

9. フランス古典悲劇
10. フランス古典喜劇
11. エリザベス朝演劇
12. シェイクスピア①悲劇
13. シェイクスピア②史劇
14. シェイクスピア③喜劇
15. 総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容と宿題に関する小テストを行うので、履修者は各自でノートをもとめ、予習と復習に努めること。第3回までに「アガメムノン」(アイスキュロス)、第4回までに「オイディプス王」(ソポクレス)、第5回までに「メディア」(エウリピデス)、第12回までにシェイクスピアの四大悲劇、第14回までに「夏の夜の夢」「十二夜」「テンペスト(あらし)」を読んでもおくこと。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず、授業時にプリントを配付。参考書は、適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業内テストの成績を100点に換算(小テスト成績50%、学習到達度の確認50%)

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、関連づけて説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 西洋演劇史B (近現代)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

演劇専攻1年必修。  
予習・復習に努め、演劇の基礎知識を習得する意志のある者。

### 授業の概要

西洋における近代から現代までの演劇の流れを概観し、時代背景、文化状況をふまえながら、劇場構造、上演形態、作品、演劇論等について講義する。また、各国の演劇が他国にどのような影響を与え、どのような発展を遂げたのかを、それぞれの事象を関連づけながら探っていく。さらに、視聴覚資料を用いて作品を考察し、その特性について理解を深めていきたい。この授業では、演劇人に求められる基礎的な知識を確実に身に着けるために、毎回授業の冒頭で、前回の授業内容と事前学習(課題)に関する小テストを行う。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、演劇史に関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、以下の3点をこの授業の到達目標にする。  
○代表的な劇作家とその作品について、説明することができる。  
○代表的な演劇理論について、その要点を説明することができる。  
○19世紀の自然主義演劇から現在までの西洋演劇史の流れを説明することができる。

### 授業計画

1. 市民劇
2. 自然主義演劇
3. イブセン
4. モスクワ芸術座とスタニスラフスキー
5. チェーホフ
6. 英米の近代劇
7. アルトー
8. プレヒト
9. 不条理演劇①イヨネスコ

10. 不条理演劇②ベケット
11. ウィリアムズ
12. ミラー
13. ピンターとストッパード
14. 多文化の演劇
15. 総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容に関する小テストを行うので、履修者は各自でノートをもとめ、予習と復習に努めること。第3回までに「人形の家」「幽霊」(イブセン)、第5回までにチェーホフの四大劇、第8回までに「三文オペラ」(プレヒト)、第10回までに「ゴドーを待ちながら」、第11回までに「ガラスの動物園」「欲望という名の電車」(ウィリアムズ)、第12回までに「セールスマンの死」「るつぼ」(ミラー)を読んでもおくこと。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず、授業時にプリントを配付。参考書は、適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業内テストの成績を100点に換算(小テスト成績50%、学習到達度の確認50%)

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、関連づけて説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 ミュージカル概論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 橋爪 貴明

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

演劇専攻1年必修。遅刻、欠席をしない。プロの表現者になる熱意があり、学ぶ欲求があること。

### 授業の概要

比較的新しい表現形式であるミュージカルの歴史を研鑽し、他の演劇形式との違い、共通点を学び、ミュージカルの可能性を探っていく。理論と実技、そして映像。それぞれの角度からミュージカルという表現形式の理解を深めていく。

ミュージカルの原点は何処にあるのか？どんなルートを辿ってこの芸術、文化が日本に入って来たのか？オペラからミュージカルが派生したのはどの時点か？

フランス～ニューオリンズ～ブロードウェイへと至る変遷、またウエストエンドの状況も同時に学んでいく。また、日本のミュージカルの派生、発展も見えていく。

### 授業の到達目標

ミュージカルの作品分類ができ、歴史を理解し、作品の時代背景、社会的な力関係を把握できる。

### 授業計画

1. 導入
2. 自己受容、自己表現
3. 歌の原点を知る。歴史を学ぶ。
4. 芝居の原点を知り、歴史を学ぶ。
5. 身体表現の原点を知り、歴史を学ぶ。ミュージカル作品の分類の仕方。
6. オペラ～ミュージカル、派生の場所と時期。
7. ボードビルショー、 minstrel、ニューオリンズで花開くも

のは…。日本のミュージカルの歴史。浅草オペラ～商業演劇への変遷。

8. DVD鑑賞
9. 作品の分析
10. レ・ミゼラブル、サウンドオブミュージック、ウエストサイドストーリー これらの作品の分析と解説及び時代背景、作品が社会に与えたものは？
11. ミュージカルにおける作詞、その作品ごとの研鑽。
12. 日本のミュージカルの創成→宝塚、東宝ミュージカルズ等。
13. DVD鑑賞
14. 作品の分析
15. まとめ

### 授業時間外の学習

与えられた課題の準備を授業前に行うこと。授業中に学んだことを検討し、改善・研究に努めること。

授業の最初に小テストを適時実施するので、前回の授業内容をよく復習しておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

### 成績評価

授業への取組み20%、期末レポート80%を総合的に評価。

- S 講義内容を元にミュージカルの歴史、作品の時代背景を把握、理解し、的確に自論を展開できた者。
- A 講義内容を元に的確に自論を展開できた者。
- B 講義内容を元に自論を展開できた者。
- C 講義内容は把握出できているが、自論を展開できなかった者。
- D レポート未提出、授業への出席不足の者。

科目名 ミュージカル論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 藤原 麻優子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

演劇専攻1年必修。

### 授業の概要

ミュージカルは、日本を含め現在世界各地で最も人気のある音楽劇のひとつと呼ぶことができる。では、様々な音楽劇の中で、ミュージカルの音楽劇としての特徴とは一体何なのだろうか。語り、歌い、踊るという演技は、どのように作品に組み込まれているのだろうか。わたしたちが思い浮かべる「ミュージカル」は、どのように現在の広がりをもつにいたったのだろうか。

この授業では、ブロードウェイ・ミュージカルを中心に、ミュージカルというジャンルの歴史と展開について概観し、ミュージカルを理解するための基礎的な知識を学ぶ。また、さまざまなサブジャンルについて、作品分析を通して考察していく。適宜映像・音声資料を利用する。

### 授業の到達目標

- ミュージカルの歴史について、各年代の特色と大まかな流れを説明することができる。
- ミュージカルのさまざまなサブ・ジャンルについて、その特色を説明することができる。
- ミュージカルに対する自分の考えを説明することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. ミュージカルを分析する①ミュージカル・ナンバーの機能
3. ミュージカルを分析する②ミュージカルと「不自然」
4. ミュージカルの歴史①ミュージカルのツール
5. ミュージカルの歴史②ミュージカルの「黄金時代」
6. ミュージカルの歴史③ミュージカルの展開

7. ミュージカルの現在
8. ミュージカル・プレイ①作品鑑賞（前半）
9. ミュージカル・プレイ②作品鑑賞（後半）
10. ミュージカル・プレイ③作品分析
11. コンセプト・ミュージカル①作品鑑賞（前半）
12. コンセプト・ミュージカル②作品鑑賞（後半）
13. コンセプト・ミュージカル③作品分析
14. ミュージカルを分析する③ミュージカルとは何か
15. まとめ（試験を含む）

### 授業時間外の学習

予習・復習として、授業で取りあげる作品の映画版を見てもらう。授業後に簡単な感想や小レポートの提出を求める場合がある。

### 教科書・参考書等

教科書は指定しない。授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業時に紹介する

### 成績評価

平常点（授業への取組み、授業態度および感想提出等）40%、期末試験60%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項をよく理解し、優れた説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項を理解し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項をほぼ理解し、説明ができる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が不足する）
- D 総合点が49点以下の者（極端に出席が少ない、講義内容を理解しておらず説明ができない）

科目名 ソルフェージュ基礎①②

授業形態 演習(理論)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音楽(楽譜を正確に読む等)、歌うことに興味のあるもの。  
五線ノート、筆記用具を持参。

12. 新曲視唱 ハーモニー ②
13. 学習到達度確認 譜面の読み方
14. 学習到達度確認 新曲視唱
15. 総括

### 授業の概要

音楽の基礎力をつけることを目的とする。  
楽典基礎を学び正確な譜面の読み方、リズム感、音感などソルフェージュ力を養うことで、音楽への理解を深め各々のパフォーマンスの向上につなげる。

### 授業時間外の学習

授業中課題があれば、予習、復習に努めること。  
楽譜を通して歌う訓練をする。

### 授業の到達目標

- 以下の2点をこの授業の到達目標とする
- ・ 譜面を読んで歌うことができる。
  - ・ フレーズ感、リズム感、音感を育てることができる。

### 教科書・参考書等

授業中に資料配布。

### 授業計画

1. 楽典基礎①音符の読み方(音名)
2. 楽典基礎②音符の読み方(リズム)
3. 楽典基礎③音楽用語について
4. 楽典基礎④リズムを読む
5. 楽典基礎⑤譜面を読む
6. 視唱①
7. 視唱②(3度～)
8. 新曲視唱
9. 聴音①
10. 聴音②
11. 新曲視唱 ハーモニー ①

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み50%・プリント課題30%・学期末課題20%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、プリント課題・学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 ソルフェージュ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 岩崎 廉

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

ミュージカルコース必修。

7. 詩を考える
8. 詩先の作曲
9. 曲先の作詞
10. メロディーにコードを付ける
11. アナリーゼを学ぶ
12. カデンツを学ぶ
13. 演習①
14. 演習②
15. 総括

### 授業の概要

「ソルフェージュ基礎」で学習した知識を更に深め、コードを使い作曲する。覚える事、考える事、感じる事、脳の力をしっかり切り分けて使い、感性を高めて行く。実際に自分で作曲することにより、他者の作った作品への理解力を上げて行く。

### 授業時間外の学習

毎回の授業でモチーフ、詩の提出がある。

### 授業の到達目標

カデンツを理解し、モチーフを作る。普段の生活の中から身近なテーマを選び作詞することができる。  
詩先の作曲、曲先の作詞ができるようになる。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 授業計画

1. 導入
2. 小試験
3. トライアド、コードの学習
4. コードをピアノで弾く
5. 旋律を考える
6. ことばとリズム

### 成績評価

- 提出物評価…40点満点、小試験…20点満点、期末試験…40点満点
- 3つの点数の総合で評価される。
- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価49点以下

科目名 演劇批評論

授業形態 講義

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

演劇を観るために、もしくは実践的に活動するために、必要な理論について考える。理論を学びながら、それをベースに実際に舞台を観に行く。舞台が理論によって鮮やかに見える場合もあれば、理論そのものをゆるがすこともあるだろう。その双方向的な視点をもって、舞台について考える。

### 授業の到達目標

たんに舞台をみる授業ではなく、演劇が社会とどのように接点を持ち、作品から何をを見つけるべきなのか、その可能性を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 批評理論とは何か
3. 批評理論の解説
4. 作品と社会性 1960年代を例に
5. 作品と時代性 1960年代を例に
6. 作品を取りまく環境
7. 記憶の装置としての劇場
8. 実際に書く①前半
9. 実際に書く②後半

10. ディスカッション
11. 舞台を見る①前半
12. 舞台を見る②後半
13. 批評の講評①前半
14. 批評の講評②後半
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 パフォーミングアーツ論

授業形態 講義

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

私たちが「演劇」というものを考えた際に、どのようなものをイメージするだろうか。いわゆる舞台のみにとどまらない、「演劇」的な要素とはなにか。演劇を幅広いコンテクストで捉え直してみようというのが、この授業の目標である。そのために、パフォーマンス・スタディーズ、ポストドラマ演劇、文化人類学などのいくつかのコンセプトを駆使して幅広い要素によって、演劇的なものを再考する。

### 授業の到達目標

私たちの既成概念としての「演劇」というものはどのように基底されたか。自明なるものを疑うという問題意識を持つことができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. パフォーマンス・スタディーズとはなにか
3. リチャード・シェクナーについて
4. ゴッフマンについて
5. ターナーについて①前半
6. ターナーについて②後半
7. ローズリー・ゴールドバーグ①「パフォーマンス」
8. ローズリー・ゴールドバーグ②60年代以後のパフォーマンス
9. ピーター・ブルックについて
10. 日本のパフォーマンス①60年代

11. 日本のパフォーマンス②80年代
12. 他の国のパフォーマンス①60年代
13. 他の国のパフォーマンス②80年代
14. まとめ
15. レポート総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：同様に授業時に指示する。

### 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 演劇文化論A

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

遅刻・欠席をしない。

### 授業の概要

東と西に遠く離れながら、歌舞伎とシェークスピアが、そしてオペラが、ほぼ同時期に生まれ、発展してきたことは思いのほか知られていない。縦の歴史ではなく、横に視点を広げ、舞台芸術と社会との関わり方、その表現者について比較検証していく。さらに、明治維新以降の近代、日本人の海外留学や巡業を通して、何を見、何を移入し、何を移入しなかったのかを探る。また同時に、急速に広がったジャポニズムを追いながら、近代における演劇のインターカルチュラリズムの意味を探る。

### 授業の到達目標

- ・舞台芸術の歴史的展開を理解することができる。
- ・演劇の相互交流の意味と異文化の翻訳の不可能性を理解することができる。
- ・国際的な視野を持つことができる。

### 授業計画

1. オリエンテーションーシェークスピアと歌舞伎
2. 古代の芸能ー渡来人、散楽から猿楽へ
3. 劇場という異界と興行
4. 芸能者と被差別民
5. 猿楽から能楽へ
6. 狂言とコメディアデラルテ

7. 歌舞伎とオペラ
8. 文楽と人形劇
9. 明治維新と文化政策
10. 岩倉視察団の見てきたもの
11. 演劇改良論者が求めたもの
12. 歌舞伎改良と新歌舞伎
13. 海外留学と近代演劇①市川左団次、小山内薫、島村抱月他
14. 海外留学と近代演劇②土方与志、岸田國士他
15. 総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

翻訳劇を積極的に鑑賞する。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果  
S: ①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者  
A: ①②③全てを獲得した者  
B: ①～③のうち2つを獲得した者  
C: ①～③のうち1つを獲得した者  
D: ①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 演劇文化論B

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

遅刻・欠席をしない。演劇文化論A履修者が望ましい。

### 授業の概要

本科目は次の2つの柱を追求することにより、グローバル(グローバルかつローカル)な時代における次代の創造者・表現者、アートマネージャーの役割を探っていく。

1. 翻訳と言う作業と異文化の受容の課題を検証するとともに、日本の現代演劇の国際化を考える。
2. 演劇が社会のあり方をいかに変えるかを、英国とフランス演劇の事例から検証し、演劇の社会における役割を探る。

### 授業の到達目標

- 創造者・表現者・アートマネージャーとして異文化の翻訳、翻訳劇の上演の意味を理解できる。
- 演劇人たちが担ってきた演劇の社会的役割を理解できる。

### 授業計画

1. 翻訳劇の展開とインターカルチュラリズム
2. 翻訳が作る日本語
3. 「異文化」の翻訳と翻案ージャポニズムをめぐって
4. スタニスラフスキーの移入をめぐって
5. 翻訳劇と国際共同制作の現場
6. 演劇が社会を変える?①オールドヴィックシアターと生涯学習
7. 演劇が社会を変える?②ナショナルシアター運動とシェークスピア
8. 演劇が社会を変える?③演劇の地方分散ージャック・コポーとジャンヌ・ローラン

9. 演劇が社会を変える?④国立民衆劇場とジャン・ピラール
10. 演劇が社会を変える?⑤アンドレ・マルローとジャック・ラング
11. 演劇が社会を変える?⑥ロイヤル・コートシアターとシアターワークショップ
12. 演劇が社会を変える?⑦「なんて素敵な戦争」
13. 演劇が社会を変える?⑧TIEとエデュケーション・プログラム
14. 演劇が社会を変える?⑨「ハンナとハンナ」「グラスゴー・ガール」
15. 総括ー演劇とグローバルな社会

### 授業時間外の学習

翻訳劇を積極的に鑑賞する。戯曲の描く世界について下調べを行う。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布(戯曲の日本語版についても)。参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果  
S: ①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者  
A: ①②③全てを獲得した者  
B: ①～③のうち2つを獲得した者  
C: ①～③のうち1つを獲得した者  
D: ①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 演出論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 川村 毅

実務経験

期間 後期集中

他専攻

### 履修条件

特になし。

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び復習をすること。

### 授業の概要

戯曲のリーディングのシミュレーションを行ない、演技と演出の知識と技術の幅を広げる。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 授業の到達目標

リーディングという表現行為の理解とそれを応用しての将来の展望を獲得できる。

更に、それを通じて演出とはなにかを理解する事ができる。

### 成績評価

授業態度、課題への取組み、課題の成果を元に総合的に評価する。

S：90点以上

A：80点以上

B：60点以上

C：50点以上

D：50点未満

### 授業計画

1. 川村毅「戯曲1」リーディングの実践
2. フィードバック①
3. 川村毅「戯曲2」リーディングの実践
4. フィードバック②
5. まとめ

科目名 演劇論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

特になし。

遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

西洋演劇史と日本演劇史に名を残す名作とされる戯曲を、多読することを目標とする。最低でも週に1～2本は戯曲を読み、授業で発表して議論する。そのため、議論に参加していないものは、出席とは認めない。とにかく戯曲をたくさん読んで、戯曲を読むことに慣れること。そのために、授業以外での読書は必須である。

11. 現代戯曲②ヨーロッパ
12. 日本の近代戯曲①戦前
13. 日本の近代戯曲②戦後
14. 日本の現代戯曲①60年代
15. 日本の現代戯曲②現代

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業の到達目標

単に戯曲を読む授業ではなく、ある時代のなかで、その当時の人々が、社会とどのように接点を持ち、何を考えて行動していたのか。戯曲を通して、その可能性と限界を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話したことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話したことをインターネットでチェックすること。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. ギリシャ悲劇の戯曲①オレスティア三部作
3. ギリシャ悲劇の戯曲②アンティゴネなど
4. シェイクスピアの戯曲①リア王
5. シェイクスピアの戯曲②テンペスト
6. フランス古典の戯曲①コルネイユ
7. フランス古典の戯曲②ラシーヌ
8. 近代戯曲①イブセン
9. 近代戯曲②チャーホフ
10. 現代戯曲①アメリカ

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。

参考書：同様に授業時に指示する。

### 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 戯曲講読演習A (古典)

授業形態 演習(理論)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

「オイディプス王」(ソポクレス作)と「ハムレット」(シェイクスピア作)を事前に読んでおくこと。

### 授業の概要

西洋の古典劇の理解に必要な基礎知識(歴史、文化、演劇の様式等)を習得しながら、ギリシャ古典劇の傑作「オイディプス王」とシェイクスピアの不朽の名作「ハムレット」を講読する。時代・文化の違いを超えて、現代人の心を揺さぶり続けるドラマの真髄を探っていきたい。ディスカッションを重ねながら授業を進めるので、受講生は各自指定されたテキストを購入の上、作品の内容をよく把握しておくこと。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、古典戯曲に関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、以下の3点をこの授業の到達目標にする。

- ギリシャ古典劇、エリザベス朝演劇の特徴を説明することができる。
- 各作品の特徴を説明することができる。
- 各作品が後世の演劇に与えた影響について説明することができる。

### 授業計画

1. ギリシャ劇について
2. 「オイディプス王」①プロロコス
3. 「オイディプス王」②第1エペインディオン、スタシモン
4. 「オイディプス王」③第2エペインディオン、スタシモン
5. 「オイディプス王」④第3エペインディオン、スタシモン
6. 「オイディプス王」⑤第4エペインディオン、スタシモン、エクダス
7. 発表
8. エリザベス朝演劇について

9. 「ハムレット」①第1幕
10. 「ハムレット」②第2幕
11. 「ハムレット」③第3幕
12. 「ハムレット」④第4幕
13. 「ハムレット」⑤第5幕
14. 発表
15. まとめ

### 授業時間外の学習

第3回までに「オイディプス王」、第9回までに「ハムレット」を読み、内容を把握しておくこと。授業内で作品の理解に必要な事項に関する発表を行うので履修者は準備に努めること。

### 教科書・参考書等

ソポクレス 河合祥一郎訳「オイディプス王」(光文社古典新訳文庫)  
松岡和子訳「ハムレット」シェイクスピア全集1(ちくま文庫)

### 成績評価

- 発表50% レポート試験50%
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な事項を十分に把握し、独自の視点から作品の説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、作品の説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、作品の説明ができる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、作品の説明があいまいになる)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、作品の説明ができない)

科目名 戯曲講読演習B (近現代)

授業形態 演習(理論)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

「かもめ」(チェーホフ作)と「ゴドーを待ちながら」(ベケット作)を事前に読んでおくこと。

### 授業の概要

近代劇・現代劇の理解に必要な基礎知識(歴史、文化、ドラマツルギー等)を習得しながら、近代リアリズムの傑作「かもめ」(チェーホフ)と不条理劇を代表する「ゴドーを待ちながら」を講読する。時代・文化の違いを超えて、観客の心をとらえる両作品の魅力を探っていきたい。チェーホフの「ボドテキスト」や「間」を駆使した作劇術は、近代の演技術の発展に大きく貢献した。一方、ベケットは、現実生活の再現を拒み、作品の思想を形式に表した。両者とも後世の演劇に多大な影響を与えている。ディスカッションを交えながら演習を進めるので、受講生は各自テキストを購入の上、作品の内容をよく把握しておくこと。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻カリキュラムマップに対応し、作品に関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、以下の3点をこの授業の到達目標にする。

- 各作品の歴史的背景を説明することができる。
- 各作品の特徴を説明することができる。
- 各作品が後世の演劇に与えた影響について説明することができる。

### 授業計画

1. アントン・チェーホフについて
2. チェーホフとモスクワ芸術座
3. 「かもめ」①第1幕
4. 「かもめ」②第2幕
5. 「かもめ」③第3幕
6. 「かもめ」④第4幕
7. 発表

8. サミュエル・ベケットについて
9. 「ゴドーを待ちながら」①第1幕前半
10. 「ゴドーを待ちながら」②第1幕後半
11. 「ゴドーを待ちながら」③第2幕前半
12. 「ゴドーを待ちながら」④第2幕後半
13. 「ゴドーを待ちながら」⑤第1幕と第2幕の比較
14. 発表
15. まとめ

### 授業時間外の学習

第3回までに「かもめ」、第9回までに「ゴドーを待ちながら」を読んでおくこと。授業内で作品の理解に必要な事項に関する発表を行うので履修者は準備に努めること。

### 教科書・参考書等

沼野充義訳「かもめ」(集英社)  
安藤信也・高橋康也訳「ゴドーを待ちながら」ベスト・オブ・ベケット1(白水社)

### 成績評価

- 発表50% レポート試験50%
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な事項を十分に把握し、独自の視点から作品の説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、作品の説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、作品の説明ができる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、作品の説明があいまいになる)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、作品の説明ができない)

科目名 劇作法

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 瀬戸山 美咲

実務経験

期間 後期

他専攻

—

### 履修条件

人間と社会に興味がある人。戯曲を書き上げる意志のある人。  
ディスカッションに積極的に参加できる人。

### 授業の概要

俳優・スタッフの道標となる、演劇の土台である戯曲を実際に書いてみる。

物語の骨格(ログライン)を考え、あらすじ(シノプシス)をまとめ、戯曲を執筆する。授業内でリーディングをおこない、互いに講評し、ブラッシュアップしていく。

### 授業の到達目標

- 30分程度の短編戯曲を書き上げる。
- 自分のやりたいことを言葉にして、人に伝えることができる。
- ほかの人が書いた戯曲について、分析して言葉にできる。

### 授業計画

1. 戯曲とは何か ログラインを考える
2. ログライン発表①登場人物について
3. ログライン発表②構成について
4. ログライン発表③シノプシスを考える
5. シノプシス発表①ディスカッション1回目
6. シノプシス発表②ディスカッション2回目
7. シノプシス発表③ディスカッション3回目

8. 第一稿発表①ディスカッション1回目
9. 第一稿発表②ディスカッション2回目
10. 第一稿発表③ディスカッション3回目
11. 第二稿発表①ディスカッション1回目
12. 第二稿発表②ディスカッション2回目
13. 第二稿発表③ディスカッション3回目
14. 第二稿発表④ディスカッション4回目
15. 戯曲提出・まとめ

### 授業時間外の学習

さまざまな演劇や映画を見て、構造を分析する。  
各自、リサーチ・取材をしてログライン、シノプシス、戯曲を執筆する。

### 教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で100点換算。

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 舞台照明実習①

授業形態 実習  
(Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 石島 奈津子

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

照明部以外の学生を対象とする

### 授業の概要

- 舞台照明の変遷
  - 舞台照明の基本的な設備と配置
  - 各種照明機材の説明
  - 仕込みから撤去まで、照明の基本的な作業内容
  - 照明デザインを表現者の関わり方
  - 舞台上で作業する上での安全確保
- 以上のことを、実際に小劇場の機構を使用して実習する

### 授業の到達目標

- 舞台の基本的な照明機構や機材を理解できる
- 舞台における照明の効果を理解して、それを表現手段の一つとして、利用することができる
- 舞台の設営作業の安全基準の現状を知ることによって、安全に対して意識を持ち怪我や事故などから身を守ることができる

### 授業計画

小劇場を実際の舞台に見立て、照明器材を通常よく使われている位置に簡易に設置して、実物を説明したり、スポットに実際に接してその効果を体感・理解してもらう。

### 授業時間外の学習

劇上演実習等の際、照明の存在を意識して、表現を深めるための効果を、照明を利用して得られる方法を検討してみる。

### 教科書・参考書等

なし

### 成績評価

1. 授業態度
  2. 課題への取り組み
  3. 表現者としての真摯な姿勢
  4. 自らを研鑽する意欲
  5. 課題の成果
- 以上を元に総合的に評価する
- S 1～5のうち全てを獲得した者
  - A 1～5のうち4つを獲得した者
  - B 1～5のうち3つを獲得した者
  - C 1～5のうち2つを獲得した者
  - D 1～5のうち1つしか獲得できなかった者

科目名 舞台照明実習②

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 兼子 慎平

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

実習が主になるので、稽古着・稽古履など動きやすい服装で受講すること。また(舞台)照明に興味がある事。舞台照明作業に一度でも触れている事が望ましい。

### 授業の概要

参加者全体で取り組む舞台照明の作業を通して、各々の協調性・自立性、またそのバランスのとり方を体で認識すること。そしてその認識を頭と体で昇華し、それぞれの段階で作業に『実践』してみる所までこの実習では求めることとする。作業の中で上記過程を繰り返すことにより、基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を学ぶことを目標とする。照明と演者の関係を考察してみる機会も提供する。

### 授業の到達目標

基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を身につけることができる。

### 授業計画

1. 照明の仕込み作業を学ぶ①(午前)
2. 演者と照明(スタッフワーク)の関わりについて(ディスカッションを含めた考察)
3. 照明の仕込み作業を学ぶ②(午後)
4. 特殊機材を扱う
5. 舞台照明(シーン)を作る
6. 質疑応答

### 授業時間外の学習

舞台照明に触れる機会があれば積極的に参加してほしい。また、『良い演技』あるいは『良いスタッフワーク』とは何か、機会があれば考察してほしい。

### 教科書・参考書等

教科書は特に無し。実習で使用する図面等は講義時に配布。また参考図書についても講義時にいくつか紹介する。

### 成績評価

- S 講義・作業に積極的にに関わり、協調性・自立性の両方が認められ、特にリーダーシップも発揮できる者
- A 講義・作業に積極的にに関わり、協調性・自立性の両方が認められた者
- B 講義・作業に積極的にに関わり、協調性・自立性どちらか一方でも認められた者
- C 積極性にはやや欠けるが、講義内容を努めて真面目に理解しようと認められた者
- D 積極性に欠け、講義内容も理解しようと認められなかった者

科目名 舞台音響実習①

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 こうじ

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

音響部以外の学生を対象とする。

### 授業の概要

舞台における俳優が知っておくことよい音響の知識を学ぶ。音響的なことではなく、俳優視点の授業である。授業の最後に、実習を行う。

### 授業の到達目標

- 音響の仕事、機器の扱いを理解することにより、スタッフの意図を汲み、よりクオリティの高い作品づくりを目指すことができる。
- 「伝える」ことの難しさを理解できる。

### 授業計画

1. 搬入、仕込み、サウンドチェックの見学
2. ライブハウスPA、舞台音響、ミュージカル音響の違い
3. スピーカーの向きの検証(モニターの必要性)
4. カラオケボックスでキーンとなるのは何故か(ハウリングの検証)
5. 有線マイク、ワイヤレスマイク(ハンドマイク、ピンマイク)の取り扱い

6. 実際に音を出して音響の仕事を紹介、その効果
7. サンプラーの紹介(刀の音、殴る、蹴るなどの音を動きと合わせる音響効果)
8. 実習(チームごとにわかれ、テキストを上演する)
9. 撤去

### 授業時間外の学習

実習で使用するプリントを事前配布するので、目を通し理解しておくこと。

### 教科書・参考書等

プリントを配布する。筆記用具、舞台で動けるようなシャツ、ズボン着用のこと。小劇場で作業をするために必要な上履き、運動靴着用のこと。

### 成績評価

- 授業への取組み50%、実習への取組みと態度50%を100点換算して評価する。
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 舞台音響実習②

授業形態 実習  
(Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 淳子

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

音響部の学生を対象とする。

6. 信号の流れに沿った結線をする。
7. 音が正常に出ない時の原因究明の方法。
8. 仕込図（配線図）を読むようにする。

### 授業の概要

基本的な音響機材の使用法、効果を知り、学内イベントや稽古でのセッティング、オペレートに役立てる。

### 授業時間外の学習

適宜指示する。

### 授業の到達目標

- 音響機材の信号の流れを理解し、基本的な結線がスピーディーに行うことができる。
- 簡単なトラブルシューティングができる。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

### 授業計画

1. 機材の用途、機能を知る。
2. ミキサー
3. エフェクター
4. 他、学生から前もって要望があれば応じる。
5. ケーブルの名称を再確認、統一する。

### 成績評価

実技試験70%、筆記試験30%で100点に換算。

- S 90点以上の者
- A 80点以上の者
- B 60点以上の者
- C 50点以上の者
- D 49点以下の者

科目名 舞台監督実習

授業形態 実習  
(Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 健介

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

- ② 稽古場を作る→進行する
- ③ 舞台の設営
- ④ 毎日の上演の安全管理
3. 舞台（稽古場）の安全管理
  - ① 作業中の安全管理
  - ② 舞台進行上の安全管理
4. 簡単な道具制作作業
5. 小劇場の舞台の設営、客席を作る
6. 小劇場の舞台のバラシ、客席のバラシ

### 授業の概要

演劇を構成する要素を理解する。俳優が集まるだけでは上演にこぎつけるのは難しい。

色々なセクションのスタッフが集まりチームを立ち上げることによって公演の初日を迎えることができ、上演の成果を得ることができる。限られた条件（稽古時間や講演予算、人手不足等）の中で最良の舞台を作るにはその作品に関わる俳優と全スタッフのチームワークが何よりも必要である。

舞台監督はチームワークを要であるので、その仕事の範囲を理解する。また演出の仕事との違いや制作の仕事も理解する。

### 授業時間外の学習

各部署、先輩からの引き継ぎをしっかりとる。

### 授業の到達目標

小劇場の舞台、客席を自分たちで設営できる能力を身につけることができる。

チームワークやタイムスケジュールの管理なども身につけることができる。

### 教科書・参考書等

必ず作業着を着用し、釘袋その他の作業道具を各自用意し、内履きシューズを使用。

### 授業計画

1. 演劇を構成する要素
2. 舞台監督の仕事の範囲（演出家との仕事の違い）
  - ① 舞台の総括責任者としての仕事

### 成績評価

集中講義の授業への取り組み30%、レポート70%で100点に換算

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 ヘアメイク実習

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 理絵

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

特になし

4. 役柄に合わせた顔づくり、デモンストレーション
5. 舞台メイクアップ実習 (応用)

### 授業の概要

- 舞台におけるメイクアップの基礎理論、基本技術を学ぶ。
- 主に演劇の上で必要となるステージメイクを劇場や照明、演出、役柄等に応じて理解し、舞台での効果的なメイクの基本を実践的に技術習得する。
- メイク講義、デモンストレーションの後、テーマに合わせた舞台メイクの実習を行う

### 授業時間外の学習

授業前の予習として、様々な舞台のメイクアップを意識して注目しておくこと。  
授業後は、授業中に理解した技術をより深める為に、反復練習すること。

### 授業の到達目標

舞台メイクアップの基本技術が習得できる。

### 教科書・参考書等

教材…ファンデーション、パウダー、スポンジ、パフ、アイライナーペンシル等。

その他用意するもの…鏡、ティッシュ、綿棒、タオル、基礎化粧品、その他お手持ちの化粧品。

### 授業計画

舞台メイクアップの基礎理論・基本実技

1. 舞台メイク基本概論
  - ステージメイクの種類、劇場、照明、演出とメイクの関連性。
  - 顔の骨格と筋肉、顔の修正方法、舞台メイクで使用する化粧品説明及び使用方法。
2. 男女別舞台メイク基礎デモンストレーション
3. 舞台メイクアップ実習 (基礎)

### 成績評価

①授業態度②講義内容への理解③メイク技術④向上心 以上の観点から総合的に評価する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 ワークショップ 1年次

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 扇田 拓也・宮河 愛一郎

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。  
ストレートプレイ系、ミュージカル系のどちらのワークショップを受講するか、希望をききとる面接あるいは調査を前期末頃、あるいは夏期休暇中に行うので、その日程を発表する掲示を見落とさないこと。面接あるいは調査で希望の意思表示のない学生は受講できない。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画はワークショップ開始時まで発表する。

### 授業の概要

ストレートプレイ系、ミュージカル系のワークショップを各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただく。  
授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに臨むこと。

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 授業の到達目標

演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現・声による表現に関する理解を体験的に深めることができる。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップ 2年次

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 井田 邦明・嶽本 あゆ美

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

### 授業の概要

ストレートプレイ系、ミュージカル系のワークショップを各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただく。

授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに臨むこと。

### 授業の到達目標

演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現・声による表現に関する理解を体験的に深めることができる。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画はワークショップ開始時までに発表する。

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 演劇研修 (八ヶ岳合宿)

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

### 授業の概要

演劇専攻の教育課程の基本は次の三つである。

- 1 戯曲が読めること。
  - 2 からだを鍛えること。
  - 3 集団行動が取れること。
- この授業では、特に3の「集団行動が取れること」が課題となる。個人だけではできない演劇創造の実践を短期間のうちに、しかも限られた状況の中での集中作業で修得する実演発表形式をとる。
- なお、この授業は三泊四日の合宿形式による集中講義でもある。場所は本学の施設八ヶ岳高原寮を使用する。

### 授業の到達目標

合宿研修の全過程を通じて、アンサンブルの重要性を学び、協調性をもって芝居を作ることができる。

### 授業計画

1. 授業ガイダンス
2. 第一日目 出発
3. 第一日目 課題の提示、課題作品を読み取り、理解する。
4. 第一日目 レクリエーション アンサンブルの前提となるコミュニケーション能力を発揮する。
5. 第一日目 課題稽古①課題作品の中からなにを表現の主題とするか、検討し、いったん台本としてまとめる。
6. 第二日目 沢登り アンサンブルの前提となる共同作業、共同の体験を積み、体験的に協力を意味を獲得する。
7. 第二日目 課題稽古②台本の再検討、部分的に立体化を試みる。
8. 第二日目 課題稽古③立体化したシーンを検討することによって、さらに台本の再検討に進む。
9. 第二日目 課題稽古④さらに台本をまとめ、完成させる。
10. 第三日目 課題稽古⑤台本をもとにして完全なる上演を作る。スタッフワークも検討する。
11. 第三日目 舞台稽古 実際の発表会場をつかってスタッフワークと合わせてリハーサルを行う。

12. 第三日目 発表(劇上演) 参加者相互で創作した作品を鑑賞しあう。
13. 第三日目 講評 教員から演技、構想、集団作業のすべての面についての講評を受け、自己分析をする。
14. 第三日目 反省会 お互いの苦労と共同作業の成果を確認し、アンサンブルの意義を再確認する。
15. 第四日目 清掃、帰京 創作の会場に感謝を込めて原状復帰し、創作の全プロセスを締めくくる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを確認し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書きとめ、その内容を復習するように努めること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次の時間帯のミーティングで発言できるように事前準備をすること。毎回合意された内容について作業を行い、着実に完成に向けて進めていくこと。稽古時間外のそうした思索が、発表する作品成果を左右するので、合宿生活を通して緊張感を維持すること。

### 教科書・参考書等

参考資料等：必要に応じて合宿時に配布。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(合宿の内容を十分に把握し、チームリーダーとして作品の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(合宿の内容を十分に把握し、演技、その他のスタッフワークで貢献ができる)
- B 総合点が60点以上の者(合宿の内容を十分に把握し、チームに貢献ができる)
- C 総合点が50点以上の者(合宿の内容を十分に把握しておらず、チームに貢献できていない)
- D 総合点が49点以下の者(合宿の内容を理解しておらず、チームに貢献できていない)

科目名 海外研修

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー・高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

良好な体調で海外での研修を受けることができる者。また、事前に複数回の説明会を課すが、必ず受講できる者。

### 授業の概要

海外の演劇教育機関でワークショップを受けて、俳優訓練などを勉強する。世界的なレベルで現在の自分のレベルを知り、足りないところを認識し、今後の発展の礎にする。また、それぞれの国の演劇を見たり、美術館、博物館をまわり、演劇はもちろん、異文化を理解する。また、海外のさまざまな演劇人と実際にふれあう機会があるので、臆することなく積極的に参加すること。昨今では、イタリアのテアトロ・アルセナーレ、オーストラリアの国立演劇学校であるNIDA、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのカルガリのルーズムーズシアターなどで研修している。今年度も欧米の国々での研究を予定している。意欲のあるものを歓迎する。

### 授業の到達目標

海外での演劇研修を通じて、国際的な知見をもって視野を広めることができる。また、さまざまな人とふれあうことにより、文化の多様性を知ることができる。そして、自分のいる国や民族、文化を翻って見つめ直すことができる。単なる旅行ではなく、あくまで研修としてさまざまなものを学ぶ機会としてこの授業はある。そのためには事前の学習として、下調べが必要である。またそのためのテキストなどは用意される。

### 授業計画

1. 準備説明会①
2. 準備説明会②
3. 説明会①
4. 説明会②
5. 事前学習会①

6. 事前学習会②
7. 結団式
8. ワークショップ①
9. ワークショップ②
10. ワークショップ③
11. ワークショップ④
12. ワークショップ⑤
13. ワークショップ⑥
14. 鑑賞会①
15. 鑑賞会②

### 授業時間外の学習

訪問する国の文化、環境、演劇などを必ず調べておくこと。それぞれの国の劇作家、演劇などを知り、ワークショップにスムーズに参加できるように準備しておくこと。また帰国後のレポートを書く際に、体験したことをふまえて、さらに調べること。

### 教科書・参考書等

訪問国の舞台に関する戯曲やさまざまな資料をそのつど配布するので、読んでおくこと。

### 成績評価

- ①研修の予備調べ、および事前説明会や学習会への取組み
- ②研修中の態度③帰国後のレポートをそれぞれ同じ割合（および33%ずつ）にて総合的に評価する。
- S 上記の1・2・3の総合点が90点以上のもの。
- A 上記の1・2・3の総合点が80点以上のもの。
- B 上記の1・2・3の総合点が60点以上のもの。
- C 上記の1・2・3の総合点が50点以上のもの。
- D 上記の1・2・3の総合点が49点以下のもの。

科目名 劇上演実習A(試演会)(ストレートプレイコース)

授業形態 実習 (上演)

対象 演劇専攻2年 (ストレートプレイコース)

単位数 4

キャップ制  
対象外

担当教員 担当教員

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

ー

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. パフォーマンスの稽古①
7. パフォーマンスの稽古②

8. パフォーマンスの稽古③
9. パフォーマンスの稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習A(試演会)(ミュージカルコース)	授業形態 実習(上演)	対象 演劇専攻2年 (ミュージカルコース)	単位数 4	キャップ制 対象外
担当教員 信太 美奈	実務経験 ー	期間 後期集中	他専攻 /	ー

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。  
卒業に必要な単位修得の見込みのある者のみ参加できる。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。  
授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。  
スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

- 実習のプロセスは作品・企画および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。
1. 本読み①
  2. 本読み②
  3. 本読み③
  4. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
  5. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
  6. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル①

7. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル②
8. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル③
9. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習B(卒業公演)(ストレートプレイコース)	授業形態 実習(上演)	対象 演劇専攻2年 (ストレートプレイコース)	単位数 4	キャップ制 対象外
担当教員 大塚 幸太	実務経験 ー	期間 後期集中	他専攻 /	ー

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。  
卒業に必要な単位修得の見込みのある者のみ参加できる。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。  
授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。  
この実習では、卒業後演劇活動に従事することを想定し、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。  
スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

- 実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。
1. 本読み①
  2. 本読み②
  3. 本読み③
  4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
  5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②

6. パフォーマンスの稽古①
7. パフォーマンスの稽古②
8. パフォーマンスの稽古③
9. パフォーマンスの稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習B(卒業公演)(ミュージカルコース)	授業形態 実習(上演)	対象 演劇専攻2年 (ミュージカルコース)	単位数 4	キャップ制 対象外
担当教員 大谷 賢治郎	実務経験 ○	期間 後期集中	他専攻 /	—

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。卒業に必要な単位修得の見込みのある者のみ参加できる。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品・企画および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル①

7. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル②
8. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル③
9. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習C/D(学外出演)	授業形態 実習(上演)	対象 演劇専攻1・2年	単位数 4	キャップ制 対象外
担当教員 三浦 剛	実務経験 —	期間 集中	他専攻 /	○

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

プロの公演、映画等への主役・準主役での出演。ただし、学内の劇上演実習での40日間の稽古時間と同等の学習の意義の認められる上演内容であり、同等の稽古環境であり、同等の学習成果が認められる場合にのみ単位認定は可能。スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任をもって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

学業を進めることが損なわれるような現場の日程、要求がされることがないか、事前に十分確認すること。学外出演する学生の単位認定や扱いを、他の学生とは例外扱いしたり、特別優遇するようなことはないで、重々どのような条件の参加になるのか事前に確認して臨むこと。

### 授業の到達目標

プロの公演、映画等に通用する実践力を養う。さまざまな現場のスタッフ、共演者、関係者との共同作業を通して、協調し、協力する態度を可能にする表現力や日常的な心構え、表現者としての高い意識を獲得する。座組の一員としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

一流の演出家・俳優等との仕事を通じ、プロとしての意識を養い、現場に通用する演技力を身につける。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③

4. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
  5. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
  6. 立ち稽古①
  7. 立ち稽古②
  8. 立ち稽古③
  9. 立ち稽古④
  10. 舞台の仮組み あるいは撮影セット内でのリハーサル
  11. 舞台稽古① あるいはリハーサル①
  12. 舞台稽古② あるいはリハーサル②
  13. 舞台稽古③ あるいはリハーサル③
  14. 本番 あるいは撮影
  15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する
- 作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習E／F（学内出演）

授業形態 実習  
(上演)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

○

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物（チラシ等）、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

学内の実習（他専攻の実習・演習を含む）への出演者としての参加。ただし出演依頼を授業担当教員から受けた場合に限る。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任もって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

さまざまな実習、演習に出演者として参加し、さまざまな関係者、出演者、スタッフと協調し、協力する態度を可能にする表現力を養う。本番の出演者としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

学内の実習（他専攻の実習・演習を含む）に出演者として参加し、協調し、協力するプロセスを通じて表現力を養う。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③

14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する  
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

専攻科音楽専攻

科目名 音楽理論[和声] V・VI

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2・2

担当教員 平井 正志

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

「和声Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の教程内容に習熟した上で、さらに高度な内容を求めていること。

### 授業の概要

音楽における旋律的要素―拍節、律動、非和声音とそれに伴う不協和音程が和声法によってどのように考慮されるべきかを詳察する。その上で、半音階的転調を伴う歌謡形式のソプラノ課題を実施し、実践的な和声法の能力を培う。

また、上記の内容がロマン派の小品にあってどのように現れているかを観察、分析し、さらに以上の教程を通じて修得された素養をもとに、最後に自作の旋律による簡単な歌謡形式の和声的小品を試作する。

### 授業の到達目標

非和声音を含むソプラノ和声課題の実施を通して、和声法を実践する技術の習熟をはかることができる。

実際の音楽作品総体における和声的側面を音楽的発想の一部として感得するための力を養うことができる。

### 授業計画

●内部変換：非和声音とリズム的变化を伴う和声課題の実施に先立ち、同一和音内での配置の変更の際の諸作法に通暁する。(※必要に応じて、初歩ソプラノ課題の補充課題を実施する。)

1. 同一和音で配置を変換する際の各種形態 和音交替と内部変換 間接連続進行
  2. 限定進行音の置換 許容される連続進行 出題第1回
  3. 実施課題確認第1回 拍点と拍点外 出題第2回
  4. 実施課題確認第2回
- 構成音の転位：
- ・非和声音を含む旋律の和声的狀態を把握する際の音響的条件とその変化の可能性(和音進行、終止形の形成)を解析するための素地を養う。
  - ・非和声音を含むソプラノ課題を実施し、旋律が規定する条件下で同時に旋律自体が内在的に含有する和声感を直覺的に把握する能力を開発する。
5. 非和声音とその解決進行 それを踏まえた和音設定法
  6. リズム相補の配慮 非和声音に対する他声部の和音配置法 出題第1回
  7. 実施課題確認第1回と出題第2回
  8. 実施課題確認第2回 反復進行について 出題第3回
  9. 実施課題確認第3回 偶成和音について 出題第4回
  10. 実施課題確認第4回
- 遠隔転調を含むソプラノ課題の実施
11. 調関係について概説 準関係調と副次関係調 転調前後における和音機能の転換 出題第1回と和音設定の演習
  12. 実施課題確認第1回 出題第2回出題と解説

13. 実施課題確認第2回 出題第3回出題と解説
14. 実施課題確認第3回
15. 最終課題の内容検討
- ロマン派のピアノ小品において、いかに上記の要件が実践されているかを詳密に分析する。
16. 楽式の概説 和声分析と転調の考察・第1回
17. 和声分析と転調の考察・第2回
- ここまで培った能力と素養を反映したロマン派的な和声様式による小品を試作する。
18. テーマ創作法実践：旋律構成法、和声法、伴奏法の相互関連を鑑みたテーマを発想する。
19. 自作テーマの内容検討
- 20～29. 自作曲の内容検討
- 作曲の進捗に合わせ、楽曲構成法、和声法、声部進行法、伴奏法、転調法の指導を順次構築。
30. 完成曲の最終内容確認。

### 授業時間外の学習

後期の授業内容に備えて、ロマン派の和声様式によって作曲された小品に親しむこと。

### 教科書・参考書等

教科書：課題を配布 及び参考曲のプリントを配布  
参考書：執筆責任 島岡 譲 『和声「理論と実習」第三巻』音楽之友社

### 成績評価

- 前期末、最終実施課題をレポートとして提出。  
単位認定の可否については、提出課題内容の優劣のみならず、課題実施を通じて総合音楽力を伸長できた度合いを重視して勘案しつつ、可否を決定する。
- S 90点～100点：前期の和声課題実施において独自の審美眼を反映でき、書法面の習熟度が高い。後期の自作曲において美的感覚と発想にすぐれ、独創性の認められるレベルに到達している。
- A 80点～89点：前期の和声課題において、原則に対する理解、和声法に対する洞察が確かである。後期の自作曲において、前期を通して身につけた和声的感覚を十分に発揮できている。
- B 60点～79点：上記の条件において、まだ追求の余地が残されていた。
- C 50点～59点：和声法に対する習熟度が足りず、自作品の内容に関する追求が十分でない。
- D 50点未満：和声法への理解が到らず、自作品を満足な状態で完成できない。

科目名 楽曲分析(古典派)

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

基礎的な和声、および楽式に関する知識を有するもの。後期を含めて通年履修が望ましい。

### 授業の概要

和声の歴史の変遷、及び楽式の変化・発展を考究する。  
古典派の音楽を中心に楽曲分析を行う。和声の発展、ソナタ形式の拡大・複雑化とその完成の過程をハイドンからベートーヴェンの楽曲分析を通して学習する。そしてベートーヴェン後期の作品にも触れて、その独自性を検討する。

### 授業の到達目標

古典派のそれぞれの楽曲の和声・楽曲形式を、音楽史の歴史的観点から鑑みつつ、その特徴と位置を観取できる。

### 授業計画

1. ソナタ形式の原型と発生史を検討。及び古典派初期の形態を知る。
2. ソナタ形式 名称
3. ソナタ形式 構造
4. ソナタ形式 簡単な楽曲①
5. ソナタ形式 簡単な楽曲②
6. 古典派中期のモーツァルト及びベートーヴェン初期の作品を検討①
7. 古典派中期のモーツァルト及びベートーヴェン初期の作品を検討②
8. ベートーヴェン中期の作品①

9. ベートーヴェン中期の作品②
10. ベートーヴェンと初期ロマン派①
11. ベートーヴェンと初期ロマン派②
12. ベートーヴェン後期①
13. ベートーヴェン後期②
14. 学生による作品分析の発表①
15. 学生による作品分析の発表②

### 授業時間外の学習

特にベートーヴェンの作品において、自分の楽器専攻以外の楽曲に親しむことが望まれる。

### 教科書・参考書等

毎回の授業開始時などに、プリント類の配布を行う。

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み 40%、学期末試験(発表) 60%の結果を総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末試験(発表)を行わなかった者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 楽曲分析（ロマン派以降）

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

古典派までの楽式、及び和声の知識を有すること。また後半では印象派の作品を取り扱うため、教会旋法の知識も必要となってくるので、あらかじめ学習しておくことが望まれる。

### 授業の概要

ロマン派初期の作品から、中期～後期にいたる変遷を具体的な楽曲を分析しながら学習し、さらにドビュッシー・ラヴェルといった印象派の作品、そして近・現代にいたる移り変わりを楽曲分析を通じて検討する。調性の複雑化と崩壊、楽曲創作における各作曲家の時代性を伴う意識の変化を追う、といった広い観点を含め考究したい。

### 授業の到達目標

特に、印象派以後の作品に親しみ、古典派・ロマン派の作品との関連性と差異性を具体的に知ることができる。

### 授業計画

1. 初期ロマン派のソナタ形式①形態
2. 初期ロマン派のソナタ形式②構造
3. 初期ロマン派のソナタ形式③楽曲分析
4. 初期ロマン派のソナタ形式④楽曲分析
5. 中期ロマン派のソナタ形式⑤形態
6. 中期ロマン派のソナタ形式⑥構造
7. 中期ロマン派のソナタ形式⑦楽曲分析
8. 中期ロマン派のソナタ形式⑧楽曲分析
9. 中期ロマン派①歌曲

10. 中期ロマン派②歌曲
11. 近代の作品①ドビュッシー 器楽
12. 近代の作品②ドビュッシー 歌曲
13. 近代の作品③ラヴェル
14. 学生による作品分析の発表①
15. 学生による作品分析の発表②

### 授業時間外の学習

自分の専攻楽器以外の作品、特にオーケストラ作品などに日頃から親しんでおくこと。

### 教科書・参考書等

毎回の授業開始時などに、プリント類の配布を行う。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、学期末試験（発表）60%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験（発表）を行わなかった者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 コード論Ⅱ

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2

担当教員 小林 真人

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

コード論Ⅰを履修していることが望ましい。

### 授業の概要

より多くのコードを覚え、ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏や作編曲をする際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。

譜面通りに演奏することだけでなく、コードを元にその場に応じて、どのように演奏（作編曲も含め）したらよいか、自分自身で柔軟に創出出来るようにする。

コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

### 授業の到達目標

コードを覚え、その構成音を把握し、自由に転回できる。メロディに対してコード付けできる。

コードの機能と連結を理解して、それを元にコードの発展、応用を出来るようにする。

それらをピアノなどで演奏、表現できる。

### 授業計画

1. 導入
2. コード論 基礎編①コードの仕組み／3和音と4和音
3. コード論 基礎編②ダイアトニックコード／TSDの機能
4. コード論 基礎編③ドミナントモーション／II<sup>m</sup>7-V7 / SD7
5. コード論 基礎編④同じ機能内の代理／V7とII<sup>b</sup>7

6. コード論 基礎編⑤TとSの代理コード
7. コードパターンとコード付け①循環コードと逆循環コード
8. コードパターンとコード付け②カノン進行
9. コード論 応用編①代理コードの活用とリハモナイズ
10. コード論 応用編②テンション
11. コード論 応用編③コードとリズムの関係
12. コード論 応用編④コードと旋律（旋法）の関係
13. コードパターンとコード付け③ブルース
14. コードパターンとコード付け④作編曲への活用
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業でやった事を復習しておく。  
コードに慣れる。

### 教科書・参考書等

特になし。随時プリントを渡す。

### 成績評価

(1) 授業態度50% (2) 課題発表への取り組み姿勢、レポート等での総合評価50%

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 S. H. M. V・VI

授業形態 演習(理論)

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 1・1

担当教員 塩崎・大家・加藤・三瀬・長谷川

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

S. H. M. I・II・III・IVの単位を修得し、更なる音楽能力の向上を望むもの。

### 授業の概要

今までに学んできたことを活かし、より一層高度な能力を身に付ける。音楽における実践的な技術-アンサンブル、初見視奏、和声付けなど-の様々なより柔軟な音楽能力を習得する。特にすでに学んできた楽典知識などを具体的な形で応用し、楽曲の理解を深めるための重要な手段としてのソルフェージュを学ぶ。

### 授業の到達目標

より高度で実践的な音楽能力を習得できる。総合的な能力を具体的な題材を用い、訓練する。

### 授業計画

通年の授業計画については漠然とした内容を記すが、各クラスで異なる。

- 変拍子を含む多様なリズムの学習
- ハ音記号などのクレ読みの実践
- 楽典的知識の応用
- 旋律の和声付け
- 対位法的楽曲の聞き取り

- 即興演奏
- 移調能力の促進
- 弾き歌い
- 読譜力の強化
- 暗譜力の促進
- 既存の楽曲の聴音
- 聴き取り
- 室内楽、及び管弦楽曲の読譜と聴音

### 授業時間外の学習

常に読譜力の向上をめざし、日頃から楽譜を読むことを習慣付ける。

### 教科書・参考書等

プリントの配布。

### 成績評価

学年末に実施する一斉テストで単位評価する。

S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽史研究

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 4

担当教員 大津 聡

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

条件は特にないが、授業内容への関心は必須である。また、これまで学んできた音楽史の知識を総括しつつ、広く音楽文化や音楽史の諸問題について考察する受講姿勢を期待する。

### 授業の概要

テーマは「オペラ史研究」。オペラの歴史について、その起源から両世界大戦間までを考察対象とする。本授業は、しかし、単にオペラ史の大まかな流れや、個々の作品の理解にとどまることなく、音楽史の基礎概念や各々の時代精神との関連からオペラを考察することを目的としている。時系列に従って進めるものの、便宜上の時代区分を設けていないのはそのためである。そういう意味で、オペラ史の再構成よりも、ジャンル史上の諸問題へのアプローチに重きを置いている。以下に、授業イメージを助けるため、各回で主に扱う予定の作曲者名、あるいは作品名等を付すが、進捗状況により変更される場合もある。また前期は講義、後期は演習形式とする。

### 授業の到達目標

- 以下3点を到達目標として掲げる。
1. 個々の作品の音楽史上の意味を説明することが出来る。
  2. 音楽史の基礎概念と作品内容との関連について説明することが出来る。
  3. 音楽史固有の問題を、現代にも適用する普遍的問題として理解することが出来る。

### 授業計画

- (前期) [講義]
1. 導入
  2. [序論]：オペラの誕生とモノディーの原理(モンテヴェルディ)
  3. オペラ改革とメタスタージョ型オペラ
  4. 18世紀のオペラ・セーリア：モーツァルト《イドメネオ》
  5. ナショナル・ジグシュピールの成立：モーツァルト《後宮からの誘拐》
  6. オペラ・ブッフアと共同体精神：モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》
  7. 受容史と作用史①モーツァルト《魔笛》
  8. 受容史と作用史②モーツァルト《魔笛》
  9. オペラ・セーリアの黄昏?：モーツァルト《皇帝ティートの慈悲》
  10. [付説]：テキスト批判と作品の真純正(《レクイエム》)
  11. オペラと成立史：ベートーヴェン《フィデリオ》
  12. 「ドイツ・ロマン主義オペラ」：ヴェーバー《魔弾の射手》

13. グランドオペラの成立と隆盛
14. 19世紀のオペラ・セーリア?：ドニゼッティ《アンナ・ボレーナ》
15. 前期の総括(後期) [演習]
1. 「回想動機」：ヴェルディ《ラ・トラヴィアータ》
2. 喜劇的オペラとフーガ：ヴェルディ《ファルスタッフ》
3. 「総合芸術作品」：ヴァーグナー《トリスタンとイゾルデ》
4. 出来事史とオペラ：ヴァーグナー《マイスタージンガー》
5. 「舞台神聖祝祭劇」：ヴァーグナー《バルジファル》
6. メルヘン・オペラ：フンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》
7. オペラ・コミック?：ビゼー《カルメン》
8. 聖書とオペラ：サン＝サーンス《サムソンとダリラ》
9. オペラと象徴主義：ドビュッシー《ペレアスとメリザンド》
10. 「ヴェリズモ」：マスカーニ《カヴァレリア・ルスティカーナ》
11. 異国趣味：プッチーニ《トゥランドット》
12. オペラにおける前衛：R. シュトラウスのオペラ創作1
13. 「擬古典」：R. シュトラウスのオペラ創作2
14. 新ウィーン楽派によるオペラ：ベルク《ヴォツェック》
15. 総括

### 授業時間外の学習

授業時間内に鑑賞出来るのは、大規模であるというオペラの属性から一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを使って積極的に作品に触れ、理解を深めてもらいたい。また、授業内容に関する小ペーパーを求めらるので、授業時間外に要約出来るよう準備する必要がある。

### 教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、参考文献表を配布する他、授業中に適宜紹介、指示する。

### 成績評価

学期中に提出を求めるもの、期末レポート試験等、発表内容(後期)による。総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、それ未満はD評価とする。尚、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。また、受講態度が両学期を通じて一定の水準に達していないと判断される場合、評価は無条件でC以下とする。

科目名 日本音楽史研究 A / B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 野川 美穂子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

日本音楽専修は必修。音楽のみでなく、日本文化全体に対する関心をもつことが基本。  
今年度と来年度では、授業の内容が異なる。

### 授業の概要

日本音楽には様々な種目があり、使われる楽器、音楽的特徴などに違いがある。また、その多くは舞踊や演劇と結びついている。この授業では、江戸時代より前に成立した種目を中心に、その歴史と音楽的な魅力を紹介する。また、音楽以外の分野とどのように結びついてきたのか、社会や文化の中でどのように伝えられてきたのかを考える。毎回、視聴覚教材を活用しながら、授業を進める。

### 授業の到達目標

日本音楽の歴史と特徴を多面的に理解する。

### 授業計画

(前期)

1. 日本音楽史の特徴、日本音楽を知るための資料
2. 正倉院の楽器
3. 雅楽の歴史と特徴
4. 雅楽の代表曲を楽しむ①番舞
5. 雅楽の代表曲を楽しむ②装束、面
6. 雅楽の代表曲を楽しむ③国歌歌舞
7. 雅楽の伝承方法
8. 雅楽の現在
9. 雅楽から生まれた新しい日本音楽
10. 声明の歴史と特徴一宗派による違い①真言宗、天台宗
11. 声明の歴史と特徴一宗派による違い②華厳宗
12. 声明の歴史と特徴一宗派による違い③曹洞宗
13. 声明の歴史と特徴一宗派による違い④黄檗宗、浄土宗、浄

土真宗

14. 声明の現在
15. 雅楽と声明のまとめ(後期)
16. 琵琶楽の歴史と特徴一代表曲を楽しむ①平家
17. 琵琶楽の歴史と特徴一代表曲を楽しむ②盲僧琵琶
18. 琵琶楽の歴史と特徴一代表曲を楽しむ③薩摩琵琶、筑前琵琶
19. 琵琶楽の伝承と発展
20. 能楽の魅力
21. 能楽の歴史
22. 能楽の音楽的特徴
23. 能楽の代表曲を楽しむ①夢幻能と現在能
24. 能楽の代表曲を楽しむ②狂言
25. 能楽が後世の音楽に与えた影響①《道成寺》とその影響
26. 能楽が後世の音楽に与えた影響②《黒塚》とその影響
27. 能楽が後世の音楽に与えた影響③《紅葉狩》とその影響
28. 能楽の伝承方法
29. 能楽の現在
30. 琵琶楽と能楽のまとめ

### 授業時間外の学習

授業でとりあげた種目や作品の特徴を整理し、より深く調べること。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布する。参考書については、その都度指示する。

### 成績評価

前期末と後期末に筆記試験を行う。授業への取り組み50%、前期末・後期末の筆記試験の成績50%の配分で評価する。S (90～100)、A (80～89)、B (60～79)、C (50～59)、D (50未満)。

科目名 音楽療法概説 A / B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 ○

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

本講義では、音楽の様々な働きがどのように治療や援助に生かされるのかを理解し、さらに音楽が人間や社会に働きかける可能性を探っていく。

音楽という芸術を治療という科学の領域に入れること自体に難しさはあるが、この領域は20世紀に入り大きく発展してきた。音楽・患者(対象者)・治療者の三者から構築される治療技法の音楽療法は、医療、福祉、教育、保健領域で生かされ、また新しい学問としても現代社会において注目を浴びている。

前期では理論を中心に基本的概念を学ぶ。

後期では音楽療法に必要な治療技法について学ぶ。

現場実習としては、音楽療法視点の訪問コンサートへの参加を必修とする。

### 授業の到達目標

音楽療法の定義を理解し、音楽の治療的機能を把握できる。基本的なプログラム作成ができる。

### 授業計画

[前期]

1. オリエンテーション、現場実習について
2. 音楽療法概略
3. 音楽療法の対象と目標①高齢者
4. 音楽療法の対象と目標②成人
5. 音楽療法の対象と目標③児童
6. 音や音楽の使い方①既成曲
7. 音や音楽の使い方②即興
8. 実習リハーサル・練習
9. 実習リハーサル・ディスカッション
10. 実習①児童
11. 実習②高齢者
12. フィードバック
13. 音楽療法と楽曲①日本の曲
14. 音楽療法と楽曲②クラシック、ポピュラー

15. まとめ

[後期]

1. 後期実習について
2. 音楽療法事例①成人
3. 音楽療法事例②児童
4. 基本的プログラム作成①集団
5. 基本的プログラム作成②個人
6. 表現活動と音楽療法①視覚と聴覚
7. 表現活動と音楽療法②多感覚活動
8. 実習リハーサル
9. 実習①児童
10. 実習②高齢者
11. フィードバック
12. 他領域の臨床活動
13. 海外の音楽療法①ヨーロッパ
14. 海外の音楽療法②アメリカ
15. まとめ

### 授業時間外の学習

理論と実習を行なうので、2つの柱が結びつくように授業の復習に努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
松井紀和、鈴木千恵子他著「音楽療法の実際」(牧野出版)  
以上、2冊教科書。  
参考書 鈴木千恵子 編著「松井紀和のスーパービジョン」(音楽之友社)

### 成績評価

(1) 授業の取組みと態度50% (2) 期末試験50%

- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 音楽療法演習A/B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

「音楽療法概説」を履修していること。

### 授業の概要

この授業は音楽療法の実習を中心とし、実践に関する技術等も学ぶ。

実習現場は高齢者を予定しているが、可能であれば他領域も行ってみたいと考えている。

この授業での実習は、一般社会で行われている少数対象の音楽療法セッションをイメージし、対象者とコミュニケーションを図りながら様々な音楽活動のアプローチを学んでいく。

### 授業の到達目標

音楽療法の実践に必要な臨床的音楽技術を身につけることができる。

基本的なプログラム作成ができる。

### 授業計画

[前期]

1. 導入
2. 音楽療法活動と技術①活動紹介
3. 音楽療法活動と技術②伴奏
4. 模擬セッション①扱曲
5. 模擬セッション②プログラム作成
6. 実習準備①受講生同士で実践
7. 実習準備②グループごとに発表
8. 実習
9. フィードバック
10. 様々な感覚活動①身体
11. 様々な感覚活動②楽器
12. 様々な感覚活動③歌唱
13. まとめ①
14. まとめ②
15. まとめ③

[後期]

1. 臨床現場についての理解
2. セッションの計画と準備①プログラム作成
3. セッションの計画と準備②プログラム発表
4. リハーサル①受講生同士で実践
5. リハーサル②ディスカッション
6. リハーサル③グループごとに発表
7. 実習①高齢者
8. 実習②
9. フィードバック
10. 音楽療法合奏演習①歌唱
11. 音楽療法合奏演習②楽器
12. 音楽療法合奏演習③身体
13. まとめ①
14. まとめ②
15. まとめ③

### 授業時間外の学習

音楽療法の実習に関しては、プログラム作成が最も大切である。選曲等は深く調べ、練習もしっかり行うよう努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
 松井紀和、鈴木千恵子他著「音楽療法の実際」(牧野出版)  
 以上、2冊教科書。  
 参考書 鈴木千恵子 編著「松井紀和のスーパービジョン」(音楽之友社)

### 成績評価

(1) 授業の取組みと態度50% (2) 期末試験50%

- S 総合点90点以上  
 A 総合点80点以上  
 B 総合点60点以上  
 C 総合点50点以上  
 D 総合点49点以下

科目名 演奏現場論A/B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 合田 香

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

この20年大小の音楽専門ホールが続々とオープンし、都内では乱立気味。一方、オーケストラの世界ではホールとのフランチャイズ提携が増えてきて、本番と同じ場所で練習ができるオーケストラが増えてきている。これは、とりも直さず、日本の音楽界において「響き」(音響)の意識が向上して、それに呼応して周りの環境も整ってきたものであろう。

演奏者も、教育者も、聴衆も、音楽をプロデュースする立場の者も、そして当ホール関係者もホールでの音響、楽器同士の関係等に鈍感ではいられない。

演奏者は(声楽を含んで)自分の楽器の特性、別の楽器の特性をよく理解し、違ったホールにおいても即座に色々な状況を感じ取って対応していかなければならない。プロデュースする者やスタッフも演目に合ったホールの選択が当然の時代になってきている。

この授業では個別の楽器の音響的個性の理解に始まり、ホールの響きとの関係、問題点の解消方法を学ぶ。

また一方、「演奏」という進路の他に「音楽業界」を視野に入れたい人にはこの授業内で行う、色々なケーススタディーや会場(現場)での体験の機会が自分の進路選択に役立つと思う。

### 授業の到達目標

- ・実技やアンサンブルの学習の段階において、また実際の演奏現場等で活用することのできる「響きや配置の「考え方」」を習得できる。
- ・クラシック音楽業界の理解と体験。

### 授業計画

受講学生の専攻や将来展望によって、系統1、系統2を織り交ぜながら授業を構成する。

系統1 楽器の特性、配置や楽器とホールなどの音環境についての考察

1. 個別の楽器の特性、音の指向性、伝搬特性①ピアノ

2. 個別の楽器の特性、音の指向性、伝搬特性②その他の楽器、受講者の専門楽器を中心に
3. 楽器間の音の影響、特性と範囲①ピアノと他の楽器
4. 楽器間の音の影響、特性と範囲②3人以上の奏者の場合
5. 響きや音の干渉の判断とアドヴァイスの仕方、タイミング
6. 楽曲演奏の中での具体的な検証①受講者の専門楽器による、Duo
7. 楽曲演奏の中での具体的な検証②Trio
8. 楽曲演奏の中での具体的な検証③さまざまな編成
9. ステージ上の位置による差異、客席の場所による差異について
10. ホールや会場の音特性と対処方法について

系統2 コンサートビジネス、演奏会の運営について

11. コンサート業界について、働く人々とその業種
12. コンサートの運用に必要な考え方、知識
13. 自分たちでコンサートを作るときの考え方
14. コンサートの企画立案(目的や条件の整理)
15. まとめと学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

この授業で理解した内容を、アンサンブル、オーケストラ、実技レッスン、他の授業などで試してみて、その経験をまた授業にフィードバックできることが望ましい。

### 教科書・参考書等

なし

### 成績評価

受講態度80%、期末レポート20%にて評価する。

- S 総合点90点以上  
 A 総合点80点以上  
 B 総合点60点以上  
 C 総合点50点以上  
 D 総合点49点以下

科目名 アウトリーチ研究 A / B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻 1・2年

単位数 4

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 通年

他専攻

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

アウトリーチとは、英語で手を伸ばすことを意味する言葉である。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービスなどの意味で対応される。

本講義では主に、小学校、学童、福祉施設等での現場実習を通して芸術分野のアウトリーチが具体的にどのような社会貢献ができるか、またその社会的ニーズを模索していく。

また、福祉施設、学校などを一年間通して定期的に訪問してアウトリーチによって利用者がどのように変わって行くか考察していく。

2. 福祉施設アウトリーチ企画作り①
3. 福祉施設アウトリーチ企画作り②
4. 福祉施設アウトリーチ企画作り③
5. 福祉施設プログラム制作①
6. 福祉施設アウトリーチ模擬発表
7. 福祉施設アウトリーチ実習①
8. 福祉施設アウトリーチ実習②
9. 福祉施設アウトリーチ実習③
10. 福祉施設アウトリーチ実習④
11. 福祉施設アウトリーチ実習⑤
12. 公共ホールにおけるアウトリーチ活動についての考察
13. 公共ホールにおけるアウトリーチ活動について
14. フィードバック
15. 総括

### 授業の到達目標

学校、福祉施設などそれぞれに適したアウトリーチコンサートの企画作りとのワークショップを企画し芸術アウトリーチの社会的意義を確認できる。

### 授業計画

前期

1. 導入
2. ワークショップについて
3. ワークショップ企画作り①小学校
4. ワークショップ企画作り②福祉施設
5. ワークショップ発表①小学校①
6. ワークショップ発表②小学校②
7. ワークショップ発表③福祉施設①
8. ワークショップ発表④福祉施設②
9. 学校訪問アウトリーチについてプログラム制作①
10. 学校訪問アウトリーチについてプログラム制作②
11. 学校訪問アウトリーチ 模擬発表
12. 学校訪問アウトリーチ発表(実習) ①
13. 学校訪問アウトリーチ発表(実習) ②
14. 学校訪問アウトリーチ発表(実習) ③
15. まとめ

後期

1. 導入

### 授業時間外の学習

演奏、ワークショップ発表に向けて個々、またはグループで練習をしっかりとすること。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・実習50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、実習不参加の者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 第一実技Ⅲ・Ⅳ/副科実技Ⅲ・Ⅳ/第二実技Ⅲ・Ⅳ

授業形態 実技

対象 専攻科音楽専攻 1・2年

単位数 6/2/4

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 X/O/O

### 履修条件

第一実技は全学生の専門実技として必修科目である。別途徴収になるが、副科実技・第二実技として専門実技以外の実技を履修することができる。

### 授業の概要

全ての授業の中で一番、関心・意欲を持って取り組むべき授業であり、演奏技術、表現力を身につけることを目的とする。第一実技は、全学生が各自の専修実技の担当講師のもとで、週1回、60分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンになるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていく。試験は前期、後期と2回行い、また、後期には学内演奏会に出演する。尚、2年次後期の成績優秀者は修了演奏会に出演することができる。

第二実技は、週1回、40分のレッスンを受けることができ、前期、後期に試験を行う。副科実技は、レッスン時間が20分となる。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び課題の検討
- 2～21. 与えられた課題のレッスンを数回受け、まとめあげ、次の課題へと進んで行くという形を繰り返して行く。
22. 試験曲の検討
23. 試験曲の決定
- 24～28. 試験曲のレッスン
- 29～30. 試験曲のまとめ。伴奏合わせ等

個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

### 授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。

### 教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

### 授業の到達目標

担当講師との一対一の授業となるため、到達目標は各自異なる。副科実技としてのテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標である。

### 成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者
- A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者
- B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が65点以上の者
- C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者
- D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 ピアノデュオ研究 A / B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 東井 美佳

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

専1ピアノ専修必修。他専修の学生も履修可能。

### 授業の概要

自由に組んだペアで曲を準備し、毎回の授業で数組が演奏し、レッスン形式で進めていく。  
履修者全員で楽譜を共有し、積極的に意見を出し合いながら、アンサンブルの一員としてパートナーと協力して仕上げていくことを実践的に学ぶ。

### 授業の到達目標

自分の出している音、相手の音もよく聴きながら、呼吸を合わせて演奏できる。その上でお互いの音をよく鳴らし合わせ、曲の構成もしっかり理解しながら仕上げることができる。

### 授業計画

1. 導入・選曲及び組み合わせ決定
2. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ①
3. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ②
4. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ③
5. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ④
6. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ⑤
7. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ⑥
8. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備①
9. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備②
10. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備③
11. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備④
12. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑤
13. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑥
14. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑦
15. 前期成果発表・前期の反省、後期自由課題の選択への準備

16. 自由選択曲による研究、発表①
17. 自由選択曲による研究、発表②
18. 自由選択曲による研究、発表③
19. 自由選択曲による研究、発表④
20. 自由選択曲による研究、発表⑤
21. 自由選択曲による研究、発表⑥
22. 自由選択曲による研究、発表⑦
23. 自由選択曲による研究、発表⑧
24. 自由選択曲による研究、発表⑨
25. 自由選択曲による研究、発表⑩
26. 自由選択曲による研究、発表⑪
27. 自由選択曲による研究、発表⑫
28. 自由選択曲による研究、発表⑬
29. 自由選択曲による研究、発表
30. 授業の総括、成果発表

### 授業時間外の学習

事前の予習、授業後の復習において、自らの練習はもちろん、パートナーとの合わせを充分にしておくこと。  
それぞれの曲の作曲家や時代背景についても充分に調べておくこと。

### 教科書・参考書等

その都度指示、配布。必要に応じて各自準備する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、演奏能力、受講態度などに問題がある者)。

科目名 管楽アンサンブル研究 A / B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 津川 美佐子

実務経験 ○

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

管楽器専修 (Tr、Tb、Tub、Sx 専修以外) 必修。

### 授業の概要

木管五重奏を中心としたアンサンブル、又、ピアノ・弦楽器も入ったアンサンブルも学習していく。色々な楽器の音色、特性を学んでもらう。  
そして、基本的な楽譜の読み方、フレージング、アーティキュレーションなど約束事を学び、アンサンブルの基礎を身につける。

### 授業の到達目標

他の楽器の特性を理解する。自分のパートはもとより、他のパートの音楽を受けとめ、対話していけるようにしていく。それぞれのアンサンブルのメンバーが話し合い、皆で音楽を作ることができる。

### 授業計画

- [前期]
1. 授業内容説明と曲目の選択  
2回目以降、ハイドン、モーツァルトなどを中心に演奏実習。又、やさしい編曲のものを含む。
  2. 演奏実習1ー①
  3. 演奏実習1ー②
  4. 演奏実習1ー③
  5. 演奏実習1ー④
  6. 演奏実習1ー⑤  
7回目以降、A.ライヒャ、F.ダンツィを中心とした曲の実習、ただし学生の状況によりハイドン、モーツァルトも含む。
  7. 演奏実習2ー①
  8. 演奏実習2ー②
  9. 演奏実習2ー③
  10. 演奏実習2ー④
  11. 演奏実習2ー⑤
  12. 演奏実習2ー⑥
  13. 演奏実習2ー⑦
  14. 演奏実習2ー⑧
  15. 前期の曲の通し演奏及び、宿題の説明
- [後期]

16. 曲目選択  
17回目以降、ドイツ、フランス近代、アメリカの作曲家の木管五重奏の実習
17. 演奏実習①
18. 演奏実習②
19. 演奏実習③
20. 演奏実習④
21. 演奏実習⑤
22. 演奏実習⑥
23. 演奏実習⑦
24. 演奏実習⑧
25. 演奏実習⑨
26. 演奏実習⑩
27. 演奏実習⑪
28. 演奏実習⑫
29. 演奏実習⑬
30. 実技試験(コンサート形式)  
※学年の幅が広いので、それぞれの経験(アンサンブル)によって曲目を考え、又、学生の希望もとり入れていく。

### 授業時間外の学習

演奏実習なので、自分のパートはもとより、アンサンブルの仲間と事前に分奏しておくことが望ましい。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

授業への取組む姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験、課題50%

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 室内楽研究A / Ca

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 荻野 千里・野口 千代光

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

積極的にアンサンブルに参加する意欲のある学生、また他のグループの演奏に興味を持って聴ける学生。

### 授業の概要

ピアノ三重奏曲・ピアノ四重奏曲、ピアノ五重奏曲を中心に取り上げ、弦楽器とピアノ、各々の楽器の特徴や奏法等も学びながらアンサンブル能力の向上を目指す。

授業はマスタークラス形式で進める。事前に曲目を発表するので、演奏する学生は勿論、聴講する学生も各自楽譜を準備し、アンサンブルを作り上げるプロセスに立ち会って、楽曲への理解を深め、その作品の意図を実現するために必要な技術やアンサンブルの心構えを学んでいく。

### 授業の到達目標

様々な時代及び編成の室内楽作品を知り、それぞれの楽曲の様式観とアンサンブル技術を習得する。日頃はひとりで練習することが多いが、パートナーと意見交換をし、様々な場面で適切な判断をもって柔軟な対応・表現ができるようにする。

### 授業計画

1. オリエンテーション、学習曲目の検討
2. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等①
3. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等②
4. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等③
5. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等④
6. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等①
7. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等②
8. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メン

デルスゾーン・ブラームス・シューマン等③

9. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む) ①
10. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む) ②
11. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む) ③
12. 声楽を含む室内楽①
13. 声楽を含む室内楽②
14. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて①
15. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて②

### 授業時間外の学習

授業に向けて各自十分に練習し、必ず複数回の合わせをしておくこと。

また、お互いの楽器の特徴なども調べておくこと。日頃から多くの室内楽作品のCD等を聴いて、知識を増やしておくように。

### 教科書・参考書等

シューマン、ドヴォルザーク、ショスタコーヴィチ、ブラームスのピアノ五重奏曲、ベートーヴェン、メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲。モーツァルトのピアノ四重奏曲等。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究A / Cb

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 北本 秀樹

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

弦楽器専修を中心とするが他の専修の履修も可。室内楽に興味と意欲のある学生。

### 授業の概要

あなたが今演奏してみたい室内楽。将来演奏してみたい室内楽を授業で行っていく。

### 授業の到達目標

- ・作曲家の意図を読み取ること、それを演奏能力の向上につなげることができる。
- ・アンサンブル能力の向上。

### 授業計画

1. 導入
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩
12. アンサンブル実習⑪
13. アンサンブル実習⑫

14. アンサンブル実習⑬

15. 発表演奏

2回目以降は室内楽を学生同士で演奏する。必要な楽器のメンバーがいない時は、演奏要員の方をお願いします。

### 授業時間外の学習

各自十分な練習を行う事。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究B / D a

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 阪本 奈津子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

### 授業の到達目標

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

### 授業計画

1. 導入及び曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品 モーツァルト①ピアノと弦楽器 二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレー징の注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性一弦楽四重奏曲
6. 音程について 純正律と平均律 ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い 弦楽器の室内楽作品

12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品
13. ドヴォルザーク① 国民楽派 関連する作曲家について 弦楽器の室内楽作品
14. ドヴォルザーク② ピアノを含む室内楽作品
15. まとめと確認

### 授業時間外の学習

課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究B / D b

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 蓼沼 恵美子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の履修も可。

### 授業の概要

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。

アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性をふまえた上での音色作りや響きのバランス、呼吸感等、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な奏法を実践で学ぶ。

異なる楽器の響きの融合を体験したり、楽曲に対するそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げ、作曲家の意図をふまえた、より幅広い表現を目指していきたい。演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

### 授業の到達目標

アンサンブルにおける奏法を修得し、相手の音をよく聴きながら、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。

### 授業計画

1. ガイダンス及び曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. アンサンブル実習①
4. アンサンブル実習②
5. アンサンブル実習③
6. アンサンブル実習④
7. アンサンブル実習⑤
8. 楽曲のまとめ。発表演奏の曲を決定
9. パート練習(レッスン) ①

10. パート練習(レッスン) ②
11. パート練習(レッスン) ③
12. パート練習(レッスン) ④
13. パート練習(レッスン) ⑤
14. パート練習(レッスン) ⑥
15. 発表演奏

※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。

### 授業時間外の学習

自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。

事前にCDを聴いたり、スコアを見るなど、他のパートにも目を向けておくこと。

### 教科書・参考書等

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究B / D c

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 白尾 隆

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

フルート専修の学生を対象とする。

### 授業の概要

フルートによる二重奏～七重奏(他の楽器を含まない)の重要なレパートリーの習得。

### 授業の到達目標

仲間と協調しながら自己をよく主張し音楽を表現するという、アンサンブル力の基本的な強化を目指すことができる。

### 授業計画

1. アンサンブル実習①
2. アンサンブル実習②
3. アンサンブル実習③
4. アンサンブル実習④
5. アンサンブル実習⑤
6. アンサンブル実習⑥
7. アンサンブル実習⑦
8. アンサンブル実習⑧
9. アンサンブル実習⑨
10. アンサンブル実習⑩
11. アンサンブル実習⑪
12. アンサンブル実習⑫

13. アンサンブル実習⑬

14. アンサンブル実習⑭

15. 発表演奏

課題曲の編成により、数グループに分け、状況を見ながら、期間内に、できるだけ多くのレパートリーを勉強する。

クーラウ、クンマー等の古典から、ロレンツォ、デュボワ、ボザ等の近代作品を習得する。

### 授業時間外の学習

個人レッスン同様、可能な限り仲間と練習し、授業までによく準備し、また復習すること。

### 教科書・参考書等

楽譜をその都度貸し出すので、各自コピーすること。

### 成績評価

授業への取り組み方を重視し、学期末発表演奏の結果等も見ながら、総合的に判断する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者

科目名 室内楽研究B / D d

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 菊池 奏絵

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

ただ楽譜を演奏するという作業や自分の専修の事のみを目的とせず、様々な角度から視野を広げたい者に履修して欲しい。

### 授業の概要

本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、ひとつの曲を仕上げる時に必要となる要素を明らかにして行く。それぞれの時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現代の実践の現場から見えて来る様々な方面からのアプローチを知り、実際のアンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えて行く可能性あり。各授業の初めに講義をし、後半はアンサンブル実践をして行く。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

### 授業の到達目標

ひとつの曲を仕上げる時に、どのように演奏するべきか自分で考え、様々な情報の中から選択する能力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. バロック時代の音楽について
2. 楽譜について
3. 通奏低音について①数字の読み方
4. 通奏低音について②和声付け

5. アンサンブル組み

6. フルートの変遷

7. バロック時代周辺の楽器について

8. バロック時代周辺の音楽について

9. 舞曲、組曲について

10. 演奏習慣について

11. 当時の文献を読む

12. 音楽修辭学について

13. 装飾について

14. アンサンブル仕上げ

15. 発表

### 授業時間外の学習

アンサンブル曲の情報収集を自分なりにやってくる事。

個人練習、グループでの練習を充分にする事。

### 教科書・参考書等

プリントを配布。授業内で参考書を紹介。

### 成績評価

成績評価については、受講態度50%、課題に対する成果50%にて評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者

科目名 歌曲研究A/B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 松井 康司・東井 美佳

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

詩人の思いが言葉を通して詩となり、さらに作曲家がその詩に共感して音にする。そしてその詩と音楽を演奏家が感じ、表現して、聴衆の心に訴える。歌曲が聴衆の耳に届くまでにはこれだけ様々な人の心を通っていくのである。歌曲の奥深さはここにある。

この授業ではドイツ歌曲・日本歌曲を題材に、歌曲をどのように解釈し、演奏したら良いかを研究する。楽譜に込められた詩人や作曲家の思いを正しく受け止め自分自身の表現に結びつけること、またアンサンブルをする上で大切なこと等、受講者自身による演奏を通じて実践的に研究を進めて技能、表現を高めていく。また歌とピアノの組み合わせにとどまらず、本学の専修を生かし他の弦・管楽器、あるいは和楽器とのコラボレーションも随時取り上げる。

### 授業の到達目標

- 歌曲の歴史と変遷を学び、その時代の芸術・音楽文化と関連付けてより楽曲についての理解を深めることができる。
- 歌曲の解釈、分析を深め楽曲に込められた詩人、作曲家の思いを正しく理解し、自身の表現に結びつけることができる。

### 授業計画

履修者の専修楽器が決まらなると取り上げる曲を決めることはできない。

曲を決定してからの授業の流れは下記の通りである。

(前期)

1. 導入 日本歌曲について
2. 日本歌曲の歴史と変遷①
3. 日本歌曲の歴史と変遷②
4. 日本歌曲課題曲検討
- 5～10. 日本歌曲の分析及び実習
- 11～14. 課題曲発表
15. まとめ

(後期)

1. 導入 ドイツ歌曲について
2. ドイツ歌曲の歴史と変遷①
3. ドイツ歌曲の歴史と変遷②
4. ドイツ歌曲課題曲検討
- 5～10. ドイツ歌曲の分析及び実習
- 11～14. 課題曲発表
15. まとめ

### 授業時間外の学習

翌週取り上げる曲を必ず各自譜読みをし、曲の内容を理解してから授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

ヴィオラ「ドイツ・リート」の歴史と美学(音楽之友社)  
フィッシャー・ディースカウ「シューベルトの歌曲をたどって」(白水社)  
塚田佳男選曲・構成「日本歌曲百選 詩の分析と解釈」(音楽之友社)

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的であった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが良好であった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが不十分であった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、歌唱能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 オペラ実習A/B [演奏]

授業形態 実習(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2(演習併せて4)

担当教員 西岡 慎介

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

### 履修条件

声楽を履修していることを条件とする。コレパティトーアの養成としてピアノ専修の学生を若干名受け入れる。その他の専修、他専攻の希望者は要相談。

### 授業の概要

オペラの舞台は、舞台上で演奏する人以外にも多くの人が関わり創り上げられていく。そこでは一人一人の責任感、協調性が必要であり、それは歌い演じることと同じ位に大切なことである。

この授業では、オペラの上演がどのようにして創り上げられていくのかを実体験を通して学んでいく。全授業に出席する意志をもって履修して頂きたい。欠席が多い場合は、途中で失格とすることもある。

### 授業の到達目標

身体表現を伴う歌唱表現を身につけることができる。古典芸能としてのオペラの舞台における基本的な所作を身につけることができる。

### 授業計画

前期は「演奏」と「演技」をそれぞれ分けて授業を行う。

「演奏」の授業においては、レチタティーヴォの基本とアンサンブルを音楽的アプローチを通して学んでいく。また音楽作品の成立した時代背景や歌唱の作法も併せて学ぶ。

90分の授業でおおむね3組(30分×3組)のレッスンをを行う。他の学生のレッスンからも積極的に学んでいく姿勢を持つことが大切である。

最終授業時に、前期試験として簡易な演技をつけたアンサンブルの発表会を行う。

3組(30分×3組)のレッスンをを行う中で、以下の事を学んでいく。なお、順序及び内容は履修者数や能力によって、変更する可能性がある。

1. オリエンテーション・演目決め
2. 音楽・アンサンブル稽古①レチタティーヴォの言葉のさばき・作法を含めて学ぶ
3. 音楽・アンサンブル稽古②レチタティーヴォの言葉のさばき・作法を含めて学ぶ

4. 音楽・アンサンブル稽古③レチタティーヴォの言葉のさばき・作法を含めて学ぶ
5. 音楽・アンサンブル稽古④作品解釈・舞台語発音を通して作品への理解を深める
6. 音楽・アンサンブル稽古⑤作品解釈・舞台語発音を通して作品への理解を深める
7. 音楽・アンサンブル稽古⑥作品解釈・舞台語発音を通して作品への理解を深める
8. 音楽・アンサンブル稽古⑦作品解釈・舞台語発音を通して作品への理解を深める
9. 音楽・アンサンブル稽古⑧演奏に忠実な基本的な演技をつける
10. 音楽・アンサンブル稽古⑨演奏に忠実な基本的な演技をつける
11. 音楽・アンサンブル稽古⑩暗譜による演奏に演技をつける
12. 発表会に向けて稽古①暗譜による演奏で演技をつける
13. 発表会に向けて稽古②通し稽古・前回の復習と課題発見
14. 発表会に向けて稽古③通し稽古・仕上げ
15. 発表会・総括

### 授業時間外の学習

自身が取り組んでいる作品に関する予学習が必要不可欠である。作品について自分の考え・意見・疑問を持ち授業に臨むことが望ましい。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

授業への取り組み・受講態度20%、実技試験80%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以上の者

科目名 オペラ実習A/B [演技]

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2(演奏と併せて4)

担当教員 柴田 千絵里

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

声楽を履修していることを条件とする。コレペティトーアの養成としてピアノ専攻の学生を若干名受け入れる。その他の専修、他専攻の希望は要相談。

### 授業の概要

オペラの上演では、多くの人が関わり1つの作品を創り上げていく。1人1人の責任感、協調性が必要である。それは歌い、演じることと同じく大切なことである。この授業では、作品を上演するに当たり、何が必要で、どのように創られてゆくのかを実体験を通して学ぶ。全授業に出席する覚悟をもって履修してもらいたい。

### 授業の到達目標

- 身体表現を伴う歌唱表現を身につけることができる。
- 課題を自身で研究し、指示された通りだけでなく、自ら考え動くことができる。
- 作品を深く理解し、歌唱に活かすことができる。

### 授業計画

前期は、台詞のある課題や、舞台に立つための基本を学んでいく。

1. 前に出て立つ(空間を把握する)
2. 身体表現・課題(1)配布(読む)
3. 課題(1)を授業内で発表①前半
4. 課題(1)を授業内で発表②後半
5. 身体表現・課題(2)配布(読む)

6. 課題(2)を授業内で発表①前半
  7. 課題(2)を授業内で発表②後半
  8. 身体表現・課題(3)配布(読む)
  9. 課題(3)を授業内で発表①前半
  10. 課題(3)を授業内で発表②後半
  11. 身体表現・前期試験課題配布(読む)
  12. 授業内で稽古①立ち位置の確認など
  13. 授業内で稽古②落とし込み
  14. 授業内で稽古③仕上げ
  15. 授業内で発表
- ※授業内容に関しては、進行具合により多少前後することがある。

### 授業時間外の学習

- 必要と感じたら自分の小道具や衣装は自ら準備すること。
- 与えられた課題の研究。

### 教科書・参考書等

授業時に台詞の課題を配布する。

### 成績評価

授業への取り組み30%、課題の成果40%、表現者としての真摯な姿勢30%にて総合評価する。

- S 総合評価90点以上  
A 総合評価80点以上  
B 総合評価60点以上  
C 総合評価50点以上  
D 総合評価49点以下

科目名 オペラ実習A/B [上演]

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 西岡 慎介・柴田 千絵里

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

前期の「オペラ実習A/B [演奏] [演技]」を履修し、単位を取得していることを条件とする。声楽以外の専修、コレペティトーアの養成としてピアノ専攻の学生を含め、他専攻の希望者は要相談。

### 授業の概要

オペラの舞台は、舞台上で演奏する人以外にも多くの人が関わり、ひとつの作品を創り上げていく。そこでは一人一人の責任感、協調性が必要であり、それは歌い演じることと同じく大切なことである。この授業では、オペラの上演がどのようにして創り上げられていくのか、何が必要かを体験を通して学んでいく。全授業に出席する意志をもって履修して頂きたい。欠席が多い場合は、途中で失格とすることもある。

前期から学んでいる[演奏]及び[演技]がオペラにおいてどのような役割を担うかを、実際に自身が舞台製作に関わっていく中で学んでいく。

- 具体的には、
- ①演技・芝居をしながら自然に歌唱を行えるようにする。
  - ②演奏と演技・芝居の両側面において、どちらかに偏ることなく舞台上で表現できるようにする。
  - ③観客に自身のパフォーマンスを最も良い形で観せるために必要なものを舞台上で学ぶ。以上の3点の習得を目指す。

### 授業の到達目標

身体表現を伴う歌唱表現を身につけることができる。  
作品を深く理解し、歌唱に活かすことができる。  
古典芸能としてのオペラの舞台における基本的な所作を身につけることができる。  
実際に上演することで、舞台を作る上で必要なことを身につけることができる。  
試演会という、1つのプロダクション制作に関わることで社会で必要な人間関係の構築を学ぶことができる。

### 授業計画

前期の「オペラ実習A/B [演奏]・[演技]」で学んだことを基本に、オペラ作品を創り上げていくことを学ぶ。歌い演じることにとどまらず、制作を含めた舞台創りを学ぶことが、この授業の特徴である。後期の試演会は学生主体で舞台を作っていくことになる。

試演会に向けては、追加稽古を行う。合計の授業回数は15回を越える。なお、4回目の「芝居」が始まる授業までに、自身の演目をおおむね暗譜することが望ましい。

1. 試演会に向けての役割決め、作品の解釈
2. 稽古①歌(音楽稽古・作品解釈・舞台語発音。自分の歌について理解した状態で臨む)
3. 稽古②歌(音楽稽古・作品解釈・舞台語発音。自分の歌について理解した状態で臨む)

4. 稽古③歌(音楽稽古・作品解釈・舞台語発音。自分の歌について理解した状態で臨む)  
以下、歌と芝居も稽古に加わる。小道具・衣装がある場合は使用して稽古する。
  5. シーン稽古①序盤(芝居の台詞の読み合わせ・荒立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  6. シーン稽古②序盤(芝居の台詞の読み合わせ・荒立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  7. シーン稽古③序盤(芝居の台詞の定着・芝居の立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  8. シーン稽古④中盤(芝居の台詞の定着・芝居の立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  9. シーン稽古⑤中盤(芝居の台詞の定着・芝居の立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  10. シーン稽古⑥中盤(芝居と音楽の自然な融合を目指す)
  11. シーン稽古⑦終盤(芝居と音楽の自然な融合を目指す)
  12. シーン稽古⑧終盤(芝居と音楽の自然な融合を目指す)
  13. シーン稽古⑨ホールでの演技・演奏を意識する(観客に魅せる意識を持ちながら、芝居と音楽の密な融合を目指す)
  14. 通し稽古①ホールでの演技・演奏を意識する(通し稽古・観客に魅せる意識を持ちながら、芝居と音楽の密な融合を目指す)
  15. 通し稽古②芝居と音楽の密な融合を(通し稽古・観客に魅せる意識を持ちながら、芝居と音楽の密な融合を目指す)
- ※稽古内容は、進行具合により変更する場面がある。

### 授業時間外の学習

試演会で使用する衣装や小道具、舞台装置などの準備をすること。授業外でも自主的に課題に取り組み、稽古すること。また、自身が取り組んでいる作品に関する予学習が必要不可欠であるため、作品について自分の考え・意見・疑問を持ち授業に臨むことが望ましい。

### 教科書・参考書等

授業時に配付する。

### 成績評価

授業への取り組み・受講態度20%、実技試験80%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以上の者

科目名 邦楽アンサンブル研究 A / B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 滝田 美智子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

邦楽器はそれぞれの楽器の特性が強く、音色が大切である。又個性的なのでそれを尊重しつつ、さまざまな可能性を追求したい。合奏訓練を積み重ねる中で、他のパートを聴く事を重要として、自分の音を重ねていくアンサンブルの醍醐味を体得できる。

### 授業の到達目標

- 邦楽器によるアンサンブルの可能性について、各人が意見を持ち、真のアンサンブルの楽しさを十分に味わうことができる。
- 10月、3月の日本音楽演奏会を外部への発信と捉えて、成果を発表できる。

### 授業計画

前期

1. 受講生の習熟度の確認と年間計画
2. 箏三重奏①学生作品
3. 箏三重奏②仕上げ
4. 箏古典合奏曲①
5. 箏古典合奏曲②
6. 箏古典合奏曲③仕上げ
7. 箏尺八 現代曲合奏①
8. 箏尺八 現代曲合奏②
9. 箏尺八 現代曲合奏③仕上げ
10. 三木稔作品①
11. 三木稔作品②
12. 三木稔作品③仕上げ
13. 間宮芳生作品①
14. 間宮芳生作品②仕上げ
15. まとめ

後期

1. 箏曲 古典曲+囃子・創作①
2. 箏曲 古典曲+囃子・創作②仕上げ

3. 邦楽と洋楽のアンサンブル(例:ギター) ①
4. 邦楽と洋楽のアンサンブル(例:ギター) ②仕上げ
5. 池田哲美作品(25絃箏アンサンブル) ①
6. 池田哲美作品(25絃箏アンサンブル) ②仕上げ
7. 金光威和雄作品①
8. 金光威和雄作品②仕上げ
9. 大編成合奏曲(曲目未定) ①
10. 大編成合奏曲(曲目未定) ②仕上げ
11. 尺八と箏のアンサンブル 現代曲①
12. 尺八と箏のアンサンブル 現代曲②
13. 尺八と箏のアンサンブル 現代曲③仕上げ
14. 箏 コンチェルト(ソロ+合奏部) ①
15. 箏 コンチェルト(ソロ+合奏部) ②仕上げ

### 授業時間外の学習

決定した曲目を予習すること。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 オーケストラ・スタディ C / D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1

担当教員 志村 寿一

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

弦楽器専修者は必修である。

### 授業の概要

後期「合奏」授業への準備段階とする。

- ①オーケストラプレイヤーとしての心がまえ、事前準備の重要性の認識。各自の練習、スコアの用意、CD等なども聴き、作品を理解して臨む。
- ②演奏するためのテクニックやアンサンブル能力を習得する。パートごと、時に一人ずつの演奏を課しながら、個人、セクションの責任を高める。それぞれのパートを把握し、ひとりひとりがオーケストラ全体を捉えられるようにする。

### 授業の到達目標

オーケストラを通して、個人の、そしてアンサンブルの技術の向上。全員で1つの作品を作り上げる喜びを知ることができる。

### 授業計画

曲目は4月に発表する。

11月定期演奏会(オーケストラ)の演奏曲目を課題とする。毎回の練習スケジュールを作り、進める。しかし、進行状況により、適宜スケジュールを調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であれば、コンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

- S 授業内容をよく理解して自らのパートのみならず、他のパートをしっかりと把握してアンサンブル奏者としての力を発揮できる者。
- A 自らのパートは把握できているものの、他のパートを把握することにおいて一層の努力が求められ、その能力向上が見込まれる者。
- B ところどころに技術向上、改善努力が必要に思われるが、後期合奏においてアンサンブル能力と技術向上が見込まれる者。
- C 後期合奏授業においてなんとかついていけるレベル、もしくは相当の個人的努力を求められる者。
- D 後期合奏授業についていける能力が見込まれない者。

試験の結果により後期合奏授業へのレベルが達していないと思われる者には追試験を行い、場合によっては個人的指導もを行い、合奏授業に向けて能力を引き上げる機会を持つ。

科目名 合奏C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 志村 寿一

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

前期授業「オーケストラ・スタディ」で単位認定を受けた者。弦楽器専修者は必修である。弦楽器奏者以外についてはオーケストラ等で選出された者。

### 授業の概要

黒岩英臣氏を指揮者にお迎えして、11月の定期演奏会本番に向けて、約6日間の集中リハーサルが行われる。

個々の力が合わると、素晴らしい響き、音楽が生まれることを体感してほしい。演奏会当日まで、各自、練習・準備をすること。

### 授業の到達目標

オーケストラのリハーサルを通して、全員で演奏会に向けて、それぞれの曲の完成度を高めることができる。

### 授業計画

1. オーケストラガイダンス(オーケストラ授業に対する心がまえ、様々な準備などについての確認)
2. 黒岩氏とのリハーサル①
3. 黒岩氏とのリハーサル②
4. 黒岩氏とのリハーサル③
5. 黒岩氏とのリハーサル④
6. 黒岩氏とのリハーサル⑤
7. 黒岩氏とのリハーサル⑥定期演奏会当日 ゲネプロ 本番
8. 演奏会録画を鑑賞しながら、演奏について検証、反省を行い、意見交換の場とする。

毎回のリハーサルスケジュールは、進行状況により、指揮者の判断で適宜調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であればコンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 ギター・アンサンブルC/D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 佐藤 紀雄

実務経験 ○

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

ギター専修者必修

### 授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

### 授業の到達目標

年二回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様式を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要な技術かを知ることができる。

### 授業計画

- (前期)
1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
  2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況を見る
  3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
  4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
  5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
  6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
  7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴きあい理解しておく
  8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確認
  9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
  10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
  11. バンドゥークイッカン①各パートの難所の練習課題を見つける
  12. バンドゥークイッカン②各パート同士の役割を理解する
  13. バンドゥークイッカン③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
  14. バンドゥークイッカン④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
  15. バンドゥークイッカン⑤11～14を踏まえて表現を実現する
- (後期)
1. ヴィヴァルディー四季より「春」①この曲に必要な技術を準備する
  2. ヴィヴァルディー四季より「春」②各パート毎に弾いて役割を理解する
  3. ヴィヴァルディー四季より「春」③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する

4. ヴィヴァルディー四季より「春」④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
5. ヴィヴァルディー四季より「春」⑤作品の中での自然の描写を豊かに再現する
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
12. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて他を聞く
13. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
14. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する
15. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す

### 授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。

### 教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽特設クラス A / B / C / D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 ※

### 履修条件

室内楽作品を深く掘り下げて研究したい、アンサンブルに意欲的な学生。

※芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする。

### 授業の概要

弦楽器・管楽器・ピアノを含む室内楽曲(デュオ・ピアノトリオ・ピアノカルテット等)を中心に上げ、演奏助手の協力のもと、アンサンブル能力の向上を目指す。非常に柔軟性のある形態をもち、半期につき、5回程度個人レッスンの形で授業を行う。他の室内楽クラスを履修しつつ受講することも可能で、同じ曲目を別の観点から学ぶことも、良い勉強になるだろう。経験の有無や量を問わずに履修できるという利点があり、半期の間は同じメンバーで、お互いを理解し共演者と共に音楽を作り上げていく。主として担当教員が指導に当たるが、必要に応じてアンサンブル指導員(弦楽器・管楽器等)のレッスンを受講することもある。

受講希望者は、メンバー確定後履修登録をし、受講曲が決まり次第早目に担当教員に申し出ること。具体的な日程等については、演奏員とも相談の上、後日掲示する。前期受講希望者多数の場合は、後期に履修変更となることもあり得る。

### 授業の到達目標

共演者としてお互いを信頼し合い、ひとりひとりが積極的に音楽作りに参加できる。

### 授業計画

基本的には、各グループの希望曲(複数可)を取り上げる。レッスンの進め方については、臨機応変に対応したい。例えば、経験の少ないグループの場合は各楽器の特徴の理解や、基本的な合わせ方等から入り、選曲のアドバイス等も行う。

定期演奏会のオーディション参加を希望するグループは、より深く音楽を掘り下げ、説得力のある演奏を目指す。

### 授業時間外の学習

レッスンに向けて、お互い迷惑にならないように、各自充分に練習を積んでおくこと。受講曲目についても、深く調べておくように。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

- S 事前準備が十分で学習意欲が強く認められ、各種コンサートに出演した者
- A 事前準備が十分で学習意欲が強く認められた者
- B 事前準備、学習意欲が中程度の者
- C 事前準備、学習意欲が不十分と思われる者
- D 授業(レッスン)への取り組み、受講態度に問題のある者

科目名 伴奏C (1) (2) / D (1) (2)

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

前期・後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表(実技試験・学内演奏会・修了演奏会)をもって各々単位認定を行う。「伴奏受講票」を使用のこと。

### 授業の到達目標

様々な楽器に関心をもち、「伴奏」という立場に責任をもち、意欲的にアンサンブルを作り上げる。そこで得た経験を試験、演奏会という場につなげることができる。

### 授業計画

各々の実技担当教員のレッスン計画による。

### 授業時間外の学習

「伴奏」はパートナーとしての重要な役割を持つので、初回のレッスンまでに十分な練習を積んでおくこと。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者

科目名 伴奏研究 A / B / C / D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

### 履修条件

学内試験、学内演奏会等でピアノ(伴奏)を担当する学生。

### 授業の概要

主としてピアノと弦楽器または管楽器のデュオ作品を扱う。  
学内試験の伴奏を担当するピアノの学生が、パートナーの実技担当教員のレッスンだけでなく、ピアノ専任教員からもレッスンを受け、助言を得ることで、伴奏にとどまらない「共演ピアニスト」としての自覚を持って、より積極的にふたりで音楽を創り上げていけるようなデュオを目指す。

授業はレッスン形式で行い、5回程度のレッスン受講とパートナーの学内試験や学内演奏会での演奏を以って単位を認定する。受講希望者は、予め履修登録をした後、パートナーと受講曲が決まり次第届け出ること。

具体的な日程については、後日掲示発表する。

### 授業の到達目標

共演者としての役割をしっかりと認識し、責任を持ってパートナーと共に学び、音楽を作り上げることができる。

### 授業計画

前期は、5月中旬を目途にパートナー、受講曲を決定し、5月末～7月にレッスンを受ける。

後期は、11月中旬を目途にパートナー、受講曲を決定し、11月

末～2月にレッスンを受ける。

授業時間は、他の授業と重ならないよう、6限目(17:30以降)や土曜日等に設定する。

必要に応じて、ピアノパートのみのレッスンも行うが、原則として、パートナーと一緒に出席すること。

### 授業時間外の学習

大事な試験や学内演奏会に向けての科目となるので、個人練習を充分に行なっておくこと。また、演奏曲目の内容についても深く理解しておくように。

### 教科書・参考書等

各自用意。教員用の楽譜(コピー可)も準備すること。

### 成績評価

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者

科目名 海外特別演習 C / D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

研修旅行に参加して学ぶ意欲の高い者。

### 授業の概要

チェコ、プラハ音楽アカデミーにて1週間のレッスン研修を行う。後半は、オーストリア、オランダ、ベルギーを訪れる。

ドヴォルザーク、スメタナ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトなどの音楽家のみならず、ゴッホ、レンブラント、ルーベンス、フェルメールなどの美術作品にも接しながら、偉大な芸術家の業績をたどる。

### 授業の到達目標

内容の濃い充実した旅行とする。本場で触れた芸術から得たものを、その後の表現活動に生かす。

### 授業計画

- 1 導入
- 2 旅行会社による説明会①
- 3 訪問都市についての勉強会①
- 4 訪問都市についての勉強会②
- 5 旅行会社による説明会②
- 6 訪問都市についての勉強会③
- 7 受講曲による試演会
- 8 研修旅行

### 授業時間外の学習

訪れる街の歴史や、関係する作曲家について深く学んでおく。また個人の実技練習を十分に積んでおくこと。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 授業への取り組み、態度、レポートで総合的に評価する
- S 事前授業の内容を深く理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確かつ秀でた者
  - A 事前授業の内容を理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンの取り組みが的確だった者
  - B 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが良好だった者
  - C 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが不十分だった者
  - D 事前授業の内容を理解しなかった者、レポート未提出者、レッスンへの取り組み、受講態度に問題がある者

科目名 特別講義（音楽）

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 1

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 集中

他専攻

### 履修条件

必修（専2も選択授業として履修可能）。

### 授業の概要

音楽を通しての仕事という観点から、音楽マネージメントについて、また、コンサートホールの舞台機構、ホールスタッフの仕事について、前期・後期お一人ずつゲストをお招きし4コマずつ講義を頂く。この授業を通して、自らの音楽経験と教養を深め、いかに時代に即した現代社会に還元していけるかを考察していく。

### 授業の到達目標

コンサート制作に必要な知識や舞台機構、ホールスタッフの仕事についての知識を得て、自分の専門と結びつけていけるような思考を身につけることができる。

### 授業計画

前期集中講義期間

1～4 コンサートホールの舞台機構とホールスタッフの仕事について

後期集中講義期間

5～8 音楽マネージメントの仕事について

### 授業時間外の学習

授業内で指示。

### 教科書・参考書等

その都度配付。

### 成績評価

授業への取り組みを重視、レポートを課す。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 特別演習C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1

担当教員 荻野 千里

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

Cは全専修必修。

### 授業の概要

公開講座、学内演奏会、定期演奏会、卒業演奏会の4つが特別演習の内容である。公開講座はプロの演奏家、および研究生による演奏会を中心とする。定期演奏会は2夜で構成され、オーディションにより出演者を決める。学内演奏会は本科生は成績優秀者の出演、専攻科生は必須で全員出演する。卒業演奏会も成績優秀者による演奏会である。

これらの演奏会を聴講することで単位認定を行う。

### 授業の到達目標

音楽の勉強は自分自身の毎日の練習、訓練の積み重ねが大切なのはもちろんのことだが、現役で活動している音楽家や、一緒に学んでいる学生の演奏を聴くことから得るもの大きさも是非認識してほしい。

### 授業計画

公開講座、学外演奏会、学内演奏会は、それぞれのジャンルに出席義務回数が定められている。

日程、演目、出席義務回数の詳細はオリエンテーション時に発表する。

また日程は変更となる場合もあり、常に掲示を確認のこと。

### 授業時間外の学習

ゲストの音楽家や、演奏される楽曲について調べ、理解を深める。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

- S 公演の内容を深く理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者
- A 公演の内容を理解し、課題への取り組みが良好だった者
- B 公演の内容を理解し、課題への取り組みが良好だった者
- C 公演の内容を理解し、課題への取り組みが不十分だった者
- D 公演の内容を理解しなかったもの、課題への取り組み、受講態度などに問題のある者

科目名 コラボレイト実習C(1)(2)/D(1)(2)

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

### 履修条件

専攻主任からの指名により履修できる。

### 授業の概要

専攻主任からの依頼により、演劇専攻の試演会、卒業公演あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。コラボレイト実習受講票を使用のこと。なお、単位認定は、前期・後期、1回ずつを限度とする。自らが与えられた場に対して関心を持ち、存在意義を考察し演奏表現に結びつけて行くことが求められる。

### 授業の到達目標

演劇公演等に演奏者として参加する場合は、演劇における音楽の在り方を考え、学ぶことができる。音楽専攻の催しの場合には、与えられた場で、自分の専門をどう活かすかを考え、学ぶことができる。

### 授業計画

1. 打ち合わせ
2. 音楽のみの練習①
3. 音楽のみの練習②
- 4~8. 舞台稽古への参加(1回が2コマ分)
9. 通し稽古
10. 本番

### 授業時間外の学習

演劇専攻の公演に参加する重要な役割であるため、自ずと演出家や音楽監督に要望に応えるよう練習をしていかなければならない。

### 教科書・参考書等

公演台本等、各公演により異なる。

### 成績評価

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題のある者

科目名 楽曲分析[編曲]

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻2年

単位数 2

担当教員 たかの 舞俐

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

特にないが、音楽について実習的な知識を実習を通して習得したいという、興味や意欲があること。  
可能であれば、前期、後期とも履修することが望ましい。

### 授業の概要

この授業では、様々なジャンルの音楽を参考にしながら、編曲を学んでいく。今まで学んできたことの復習や確認をしながら、まずメロディーに合うコードをつけ、伴奏付けをしていくことを学ぶ。その後、ピアノ以外の楽器を含む編曲も試みる。編曲した作品は可能な限り、授業で実際に音出しをして体験的に学習していく。

初心者から、さらに知識を広げていきたい方まで受講可能。また、最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。

### 授業の到達目標

和声法やソルフェージュの基礎を必要に応じてもう一度確認しながら、卒業後の音楽活動に直接役立つような伴奏付けや編曲などを学んで実践的な力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション、ポップスとクラシックのコード進行の違い
2. 様々な曲のメロディーにコード付けを試みる(実習例 ポップス作品や童謡や歌曲など)
3. 様々な曲のメロディーに対旋律を書く事を試みる(実習例ポップス作品や童謡や歌曲など)
4. 様々な伴奏パターン①実習1回目
5. 様々な伴奏パターン②実習2回目
6. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲①実習1回目
7. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲②実習2回目

8. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲③実習3回目
9. 簡単なピアノ曲を木管五重奏に編曲①実習1回目
10. 簡単なピアノ曲を木管五重奏に編曲②実習2回目
11. ジャズのコード進行/ジャズコードを用いた編曲
12. 編曲実習①各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編集する
13. 編曲実習②各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編集する
14. 編曲実習③各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編集する
15. 編曲作品発表、演奏(コンサート形式)  
順序、及び内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

授業内で課題が終わらなかった場合、宿題にすることもある。

### 教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布。

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 楽曲分析[創作]

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻2年

単位数 2

担当教員 たかの 舞俐

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

特にないが、音楽について実習的な知識を実習を通して習得したいという、興味や意欲があること。  
可能であれば、前期、後期とも履修することが望ましい。

### 授業の概要

この授業では、様々なジャンルの音楽を参考にしながら、創作(作曲の基礎)を学んでいく。作曲と聞くと、難しいものに見えるかもしれないが、最初はふっと思いついた鼻歌のようなものでも立派に作曲の始まりであると私は考えている。それぞれの学生の個性を大事にしながら、まずは歌詞にあわせて歌を書いていくことから徐々に作品を完成していくことを学んでいく。また、今まで学んできたコードの知識を実践的に使ってジャズ風の短い作品を作曲してみることも試みていきたいと思っている。様々な作曲手法を実習を通して学んでいき、その後、各自の意向による自由作曲を個人指導していく。創作した作品は可能な限り、授業で実際に音出しをして体験的に学習していく。

初心者から、さらに知識を広げていきたい方まで受講可能。また、最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。

### 授業の到達目標

創作の授業では、メロディー、リズム、ハーモニーという3つの要素をどのように展開していくかということ学び、各人の音楽創作能力を引き出し、伸ばすことができる。

### 授業計画

1. 歌曲、ないし童謡の作曲①メロディーの作曲
2. 歌曲、ないし童謡の作曲②ハーモニーをつける
3. 歌曲、ないし童謡の作曲③伴奏付けをする
4. 歌曲、ないし童謡の作曲④伴奏付けの形をさらに発展させる
5. 歌曲、ないし童謡の作品発表

6. コードの復習。よく使われるコード進行を実習する。
  7. 代理コードの実習
  8. テンションをコードとメロディーラインの2側面から実習する。
  9. 簡単なジャズ風スタイルによる作曲を試みる①1回目
  10. 簡単なジャズ風スタイルによる作曲を試みる②2回目
  11. 簡単なジャズ風スタイルによる作曲を試みる③3回目
  12. 自由創作実習①1回目
  13. 自由創作実習②2回目
  14. 自由創作実習③3回目
  15. 作品発表、演奏(コンサート形式)
- 順序、及び内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

授業内で課題が終わらなかった場合、宿題にすることもある。

### 教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽療法実習

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻2年

単位数 1

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

「音楽療法演習A/B」を履修していることが望ましい。

### 授業の概要

対象者とコミュニケーションを図りながら、様々な音楽活動のアプローチを学んでいく。

### 授業の到達目標

音楽療法概説、演習で学んだ音楽療法の現場に必要な臨床的技術(伴奏、楽器、身体、編曲、即興)を身につけることができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 臨床現場についての理解～対象者に向けてのセッション計画
3. 実習に向けてのオリエンテーション
4. 現場実習①
5. 現場実習②
6. 現場実習③
7. 現場実習④
8. 現場実習⑤

### 授業時間外の学習

現場実習に向けて、セッションの流れの確認、及び実技の練習に努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
松井紀和、鈴木千恵子他著「音楽療法の実際」(牧野出版)

### 成績評価

授業の取り組みと態度50%・実習報告書の提出と内容50%

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、実習報告書未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

専攻科演劇専攻

科目名 特別講義 A / B

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 高橋 宏幸・三浦 剛

実務経験 ー

期間 通年

他専攻

### 履修条件

専攻科演劇専攻の必修授業。ゲスト講師に貴重な講義またはワークショップを受ける機会なので、事前準備をして講義に臨むこと。

### 授業の概要

今年度の特別講義は第一線で活躍する演劇人をお招きし、「現代演劇の最前線」をテーマに自身の活動・作品について講義して頂く。実演家の場合はワークショップで実技の新たな技術を学ぶ。事後学修として各回のレポートを提出し、今の演劇界の最前線で行われていることをまとめて理解を深める。

### 授業の到達目標

- 様々な講師の講義やワークショップを通して、現代演劇の最前線で行われていることを理解し、自分の芸術活動の指標とすることができる。
- レポートを書き、ディスカッションすることで、自分の理解の客観性や理解度を深め、自分の知識や意見を他者に伝えることができる。

### 授業計画

1. 導入
2. ゲスト講師の講義と質疑応答
3. ゲスト講師のワークショップと質疑応答
4. ゲスト講師のワークショップと質疑応答
5. ゲスト講師の講義と質疑応答
6. ゲスト講師のワークショップと質疑応答
7. ゲスト講師の講義と質疑応答
8. ゲスト講師の講義と質疑応答
9. ゲスト講師の講義/ワークショップと質疑応答

10. ゲスト講師の講義/ワークショップと質疑応答
11. ゲスト講師の講義/ワークショップと質疑応答
12. ゲスト講師の講義/ワークショップと質疑応答
13. ゲスト講師の講義/ワークショップと質疑応答
14. ゲスト講師の講義/ワークショップと質疑応答
15. ディスカッション(まとめとして通年で学んだことを発表、議論する)

### 授業時間外の学習

それぞれの特別講義までに、ゲスト講師の作品、業績等を調べておき、質疑応答の質問を準備しておく。各回について、レポートを書き、ディスカッションできる自分の意見をまとめておく。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

- 授業態度(40%)、質疑応答における積極性(20%)、ディスカッション(20%) レポート(20%)を総合評価
- S 総合点が90点以上の者(卓越した授業態度、質疑応答、レポートができ、授業で積極的な役割を果たすことができる)
- A 総合点が80点以上の者(優れた授業態度、質疑応答、レポートができ、授業で積極的な役割を果たすことができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業態度、質疑応答、レポートをし、授業で一定の役割を果たすことができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業態度、質疑応答、レポートの内容が不十分で、授業での役割を十分に果たすことができない)
- D 総合点が49点以下の者(授業態度、質疑応答、レポートが出せず、授業に必要な役割を果たすことができない)

科目名 演劇学研究 A (日本演劇論) (1)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

演劇を観るために、もしくは実践的に活動するために、必要な理論について考える。理論を学びながら、それをベースに実際に舞台を観に行く。舞台が理論によって鮮やかに見える場合もあれば、理論そのものをゆるがすこともあるだろう。その双方向的な視点をもって、舞台について考える。

### 授業の到達目標

単に舞台をみる授業ではなく、演劇が社会とどのように接点を持ち、作品から何を見つけておけるべきなのか、その可能性を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. ポストコロナ理論と演劇①
3. ポストコロナ理論と演劇②
4. クィア・スタディーズと演劇①
5. クィア・スタディーズと演劇②
6. 舞台の報告①
7. 舞台の報告②
8. 実際に書く①
9. 実際に書く②

10. ディスカッション①
11. ディスカッション②
12. ディスカッション③
13. 批評の講評①
14. 批評の講評②
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

- 発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 演劇学研究 A (日本演劇論) (2)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

演劇というアートは、社会の中でどのように成り立っているか。そこには様々な関係がある。例えば劇場について考えると、経済的なことはもちろん、都市における劇場、地域の劇場、街の中の劇場など、そこからは様々な関係を見ることができる。それは経済的な土台を反映したものというだけではない。演劇が公共圏を形作ることを始めとして、そこについてまわる観客の位置、批評の役割など、演劇の制度について包括的に考える。もちろん、実際の舞台作品も具体例として関係するので、毎回、劇場で上演される作品なども検証して、授業を行う。

### 授業の到達目標

社会がどのように成り立っているのか。それを、演劇を始めとした舞台芸術を通して考えることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 公共圏とはなにか①アーレントを参照として
3. 公共圏とはなにか②ハーバーマスを参照として
4. 日本の都市と演劇①公共劇場について
5. 日本の都市と演劇②民間劇場について
6. 街と演劇—都市計画と演劇の位置
7. 地域の演劇①関西圏を参照として
8. 地域の演劇②関西圏を参照として

9. 助成金と演劇
10. 文化団体の役割
11. 批評の役割
12. 観客の位置
13. 各国の劇場
14. 各国の劇場システム
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 演劇学研究 B (西洋演劇論) (1)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

演技論に関心を持つもの。

### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムは、ロシアの演出家・俳優コンスタンチン・スタニスラフスキーが俳優教育法を体系的にまとめ上げたものである。このスタニスラフスキー・システムは演技の文法として世界中に普及し、各国で独自の発展を遂げている。本講義では、スタニスラフスキーの著書『俳優の仕事』をもとに、システムの神髄を探っていく。「俳優の仕事」は〈大部で難解な著作〉と敬遠されがちであるが、演劇学校の生徒の日記という形式で書かれており、演劇を学ぶ学生にとっては身近な話題が取り上げられている。受講生自身の体験と重ねつつ読み込み、演技に関する考察を深めていきたい。また、映像資料も使用しながら、スタニスラフスキー・システムに基づく演技を分析していきたい。

### 授業の到達目標

専攻科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、スタニスラフスキー・システムに関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることを目指す。具体的には、以下の2点をこの授業の到達目標とする。

○スタニスラフスキー・システムの基本的な考え方を説明することができる。

○創造の現場で、スタニスラフスキー・システムを応用することができる。

### 授業計画

1. コンスタンチン・スタニスラフスキーとモスクワ芸術座
2. 『俳優の仕事』①〈もしも〉と〈与えられた状況〉
3. 『俳優の仕事』②舞台における注意
4. 『俳優の仕事』③筋肉の開放
5. 『俳優の仕事』④断片と課題
6. 『俳優の仕事』⑤真実の感情と確信
7. 『俳優の仕事』⑥情緒的記憶

8. 『俳優の仕事』⑦究極課題と一貫した行動
9. 『俳優の仕事』⑧テンポ・リズム
10. 『俳優の仕事』⑨論理と一貫性
11. 『俳優の仕事』⑩システムの利用法
12. 練習とエチュード
13. スタニスラフスキーの『オセロ』演出ノート
14. スタニスラフスキー・システムの影響
15. 今日におけるスタニスラフスキー・システムの意義

### 授業時間外の学習

授業で扱う章を必ず事前に読んでおくこと。

### 教科書・参考書等

スタニスラフスキー著 堀江新二他訳『俳優の仕事—俳優教育システム 第一部』『俳優の仕事—俳優教育システム 第二部』(未来社)  
参考書：  
グリゴリーイ・クリースチ著 野崎韶夫・佐藤恭子訳『スタニスラフスキー・システムによる俳優教育』(白水社)  
ジーン・ベネディティ著 高山図南雄・高橋英子訳『演技—創造の実際—スタニスラフスキーと俳優』(晩成書房)

### 成績評価

レポート(30%)、発表(30%)、授業態度(40%)を総合評価

- S 総合点が90点以上の者(授業に積極的に臨み、優れたレポートをまとめ、自らの考えを発表することができる)
- A 総合点が80点以上の者(授業に積極的に臨み、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を理解し、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容をあまり理解せず、レポート、発表の内容が不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容をまったく理解せず、レポート、発表ができない)

科目名 演劇学研究B (西洋演劇論) (2)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

演技論に関心を持つもの。

### 授業の概要

ロシア・ソビエト演劇を牽引した演出家フセヴォロド・メイエルホリドの活動を追いながら、社会の変革と芸術運動の関係を概観するとともに、メイエルホリドの演劇が及ぼした影響について考察する。帝政ロシアの崩壊とそれに続く社会主義革命…激動の時代に、ロシアでは前衛的な芸術文化が生まれた。この講義では、映像資料等を使用し時代背景をとらえながら、メイエルホリドの論文を読み進め、演出作品を紹介していきたい。また、スターリン体制が確立する中で、メイエルホリドが粛清されたため、その業績の継承が途絶えていたが、1955年の名誉回復後は再評価が進み、現在ではピオメハニカを俳優訓練に取り入れる演劇学校も少なくない。スタニスラフスキー・システムに対するメイエルホリドの考えについても触れ、両者の共通性と相違点を明確にしていきたい。

### 授業の到達目標

専攻科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、ロシア・ソビエト演劇に関する知識・理解を深め、演劇と社会の関りについて関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、以下の2点をこの授業の到達目標とする。

- メイエルホリドの演劇観について説明ができる。
- ロシア・アバンギャルドの芸術について説明ができる。

### 授業計画

1. モスクワ芸術座とチェーホフ～「かもめ」を中心に～
2. 象徴主義演劇～メーテルリンクの静劇理論～
3. 演劇の約束事～ブローク作「芝居小屋」を中心に～
4. 帝室アレクサンドリンスキー劇場時代の演出作品 (オペラ)
5. 帝室アレクサンドリンスキー劇場時代の演出作品 (演劇)
6. 十月革命と芸術

7. メイエルホリドとマヤコフスキー～「ミステリヤ・ブッフ」を中心に～
8. アジプロ演劇の隆盛
9. ピオメハニカ～新時代の俳優訓練法としての意義～
10. 構成主義演劇～「堂々たるコキュ」を中心に～
11. 古典の現代化～「検察官」を中心に～
12. 風刺劇～「南京虫」「風呂」を中心に～
13. 社会主義リアリズムとメイエルホリド批判
14. 日本の近代演劇運動とメイエルホリド
15. メイエルホリドの再評価

### 授業時間外の学習

授業で扱う章を事前に読んでおくこと。また、同時代の文学・美術・音楽・舞踊・映画等についても調べておくこと。

### 教科書・参考書等

エドワード・ブローン著 浦雅春・伊藤愉訳「メイエルホリド演劇の革命」(水声社)

### 成績評価

レポート(30%)、発表(30%)、授業態度(40%)を総合評価

- S 総合点が90点以上の者(授業に積極的に臨み、優れたレポートをまとめ、自らの考えを発表することができる)
- A 総合点が80点以上の者(授業に積極的に臨み、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を理解し、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容をあまり理解せず、レポート、発表の内容が不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容をまったく理解せず、レポート、発表ができない)

科目名 演劇学研究C (現代演劇論)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 井上 理恵

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

職業としての〈演劇〉を選択する予定で、しかも意欲ある者。現代演劇の現状と未来を考察したいという強い意志のある者。

### 授業の概要

現代演劇とは、広義には今ある演劇すべてを指す。狭義には20世紀半ば過ぎから21世紀に誕生し現存している演劇であって、本講義ではこれを対象とする。

現代演劇のドラスティックな転換は、アイルランド出身のサミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』(Waiting for Godot)の登場であった(1953年パリ初演)。〈筋〉がない、登場人物の〈過去〉がない。そんな戯曲は初めてであった。紀元前のギリシャ以来、ヨーロッパもそして日本も、演劇には常に〈筋〉があり、登場人物には〈過去〉があった。特にヨーロッパではイブセン流自然主義演劇が主流であったから、ベケットの登場は西欧を震撼させた。

ベケットが日本に上陸したのは1960年(安藤信也訳・演出文学座)である。その後現在までいかなる演劇が舞台にあがったのかを押さえ、社会と演劇の関係性を前提としつつ〈現代演劇の変貌〉〈演劇表現・俳優の身体とセリフ〉などについて検討した。

新たな現代演劇を生み出す演劇人の一人になれるよう積極的に学習する者の参加を希望する。そして共に新たな未来の演劇を切り開く努力をしたい。

### 授業の到達目標

- 社会の中の現代演劇とは何かを確実に把握することができる。
- つねに〈何故なのか…〉を抱えて考えることができる。
- 新たな演劇の可能性の一つでも見つけ出すことができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 1950年代に世界演劇に何が起こったのか(ベケット『ゴドーを待ちながら』を事前に読んでおくこと)

3. 日本演劇の50年代60年代—リアリズム演劇(新劇・商業演劇)
4. リアリズム演劇の隆盛と瓦解(「真田風雲録」「明治の枢」を読んでおくこと)
5. DVD視聴、翌週感想レポート提出
6. 小劇場演劇の登場と変貌—70年代(鈴木忠志「劇的なものをめぐってII」を読んでおくこと)
7. 清水邦夫と別役実と佐藤信①
8. 清水邦夫と別役実と佐藤信②
9. DVD視聴、翌週感想レポート提出
10. 商業演劇の隆盛⇒ブロードウェイ・ミュージカルと宝塚歌劇
11. つかこうへいと野田秀樹と平田オリザ①
12. つかこうへいと野田秀樹と平田オリザ②
13. 永井愛と植田景子
14. 小池修一郎と上田久美子
15. これまでの学習の総括と確認(レポート提出)

### 授業時間外の学習

事前に指定された劇作家の戯曲を読んでくること。8回以降については、授業時に指示する。レポートは資料・文献などを調査して作成する事(1200字以上)。

### 教科書・参考書等

参考書:井上理恵著『ドラマ解説』、「演劇の100年」(『20世紀の戯曲Ⅲ』所収)、『宝塚の21世紀』

### 成績評価

①レポート ②授業時の発表

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 劇作研究A (劇作論)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 瀬戸山 美咲

実務経験

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

シノプシスを書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。劇作研究Bと併せて履修することが望ましい。

### 授業の概要

戯曲の執筆において多くの時間を占めるのは、実際に台詞を書き始めるまでの時間である。この授業では物語の基本構造を知り、作品を書くために必要な準備をおこなう。ログライン(1行のあらすじ)を書くことで、戯曲の骨格を明確にし、シノプシス(全体のあらすじ)に移行していく。シノプシスを互いの講評し、ブラッシュアップする。

### 授業の到達目標

シノプシスを完成させることができる。

### 授業計画

1. 戯曲とは何か 演劇と映像の違いについて
2. 登場人物を考える ログラインを考える
3. ログライン発表①前半
4. ログライン発表②後半
5. 物語の種類について
6. 構成について シノプシスを考える
7. シノプシス第一稿発表①ディスカッション1回目

8. シノプシス第一稿発表②ディスカッション2回目
9. シノプシス第一稿発表③ディスカッション3回目
10. 取材・リサーチについて
11. シノプシス第二稿発表①ディスカッション1回目
12. シノプシス第二稿発表②ディスカッション2回目
13. シノプシス第二稿発表③ディスカッション3回目
14. シノプシス第二稿発表④ディスカッション4回目
15. シノプシス提出・まとめ・執筆について

### 授業時間外の学習

さまざまな演劇、映画を見て、構造を分析する。  
各自、リサーチ・取材をしてシノプシスを執筆する。

### 教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、シノプシスの完成度50%で100点換算。

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 劇作研究B (劇作演習)

授業形態 演習(理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 瀬戸山 美咲

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

戯曲を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。劇作研究Aと併せて履修することが望ましい。

### 授業の概要

シノプシスをもとに戯曲を書く。授業内でリーディングをおこない、互いに講評し、ブラッシュアップしていく。

### 授業の到達目標

1時間半から2時間程度の戯曲を書き上げることができる。

### 授業計画

1. ログラインとシノプシスについて
2. 第一稿発表①ディスカッション1回目
3. 第一稿発表②ディスカッション2回目
4. 第一稿発表③ディスカッション3回目
5. 第一稿発表④ディスカッション4回目
6. 第二稿発表①ディスカッション1回目
7. 第二稿発表②ディスカッション2回目
8. 第二稿発表③ディスカッション3回目
9. 第二稿発表④ディスカッション4回目

10. 第三稿発表①ディスカッション1回目
11. 第三稿発表②ディスカッション2回目
12. 第三稿発表③ディスカッション3回目
13. 第三稿発表④ディスカッション4回目
14. 第三稿発表⑤ディスカッション5回目
15. 戯曲提出・まとめ

### 授業時間外の学習

さまざまな演劇、映画を見て、構造を分析する。  
各自、リサーチ・取材をして戯曲を執筆する。

### 教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で100点換算。

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 演出研究

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 中野 敦之

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

スタンダードな演劇づくりの基礎である「本読み」を実践的に  
行い、台本が求める指針に基づいて立ち稽古以降の創作プロセ  
スに臨むための素養を身につける。

その際、宮崎駿、秋元松代、山崎正和、唐十郎、ピョートル  
チャイコフスキー、リヒャルト・ワーグナーなどのテキストを用いる。

講座の仕上げとして、取り組んだテキストよりワンシーンを他の  
受講生の前で実際に演じ、担当教員より講評を受ける。

### 授業の到達目標

- スタンダードな舞台創作の基礎となる台本読解のための方法論  
を確立できる。
- 「読む」「聴く」といった受動的な作業を通じて、他者の考えの  
要旨を汲み取る能力を養うことができる。
- 他者の考えや要望を自己の表現に活かす能力を養うことができ  
る。

### 授業計画

1. 授業の導入～唐十郎『唐版 風の又三郎』冒頭を読む
2. 講師についての自己紹介
3. 受講生による自己紹介
4. 歌詞を読み、歌う～宮崎駿『もののけ姫』、唐十郎『夜叉綺想』  
など
5. 音楽作品を読む～チャイコフスキー『幻想序曲 ロミオとジュリ  
エット』、ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』など
6. 台本を読む①秋元松代『常陸坊海尊』など
7. 台本を読む②山崎正和『実朝出帆』など

8. 台本を読む③唐十郎『少女仮面』など
9. 台本を読む④唐十郎『少女仮面』など
10. 台本を読む⑤唐十郎『ジョン・シルバー』など
11. 台本を読む⑥唐十郎『ジョン・シルバー』など
12. 台本を読む⑦唐十郎『唐版 風の又三郎』など
13. 台本を読む⑧唐十郎『唐版 風の又三郎』など
14. 読んだ内容をもとに立ち稽古に挑戦
15. 成果発表と講評

### 授業時間外の学習

講座ではいくつかの作品の一部を取り上げて実践的な指導を  
行う。そのため、受講生が予め作品を読み、全容を把握しておく  
ことが望ましい。

### 教科書・参考書等

教科書：なし

参考書：『唐十郎I：少女仮面／唐版 風の又三郎／少女都市から  
の呼び声』（ハヤカワ演劇文庫）、『秋元松代I：常陸坊海尊／近  
松心中物語／元禄港歌』（ハヤカワ演劇文庫）

### 成績評価

- ①元気なこと ②やる気が伝わってくること ③事前準備の度合  
い ④テキストへの理解 ⑤成果発表への評価
- S 90点以上、①～⑤のうち全てを獲得した者  
A 80点以上、①～⑤のうち4つを獲得した者  
B 60点以上、①～⑤のうち3つを獲得した者  
C 50点以上、①～⑤のうち2つを獲得した者  
D 49点以下、①～⑤のうち1つしか獲得できなかった者

科目名 演劇教育論

授業形態 演習  
(理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 野間 哲

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 ○

### 履修条件

演劇と教育の関係を学び、将来の自分の演劇活動に生かした  
いと思う者。劇団経営、組織集団を立ち上げたいと考える者。  
教える側、教わる側の立場を認識し、コミュニケーション能力を  
高めたい者。

### 授業の概要

本授業では、演劇と教育の関係を学び、集団実習を通して、  
教える姿勢と学ぶ姿勢の双方の立場を知る。自らの演劇スキルを  
上げるべく「人間教育」の骨子を学ぶ。教育現場にも会社組織  
にも、演劇が取り入れられている現状を知り、演劇と教育の関わり  
がいかに深いかを認識し、その実践力を身につける。組織をま  
とめ、導く手段を知る。また、プロの一員として、小中学生、高  
校生対象の「ワークショップ」を成立させるには何をすべきかなど  
を学び、将来のプロ活動の一助とする。

### 授業の到達目標

演劇教育をより具体的に実践するためのノウハウを身につけ  
る。ひいては自己啓発の手段としても活用することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. シュミレーションスタディ①  
「自己資金80万円で劇団を立ち上げる」
3. シュミレーションスタディ②  
「自己資金80万円で劇団を立ち上げる」
4. シュミレーションスタディ③  
「自己資金80万円で劇団を立ち上げる」
5. ケーススタディ①小学生編「童話の読み聞かせ」
6. ケーススタディ②中学生編「小説の読み聞かせ」

7. ケーススタディ③社会人編「詩の読み聞かせ」
8. ケーススタディ④ラジオ桐朋  
「ラジオドラマ番組制作」(含ジングル、予告CM)
9. ケーススタディ⑤ラジオ桐朋「ラジオドラマ番組制作」
10. ケーススタディ⑥ラジオ桐朋「ラジオドラマ番組制作」
11. ケーススタディ⑦「CM制作」 テーマ別15秒・30秒編
12. ケーススタディ⑧「CM制作」 テーマ別15秒・30秒編
13. ケーススタディ⑨「通販番組制作」
14. ケーススタディ⑩「通販番組制作」
15. まとめ

### 授業時間外の学習

演劇集団、テレビ・ラジオなどのメディアの制作意図、方法など、  
制作側の立場を考える習慣を身につけよう。

### 教科書・参考書等

毎回、資料提供はこちらで行う。

### 成績評価

主として時間内実習状況・提出物の成果によって判断をする。  
レポート課題など。評価テストは行わない。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 アーツマネジメント研究

授業形態 演習(理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

遅刻・欠席をしない。

### 授業の概要

- 俳優という職業の歴史の変遷を国際比較、とりわけ日英の比較検証を行う。
- 現代の演劇システムの中で、創造的に生き抜いていくための様々な意味におけるコラボレーション、チーム、リーダーシップのあり方を学ぶ。
- 納税者の金で運営される公立劇場に求められる役割と使命の担い手としての仕事を検証していく。

### 授業の到達目標

プロフェッショナルの俳優として生き抜く知識を得ることができる。  
次代のリーダーとなるための素地を獲得することができる。  
チームで働く人々の職能を理解できる。

### 授業計画

- 俳優という仕事
- 演劇興行と俳優の歴史①日本
- 演劇興行の俳優の歴史②英国
- 俳優の社会的地位と組織
- 俳優にとっての組織①劇団制

- 俳優にとっての組織②エージェントとプロダクション
- グレイトグループの構造
- ミッションと意思決定
- モチベーションとリーダーシップ
- 公立劇場ー役割と使命
- 芸術監督の仕事
- プロデューサーの仕事
- 他者の金を利用すること
- マーケティングとエデュケーション活動
- 総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

新聞を読み、社会に対して常にアンテナを張っておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果  
S: ①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者  
A: ①②③全てを獲得した者  
B: ①～③のうち2つを獲得した者  
C: ①～③のうち1つを獲得した者  
D: ①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 アウトリーチ研究

授業形態 演習(理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

遅刻・欠席をしない。

### 授業の概要

演劇人の社会的使命としての「社会包摂」を目的とするエデュケーションとアウトリーチの活動の理念と実践を、英国の60年代に始まるTIE、そして、それに替わるように90年代以降、発展してきた様々なエデュケーション、アウトリーチの活動を考察していく。理念と実践を自らのものにしていくために、実際に施設等を訪問して当事者たちと出会い、その人たちにふさわしいアウトリーチ型の演劇作品を作り上げ、成果をわかちあう。

### 授業の到達目標

対象者に適した目的と手法を発展させることができる。  
公立劇場等のエデュケーション担当者として不可欠な知識を得ることができる。  
インクルーシブシアターの次代の担い手としての知識と姿勢を得ることができる。

### 授業計画

- エデュケーションとアウトリーチー目的と手法
- シアターインエデュケーション(TIE)とは何か?
- TIEを創る
- 事例研究①学校の授業をサポートする
- 事例研究②問題を抱えるコミュニティに向き合う
- 事例研究③ティーチング・シアター

- 事例研究④ユースシアター
- 事例研究⑤リラックスパフォーマンス
- 事例研究⑥痴呆症フレンドリー
- 事例研究⑦障がいをもつ子どもたち
- インクルーシブシアターとは何か
- インクルーシブシアターを創る①環境整備
- インクルーシブシアターを創る②オブジェクト
- インクルーシブシアターを創る③ロングショットとクローズアップ
- 成果のわかちあい

### 授業時間外の学習

新聞を読み、社会に対して常にアンテナを張っておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業態度、授業への貢献度、課題に対する成果等を総合的に評価する。

- ①授業態度 ②授業への貢献度 ③課題の成果  
S: ①②③全てを獲得し、特に優秀な成果を出した者  
A: ①②③全てを獲得した者  
B: ①～③のうち2つを獲得した者  
C: ①～③のうち1つを獲得した者  
D: ①～③のうち1つも獲得できなかった者

科目名 演技研究 A (日本演劇) (1)

授業形態 演習  
(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 2

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。

### 授業の概要

- 舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- 少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲1」「課題戯曲2」を研究、稽古し、最終的に上演する。
- 日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代にアッティリティーで上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現代演劇における多角的な表現方法を実践できる。

上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、更なる研鑽に役立てることができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表①
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 課題1上演(1班)・反省/課題
12. 課題1上演(2班)・反省/課題
13. 課題1上演(3班)・反省/課題
14. 課題1上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

16. トレーニング①呼吸
17. トレーニング②身体表現・課題発表②
18. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
19. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
20. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
21. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
22. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
23. 立ち稽古①戯曲解釈
24. 立ち稽古②関係性
25. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
26. 課題2上演(1班)・反省/課題
27. 課題2上演(2班)・反省/課題
28. 課題2上演(3班)・反省/課題
29. 課題2上演(4班)・反省/課題
30. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

### 授業時間外の学習

課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)

参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演技研究 A (日本演劇) (2)

授業形態 演習  
(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 2

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。

### 授業の概要

- 舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- 少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲3」「課題戯曲4」を研究、稽古し、最終的に上演する。
- 日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代にアッティリティーで上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。
- 最高学年として、専攻科1年生の稽古へのアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供する事により、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現代演劇における多角的な方法を実践できる。

上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、更なる研鑽に役立てることができる。

現代日本演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表①
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 課題3上演(1班)・反省/課題
12. 課題3上演(2班)・反省/課題
13. 課題3上演(3班)・反省/課題

14. 課題3上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
16. トレーニング①呼吸
17. トレーニング②身体表現・課題発表②
18. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
19. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
20. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
21. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
22. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
23. 立ち稽古①戯曲解釈
24. 立ち稽古②関係性
25. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
26. 課題4上演(1班)・反省/課題
27. 課題4上演(2班)・反省/課題
28. 課題4上演(3班)・反省/課題
29. 課題4上演(4班)・反省/課題
30. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

### 授業時間外の学習

課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)

参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演技研究 B(外国演劇) (1)

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 2

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。

次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置づけを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

(前期)

1. 導入、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション(二人一五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古、エチュード
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット、エチュード
6. 照明、音響、映像等セット、エチュード
7. ワンシーン通し、反省、ボイストレーニング
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古①
10. ワンシーン稽古②
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省

15. まとめ(後期)

1. ワンシーン繰り返し、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション、エチュード
3. ボイストレーニング、エチュード
4. 読む稽古
5. 学生レポート、シーン準備
6. ワンシーン稽古
7. ワンシーン通し、反省
8. ワンシーン稽古
9. ワンシーン発表会
10. 反省、個人反省
11. ワンシーンオーディション、読む稽古、シーン準備
12. ワンシーン稽古①
13. ワンシーン稽古②
14. ワンシーン発表会
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

絹川友梨著「インプロ・ゲーム」  
研究旅行(キース・ジョンストン ルーズムースシアター)で集めた書類  
キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究 B(外国演劇) (2)

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 2

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。

次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置づけを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

最高学年として、専攻科1年生の稽古へのアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

### 授業の到達目標

- ・演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。
- ・外国演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

### 授業計画

(前期)

1. 導入、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション(二人一五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古、エチュード
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット、エチュード
6. 照明、音響、映像等セット、エチュード
7. ワンシーン通し、反省、ボイストレーニング
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古①
10. ワンシーン稽古②
11. ワンシーン通し、反省

12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ(後期)

1. ワンシーン繰り返し、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション、エチュード
3. ボイストレーニング、エチュード
4. 読む稽古
5. 学生レポート、シーン準備
6. ワンシーン稽古
7. ワンシーン通し、反省
8. ワンシーン稽古
9. ワンシーン発表会
10. 反省、個人反省
11. ワンシーンオーディション、読む稽古、シーン準備
12. ワンシーン稽古①
13. ワンシーン稽古②
14. ワンシーン発表会
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

絹川友梨著「インプロ・ゲーム」  
研究旅行(キース・ジョンストン ルーズムースシアター)で集めた書類  
キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか、(4)課題に対する到達度等を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究C(実験劇)(1)

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 2

担当教員 高岸 未朝

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

- ・無断遅刻、無断欠席厳禁→止むを得ない場合は、事前に直接申し入れをすること
  - ・授業内で積極的に発言をし、意思表示をすること
  - ・授業時間外にも積極的に時間を作り、課題作品の完成度を高める稽古をすること
  - ・チームメイトと協働し、より高度な作品創りをする意志をもつこと
- 上記4項目を遵守できる者、そして偽りなく一生懸命取り組むことができる者

### 授業の概要

演劇における様々なエレメンツを俯瞰し、ある一点を注視したときに起こりうる情動やスリルをデフォルメして作品創りに活かすことを実践してみる。  
 「実験的、演劇的である」というコンセプトの元に作品を創り、前期末、後期末にそれぞれ発表を行う。  
 ①テーマに即した題材を探し出す  
 ②テーマにふさわしい表現方法を考える  
 ③チーム編成をする  
 ④ディスカッションを重ねる  
 ⑤「演出」「俳優」「企画制作」という役割分担をする  
 ⑥稽古を重ね作品として完成させる  
 これらを協働するプロセスの中で、演劇の本質を探究していく。マイルストーンを決め計画的に発表に向けて稽古を進めることを体験し、よりプロフェッショナルで独創的な舞台人になる土台を作る。  
 すべてが「実験的=新たな試み」、すなわち「発見」となることが望ましい。

### 授業の到達目標

- ・新たな発想、計画に果敢に挑戦することで、物怖じしない豊かな心を持つことができる。
- ・自ら考えた表現手段が如何なる成果を生み出すかを実感することで、より正しく客観的に表現する手段と技術を身につけることができる。
- ・他者と試行錯誤しながら協働することで、幅広い見地で課題を解決していくことができる。
- ・マイルストーンを決め他者と密に相談しながら創作をしていく総合的な手法を獲得することにより、社会構造の中で演劇活動を実践することができる。

### 授業計画

- <前期>  
 1. 授業の導入および前期テーマの提示  
 2. チーム編成、作品のアウトライン決定  
 3. ディスカッション①  
 4. ディスカッション②内容決定・企画書提出  
 5. 稽古①  
 6. 稽古②  
 7. 稽古③  
 8. 現状発表①  
 9. 現状発表②

10. 稽古④  
 11. 稽古⑤  
 12. 稽古⑥  
 13. 発表①  
 14. 発表②  
 15. 最終稽古  
 ※授業外で全チーム前期最終発表(予定)  
 <後期>  
 1. 前期合評会および後期テーマの選定  
 2. チーム編成、作品のアウトライン決定  
 3. ディスカッション①  
 4. ディスカッション②内容決定・企画書提出  
 5. 稽古①  
 6. 稽古②  
 7. 稽古③  
 8. 現状発表①  
 9. 現状発表②  
 10. 稽古④  
 11. 稽古⑤  
 12. 稽古⑥  
 13. 発表①  
 14. 発表②  
 15. 最終稽古  
 ※前期、後期ともに毎回、冒頭でチームごとの現状報告&次週までの目標宣誓あり  
 ※授業外で全チーム最終発表=試験(予定)あり

### 授業時間外の学習

- ・上演作品に関わる資料を探し、研究すること
- ・チームごとにディスカッションと自主稽古時間を潤沢にとること
- ・上演台本、コンテなどをまとめて提出すること
- ・上演に必要な道具、衣裳、音響、映像などを準備すること
- ・自分のチームだけでなく、他チームのスタッフワークをすること

### 教科書・参考書等

創作に関わる図書、参考資料、視覚資料などを各自準備すること

### 成績評価

授業への取り組み・授業態度・協調性(70%)、課題に対する到達度(30%)にて、総合的に評価し点数に換算する。  
 S:総合点が90点以上の者  
 A:総合点が80点以上の者  
 B:総合点が60点以上の者  
 C:総合点が50点以上の者  
 D:総合点が49点以下の者

科目名 演技研究C(実験劇)(2)

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 2

担当教員 高岸 未朝

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

- ・無断遅刻、無断欠席厳禁→止むを得ない場合は、事前に直接申し入れをすること
  - ・授業内で積極的に発言をし、意思表示をすること
  - ・授業時間外にも積極的に時間を作り、課題作品の完成度を高める稽古をすること
  - ・チームメイトと協働し、より高度な作品創りをする意志をもつこと
- 上記4項目を遵守できる者、そして偽りなく一生懸命取り組むことができる者

### 授業の概要

演劇における様々なエレメンツを俯瞰し、ある一点を注視したときに起こりうる情動やスリルをデフォルメして作品創りに活かすことを実践してみる。  
 「実験的、演劇的である」というコンセプトの元に作品を創り、前期末、後期末にそれぞれ発表を行う。  
 ①テーマに即した題材を探し出す  
 ②テーマにふさわしい表現方法を考える  
 ③チーム編成をする  
 ④ディスカッションを重ねる  
 ⑤「演出」「俳優」「企画制作」という役割分担をする  
 ⑥稽古を重ね作品として完成させる  
 これらを協働するプロセスの中で、演劇の本質を探究していく。マイルストーンを決め計画的に発表に向けて稽古を進めることを体験し、よりプロフェッショナルで独創的な舞台人になる土台を作る。  
 すべてが「実験的=新たな試み」、すなわち「発見」となることが望ましい。

### 授業の到達目標

- ・新たな発想、計画に果敢に挑戦することで、物怖じしない豊かな心を持つことができる。
- ・自ら考えた表現手段が如何なる成果を生み出すかを実感することで、より正しく客観的に表現する手段と技術を身につけることができる。
- ・他者と試行錯誤しながら協働することで、幅広い見地で課題を解決していくことができる。
- ・マイルストーンを決め他者と密に相談しながら創作をしていく総合的な手法を獲得することにより、社会構造の中で演劇活動を実践することができる。
- ・先んじて知り得た技術を、上意下達ではなく同じ立場に立つ者として他者と共有することができる。

### 授業計画

- <前期>  
 1. 授業の導入および前期テーマの提示  
 2. チーム編成、作品のアウトライン決定  
 3. ディスカッション①  
 4. ディスカッション②内容決定・企画書提出  
 5. 稽古①  
 6. 稽古②  
 7. 稽古③  
 8. 現状発表①  
 9. 現状発表②

10. 稽古④  
 11. 稽古⑤  
 12. 稽古⑥  
 13. 発表①  
 14. 発表②  
 15. 最終稽古  
 ※授業外で全チーム前期最終発表(予定)  
 <後期>  
 1. 前期合評会および後期テーマの選定  
 2. チーム編成、作品のアウトライン決定  
 3. ディスカッション①  
 4. ディスカッション②内容決定・企画書提出  
 5. 稽古①  
 6. 稽古②  
 7. 稽古③  
 8. 現状発表①  
 9. 現状発表②  
 10. 稽古④  
 11. 稽古⑤  
 12. 稽古⑥  
 13. 発表①  
 14. 発表②  
 15. 最終稽古  
 ※前期、後期ともに毎回、冒頭でチームごとの現状報告&次週までの目標宣誓あり  
 ※授業外で全チーム最終発表=試験(予定)あり

### 授業時間外の学習

- ・上演作品に関わる資料を探し、研究すること
- ・チームごとにディスカッションと自主稽古時間を潤沢にとること
- ・上演台本、コンテなどをまとめて提出すること
- ・上演に必要な道具、衣裳、音響、映像などを準備すること
- ・自分のチームだけでなく、他チームのスタッフワークをすること

### 教科書・参考書等

創作に関わる図書、参考資料、視覚資料などを各自準備すること

### 成績評価

授業への取り組み・授業態度・協調性(70%)、課題に対する到達度(30%)にて、総合的に評価し点数に換算する。  
 S:総合点が90点以上の者  
 A:総合点が80点以上の者  
 B:総合点が60点以上の者  
 C:総合点が50点以上の者  
 D:総合点が49点以下の者

科目名 演技研究 D (フィジカルシアター) (1)

授業形態 演習  
(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。

### 授業の概要

俳優としての身体性を習得することを目標とする。  
身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やして行く。  
台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。  
「演技演習A」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げて行く。  
身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。

### 授業の到達目標

- ・ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- ・創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- ・創造過程を記録し報告ができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 身体表現による演劇的自己紹介
3. テンポ：スローモーションなど
4. 身体記憶
5. 模倣と観察
6. 日常的ジェスチャー

7. 表現的ジェスチャー
8. 音楽的表現
9. キャラクターの創造①基礎
10. キャラクターの創造②応用
11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

- ①授業への取組み80%②発表の内容20%の総合的評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技研究 D (フィジカルシアター) (2)

授業形態 演習  
(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。演技研究D(フィジカルシアター) (1) を履修していること。

### 授業の概要

俳優としての身体性を習得することを目標とする。  
身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やして行く。  
台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。  
「演技研究D(1)」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げて行く。  
身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。  
最高学年として、専攻科1年生への稽古のアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

### 授業の到達目標

- ・ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- ・創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- ・創造過程を記録し報告ができる。
- ・フィジカルシアター上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 身体表現による演劇的自己紹介

3. テンポ：スローモーションなど
4. 仮面①
5. 仮面②
6. 仮面③日常的ジェスチャー
7. 身体表現：感情
8. 身体表現：年齢
9. 身体表現：キャラクター形成①基礎
10. 身体表現：キャラクター形成②応用
11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

- ①授業への取組み80%②発表の内容20%の総合的評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技研究 E (ミュージカル) (1)

授業形態 演習 (演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」として表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。シーンワークでは群像、ペア、ソロパートでの演技・歌唱・振付からミュージカル特有の形だけの演技ではなく、心が動く演技表現と空間と空気を動かす身体表現を学ぶ。メインとアンサンブルの両方を経験し、双方に必要なモノを体感する。「役として生きる」ことを怠らず、俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

各自が新たな発見をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク① (力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク② (力量チェック) 自己分析
3. 身体表現①創造
4. 身体表現②楽曲を使用

5. インプロ①
6. インプロ②
7. シーンワーク① (演技・歌唱・振付を区分しながら進行)
8. シーンワーク②
9. シーンワーク③
10. シーンワーク④
11. シーンワーク⑤
12. シーンワーク⑥
13. シーンワーク発表 (衣裳・大道具・小道具あり) ①
14. シーンワーク発表 (衣裳・大道具・小道具あり) ②
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

- ①授業態度 ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤身体的、精神的健康の維持  
S: ①～⑤のうち全てを獲得した者  
A: ①～⑤のうち4つを獲得した者  
B: ①～⑤のうち3つを獲得した者  
C: ①～⑤のうち2つを獲得した者  
D: ①～⑤のうち1つしか獲得できなかった者

科目名 演技研究 E (ミュージカル) (2)

授業形態 演習 (演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」として表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。(2)のシーンワークは(1)よりも本格化した「作品ワーク」となる。(1)と同様に群像、ペア、ソロパートでの演技・歌唱・振付からミュージカル特有の形だけの演技ではなく、心が動く演技表現と空間と空気を動かす身体表現を学ぶ。作品ワーク中心の授業で、細部に渡る表現を研究し、心身共に「プロフェッショナル」としての在り方の第一歩を修得する。また、生徒による「クリエイティブ・チーム」を編成し、振付又は演出の立場を経験することで創造力や創意思考を伝える指導力を身につける機会を設ける場合がある。(1)と同様に俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。そして、卒業後すぐに「現場」に適應できる人材育成を目指す。

### 授業の到達目標

各自が新たな発見をすること。「プロフェッショナル」としての在り方の第一歩を修得することができる。

### 授業計画

1. 身体表現①創造  
※アップとしてシアターゲームとクロスフロアー。
2. 身体表現②楽曲を使用
3. 作品ワーク① (演技・歌唱・振付を区分しながら進行)

4. 作品ワーク②
5. 作品ワーク③
6. 作品ワーク④
7. 作品ワーク⑤
8. 作品ワーク⑥
9. 作品ワーク⑦
10. 作品ワーク⑧
11. 作品ワーク⑨
12. 作品ワーク⑩
13. 作品ワーク発表① (衣裳・大道具・小道具あり)
14. 作品ワーク発表② (衣裳・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

- ①授業態度 ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤身体的、精神的健康の維持  
S: ①～⑤のうち全てを獲得した者  
A: ①～⑤のうち4つを獲得した者  
B: ①～⑤のうち3つを獲得した者  
C: ①～⑤のうち2つを獲得した者  
D: ①～⑤のうち1つしか獲得できなかった者

科目名 演劇特別研究①②

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 田中 壮太郎

実務経験 ○

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

プロの俳優と同様のモチベーションを持って取り組む事。

### 授業の概要

多くの演技論の土台となっているスタンラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが順繰りに小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎日、新しく生まれてくるものだから決めることはできない。「自分」を通してそれらを行う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

### 授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力の獲得、またはそれらと自分の演技を距離の自覚することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 前期シーンワークの作品発表 ウォーミングアップ
3. 読み、話し合い①
4. 読み、話し合い②
5. 配役発表 読み合わせ
6. 読み合わせ①
7. 読み合わせ②
8. 立ち稽古1①コミュニケーション
9. 立ち稽古1②コミュニケーション
10. 立ち稽古1③台詞の行動化
11. 立ち稽古1④台詞の行動化
12. 立ち稽古1⑤自分の言語にする
13. 立ち稽古1⑥自分の言語にする
14. 立ち稽古1⑦形にする
15. 前半発表
16. 後期シーンワークの作品発表 配役発表 読み合わせ
17. 読み合わせ①
18. 読み合わせ②

19. 読み合わせ③
20. 読み合わせ④
21. 立ち稽古2①コミュニケーション
22. 立ち稽古2②行動としての台詞
23. 立ち稽古2③使役動詞に置き換える
24. 立ち稽古2④他者を動かす
25. 立ち稽古2⑤負荷の大きい方の選択
26. 立ち稽古2⑥形にする
27. 立ち稽古2⑦落とし込み
28. 立ち稽古2⑧通し稽古
29. 立ち稽古2⑨通し稽古
30. 後期発表

※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。「台詞を自分に落とす」という段階までの台詞の記憶。

### 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。  
参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

- ①授業への取り組み ②課題の成果 ③各々の障壁や課題に対する姿勢 ④授業期間中の成長、変化 ⑤センス  
S ①～⑤が全て高いレベルで評価できる者(元々演技力が高い場合は④は考慮に入れない)。  
A ①～⑤のうち3つが高く評価できる者、もしくは総合的に見てやや高く評価できる者。  
B ①～⑤のうち2つが高く評価できる者、もしくは総合的に見て標準以上だと評価できる者。  
C ①～⑤のうち1つが高く評価できる者、もしくは総合的に見て標準よりやや劣ると評価できる者。  
D 総合的に見てあまり評価できなかった者。

科目名 ワークショップA/B

授業形態 実習(WS)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 A:永井 愛/B:未定

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

### 授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各一回ずつワークショップを行う。授業計画の準備、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

### 授業の到達目標

- ・演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- ・修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる(専攻科2年)。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②

7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤
10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。  
①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理  
S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップC/D

授業形態 実習 (WS)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 C:和田 喜夫/D:眞鍋 卓嗣

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

### 授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各一回ずつワークショップを行う。授業計画の準備、履修登録後の登録・取消は一切認めないの注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

### 授業の到達目標

- 演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- 修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる(専攻科2年)。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②

7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤
10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 海外研修

授業形態 演習 (WS)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 ペーター・ゲスナー・高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

良好な体調で海外での研修を受けることができる者。また、事前に複数回の説明会を課すが、必ず受講できる者。

### 授業の概要

海外の演劇教育機関でワークショップを受けて、俳優訓練などを勉強する。世界的なレベルで現在の自分のレベルを知り、足りないところを認識し、今後の発展の礎にする。また、それぞれの国の演劇を見たり、美術館、博物館をまわり、演劇はもちろん、異文化を理解する。また、海外のさまざまな演劇人と実際にふれあう機会があるので、臆することなく積極的に参加すること。昨今では、イタリアのテアトロ・アルセナーレ、オーストラリアの国立演劇学校であるNIDA、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのカルガリのルーズムーズシアターなどで研修している。今年度も欧米の国々での研究を予定している。意欲のあるものを歓迎する。

### 授業の到達目標

海外での演劇研修を通じて、国際的な知見をもって視野を広めることができる。また、さまざまな人とふれあうことにより、文化の多様性を知ることができる。そして、自分のいる国や民族、文化を翻って見つめ直すことができる。単なる旅行ではなく、あくまで研修としてさまざまなものを学ぶ機会としてこの授業はある。そのためには事前の学習として、下調べが必要である。またそのためのテキストなどは用意される。

### 授業計画

1. 準備説明会①
2. 準備説明会②
3. 説明会①
4. 説明会②

5. 事前学習会①
6. 事前学習会②
7. 結団式
8. ワークショップ①
9. ワークショップ②
10. ワークショップ③
11. ワークショップ④
12. ワークショップ⑤
13. ワークショップ⑥
14. 鑑賞会①
15. 鑑賞会②

### 授業時間外の学習

訪問する国の文化、環境、演劇などを必ず調べておくこと。それぞれの国の劇作家、演劇などを知り、ワークショップにスムーズに参加できるように準備しておくこと。また帰国後のレポートを書く際に、体験したことをふまえて、さらに調べること。

### 教科書・参考書等

訪問国の舞台に関する戯曲やさまざまな資料をそのつど配布するので、読んでおくこと。

### 成績評価

- ①研修の予備調べ、および事前説明会や学習会への取組み②研修中の態度③帰国後のレポートをそれぞれ同じ割合(および33%ずつ)にて総合的に評価する。
- S 上記の1・2・3の総合点が90点以上のもの。  
A 上記の1・2・3の総合点が80点以上のもの。  
B 上記の1・2・3の総合点が60点以上のもの。  
C 上記の1・2・3の総合点が50点以上のもの。  
D 上記の1・2・3の総合点が49点以下のもの。

科目名 舞踊A (クラシックバレエ)

授業形態 実技 (GL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 \*

### 履修条件

特になし。  
※他専攻学生が履修する場合は、芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエI」「クラシックバレエII」を修得していること。

### 授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して  
1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイスメント  
2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方  
3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス  
4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通す感覚等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

・それぞれが自分の体と向き合い、豊かな表現ができる体を作ることができる。  
・バレエのアカデミックなムーブメント、テクニックを学び、音楽的に踊れるように感性を磨くことができる。

### 授業計画

1. 姿勢とプレイスメント、足の5つのポジション、ポール・ド・ブラ第2～5回「バーレッション」プリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン「センターレッション」アダージョ、バットマン・タンジュ、小さいジャンプ、シソヌ
2. 体の使い方①応用
3. 体の使い方②発展
4. 体の使い方③綺麗に魅せる
5. 2～4回のまとめ
- 第6～10回「バーレッション」加えてバットマン・フラッペ、バットマン・フォンジュ、デヴロッパ「センターレッション」加えてグランバットマン、アッサンブレ、ビルエット、ピケアンデダン
6. 難易度を上げた体の使い方①基本
7. 難易度を上げた体の使い方①応用
8. 難易度を上げた体の使い方②発展
9. 難易度を上げた体の使い方③綺麗に魅せる
10. 6～9回のまとめ
11. ジャンプや回転のコンビネーション①基本
12. ジャンプや回転のコンビネーション②応用
13. ジャンプや回転のコンビネーション③発展

14. 試験のアンシェヌマン
  15. 試験、総括
  - 第1～15回(前期)に加えてアレグロ・グランワルツ
  16. アレグロ・グランワルツ①基本
  17. アレグロ・グランワルツ②体の使い方
  18. アレグロ・グランワルツ③応用
  19. アレグロ・グランワルツ④綺麗に魅せる
  - 第20回以降フルレッション、バリエーション、上級者はトウ・シューズ
  20. 体の使い方①基本
  21. 体の使い方②応用
  22. 体の使い方③発展
  23. 体の使い方④綺麗に魅せる
  24. 体の使い方⑤音楽に合わせて
  - 第25回以降フルレッション、簡単なパド・ドゥ
  25. 体の使い方①基本
  26. 体の使い方②相手への気遣い
  27. 体の使い方③応用
  28. 体の使い方④音楽に合わせて
  29. 試験のアンシェヌマン
  30. 試験、総括
- 順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性があります

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着(レオタード・タイツ)を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

- ①授業への取組み・授業の状況40%②課題に対する成果30%③期末試験30%を総合的に100点満点で評価する。
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 舞踊B (コンテンポラリー)

授業形態 実技 (GL)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1

担当教員 勝倉 寧子

実務経験

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

経験の有無に関わらずコンテンポラリー・ダンスに興味があり、身体表現の習得に意欲的であること。

### 授業の概要

同時代のダンスという意味のコンテンポラリー・ダンスは、バレエにはない動きで表現の幅を大きく広げたモダンダンスよりもさらに新しい、最先端を行くダンスである。スキルフルで洗練され、アクロバティックで重力を利用した美しい脱力特徴的。舞台芸術の中でも心とからだの密接な関係を深く実感できる実に魅力的な身体表現である  
コンテンポラリー・ダンスの中でも、バレエ、ジャズ、ストリート、舞踏等あらゆるダンスを理解した上に成り立つ技法は、音楽、演劇における身体表現に結びつく可能性を非常に多く含んでおり、舞台表現の質の向上にも大いに有効である。  
この授業では、まずコンテンポラリー・ダンスのトレーニングを積み重ねることからだを意思どおりにコントロールできる能力を養う。この後段階を踏みながら更なる技術のスキルアップを図りつつ身体表現に最も重要かつ必要な要素を取り上げてそのテーマごとに実践を積み重ね、応用へと発展させていく。

### 授業の到達目標

- ・コンテンポラリー・ダンスの理解を深め、その技術を習得できる。
- ・プロの俳優として通用するからだをつくることができる。
- ・演じる上で、身体を使った感情表現がスムーズに行うことができる。
- ・プロの演出家、振付家の要求に対応し得る基礎技術、応用力を身に付けることができる。
- ・豊かな発想を生み出す創造力を養い、説得力のある寝台表現を可能にすることができる。
- ・自作自演を可能にする創作力、演出力を身に付けることができる。

### 授業計画

- 基礎トレーニング
1. ストレッチ&リリース、呼吸法と筋力強化(インナー、アウター、体幹)
  2. フロアワーク…スウィング&リリーステクニック
  3. アライメント…姿勢の矯正、正確なポジショニング
  4. 重力のコントロール…フォール&リバウンド、リカバリー、サスペンション
  5. 動きのリーダー…ポイントの設定と体の使い方
  6. 重心移動①ステップバリエーション、スウィング(スタンディング) テ

- クニック
7. 重力移動②フロアテクニック+ジャンプ&ターン
  8. 様々なテクニックの組み合わせによる3次元的空間使い

応用、基礎トレーニングに加えて、下記の内容を単独、または他のテーマとクロスフェードしながら取り上げ習得していく

9. フレーズを踊る①振付された動きによる身体表現の実践
10. フレーズを踊る②舞台空間の使い方、緩急の配分、他者との関わり
11. プロップ(小道具)を踊りのパートナーとして用いるダンスの実践
12. 感情を伴う表現…音楽、シチュエーション設定による実践、内面(こころ)と動き(からだ)の演出上有効な距離選択法
13. インプロビゼーション…即興力、新しい動きの開発、手がかりとなる手法
14. 創作…振付力の向上、個性、独創性の発見、課題に対する創作の実践
15. 総括、学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

毎回授業で学んだテクニックは、次回のステップアップに繋がるよう最大限の復習に努めること。  
日頃から創作の材料となり得る音楽やテーマの情報収集に積極的であること。

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。授業は基本的にシューズを履かずに行う。

### 成績評価

- 受講態度50%、課題に対する評価50%を総合的に評価
- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に理解し、それらを的確に使い優れた身体表現を実現することが出来る)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項を十分に理解し、それらを明確に表現し応用できる身体表現を持っている)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項をほぼ理解し、それらを明確に表現し応用できる身体表現を持っている)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項をある程度理解し、身体表現能力に向上が見られる)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項の理解に欠け、身体表現能力に向上が見られない)

科目名 舞踊C (日舞)

授業形態 実技 (GL)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1

担当教員 藤間 希穂

実務経験 ー

期間 後期

他専攻  ※

### 履修条件

- ①日舞I・IIを履修済み、同等のスキルがある、授業進行を遂行できるのいずれかに該当する方。
  - ②稽古着は浴衣を含む和服、足袋着用、舞踊扇子持参の上参加。
  - ③授業時間外も課題の稽古に取り組むこと。  
(目安：週2～3時間程度(個人差あり))
  - ④授業時間内は必ず時計・アクセサリを外し、肩まで届く髪の長さがあれば必ず結うこと。
  - ⑤授業内に座学と実技があるが必ず両方参加のこと。
  - ⑥遅刻・欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。
- ※他専攻学生が履修する場合は、芸術科演劇専攻科目「日本舞踊II」を修得していること。

### 授業の概要

- ・古典芸能日本舞踊(藤間流)の実技・知識の習得及び創作の作成・発表。本科で学んだ古典舞踊の基本を元に、歌舞伎所作舞踊として広く知られている「汐汲」「越後獅子」全段学習する。難解な歌詞とハイレベルな振りに加え、三段傘や手桶、一本歯の下駄、晒、竹などの多彩な小道具を使いこなし情景描写・心理描写を描く。一方創作舞踊はテーマを決定し構想、音源作成、振付等学生自ら行い発表する専攻科オリジナルメニュー。本科で古典の基礎を学び古典の実力のある方対象のチャレンジメニューでもある。座学はより現場に則した舞台行儀や日本舞踊をより深耕する知識を学ぶ。

曲目

立方(たちかた) 長唄「越後獅子」

女形(おんながた) 長唄「汐汲」

創作 テーマを決定し構想、音源作成、振付等学生自ら行い発表する

### 授業の到達目標

- ・座学を元にした筆記試験にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を舞台で発表できるスキルを身に付けることを目標とする。
- ・授業態度では「成果を生む」ことを前提とした行動ができる。
- ・コミュニケーションシートでは全体課題の抽出、課題解決提案を示すことができ、それを実行及び言語表現できる。

### 授業計画

1. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマ設定
2. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマに基づく構成①
3. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマに基づく構成②
4. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作テーマに基づく構成③
5. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作音源選定
6. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作音源編集
7. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付①
8. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付②
9. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付③
10. 座学/長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付④
11. 長唄「汐汲」「越後獅子」振り写し/創作振付⑤
12. 長唄「汐汲」「越後獅子」フォーメーション/創作フォーメーション①
13. 長唄「汐汲」「越後獅子」フォーメーション/創作フォーメーション②
14. 座学プレテスト/長唄「汐汲」「越後獅子」リハーサル/創作リハーサル
15. 座学テスト/長唄「汐汲」「越後獅子」本番/創作本番

### 授業時間外の学習

- ・古典では決まった曲と振りの中でも産み字を工夫するなど稽古しアイトンティティを確立する。
- ・創作ではテーマや振りや構成はもとより、お客様を楽しませるためエンターテイメント性を持てるように稽古する。
- ・個々の能力が集まることにより、一体感と説得力のある演目になるように稽古する。

### 教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

### 成績評価

- ・出席・実技試験・授業態度(取組み)を総合して満点100点にて評価。(点数配分 出席：30点 実技試験40点 授業態度30点)
- S 100点～90点 A 89点～80点 B 79点～60点
- C 59点～50点 D 49点以下

科目名 ミュージカル唱法

授業形態 実技 (GL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 藍澤 幸頼

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

- ・暗譜して授業に出席する。課題の練習に積極的に取り組む。最終段階において、衣装髪型なども含め、工夫をいとわない。遅刻厳禁(芝居の稽古同様)。

### 授業の概要

- ・オーディションや人々の前で、歌を披露することを前提にミュージカルナンバーを学ぶ。
- ・多数のミュージカルナンバーを聞いて、役で歌うことを意識し、解釈まで掘り下げる。
- ・自分自身のキャラクター・音域を意識し、役割オーディションにおいて適切な役を選定する知識を身に付ける。
- ・唄う基礎的な力(体の使い方・呼吸法・発声)を確認する。
- ・期末に発表会を実施し、実技試験とする。

### 授業の到達目標

- ・自分にあった、ミュージカルのスタンダードナンバーを創り、いつでもオーディションなどに対応することができる。

### 授業計画

(前期)

1. 自分で用意した、短い台詞/歌をひとりずつ披露する。
2. 台詞を言うことと唄うことの違いについて考え、批評する①
3. 台詞を言うことと唄うことの違いについて考え、批評する②
4. 体の使い方・呼吸法・発声を確認する
5. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する①
6. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する②
7. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する③
8. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する④
9. 各自が選んだ新曲を演技しながら唄い、考え、批評する①
10. 各自が選んだ新曲を演技しながら唄い、考え、批評する②
11. 各自が選んだ新曲を演技しながら唄い、考え、批評する③
12. 各自が選んだ新曲を演技しながら唄い、考え、批評する④
13. 前期まとめと共にオーディション用紙の記入について学ぶ
14. 公開試験 ゲネプロ
15. 公開試験

(後期)

1. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する①
2. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する②

3. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する③
4. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する④
5. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する⑤
6. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する⑥
7. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する⑦
8. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唄い、考え、批評する⑧
9. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ①
10. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ②
11. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ③
12. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ④
13. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ⑤
14. 公開試験 ゲネプロ
15. 公開試験

※講義内容に関しては、学生個々に応じた教材を与えるため、学習速度は必ずしも授業計画に沿った学習速度とは限らず、また内容を変更する可能性もある。

### 授業時間外の学習

暗譜 映画・舞台・CD・DVDなどできるだけ音楽に触れる。

### 教科書・参考書等

- ・譜面は自分で用意(応相談)
- ・Richard Walters「THE SINGER'S MUSICAL THEATRE ANTHOLOGY」(HAL・LEONARD)

### 成績評価

- ・授業への取り組み・態度(積極性、事前準備など)50%、実技試験50%を元に総合的に評価する。
- S 90点以上 A 80点以上 B 60点以上
- C 50点以上 D 49点以下

科目名 英語劇

授業形態 演習(理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 James Sutherland

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

Welcome to the English Theatre course. Here we look at techniques and approaches to theatre making used in contemporary Europe and increase our knowledge English language ability. Punctuality is important, please arrive before class starts, black loose fitting clothing is recommended, we will also be working with no shoes and socks.

### 授業の概要

"Life is a tragedy when seen in close-up, but a comedy in long-shot." -Charles Chaplin  
This workshop proposes a journey through three major styles of theatre and the discovery of their specific dynamic and richness. It is a creative process based on questions and provocations. At the heart of the process is the pleasure of play... and the freedom of the actor to discover his or her own beauty.

前期：ギリシャ悲劇

As an actor, you will gradually discover with what rhythm, what color, what substance, what material you like to move. You will discover your limits and your freedom. And it's time for a thunderous entrance with your Greek Tragedy. Being big, walking without losing one's marvellous aura, displaying a tremendous charm, being happy to have been singled out by the gods and to have had inscribed above one's head a unique and iniquitous destiny, is not all this the source of extreme pleasure for the hero? The challenge for the actor is how to match the dimension of the tragic chorus facing him/her. What is at stake is a dimension beyond human realm, in contact with the Gods and the cosmos above. Students will be working both individually and in groups to explore movement analysis, the language of movement and the work of the Neutral mask, a tool that helps to serve as a point of departure into any character and helps to make actors authors of space. Actors will also be working with Tragic texts and performing them in small groups. The course introduces exercises which will prepare students to create their own devising process. These exercises help develop a devising reflex. The course is designed to stimulate curiosity and pose questions. It aims to show how to achieve the progression from small improvisations, games and exercises to tackling larger topics, themes and improvisations.

後期：シェイクスピア

Laughter has this particular subversive function to put the world upside down, to make us convulse with laughter and have a look on the other side of the world, the comic side, and to help us accept the tragedy of the human condition. This workshop proposes to explore the territories of comic and tragic, an intense walk between tensions and contradictions. Clown plays with the public, not for it. Clown is based on the person, not the acting ability. The clown creates relationships with the 4th wall - the public. When he is in the difficult spots and fails, it is called a Flop. When he accepts it then comes laughter from the public and the start of a chain reaction. More flop, more laughter, etc. In which direction does that dynamic move? The answer is in the work. Every session we will start working with the physical training. The way of working is based on improvisations. This will be physical and verbal. There will be a moment every session for the participants to work on their own and there will be a presentation of the result of their work.

### 授業の到達目標

1. Learning theatre vocabulary in English
2. Learning how to use the voice and body to increase expressivity
3. Learning more about history and context of actor training in Europe in English

### 授業計画

(前期)

1. Games Intro exercises
2. Games Neutral Mask, movement qualities, text work.
3. Games Neutral Mask, movement qualities, text work.
4. Games Neutral Mask, movement qualities, text work.
5. Games Scene work, movement qualities, text work.
6. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. Scene work
7. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. Scene work
8. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. Scene work
9. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. Scene work
10. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. Scene work
11. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. Scene work
12. Performance/presentation The Journey
13. Games Scene work/Rehearsal
14. Performance/presentation The Chorus
15. Conclusion/feedback

(後期)

1. Intro exercises: Imagination and collective investigation.
2. Clown exercises intro
3. Approaching Shakespeare: The scenes. The rehearsal process.
4. Clown Scene work Understanding the words, rhythm and architecture
5. Clown Scene work Understanding the words, rhythm and architecture
6. Clown Scene work Time: literal time and sensual time.
7. Clown Scene work Exercises to reveal literal time.
8. Clown Scene work Understanding characters and references
9. Clown Scene work Understanding characters and references
10. Clown Scene work Seeming and being/Tension
11. Clown Scene work: Tension
12. Clown exercises Rehearsals
13. Rehearsals
14. Performance/Presentation.
15. Conclusion

### 授業時間外の学習

Students practice in groups outside of class and memorize own work individually

### 教科書・参考書等

The teacher provides all the material.

### 成績評価

S +90 A +80 B +60 C +50 D below 49

科目名 歌唱(個人レッスン) I~P

授業形態 実技(PL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2/1

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

講師と1対1の個人レッスン。声や歌に対して興味のある者、成長したいという意欲のある者。

### 授業の概要

個人レッスンのためその担当の講師により細かい内容は異なるが、声や歌の向上に繋がるレッスンを重ねる。

### 授業の到達目標

- 音程や発音を正しく、身体を使って発声できる。
- 表現者として感動を与える表現を伴った歌を歌うことができる

### 授業計画

各講師に委ねられるが声や歌に関することを学ぶ。身体の使い方から声の出し方、声のケアの仕方、歌の表現法などを学びながら最後の個人歌唱の試験を迎える。

### 授業時間外の学習

毎日の練習。曲への理解。他の音源を聴いて学ぶ。沢山の情報を得てその曲を深めていく。

### 教科書・参考書等

担当学生に合うと思われる各講師の用意した曲、あるいは学生が用意した曲を講師と相談して使用。

### 成績評価

学期末に個人レッスン担当の講師が揃った中、一人で披露し、講師全員で得点をつけた後、その平均で評価する。

- S 講師の平均が90点以上
- A 講師の平均が80点以上
- B 講師の平均が60点以上
- C 講師の平均が50点以上
- D 講師の平均が49点以下

科目名 劇上演実習A①

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②

8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習A②

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 三浦 剛 他

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

自主上演の場合、劇作、演出、キャスト、スタッフとして、一本の作品を完全上演し、演劇制作の能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②

8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習 B

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 井田 邦明・ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②

8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習 C(専1最終公演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 4

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

なおこの公演は、調布市せんがわ劇場において調布市の指定事業として行われるものである。そのことを十分に理解し、さまざまな事情にも十分配慮した進行に貢献することが求められる。学内での劇上演よりも尚一層の努力と意識の向上を目指す。

この実習では、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
  8. 立ち稽古③
  9. 立ち稽古④
  10. 舞台の仮組み
  11. 舞台稽古①
  12. 舞台稽古②
  13. 舞台稽古③
  14. 本番
  15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する
- 作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習D(修了公演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 4

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじる。専攻科修了に必要な単位数を確保した学生のみ受講することができる。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

なおこの公演は、調布市せんがわ劇場において調布市の指定事業として行われるものである。そのことを十分に理解し、さまざまな事情にも十分配慮した進捗に貢献することが求められる。学内での劇上演よりも尚一層の努力と意識の向上を目指す。

この実習では、修了後演劇活動に従事することを想定し、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

修了公演にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する  
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習E/F(学外出演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

プロの公演、映画等への主役・準主役での出演。ただし、学内の劇上演実習での40日間の稽古時間と同等の学習の意義の認められる上演内容であり、同等の稽古環境であり、同等の学習成果が認められる場合のみ単位認定は可能。スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任をもって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

学業を進めることが損なわれるような現場の日程、要求がされることがないか、事前に十分確認すること。学外出演する学生の単位認定や扱いを、他の学生とは例外扱いしたり、特別優遇するようなことはないので、重々どのような条件の参加になるのか事前に確認して臨むこと。

### 授業の到達目標

プロの公演、映画等に通用する実践力を養う。さまざまな現場のスタッフ、共演者、関係者との共同作業を通して、協調し、協力する態度を可能にする表現力や日常的な心構え、表現者としての高い意識を獲得する。座組の一員としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

一流の演出家・俳優等との仕事を通じ、プロとしての意識を養い、現場に通用する演技力を身につける。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①

5. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み あるいは撮影セット内でのリハーサル
11. 舞台稽古① あるいはリハーサル①
12. 舞台稽古② あるいはリハーサル②
13. 舞台稽古③ あるいはリハーサル③
14. 本番 あるいは撮影
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する  
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習G(学内出演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)を提示。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

学内の実習(他専攻の実習・演習を含む)への出演者としての参加。ただし出演依頼を授業担当教員から受けた場合に限り。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任もって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

さまざまな実習、演習に出演者として参加し、さまざまな関係者、出演者、スタッフと協調し、協力する態度を可能にする表現力を養う。本番の出演者としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

学内の実習(他専攻の実習・演習を含む)に出演者として参加し、協調し、協力するプロセスを通じて表現力を養う。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する  
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なためだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 修了論文

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

専攻科1年次より修了論文を書きたいものは受講、ないし相談すること。

### 授業の概要

修了論文を提出するための授業となるので、毎週一度、話し合ってテーマなどを決めて、2年間の指導を受けながら論文を書き、提出するものである。平常の授業ではないので、週に一度各自の時間を決めて、個別に相談をして提出する。修了論文要綱は、後日掲示されるものによって書くこと。

修了論文の提出締切は12月末、口答試問は翌年2月上旬を予定している。なお、修了論文にて学位申請を考えている学生は別途、提出締切、口答試問の日程を担当教員に確認すること。

### 授業の到達目標

4年間の成果として、一つの論文によって深く洞察された研究テーマを基とした論文を書くことができる。今後の社会生活における内省や活動をする際の礎となるものとして、または演劇活動をするための試金石となるものを期待する。

### 授業計画

1. テーマについて
2. テーマとは何か
3. 批評的視点としてのテーマ
4. 書き出してみる
5. 第一章①
6. 第一章②

7. 第一章③
8. 第二章
9. 第三章①
10. 第三章②
11. 第三章③
12. 参考文献
13. 注のつけ方
14. まとめ①
15. まとめ②

### 授業時間外の学習

毎週、少しずつ必ず書いていくことが求められる。

### 教科書・参考書等

とくにない。それぞれのテーマにあわせて適時推薦する文献を読む。

### 成績評価

卒業論文の評価100%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)  
A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)  
B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)  
C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)  
D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

## 教職科目

科目名 音楽科教育法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宇佐美 博子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

1. 音楽科教育の歴史や学習指導要領の内容について理解する。
2. 教材研究の活動によって、音楽科教育の方向性や学習指導の基礎的方法について理解する。
3. 教育者に求められる表現力、コミュニケーション力、共感性について教材研究を通して体験的に学習する。

### 授業の到達目標

1. 公教育における音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習指導の基礎的な方法を、身に付けることができる。
2. 教材研究を通して、音楽科教育の目指すべき方向性について理解できる。
3. 教育者に求められる表現力、コミュニケーション力、共感性が身に付き、教育実習などに生かすことができる。

### 授業計画

1. 音楽科教育の意義
2. 音楽教育と音楽科教育の意義
3. 我が国の音楽科教育の変遷①明治から昭和初期
4. 我が国の音楽科教育の変遷②昭和中期から現在まで
5. 中学校学習指導要領・音楽①表現領域
6. 中学校学習指導要領・音楽②鑑賞領域
7. 共通事項、指導と評価の一体化
8. 学習指導案の書き方
9. 歌唱における教材研究
10. 器楽における教材研究

11. 創作における教材研究
12. 鑑賞における教材研究
13. 我が国の伝統音楽における教材研究
14. 世界の諸民族の音楽における教材研究
15. まとめと振り返り

### 授業時間外の学習

授業内容の予習、復習を行う。  
授業で指示された教材研究を行う。  
それらを活用して授業構成を進める。

### 教科書・参考書等

教科書：文部科学省編「中学校学習指導要領解説音楽編」教育芸術者発行 2018  
教科書：中学校音楽教育研究会編「最新中学校音楽教育法[改訂版]」音楽の友社 2011

### 成績評価

講義中の発表、レポート、授業後のリフレクションペーパー、模擬授業への取り組み  
S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。  
A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが良好だった者）。  
B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。  
C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。  
D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート、リフレクションペーパー未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 教育史概説

授業形態 講義

対象 教職2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮城 哲

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

広義には、人類の歴史とともに古いともいえる「教育」という営為について、その理念や制度などの歴史的な変化を概観し、教育について歴史的に考える上で必要な基礎的知識を得ることをめざす。  
具体的には西洋と日本の近代以降の教育の流れを中心に（近代以前の教育も簡単に確認する【授業計画】2）、それらの理念や制度の変化を歴史的に概観し（【授業計画】3～9）、また、現代的な課題についても、その歴史的な経緯をふまえながら考えてもらう（【授業計画】10～14）。視聴覚資料をはじめさまざまな史・資料などにふれ、教育を具体的に考える基礎的な知識を身につける。

### 授業の到達目標

授業で扱った史・資料などを理解し、教育史についての基礎的な知識を習得し、その知識を活かして現代の教育の課題を考えるうえで役立てることができるようになること。

### 授業計画

1. はじめに：教師（教職）の社会史から
2. 近代以前の教育：西洋と日本
3. 近代の教育の理念：子どもの発見（ルソー『エミール』など）
4. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ①西洋（産業革命から子どもの世紀へ）
5. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ②日本①（福澤諭吉『西洋事情』と学制）
6. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ③日本②（教育勅語体制の成立と展開）
7. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ④日本③（大正デモクラシー～戦時下の学校・教育）
8. 戦後の教育改革の理念と制度
9. 経済成長と教育～現代の教育へ
10. 現代の教育とその課題①不登校
11. 現代の教育とその課題②学力
12. 現代の教育とその課題③いじめ

13. 現代の教育とその課題④体罰
14. 現代の教育とその課題⑤共生（シティズンシップ教育）
15. まとめ：卒業式ソングの今・昔から

### 授業時間外の学習

授業で資料などを配布し、あわせて参考文献等も提示するので、それらを参考にそれぞれのテーマに関する文献を授業後に読むことを期待する。私たちは過去のことを知るためだけでなく、現代の教育の課題について深く考えるためにも教育史を学ぶ。そのため授業外の時間にも、常に教育にかかわることに関心をもってもらいたい。ニュースや新聞など時事的な話題や映画や文学作品などのなかにあらわれる「教育」にも普段から関心を向けること。

### 教科書・参考書等

【教科書】特になし（授業でレジュメ、資料などを配布する）。  
【参考書】  
・森川輝紀・小玉重夫編『教育史入門』放送大学教育振興会、2012年  
・斉藤利彦・佐藤学編『新版 近現代教育史』学文社、2016年  
・片桐芳雄・木村元編『教育から見る日本の社会と歴史（第2版）』八千代出版、2017年

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・学期末課題の結果を総合的に判断して行う。  
S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが優れかつ秀でた者）。  
A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが優れた者）。  
B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みがほぼ良好だった者）。  
C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。  
D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 教師論

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 野間 哲

実務経験 一

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。将来、「教師」を目指したい者、教師ではないが「教える」ということを学びたい者、人間関係を学びたい者など。

### 授業の概要

教育者として知っておかなくてはならない知識、常識、感覚、ノウハウをコンパクトにまとめながら、実例を示し、実践的に指導する。音楽教室講師や演劇講師としても役立つ様々な素養も養う。生徒や保護者との接し方など、微細なノウハウを具体的に指導する。教えることの意味と実務、技術を学ぶ。

### 授業の到達目標

教師としての幅広い基礎知識、自覚・態度を身につけ、基本指導のためのノウハウを知り、これからの活動に応用できる。

### 授業計画

1. 導入
2. 教壇に立つことだけが教師じゃない? 自主活動との両立とは? 「教える」という仕事の基礎知識。
3. 教育法規(教育基本法・学校教育法) 法律は子どもを守り、教師も守る。モンスターペアレンツとは。
4. 著作権(文化庁)・音楽著作権(JASRAC)について 無知では済まされない表現者の権利と責任。
5. 学習指導要領 ガイドラインを知ってこそその教育者 オリジナリティと暴走の違いを知る。
6. 社会教育・生涯教育・同和教育 家庭教育、社会教育がなければ学校教育は成立しない。
7. 「個性と連携プレイ」 職員室の中では何が行われているのか。
8. 「授業準備は命がけ」 教師が学ばずして生徒は教えられない。

9. STOP! THE 「バワハラ・セクハラ」。生徒と教師の大事な一線。暴力は「しかる」ではない。
10. 「いじめを考える」人は自分は差別されたくないが、人を差別したがる動物である。
11. 「不登校を考える」みんなと同じことができなくてもいいんじゃない? の発想。
12. 「現場主義」パソコンと向き合うか、生徒と向き合うか。事務屋教師にならないすめ。
13. 「危機管理」どこに危険が潜んでいるかわからない! 予測と事前準備。ヒヤリハット予防術。
14. 「感動の仕事」かけがえのない人間体験、打ち震える感動、それが教師である。卒業という宝物。
15. まとめ

### 授業時間外の学習

日頃から、ニュース、新聞等メディアから得られる教育問題に、関心を持つようにする。関連図書の読書も励行すること。

### 教科書・参考書等

毎回、資料提供はこちらで行う。

### 成績評価

提出物の成果によって判断をする。レポート課題など。評価テストは行わない。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 教育原理

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 木村 康彦

実務経験 一

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

本授業は、公教育の理念、原理、歴史及び現行制度の枠組みを軸として踏まえながら、現代社会で教育が果たしている役割を考察するために必要な基礎的な理解を得ることを目的とするものである。「公教育や学校とは何か」という根源的な問いに始まり、現在も進められている様々な教育改革、不登校やいじめなどの深刻な教育課題、学校教育以外の幅広い教育機会の方向性、地域社会などとの連携・協働や学校安全対応について、社会的・制度的側面から取り上げながら、考察を深めていく。特に、現代の社会変動がもたらしている複雑な教育課題については、具体的な政策や取り組み事例を参照しながら検討する。

なお、授業は基本的に講義形式で進めていくが、コメントシートを毎回配付して小レポートを課し、授業の理解度を確認するとともに、受講者と担当教員との間で双方向的にやり取りをしながら、授業を作り上げていく。また、授業中に数回程度、映像資料を活用する。

### 授業の到達目標

学校教育の専門家として必要な知識と教養を総合的に身につけ、教育に関わる事象を客観的に自らの力で判断することができるようになること。また、地域社会との連携や学校安全対応を含めた公教育をめぐる様々な教育課題を理解して、社会的・制度的側面から自分なりの答えを理論的に導き出せること。

### 授業計画

1. オリエンテーション 公教育の原理と思想背景
2. 学校の歴史①近代の学校とその理念
3. 学校の歴史②近代公教育制度の成立と意義
4. 学校の歴史③学校教育制度の確立と戦後教育改革
5. 教育法規と教育行財政 教育法体系と中央・地方教育行政の仕組み
6. 教育課程と教育評価 学習指導要領の変遷 / 成績評価と学

校評価

7. 諸外国の教育制度と教育改革 各国の教育制度と国際学力試験
8. 現代社会の教育課題 不登校/いじめ
9. 社会変動と教育 選抜と競争/子どもたちの貧困
10. 生徒理解と教育支援 特別支援教育/発達障害/性的マイノリティへの対応
11. 学校外の教育活動 フリースクール/生涯学習/社会教育/家庭学習など
12. 教育ガバナンスの動態 地域社会やNPO法人などとの連携・協働と開かれた学校づくり
13. 学校運営と学級経営 校務分掌と校則/懲戒/体罰
14. 学校安全と危機管理 学校事故と災害対策に向けた安全教育
15. これからの教育 まとめ

### 授業時間外の学習

普段から、「教育」や「学校」に関する新聞記事やニュースに触れておくこと。授業内に、関心のある最新の教育動向を話題として取り上げてもらう場合もある。また、参考書や授業内で配布したプリントを見返して、復習に努めること。

### 教科書・参考書等

教科書: 特に指定しない。必要に応じて、資料をプリントで配付する。

参考書: 汐見稔幸・伊東毅・高田文子・東宏行・増田修治(編著)『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。  
島田和幸・高宮正貴(編著)『教育原理』ミネルヴァ書房、2018年。

### 成績評価

授業中の取り組み(20点)、小レポート(30点)、期末レポート(50点)で点数化し、S(90点以上)、A(80~89点)、B(60~79点)、C(50~59点)、D(50点未満)の5段階で評価する。ただし、正当な理由なく出席日数が授業時数の3分の2に満たない場合は、評価の対象としない。

科目名 教育心理学

授業形態 講義

対象 教職 2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 敦子

実務経験 一

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

子ども、生徒に何かを教える際、教える側は「教えた」のだからそれが正しく相手に伝わっているはずだと思いがちになる。相手が教えたことをできないのは相手がちゃんと聞いていなかったか、理解する努力が足りなかったためだと主張したくなる。しかし、実は教える側と教えられる側の間にはそれぞれの常識では考えられないような理解がなされている。「教える」ことは教える内容が充実してさえすればいいわけではなく、相手の理解プロセスも考慮する必要がある。本授業ではこの点を踏まえ、心理学的に探究する。

### 授業の到達目標

中等教育まで受けてきた授業で、自分が理解しやすかったもの、あるいは理解しにくかったもの、それがなぜなのか解明する手がかりがつかむことができる。

いくらかでもその「謎」が分かれば教える立場に立つとき自信が持てると考える。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 発達①生得性と学習 赤ちゃんDVD
2. 発達②生得性と学習
3. 発達③ピアジェの発達課題
4. 発達④誤信念課題
5. 教授①何が学習か

6. 教授②計算のバグ
8. 教授③文章問題のバグ
9. 教授④見ればわかるか
10. 教授⑤見ればできるか
11. 教授⑥情報処理アプローチ 地球は丸い?
12. 発達障害①読字障害
13. 発達障害②自閉症スペクトラム児の学習
14. 発達障害③自閉症スペクトラムの世界
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

新聞等で「授業」「学習」「心理」などの項目を注意深く読むこと。

### 教科書・参考書等

授業時にその都度プリント等を配布する。

### 成績評価

授業への取り組み・受講態度50%、試験・レポート50%。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、試験未受験者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 特別支援教育入門

授業形態 講義

対象 教職 1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 趙 成河

実務経験 一

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修

### 授業の概要

本授業は、講義とグループディスカッションを通じて、特別支援教育に係る基礎的事項を理解し、教育現場において特別なニーズを有する生徒に遭遇した時、適切に対応できるようになることを目標とする。

具体的には、特別支援教育の理念と制度およびインクルーシブ教育との関係（第1、2回）、障害種別の理解と支援方法（第3～8、14回）、教育課程（第9、10回）、組織的な対応方法（第11～13回）の4つの観点で学習していく。

### 授業の到達目標

特別支援教育の理念と制度を理解できる。

特別支援教育とインクルーシブ教育の関係を理解できる。

障害等の理由により特別の支援を必要とする生徒の学習上又は生活上の困難を理解できる。

個別の教育的ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に支援する方法を理解できる。

個別に提供される合理的配慮とその前提となる基礎的環境整備について理解できる。

上記の理解を踏まえ、教育者としての自らの在り方を考察できる。

### 授業計画

1. 特別支援教育の理念と制度の全体像
2. インクルーシブ教育を巡る現状と諸課題
3. 知的障害の理解と支援
4. 発達障害の理解と支援①ASD
5. 発達障害の理解と支援②ADHD
6. 発達障害の理解と支援③LD

7. 視覚障害・聴覚障害の理解と支援
8. 肢体不自由・病弱・言語障害の理解と支援
9. 特別支援の教育課程①自立活動
10. 特別支援の教育課程②通級による指導
11. 個別の指導計画の策定とその意義
12. 個別の教育支援計画の策定とその意義
13. 特別支援教育コーディネーター・関係機関・保護者との連携とその留意点
14. 障害以外の特別なニーズを有する子の現状と対応
15. 学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

授業中に示す要点を確実に習得するよう復習しておくこと。

### 教科書・参考書等

【教科書】 特になし（授業でレジュメを配布する）

【参考書】 小林秀之・米田宏樹・安藤隆男編著『特別支援教育：共生社会の実現に向けて』 ミネルヴァ書房（2018）

### 成績評価

- 授業への取り組み（20%）と授業内試験の結果（80%）を合わせて、総合点を算出する。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、教育者としての自らの在り方を的確に考察できている者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、教育者としての自らの在り方を検討できている者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容を一定以上理解し、教育者としての自らの在り方を検討できている者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、考察が不十分である者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容の理解、考察が著しく不十分である者）

科目名 教育課程論及び教育方法論

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 宇佐美 博子

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

学校の教育活動全般を規定している教育課程に関する基本概念の理解をふまえて、授業作りの基礎を学び、教育課程について理解を深める。教育課程はどこで決定されるのか、教育課程を編成し実施する際に、学習指導要領はどのような役割を果たすのかについて理解する。教科学習を通して情報活用能力を育成する方法と情報モラル教育の方法について理解する。

### 授業の到達目標

1. 教育課程の基本概念を明確に説明できる。
2. 戦後の学習指導要領の改訂を時代の変化と照らし合わせて説明できる。
3. 現代の日本の幼稚園・小学校・中学校の教育課程の編成方法、カリキュラム・マネジメントについて説明できる。
4. 求められる資質・能力をはぐむための教育の方法、技術、情報メディアと教材の活用ができる。

### 授業計画

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 現在日本の教育課程、基本用語の関係
3. 教育課程と学習指導要領
4. 教育課程に関する諸法規と編成
5. 教育課程の類型と教育課程編成の方法
6. 学校における授業の構成と学習の成立要件
7. 学習目標の明確化と効果的な授業設計の方法
8. 教材研究の方法と授業展開の方法
9. 学習展開を促進する板書技術と学習者に働きかける発問と応答の教育技術
10. 授業観察・記録・分析による授業評価・改善の方法と教師の力量向上

11. 新学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びを実現する
12. 教科学習を通して情報活用能力を育成する方法と情報モラル教育
13. 特色あるカリキュラム教育
14. カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価
15. 教育課程と教育方法及び教育技術並びに情報機器の活用や教材についての学びを振り返る、学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

毎時の授業の復習・予習を行うことによって授業内容の理解を深める。

### 教科書・参考書等

【テキスト】中学校学習指導要領解説 総則編(平成30年 文部科学省)

【参考書】 適宜資料を配布する

### 成績評価

授業内テスト70%、プレゼンテーション10%、小テスト10%、リフレクションペーパー 10%

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未受講者、リフレクションペーパー未提出、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 道徳教育の理論と方法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 岡本 直久

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修

### 授業の概要

小中学校に於ける「道徳」の教科化に伴い、又アクティブ・ラーニング等の新たな学習(指導)の方式が導入される他教科に足並みを揃えるかのように、道徳の学習形態も、これ迄の文章教材を主とする流れからの脱皮が要請されている。

道徳が単なるマナーの域に留まらず、「正しい」とは何か、という人間が避けることの出来ない根本命題の中にあることを踏まえ、現時点で考えられる教材と、それによって考えられる教材と、それによって考えられる道徳的達成の具体像を探っていく。

### 授業の到達目標

我が国の道徳教育の歴史の流れを明確に把握し、これからあるべき道徳教育の姿を明確に意識できる。

### 授業計画

1. 道徳の意味の確認
2. “正しい”状態の理解
3. 映像教材の可能性を探る①前半
4. 道徳教育の歴史と文章教材
5. 文章教材の限界と出会う
6. 音声教材の可能性を探る
7. 映像教材の可能性を探る②後半
8. 道徳教育実践の課題に直面する

### 授業時間外の学習

道徳が対象とする基を人が人間関係であることを踏まえ、所謂人間観察の機会を逃さず、事実と考察を記録すること。その成果は、講義の際の資料として集約する心算りである。

### 教科書・参考書等

書物は特定しない。その都度プリントその他で配付するものを使用する。

関連書物・参考文献等は、授業の中で紹介する。

### 成績評価

各回の講義への取り組み

- S 以下のAの観点総てに就いて際立った成果を見せる  
A 講義内容に対する自己の立場を具体的に表明できる  
理解を示す表現力がある  
各回の講義への取り組みが充実している  
講義内容を正確に把握している  
B 理解を示す表現力がある  
各回の講義への取り組みが充実している  
講義内容を正確に把握している  
C 各回の講義への取り組みが充実している  
講義内容を正確に把握している  
D 上記の条件を満たしていない

科目名 総合的な学習の時間の指導法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 宇佐美 博子

実務経験 一

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

1. 総合的な学習の時間の目標や年間指導計画作成の考え方、単元計画の作成等について、グループで検討しながら理解を深めていく。
2. グループごとに単元計画を作成し、主体的・対話的で深い学びが実現できる探求的な学習の指導と評価の在り方を身に付けるようにする。

### 授業の到達目標

1. 当該科目の目標及び内容
  - (1) 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標を定める際の考え方を理解できる。
  - (2) 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。
  - (3) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。
2. 当該科目の指導方法と授業設計
  - (1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割、育成する資質能力等をテキストや具体的事例を基にして理解できる。
  - (2) 他教科等との関連を図った年間指導計画作成の考え方や主体的・対話的で深い学びの実現を図る探求的な学習の進め方について、具体的な事例を通して検討し、理解できる。
  - (3) グループごとの単元計画の作成・考察を通して、指導と評価の考え方を身に付けることができる。

### 授業計画

1. 導入(本講座の目標や内容、授業の進め方や評価の仕方などについて)
2. 総合的な学習の時間の意義や目標設定の考え方を理解する。
3. 各学校で目標及び内容を定める際の留意点を理解する。
4. 各教科等との関連を図った年間指導計画の具体的事例を検討する。
5. 各教科等との関連を図った年間指導計画の作成の考え方を理解する。
6. 主体的・対話的で深い学びを実現するような、単元計画の事例を検討する。

7. 単元計画作成の考え方や配慮事項を理解する。
8. 主体的・対話的で深い学びを実現する探求的な学習過程を検討する。
9. 具体例を基にして探求的な学習の指導のポイントを理解する。
10. 総合的な学習の時間の指導と評価の基本的な考え方を検討する。
11. 評価規準の設定と評価方法の工夫を検討する。
12. グループごとに単元計画を検討し作成する。
13. グループが作成した単元計画の発表と考察①
14. グループが作成した単元計画の発表と考察②
15. 本講座のまとめと振り返り  
定期試験

### 授業時間外の学習

毎時の授業内容を復習・予習することによって、内容の理解を深める。グループで作成する単元指導計画について主体的・対話的に協議し、内容の理解を深め、深い学びができるようにする。

### 教科書・参考書等

【テキスト】 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成30年3月 文部科学省)

【参考書】 授業中に適宜資料を配布する。

### 成績評価

定期試験(70%)、単元計画の作成・発表(30%)

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未受講者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 特別活動の指導法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 真野 彰

実務経験 一

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

中学・高校のカリキュラムは、教科活動と教科外活動とから構成されている。ここで言う特別活動とは、主として教科外活動を指している。具体的には、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の3つで、部活動についても触れる。

教師は、多分に自分が学生時代どのような経験を積んできたか、ということがベースとなって生徒に接している。つまり特別活動を指導するに当たっては、自分が中高時代にいかに真剣に上記のような活動に取り組んだかが重要である。

43年間、中高の現場で教鞭をとってきた私の、つたない経験をもとに、みなさんとともに特別活動の重要性について考えてみたいと思う。

### 授業の到達目標

中高生たちが「生きる力」を身につけていくために特別活動がいかに重要であるかを、これから教師を目指すにあたり認識できる。

### 授業計画

1. 特別活動とは、学習指導要領の変遷
2. ホームルーム活動の進め方、クレーム対応
3. 生徒会活動と校則、部活動への関わり方(体罰についても扱う)、学校行事の考え方
4. 特別活動の評価
5. 教師論、特別活動の位置づけ

### 授業時間外の学習

12月までに、教育に関する新書や新聞記事に積極的に触れて、自分の考える視点を養ってほしい。

### 教科書・参考書等

授業時にプリント資料を配付。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・レポート、課題の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 生徒指導（進路指導含む）

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安富 由美子

実務経験 一

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

生徒指導に必要となる、適性や偏差値の基礎知識を基に、教師としての取り組み姿勢を検討する。また、学級運営や生活指導、保護者との関わりについても検討する。

### 授業の到達目標

指導のあり方について、教職課程で学んだことを基礎として、自分なりの取り組み姿勢を構築する意志を持つこと。

### 授業計画

1. オリエンテーション：授業計画・受講で求められる姿勢について説明する。
2. 人間関係と問題解決①交流分析によるコミュニケーション・スタイル：教師・生徒それぞれの人間関係のあり方について考える視点を養う。
3. 人間関係と問題解決②円滑なコミュニケーション：意志のずれ違いが発生した際の取り組みについて考える。
4. 人間関係と問題解決③発達に応じた指導と学級運営について、心理学の知識を参考に検討する。
5. 進路指導と偏差値：偏差値の意味を理解し、生徒の志望を尊重した指導について考える。
6. 職業選択と適性①適性検査として利用される内田クレペリン検査を体験し、進路適性や行動特性をいかに進路選択に生かすか、検討する基礎力を養う。
7. 職業選択と適性②就職希望・進学希望の双方に重要な、適性と本人の希望をいかに捉え、指導するかについて考える。
8. 保護者との関係①事例から保護者との信頼関係の構築をはじめとした教師の課題について考える。
9. 保護者との関係②ロールプレイ：教師役、保護者役を演じながら、現場での対応の基礎力を養う。
10. アサーション・トレーニング①アサーション権と非合理的思い込み：精神衛生の観点から教師自身、また生徒のアサーションについて考える。
11. アサーション・トレーニング②DESC法：アサーティブな態度について理解を深め、生徒指導に生かすことを検討する。

12. 集団の意志決定：個々の価値観による判断の食い違いを、いかに集団の決定として統合するか、演習体験を通して検討する。
13. 体罰問題と部活：①生活指導や部活でしばしば問題視される体罰と暴力について考察する。②部活の顧問や指導について考察する。
14. 安全管理：学習環境における生徒の安全確保について、多動への対応も絡めて考察する。
15. 自由討論と補足：受講生が意見交換をしたいトピックスや、学習を深めるうちに出てきた疑問点について討論する。

### 授業時間外の学習

自分の目標とする教師像や人間像を実現することを念頭に、授業で扱ったテーマについて、自分の考えを可能な限り具体的にノートなどに記してみよう。実践には多少の補習が必要になるかもしれない。ただ頭の中で考えるだけでなく、文章に表わすことにより、追究のあいまいな部分が見えてくるので、更に具体的に考える習慣を身につける助けとなるであろう。

### 教科書・参考書等

江川政成編著「教育相談—その理論と方法—」学芸図書  
平木典子著「アサーション・トレーニング」日本・精神技術研究所

### 成績評価

期末の論述試験と受講態度による。論述試験の評価をS：100点、A：90点、B：80点、C：70点、D：50点として、出席率をパーセンテージ換算した数値との平均を総合評価とする。試験の評価基準は以下の通り。  
S 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、課題意識をもって実践的に考察できる。  
A 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、自分の考えを明確に伝えることができる。  
B 授業で扱ったテーマについて充分理解しているか、または自分の考えを明確に伝えることができる。  
C 授業で扱ったテーマについて概ね理解しており、自分の考えを伝える努力が認められる。  
D 授業で扱ったテーマについて理解が不十分であるか、または自分の考えを示していない。

科目名 教育相談

授業形態 講義

対象 教職2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安富 由美子

実務経験 一

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

生徒と関わる上で重要な要件である教育相談の役割を理解する。事例を通して教育相談に必要な知識と技術を身につける。講義とともに演習が加わるため、積極的に参加する意志が求められる。

### 授業の到達目標

自身の人間観を深めるとともに、教育相談の実践力につながる基礎力を身につける。

### 授業計画

1. オリエンテーション：授業計画・求められる学習姿勢について説明する。
2. 来談者中心療法と聴く技術について理解する。
3. 発達過程と様々な適応問題との関係について考察する。
4. ロールプレイ：教師役・生徒役を演じて教育相談での即応性を養う。
5. ノンバーバル・コミュニケーション①コミュニケーションにおける役割：ノンバーバル行動の影響について理解しコミュニケーションへの生かし方について考える。
6. ノンバーバル・コミュニケーション②演習：事例における問題点と解決策の検討。
7. 心因による障害：心理・社会的な原因による適応問題の構造・指導の見通しのつけかたについて理解する。
8. 器質因、内因による障害：専門性の高い適応上の問題について理解し、指導上の適切な判断のしかたについて理解する。
9. 情緒障害の子供と教師：ビデオ利用により、情緒障害の具体的な行動特徴をつかみ、対応のヒントを得る。
10. 教師の精神衛生：自身の精神衛生管理と同僚への配慮について考察する。
11. インターネットの影響およびいじめ：一例一例が異なる現場での対応力を養うために、まずは事例を挙げながら生徒支援について検討する。
12. イギリスの学校改革に学ぶ：ビデオ利用：劣悪ともいえる学校環境が改革された過程について視聴し、自分の現場でどのように応用できるかについて考える。

13. 実習での課題：実習を済ませた受講生の報告から、更に改善するためにできることについて検討し合う。
14. 課外活動の意義と留意点：普段と異なる環境で学習する際の特徴を多角的に捉え、環境を生かした安全な学習計画が立てられる検討力を養う。
15. 補足と自由討論

### 授業時間外の学習

心理学概論や精神医学も理解の助けになる。  
また、普段から学校関連のニュースに注目し、自分が当事者や関係者だったら、どんな対応ができるか考察する習慣をつけると、実践力を鍛えることになろう。

### 教科書・参考書等

江川政成編著「教育相談—その理論と方法—」学芸図書  
春木豊編著「心理臨床のノンバーバル・コミュニケーション」川島書店  
山下格著「精神医学ハンドブック」日本評論社  
レニエ他著「インタープリテーション入門」小学館

### 成績評価

期末の論述試験と受講態度による。論述試験の評価をS：100点、A：90点、B：80点、C：70点、D：50点として、出席率をパーセンテージ換算した数値との平均を総合評価とする。試験の評価基準は以下の通り。  
S 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、課題意識をもって実践的に考察できる。  
A 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、自分の考えを明確に伝えることができる。  
B 授業で扱ったテーマについて充分理解しているか、または自分の考えを明確に伝えることができる。  
C 授業で扱ったテーマについて概ね理解しており、自分の考えを伝える努力が認められる。  
D 授業で扱ったテーマについて理解が不十分であるか、または自分の考えを示していない。

科目名 教育実習Ⅰ

授業形態 実習

対象 教職1年

単位数 Ⅱと併せて5

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

○

### 履修条件

将来、音楽教員を目指す強い希望と意志をもつ者。  
「教育実習Ⅰ」必修。

### 授業の概要

〈教育実習〉とは、文字どおり、指導教員の指導のもと中学校で行う実習（3週間から4週間）そのものをいい、この授業はその実習をより有意義に行うための事前指導が中心となる。教職課程履修にあたっての心構え、実習までに身につけておくべきこと、実習までに必要な諸手続きなど、より具体的な内容および課題を取り上げる。

### 授業の到達目標

- 教育実習の意義を理解できる。
- 教育実習に必要なそれぞれの課題を意識し、十分に準備することができる。

### 授業計画

1. 教職課程履修の心構え
2. 実習校について①
3. 実習校について②
4. 介護等体験オリエンテーション
5. 教育実習の実際①
6. 教育実習の実際②
7. 教育実習の実際③
8. 教育実習の実際④

9. 教育実習の実際⑤
10. 教育実習報告①
11. 教育実習報告②
12. 介護等体験の実際①
13. 介護等体験の実際②
14. 介護等体験報告①
15. 介護等体験報告②

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

### 教科書・参考書等

資料配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・実習校評価50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、実習への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 教育実習Ⅱ

授業形態 実習

対象 教職2年

単位数 Ⅱと併せて5

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

○

### 履修条件

将来、音楽教員を目指す強い希望と意志をもつ者。  
「教育実習Ⅰ」必修。

### 授業の概要

〈教育実習〉とは、文字どおり、指導教員の指導のもと中学校で行う実習（3週間から4週間）そのものをいい、この授業は実習直前の具体的な準備と、さらに実習後、卒業までの具体的な課題を意識し、将来に備えるための事前および事後指導が中心となる。

### 授業の到達目標

- (1) 教育実習の意義を理解できる。
- (2) 教育実習に必要なそれぞれの課題を意識し、十分に準備ができる。
- (3) 教育実習後の課題を認識し、必要な知識および技術を身につけることができる。

### 授業計画

1. 諸手続きについて①
2. 教育実習の実際①
3. 教育実習の実際②
4. 教育実習の実際③
5. 教育実習の実際④
6. 教育実習の実際⑤
7. 教育実習の実際⑥
8. 教育実習の実際⑦

9. 教育実習の実際⑧
10. 教育実習の実際⑨
11. 教育実習の実際⑩
12. 教育実習報告①
13. 教育実習報告②
14. 教育実習報告③
15. 諸手続きについて②

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

### 教科書・参考書等

資料配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・実習校評価50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、実習への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 教職実践演習（中学校）

授業形態 実習

対象 教職2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

● 教職課程受講者必修。

### 授業の概要

● 2年間で学んだ学問としての教育に関する知識と、教育実習や介護等体験において学んだ実践力の更なる統合を目指し、これまでの学習成果をもとに、教員としての資質の構築をより深く具体化するための授業である。

授業の形態としては、講義や事例研究、ロールプレイング、現職教員をゲストスピーカーとしたフィールドワーク等を行うものとする。

### 授業の到達目標

● 教員として求められる基本的な資質として以下の4つのテーマを定め、到達目標とする。

- 教育に対する使命感や責任感及び児童・生徒への教育的愛情を持つことができる。
- 社会性及び人とのコミュニケーション能力を身につけることができる。
- 児童・生徒との間に信頼関係を築き、規律ある学級経営を行うことができる。
- 教科内容を理解し、児童・生徒の反応や学習状況に応じた指導ができる。

### 授業計画

- 1. 導入（本演習の目的と概要の説明、授業担当者紹介）
- 2. 教育実習における実体験をもとに、事例研究・集団討議
- 3. 講義「教職の意義・教師の職務や役割について」
- 4. 他教職員・生徒・保護者・社会と教師との繋がりについて事例研究・ロールプレイング
- 5. 自校教育について
- 6. 言語技術教育について
- 7. 高大接続について

8. 郊外活動・学習について

9. 教育現場で起こりうる様々な問題（家庭内の問題、学級内いじめ、不登校等）への対応について事例研究・ロールプレイング

10. 連携先の学校の授業見学、模擬授業、現職教員と意見交換等

11. 多文化社会における学校教育

12. クラブ活動の指導体験

13. ティーチングとコーチングについて

14. 特別支援学級の運営や課題について事例研究・集団討議

15. 総括

### 授業時間外の学習

● 授業で取り上げる課題・事例について理解を深めておくこと。

### 教科書・参考書等

● テキスト：各回で必要なプリント等を配布する。

参考書：必要に応じて紹介する。

### 成績評価

● 成績評価については、授業への取り組み50%・レポート50%配分で総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。

D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。